

後援と補助

國防と産業大博覽會協賛會役員

名譽會長	吳市長	渡邊	伍	總務部	(正副常任理事長)	石原	丈吉
會長	商工會議所會頭	三宅	清一郎	接待部	(正副常任理事長)	村本	伊三吉
副會長	同	副會頭	足利	會計部	(正副常任理事長)	岡野	善右衛門
同	同	同	仁田	會部	(正副常任理事長)	八木	辰造
同	吳市助役	同	月形	宣傳部	(正副常任理事長)	藤國	末吉
同	吳市會副議長	同	若山	工營部	(正副常任理事長)	西野	安吉
同	町總代聯合會長	同	遠藤	餘興部	(正副常任理事長)	山崎	幾松
事務總長	商工會議所理事	同	稻葉	企畫部	(正副常任理事長)	小早川	靜馬
參與	吳市收入役	同	池田			石原	丈吉
同	吳市勸業課長	同	山田			小林	平左衛門
名譽顧問	淺野	同	長動			小早川	靜馬
	望月	同	圭介			加藤	次右衛門
	安部	同	清種			仁田	竹一
	田部	同	正壯			石原	丈吉
	藤田	同	尚德				
			湯澤				
			三千男				

國庫補助金

本會では商工省に對し本博の絶大なる後援を請願すると共に、昭和九年十月三十一日附で、國庫補助方を申請中であつたが、昭和十年二月十八日左記省指令を以て補助金參千圓を交附せられた。

(各部理事、評議員、委員省略)

吳博第五一六號

昭和九年十月三十一日

國防と産業大博覽會主催者

吳市長 渡邊

伍

商工大臣 町田 忠治殿

博覽會開設ニ付國庫補助申請ニ關スル件

本市ニ於テハ本年三月市會ノ議決ヲ經テ昭和十年三月二十七日ヨリ五月十日ニ至ル四十五日間本市主催ノ下ニ別紙計畫ノ概要ニ依リ國防と産業大博覽會ヲ開催セントシ同會中ニ國産振興部ヲ設置シ以テ國産品ノ向上發展ニ資シ度候條本施設ニ對シ特別ノ御詮議ヲ以テ相當額ヲ御補助被成下度關係書類相添へ此段申請候也

添附書類

- 一、博覽會開催ニ關スル市會決議書
- 二、理由書
- 三、國産振興ニ關スル施設ノ計畫概要
- 四、國防と産業大博覽會費中國産振興部收支豫算書
- 五、國防と産業大博覽會費收支豫算書
- 六、國防と産業大博覽會々則
- 七、國防と産業大博覽會出品規程
- 八、國防と産業大博覽會出品物鑑査規程
- 九、出品勧誘狀、趣旨書、圖面

後援と補助

商工省指令九工第九三三四號

後援と補助

國防と産業大博覽會主催者

吳市長 渡邊 伍

昭和九年十月三十一日附申請國防ト産業大博覽會經費ニ對シ昭和九年度ニ於テ金參千圓ヲ交付ス
但シ左記ノ通り心得ベシ

昭和十年二月十八日

商工大臣 町田 忠治

記

- 一、補助金ハ申請書及附屬書類記載ノ事項ニ準據シ國防ト産業大博覽會費ニ之ヲ充當スベシ
- 二、事業計畫ヲ變更セムトスルトキハ豫メ當省ノ承認ヲ受クベシ
- 三、商工大臣必要ト認ムルトキハ本事業遂行ニ必要ナル事項ヲ命令スルコトアルベシ
- 四、收支計算並ニ事業成績ハ本博覽會終了後四ヶ月以内ニ遲滞ナク詳細ニ報告スベシ
但シ昭和十年三月三十一日迄ノ分ニ就キテハ年度經過直後一應詳細ニ報告スベシ
- 五、本指令條件其他當省ノ發スル命令ニ違背シ若クハ事業計畫ヲ遂行セザルトキ又ハ經費支出額ガ豫算額ニ達セザルコト著シキトキ若クハ計算上著シキ殘額ヲ生ジタル場合ニ於テハ指令シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
- 六、補助金ハ指令請書ノ提出アリタルトキ之ヲ交付ス

縣補助金

本博覽會に對する縣費補助に關しては昭和十年度豫算提出前に縣主腦部の諒解と承認を得る必要があるため、昭和九年七月本市出身縣會議員宮原幸三郎、檜垣利雄、大村信二、前田榮之助、仁田竹一、山中直彦の六氏に、これが盡力方を依頼したところ、同氏等はいづれも快諾せられ、これが成功を期するには、先づ縣會議員全員の調印を意見書に得て、縣當局に提出諒解を得ることが最上であり、また急務である

と云ふ見解のもとに、大村縣會議員は政友系議員を、仁田縣會議員は民政系議員を、前田縣會議員は無産黨及國同系議員の歴訪を擔當せられ、折柄の炎暑を通して東奔西走されること約一ヶ月、漸やく調印を纏めて本會に提出せられたるにより、渡邊市長は前記三氏と共に、湯澤知事並本間内務部長を縣廳に訪ひ、本會の趣旨を述べて諒解を求めたところ縣當局に於ても頗る好意を寄せられ、種々注意揭示をうけ引續き縣會議員補缺選舉の終了をまつて、昭和九年十月二十日補缺選舉當選者を加へ全縣會議員の調印を得たる意見書を提出したが、折柄縣當局に於ては豫算査定中なる好期を逸せず渡邊市長は、若山市會副議長、堀、宮尾、都築市會議員を同伴博覽會を代表して縣當局に陳情した結果、縣費補助に關しては十年度豫算縣會に提案される確信を得るに至り、遂に十二月二十一日夜の縣會に於て満場一致を以て金參萬圓に及ぶ本會補助金及び出品獎勵費壹萬五千圓を可決せられたが、右は本市出身縣會議員諸氏の熱情あふるゝ郷土愛の賜で、本會の深く感謝するところである。

吳博第三〇二號

昭和九年五月十五日

吳市主催國防と産業大博覽會々々長

吳市長 渡邊

伍

廣島縣知事 湯澤 三千男殿

後援と補助

後援と補助

博覽會補助金下附申請書

昭和十年三月二十七日ヨリ同五月十日迄四十五日間吳市主催ノ下ニ國防と産業大博覽會ヲ開催スルコト相成リ目下着々準備進行中ナルモ之カ收入トシテ確定セラルルモノ市費繰入金十五萬圓ニ過ギズ國庫並ニ縣ノ補助ヲ仰グニアラサレバ到底所期ノ目的ヲ達成スルコト不可能ニ付御詮議ノ上左記金額御補助相仰キ度別紙關係書類添付此段及申請候也

左記

一金五萬圓也 縣補助金

以上の補助申請に對して結局國庫より金參千圓、縣費より金參萬圓を交附せられた。その指令文は左の通りである

指令商第二六一〇號

吳市主催 國防と産業大博覽會

昭和九年五月十五日附申請縣費補助ノ件聽屆ケ左記條件ヲ附シ獎勵金トシテ金三萬圓交付ス

昭和十年四月三十日

廣島縣知事 鈴木 敬一

記

- 一、獎勵金ハ國防と産業大博覽會費ニ充當スベシ
- 二、事業終了後二ヶ月以内ニ事業ノ概要並ニ收支決算書ヲ當廳ニ報告スベシ
- 三、前各項ノ條件ニ違背シ又ハ不都合ト認ムル所爲アルトキハ獎勵金ノ一部若ハ全部ヲ返還セシムルコトアルベシ

在京吳市關係海軍將星招待會

本會は一九三五・六年の危機に臨み、軍港都市の事業として最も機宜を得たものであるといふので、陸海軍省、第五師團、吳鎮守府其他の積極的後援を得たが、博覽會の最大使命とする國防方面の施設經營については、今後一

層軍部、殊に海軍當路者の援助を必要とするの

で、昭和九年十一月初旬上京した會長渡邊市長松本、水野兩貴族院議員、三宅吳商工會議所會頭、博覽會囑託主事水野海軍大佐は九日丸ノ内東京會館に、かつて本市に關係のあつた在京現役並豫備役の將星を招待し、本會施設其他に關する懇談會を開いたが、當日の出席者は

- 野村吉三郎(元吳鎮長官、軍事參議官)、中村良三(前吳鎮長官、艦政本部長)、野間口兼雄(元吳鎮參謀長、同工廠長、同兵學校長)、安保清種(元吳鎮長官、本縣出身)、山梨勝之進(元吳鎮長官)各大將
 - 加藤隆義(軍令部次長、本縣出身)、長谷川清(海軍次官、元吳工廠長)、鹽澤幸一(航空本部長)各中將、村上春一(經理局長、縣出身)主計中將、中野直枝(元吳工廠長)、森山慶三郎(元吳工廠長)、大橋省(元廣工廠長)、黒田琢磨(元廣工廠長)各中將、野田鶴雄(元吳工廠製鋼部長)造兵中將、淡輪敏雄(元吳海軍經理部長)主計中將
 - 吉田善吾(軍務局長)、植村信男(本縣出身)、徳田伊之助(東京海工會長)各少將
- (本縣出身谷口、小林兩大將は差支へのため缺席)で、渡邊市長から本會の開催趣旨、施設概要、

後援と補助



海軍將星招待會(東京丸の内東京會館にて)

將中田黒、將大梨山、將中山森、將中野中、將大保安、將大口間野、將大村中、將中藤加……らから右、將大村野、將少村植、佐大野水、將中澤鹽、長市邊渡、將少田吉、將少田徳、頭會宅三(目人三)列後、將中計主上村、將中計主輪淡、將中兵造田野、將中橋大、將中川谷長

後援と補助

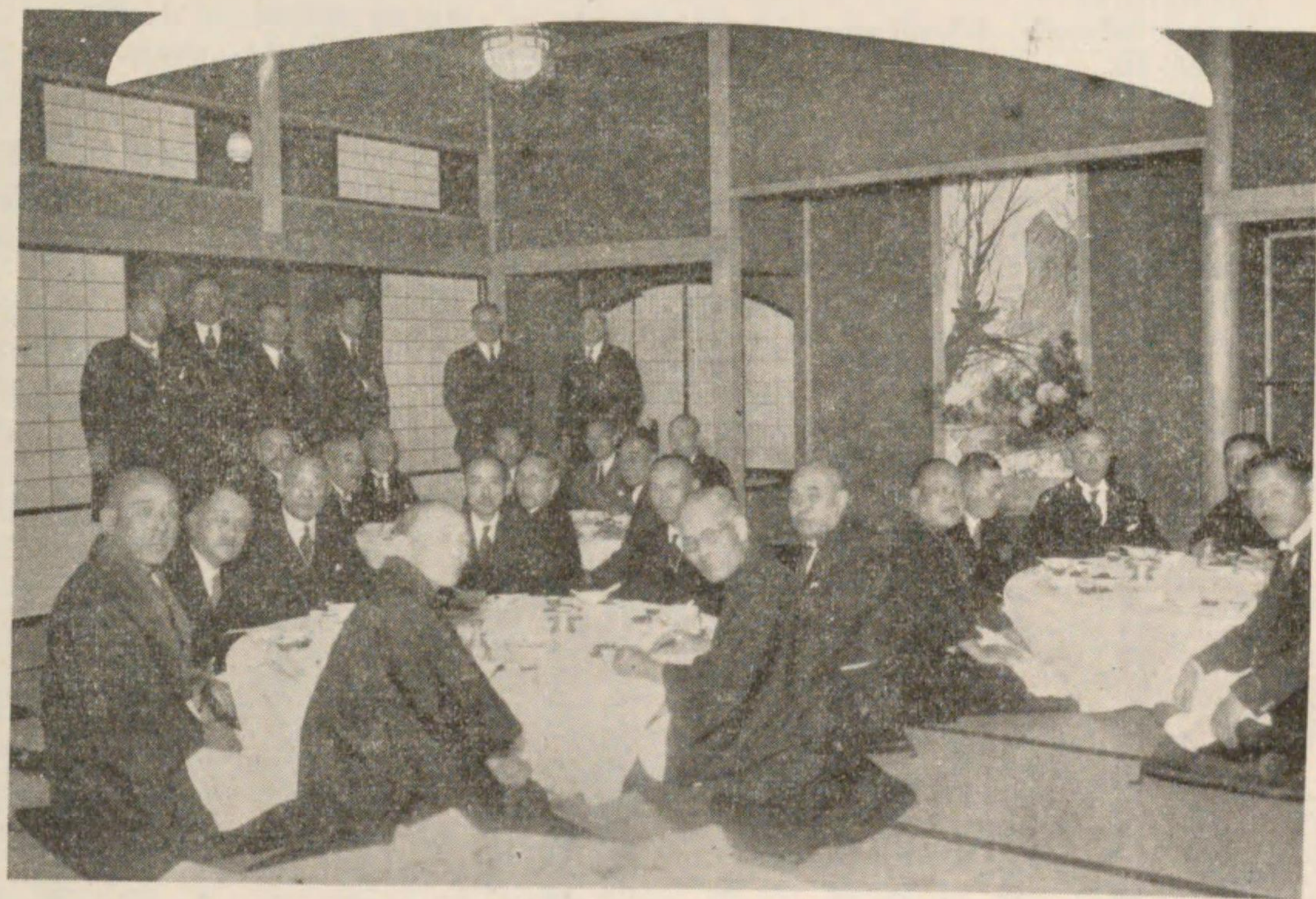
經過報告を述べ、賛助を乞ふ挨拶を述べたるに對し、野村吉三郎大將は一同を代表して

吳市の國防と産業大博覽會は、同市の大事業であり、且つ國防思想普及上に多大の裨益があることと思ふ、かねて吳軍港に因縁淺からぬわれは、これが目的達成に微力を盡すことを惜しまぬであらう。

といふ意味の力強い激勵の辭を述べられ、それより一同は博覽會に對する種々なる所感、或ひは軍港在任の今昔物語等に花を咲かせ、和氣霽々のうちに散會したが、この會合は別項山水樓に於ける在京本縣出身名士の會合と共に本會準備工作上多大の收獲があつた。

在京本縣出身名士招待會

本會長渡邊吳市長、松本、水野貴族院議員、三宅會頭等は十一月初旬から、在京本縣出身者で組織する藝備協會、飽薇會、草水會、二日會、水曜會等有力團體に對し本會の後援方を依頼折衝中であつたが、十日午後六時から前記各團體の代表者を日比谷山水樓に招待し、博覽會に關する意見交換會を開催した。當夜の出席者は



東京藝備會招待會

東洋大學教授高島平三郎氏、海軍少將服部正計氏、陸軍中將小泉六一氏、代議士宮澤裕氏、藝備之友社長辯護士手島益雄氏、元逓信省電氣局長法政大學教授村井二郎吉氏、元鐵道次官代議士名川侃市氏、日本冷凍協會理事井上眞吾氏、會社重役河瀬安廣氏、海軍少將植村信男氏、海軍大將安保清種氏、海軍大佐大谷喜四郎氏、東拓理事村田俊彦氏、東亞煙草理事石原峰雄氏、會社重役高羽富士夫氏、辯護士新聞弘通氏、東京美術學校教授六角紫水氏、美術家清水龜藏氏、貴族院議員川崎卓吉氏、大日本食料品工業顧問和合英太郎氏、山内岳造氏、前内相代議士望月圭介氏、陸軍少將長尾恒吉氏、醫書出版業橫山大槌氏、陸軍大佐遠藤覺造氏、藝備協會主事小川良作氏、代議士岸田正記氏等

で、渡邊會長から博覽會施設、經過報告の後協賛會寄附についても後援を依頼し、安保清種氏から出席者を代表して國防と産業大博覽會は非常時局の今日、まことに時宜に適した事業で、われわれ在京の縣出身者は齊しく、この博覽會の成功を祈つてゐる、我々としても郷土のこの大事業に對しては出来るだけの應援をする覺悟である。

博覽會當局の方々も一層の努力を拂はれたい、また協賛會の事業はなか／＼困難な事業であるが、皆んなで協力して、この點についても應援を惜しまないものである。

との意味で熱誠あふるゝ激勵の辭があり、それより開宴したが郷土を同じうする者の水入らずの會合であるだけに、この會合はお國言葉まるだして遠慮のない意見の交換、郷土ところ／＼の噂話など出でて時の移るのも忘れた和氣霽々のうちに午後九時頗る有意義に終了した。

在京阪神本縣出身名士招待會

これに次ぎ在京阪神の廣島縣出身名士に對する應援についても豫て在阪有力者黒木逸作、香川常吉、齊木知三、栗田三榮の諸氏を通じ會長代理月形助役、水野國防部主事石中市會議員等上阪懇請の結果郷土の譽を飾るため誓つて應援助成を惜しまぬとの激勵賛辭をうけ協賛金側寄附金についても極力出資支援するとの快諾あり、此の機會に於て京阪神の在住郷土出身者を以て組織する十日會及大阪市の藝備會の合同臨時總會開催の段取となり、十年二月十日大阪市西區堀江橋詰、新天狗に於て大會が開かれた。吳市からは、山田本會總務部長、稻葉協賛會事務總長等

後援と補助

組織と機關

主要役員出席して博覽會開設に對する趣旨經緯を詳述説明來會者百數十名に達し頗る盛會を極め、絶大なる援助を約束されたものであつた。尙本大會開催に關しては、左記の諸氏が發起人となり極力斡旋の勞を執られたことは深く本會の感謝おくあたはざるところであつた。

伊藤直一、二宮章、岡田只雄、川崎柳四郎、川野吉藏、香川常吉、黒木逸作、栗田元榮、久保田權四郎、久保田種松、駒井初次郎、手島四郎、豊島章太郎、秋山治士、粟村敏家、齊木知三、桐山利三郎、三好靜夫

組織と機關

會則の制定

吳市二十三萬の燃ゆる郷土愛と熱望に育まれた「國防と産業博」は愈々經營を開始、市の特別事業として執行機關たる市と、決議機關たる市會を中心として會則制定にあつても、渡邊市長統裁の下に市吏員を執行機關の重要な役割におき市會議員その他を審議機關の樞要位置に配して統制ある組織と機關を設けて、會務を執掌することとなり昭和九年三月一日本會々則を決定された。

會則

第一條 本會ハ國防ト産業大博覽會ト稱ス
第二條 本會ハ内外ニ於ケル産業ノ現状及國防資料ヲ展示シ我國産業ノ進展ニ資スルト共ニ非常時局ニ際シ帝國國防ニ對スル認識ヲ深カラシムルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ吳市之ヲ主催ス
第四條 本會ノ會期ハ昭和十年三月二十七日ヨリ同年五月十日迄トシ吳市ニ於テ之ヲ開設ス
第五條 本會ノ事務局ハ當分吳市役所ニ置ク

第六條 本會ハ名譽總裁及總裁ヲ推戴ス

第七條 本會ハ名譽顧問及顧問ヲ置キ會長之ヲ推薦ス

第八條 本會ニ左ノ役職員ヲ置ク

- 會長 一名
- 副會長 三名
- 參與 三名
- 事務總長 一名
- 理事 若干名
- 評議員 同
- 委員 同
- 幹事 同
- 事務員 同
- 囑託 同

第九條 會長ハ吳市長之ニ當ル

第十條 副會長其ノ他ノ役職員ハ會長之ヲ囑託又ハ任命ス

第十一條 會長ハ會務ヲ總轄シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 參與ハ副會長ヲ輔佐シ重要ナル會務ニ參與ス

第十三條 理事ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十四條 事務總長ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

第十五條 評議員ハ會長ノ諮問ニ應ス

第十六條 委員ハ會長ノ委囑ニヨリ會務ニ參與ス

組織と機關

第十七條 幹事、囑託及事務員ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十八條 本會ニ對スル出品區域ハ帝國領土、租借地、委任統治地トス但シ滿洲帝國其他諸外國ヨリノ參考品ハ此ノ限リニ在ラス

第十九條 本會ノ出品ハ即賣品、賣約品、非賣品、及參考品ノ四種トシ其ノ部類左ノ如シ

- 一、國防資料
- 二、農林鑛産品
- 三、飲食料品
- 四、水産品
- 五、染織工業品
- 六、化學工業品
- 七、製作工業品
- 八、機械工業品
- 九、美術工藝品
- 一〇、國産貿易品
- 一一、觀光資料
- 一二、交通資料
- 一三、教育學藝品
- 一四、保健資料
- 一五、體育資料
- 一六、各種參考品

第二十條 前條第一號乃至第十號ノ出品物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤニ付テハ鑑査ヲ行ヒ其ノ合格品ハ一般出品ト區別シ之ヲ表示シテ陳列スルモノトス

一、輸入品ニ對抗シツツアル國産品

二、輸入品ニ代用シ得ヘキ國産品

三、輸出ヲ奨勵スヘキ國産品

鑑査ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

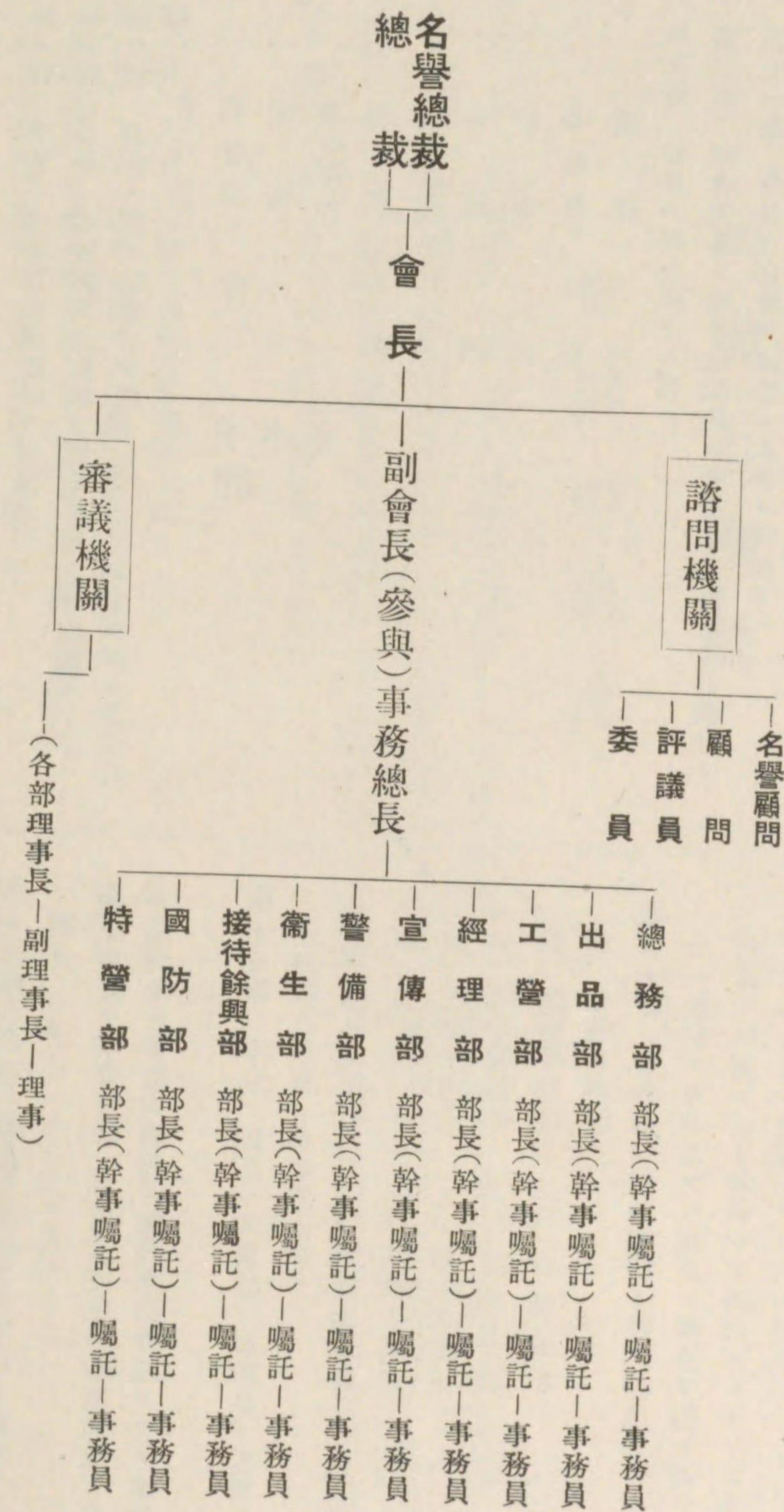
第二十一條 出品觀覽其他ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

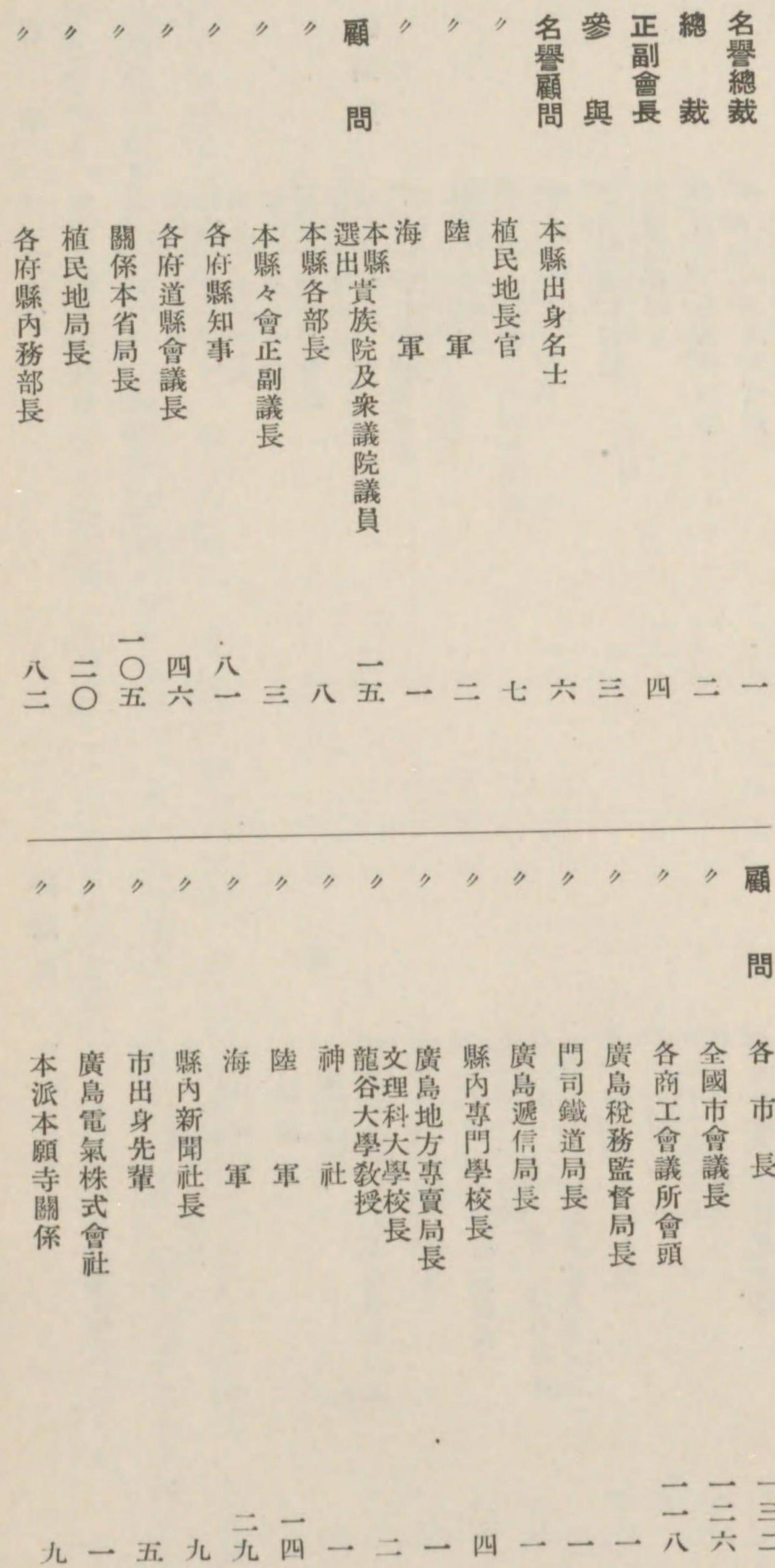
本會則ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

職制及び役員構成

本會の職制は本會々則の定むるところに準據して構成され、市を中心とする執行機關と、市會その他を中心とする審議機關たる理事會と、顧問その他評議員、委員等の諮問機關との三位一體により、會長たる吳市長これを總攬し、以て本會の經營にあたり會務の運行に萬遺憾なきを期するところあつた。



名譽總裁としては、舊廣島藩主たる從一位勳一等淺野長勳侯を推戴し、總裁には廣島縣知事、名譽顧問には吳鎮守府司令長官、第五師團長、陸軍運輸部長、縣出身名士、朝鮮總督、同政務總監、南洋廳長官、樺太廳長官、關東局長官を推し、縣出身貴族兩院議員、本縣各部長、本縣々會正副議長、各府縣知事、各府道縣會議長、關係本省局長、殖民地局長、各府縣內務部長、全國各市長、全國各市長會議長、全國各商工會議所會頭、吳海軍並に第五師團在廣各部隊の重なる將校、縣內諸官衙長、會社長、專門學校長、縣內各新聞社長、本派本願寺關係者、其の他の有力者を顧問に囑託した、その構成は左の通りである。



組織と機關

理事

- 吳市會議員
- 吳商工會議所議員
- 帝國在郷軍人會吳聯合分會長
- 準備調査委員
- 町總代聯合會長
- 出品協會副會長
- 市内實業組合代表
- 臺灣電力株式會社
- 本願寺布教使
- 本願寺各課長
- 本縣各試驗場長
- 本縣々會議員
- 市内市政記者
- 各市助役
- 各府縣關係課長
- 各市關係課長
- 各市商工會議所理事
- 各府縣商品陳列所長
- 吳郵便局長
- 本市關係警察署長
- 市内官公衛長
- 吳消防組頭
- 三ヶ町消防組頭
- 婦人會
- 衛生組合
- 青年團

評議員

- 海工會其ノ他
- 臺灣總督府關係各課長
- 本派本願寺關係
- 本願寺關係市内寺院住職
- 町總代聯合會常任理事
- 各府縣關係課主任者
- 各市關係主任者
- 市内實業組合長
- 運輸業者
- 市内各種工場主
- 吳券番關係
- 吳旭遊廓貸座敷組合役員
- 青年團長
- 市内三等郵便局長
- 臨時廣島縣吳土木出張所長
- 吳市產婆會長
- 三ヶ町消防組小頭部長
- 吳消防組小頭部長其他
- 帝國在郷軍人分會長
- 本市小學校長

評議員

- 帝國在郷軍人
- 山口鐵道建設事務所長
- 門司鐵道局課長
- 廣島保線
- 廣島運輸事務所長
- 廣島驛長
- 吳線驛長
- 三吳線驛長
- 廣島地方官公衛
- 縣下郡市各教育會長
- 縣下各郡市小學校長會長
- 縣下郡市農會長
- 縣下郡市畜産組合長
- 縣下郡市蠶業組合長
- 縣内町村長
- 縣内中等學校長
- 市内銀行會社本支店長
- 市内產業組合
- 市公民ヨリ選出ノ委員
- 市内有志
- 縣市教育關係者其ノ他
- 吳醫師會長其ノ他
- 縣内主要會社社長
- 海軍
- 陸軍

組織と機關

評議員

- 海工會其ノ他
- 臺灣總督府關係各課長
- 本派本願寺關係
- 本願寺關係市内寺院住職
- 町總代聯合會常任理事
- 各府縣關係課主任者
- 各市關係主任者
- 市内實業組合長
- 運輸業者
- 市内各種工場主
- 吳券番關係
- 吳旭遊廓貸座敷組合役員
- 青年團長
- 市内三等郵便局長
- 臨時廣島縣吳土木出張所長
- 吳市產婆會長
- 三ヶ町消防組小頭部長
- 吳消防組小頭部長其他
- 帝國在郷軍人分會長
- 本市小學校長

委員

- 廣島放送局吳出張所主任其ノ他
- 吳警察署幹部
- 町總代
- 廣島縣吳方面委員
- 戶主會長
- 縣下郡市農會幹事
- 縣下郡市農會畜産技手
- 縣下郡市農會養蠶技手
- 縣下郡市農會農事技手
- 縣下郡市農會駐在
- 廣島縣農林技師
- 縣内各警察署長
- 縣内各驛長
- 本縣各課實務取扱者及廣島放送局職員、市内各説教所關係
- 臺灣總督府關係
- 廣島縣水産課
- 水産試驗所其ノ他
- 郡市駐在技手、廣島縣水産會
- 市各課長其ノ他

會長は渡邊市長これに當り、本市會議長、本市商工會議所會頭、本市助役を副會長に本市副議長、本市商工會議所兩副會頭を參與にあて、助役は事務總長を兼務し、市會議員及商工會議所議員其の他を理事に本市各主事及び技師を幹事に、其の他全國關係者に評議員、委員若しくは事務取扱を囑託して整然たる陣容を構成した。

理事會とその機能

その職務権限は本會々則に明示された通りこの多數の職員は秩序ある統制のもとに不斷の活動を續け能く本會大成の原動力を爲したのである。審議機關としての理事は博覽會の如き煩雜なる會務の全般に對し一々意見を徴するが如きは實際問題として行ひ難く且迅速を缺き會務遂行上支障を來す恐れがあるので、各員に事務を分掌せしむることとし各部に分ち、理事中より常任理事を選衡し更に常任理事中より理事長、副理事長を選任して本會の重要な事項に對し隨時分擔理事會を開きその決議を以つて本會の運行に資した。

理事

(頭書ノ市ハ市會議員、商ハ商工會議所議員、公ハ公民)

總務部

理事長 (市) 石原 丈吉
 副理事長 (商) 富島 潤三
 常任理事 (公) 遠藤 傳右衛門
 理事 (市) 松岡 松市
 (公) 宮崎 俊太郎
 (公) 阪田 久五郎
 (公) 丸中 新三郎
 (公) 中鹽 元三郎
 (商) 村本 伊三吉

出品部

理事長 (市) 都築 潤治郎
 副理事長 (市) 宇根 實
 常任理事 (市) 岡崎 逸太郎
 理事 (市) 林 助一
 (市) 篤 晴興
 (市) 龜井 村市
 (市) 山崎 初太郎
 (商) 勝 豐吉

工營部

理事長 (市) 宮尾 英三
 副理事長 (商) 山崎 幾松
 常任理事 (市) 毎本 俊藏
 理事 (市) 室津 春造
 (商) 岡野 善右衛門
 (商) 土谷 熊雄
 (商) 海田 千代松
 (公) 竹内 隆造

宣傳部

理事長 (市) 堀 安之進
 副理事長 (商) 沖田 秋太郎
 常任理事 (公) 藤國 末吉
 理事 (市) 畦地 壽郎
 (公) 栗山 利雄
 (商) 小早川 靜雄
 (商) 西 信太郎
 (商) 平野 繁松
 (商) 山縣 鐵之助

經理部

理事長 (商) 石中 寅吉
 副理事長 (市) 中本 禎造
 常任理事 (市) 船木 藤市
 理事 (市) 久保 田仁郎
 (市) 大下 彌四郎
 (公) 藤本 貫一
 (商) 西野 安吉
 (商) 林利 平吉
 (商) 林房 吉

警備部

理事長 (市) 八木 辰藏
 副理事長 (商) 空尾 松藏
 常任理事 (市) 島本 靜男
 理事 (市) 松岡 靜雄
 (市) 三宅 伊之助
 (商) 藤村 三郎
 (公) 小松 龜助
 (商) 小林 平左衛門

衛生部

理事 長 作田新太郎 (市)
 副理事 長 長原榮太郎 (市)
 常任理事 岡本新六 (市)
 堀岡眞一 (公)
 理事 平本與太郎 (市)
 二神逸三 (商)
 林順太郎 (商)
 柄脇佐市 (商)

接待余興部

理事 長 灘田勘市 (市)
 副理事 長 加賀本吉松 (商)
 常任理事 久保田類次 (市)
 富島福松 (市)
 理事 加藤治右衛門 (市)
 原利市 (商)
 野上幸一 (商)
 大谷政之 (商)
 同 原山直兵衛 (商)

國防部

理事 長 佐々木高榮 (公)
 副理事 長 三藤三之助 (商)
 常任理事 大澤勝治 (市)
 出野繁人 (市)
 理事 勝田友彦 (公)
 天宮行治 (市)
 藤井農夫 (商)
 永井定一 (商)

特營部

理事 長 池田令三 (市)
 副理事 長 杉岡順一 (市)
 常任理事 森尾雛次郎 (公)
 佐々木鹿藏 (公)
 理事 松本喜代助 (商)
 瀬尾順次郎 (商)
 同 確井惟一 (商)
 同 岡部六助 (公)

常任理事ハ理事中ヨリ市會議員二十五名、商工會議所議員八名、公民中ヨリ七名ヲ選出セルモノナリ

第二編 準備

準備事務開始

係員任命と第一回打合會

何れの事業によらず準備事務の統制、迅速を期することは一大要諦である。殊に博覽會事業たるや、一種の際物なるが爲め兎角各方面に涉つて種々放漫難澁に流れ易きものであるので本會は當初より會務の統制に意を須ひ、渡邊市長會長に就任と共に各般に互り萬全を期して準備工作に移つた。

本會はその開設決定直後早くも勸業課内において準備事務を開始し事務囑託一名、專屬書記一名、專屬技師一名を設けてこれに勸業課員數名によつて複雑煩瑣な基本的事務を進め、越えて昭和九年四月十日會則並に處務規程の決定に伴ひ市役所各課吏員中より新たに係員を任命すると共に内外の陣容を整備、愈よ月形助役事務總長となり、山田勸業課長の總務部長と共に、市吏員中より各部長始め各部員の部屬を決定、直ちに第一回打合會を開き、月形事務總長、山田總務部長より一同に對し、挨拶ならびに事務の指示説明あり、次いで峰松廣島縣産業獎勵館長の博覽會經營について注意をうけ、翌十一月市廳舎内一部の異動を行ひ勸業、教育兩室を併せて本格的な「博覽會事務局」を開設、ついで名譽總裁、總裁、名譽顧問、顧問、評議員、委員其他の關係役員を推薦し、愈よ正式に準備事務を開始することとなつた。而して宣傳に出品勸誘に大童の活動を起し、諸般の事務又統制下に支配されて能率を高め各部分掌事務の聯絡を圖り萬全を期したのである。

準備事務開始

會議日誌

博覽會準備委員會

昭和八年十月二十六日 第一回委員會
同 年十二月二十二日 第二回委員會

博覽會協議會

昭和九年五月十一日 第一回協議會
同 年八月十三日 第二回協議會

準備事務開始

これと共に各種諸規程を制定、各種會議を續開して繁忙急激なる準備事務に奔命したのである。準備事務の主なものを挙げれば次の通りである。

- 一、三吳線開通記念博覽會開催ニ關スル件
- 一、國防と産業大博覽會ニ改稱開催ノ件

- 一、實行豫算ニ關スル件
- 二、博覽會委員ニ關スル件
- 三、ポスター印刷ニ關スル件
- 一、縣費補助申請ニ關スル件
- 二、特設館ノ經費ニ關スル件
- 三、宗教館ノ經營ニ關スル件
- 四、出品主任者會議ニ關スル件
- 五、評議員會開催時期ノ件

理事會

昭和九年七月二十六日 理事會
同 年八月二十四日 總務部理事會
同 年十月一日 總務部理事會

- 一、諸規程並ニ會務執行ニ關スル件
- 一、博覽會役職員總會開催ノ件
- 二、博覽會徽章並ニ入場券圖案ノ件
- 一、博覽會及協贊會事業分擔ノ件
- 二、着守人服務規程ノ件
- 三、守衛服務規程ノ件

(主なるもの)

準備事務開始

同 年三月一日 理事會

同 年一月十六日 總務部理事會
同 年二月十八日 理事會

同 十年一月十四日 理事會

同 年十二月三日 理事會

同 年十一月十一日 國防部理事會
同 年十一月十二日 理事會
同 年十一月十七日 理事會

同 年十月九日 工營部理事會

- 一、博覽會配置ニ關スル件
- 二、音樂堂新築ニ關スル件
- 三、ケースニ關スル件
- 一、諸規程制定ノ件
- 一、會場地鎮祭ニ關スル件
- 二、入場券前賣規程其他ニ關スル件
- 三、入場券割引規程ニ關スル件
- 四、徽章及通門章發行規程ニ關スル件
- 五、事務員守衛看守人傭人採用規程ニ關スル件
- 一、宗教館ニ關スル件
- 二、教育パノラマ館經營ニ關スル件
- 三、二河川道路會場内取入ニ關スル件
- 四、美術工藝館廢止ニ關スル件
- 五、直營興業ニ關スル件
- 一、前賣券ニ關スル件
- 二、手荷物預リ所ニ關スル件
- 三、各館名變更ニ關スル件
- 四、夜間開場ニ關スル件
- 一、水族館設置ニ關スル件
- 一、海軍工廠ノ慰靈祭施行ニ關スル件
- 二、迎賓館ニ關スル件
- 三、會場警備ニ關スル件
- 一、協贊會無料入場料ノ件

準備事務開始

同 年三月八日 理事會

同 年三月十六日 總務部理事會

同 年三月二十二日 理事會

同 年三月二十六日 理事會

同 年四月二日 理事會

同 年五月三日 理事會

部長會議

(主なるもの)

昭和九年四月十八日 部長會議

同 年五月十一日 部長會議

同 年五月二十四日 部長會議

同 年六月二日 部長會議

- 一、軍艦見學發着場所決定ノ件
- 二、軍艦見學者渡船ノ件
- 三、發會式案内狀ノ件
- 一、門鑑ニ關スル件
- 二、花ノ陳列ニ關スル件
- 三、マークニ關スル件
- 四、第一會場第二會場間ノ通路裝飾ニ關スル件
- 五、滿洲デーニ關スル件
- 六、通券數量ニ關スル件
- 一、優待券ニ關スル件
- 二、辨當券ノ件
- 一、新聞社ノ案内所ニ關スル件
- 一、守衛ニ關スル件
- 一、閉會式ニ關スル件
- 一、豫算差引ニ關スル件
- 二、ポスター印刷ニ關スル件
- 三、實行豫算ニ關スル件
- 四、執務日程ニ關スル件
- 一、豫算執行ニ關スル件
- 一、博覽會關係者名簿及規程ニ關スル件
- 一、會場内設備計畫ニ關スル件
- 二、各館主任者割當協議
- 一、特設館主任者決定並出品勸誘ノ件

同 年六月十九日 部長會議

同 年十月四日 部長會議

同 年十一月八日 部長會議

同 年十二月十五日 部長會議

昭和十年一月七日 部長會議

同 年一月十九日 部長會議

同 年一月二十六日 部長會議

同 年二月十六日 部長會議

同 年二月二十日 部長會議

同 年三月十一日 部長會議

同 年三月十五日 部長會議

準備事務開始

- 一、協賛會トノ分擔事務打合ノ件
- 一、門鐵側トノ協議ノ件
- 一、各館ノ内容ニ關スル件
- 二、接待餘興ニ關スル件
- 三、三吳線鐵道連絡バス運行ニ關スル件
- 四、在東京囑託設置ノ件
- 一、夜間開場ニ關スル件
- 一、博覽會事務員ニ關スル件
- 二、一月中處理事務ニ關スル件
- 一、出品ノ狀況報告
- 二、郷土館造築ニ關スル件
- 三、守衛服裝ニ關スル件
- 四、看守婦採用ニ關スル件
- 一、各館出品陳列ニ關スル件
- 二、警備關係ニ關スル件
- 一、場内ニ於テ海軍工廠主催招魂祭施行ニ關スル件
- 一、團體觀覽者特別入場券發行ニ關スル件
- 二、市外新聞廣告ニ關スル件
- 三、軍艦見學者輸送方法ニ關スル件
- 四、警備ニ關スル件
- 一、各自受持事務ニ關スル工程報告ノ件
- 一、會場ニ擴聲器備付ノ件
- 二、開會式案内狀ノ件
- 一、門鑑ニ關スル件
- 二、花ノ陳列ニ關スル件

準備事務開始

同年三月十八日 部長會議

同年三月二十五日 部長會議

同年四月三日 部長會議

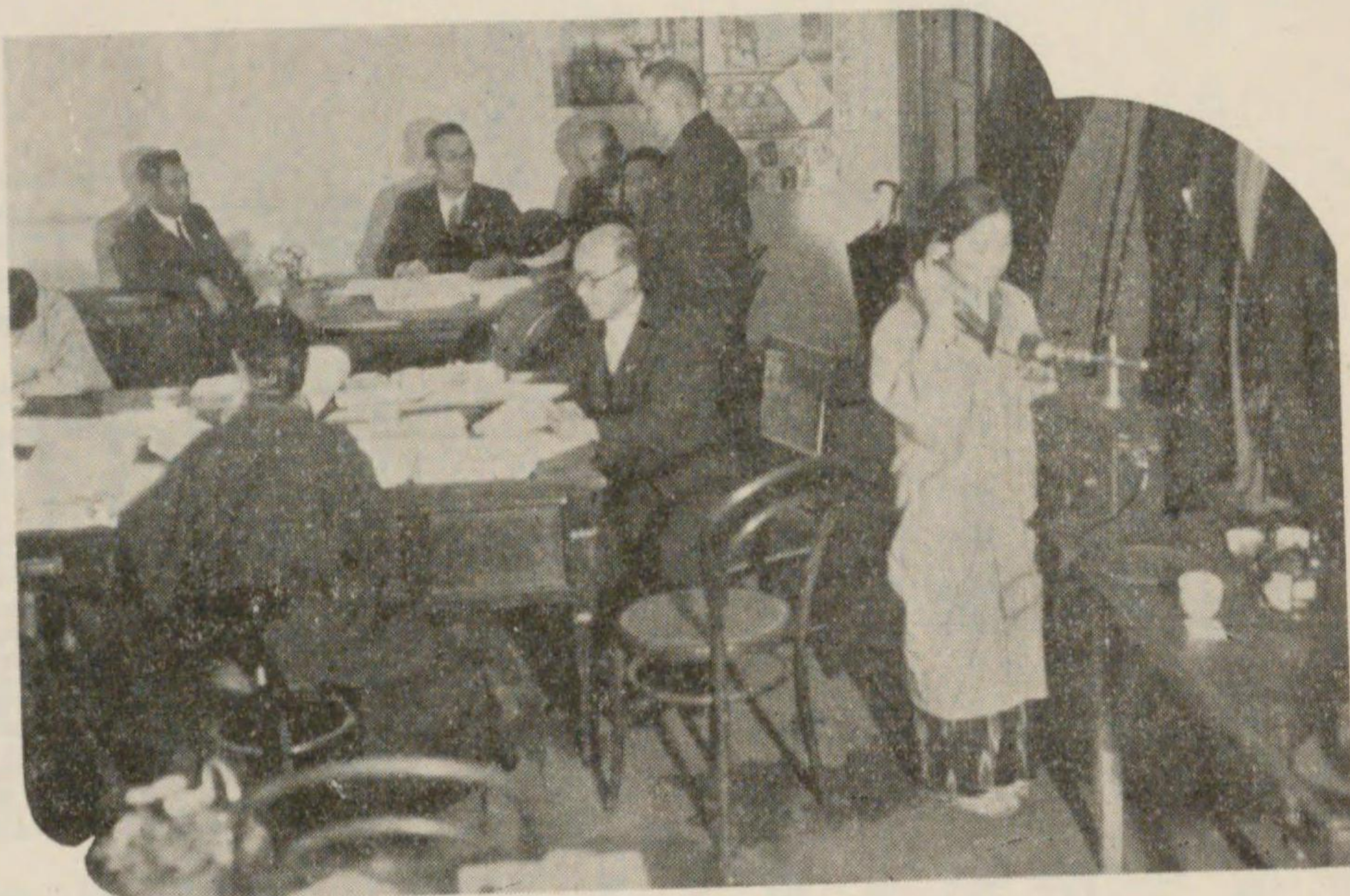
- 三、マークニ關スル件
- 四、通券數量ニ關スル件
- 一、衛生組長ニ關スル件
- 二、人事ニ關スル件
- 三、優待券ニ關スル件
- 一、市吏員及會議所事務員ニ對スル優待券交附ノ件
- 二、旬刊ニ對スル入場券交附ノ件
- 三、日刊ニ對スル「マーク」ノ件
- 四、警察關係ノ件
- 五、開會式打合ノ件
- 一、滿洲國協和會員來觀ニ關スル件
- 二、夜間開場ニ關スル件

事務局設置

本會の參謀本部である事務局は準備事務について昭和九年四月十日、月形事務總長はじめ係員の任命と共に、市廳舎内に設けられ廳舎内において總ての會務を進行、出品勧誘、宣傳等々漸次工作は進行し會務の繁忙と共に係員の數も増大強化を圖り、廳舎内愈々狹隘となり、併せて會場建設に伴ひ自然會場との交渉緊密となり、連絡上の不便を生ずるに至つたので昭和十年二月二日第一會場たるべき、二河公園内市立圖書館の一部を開放占據して、事務局を移動能率の増進を圖り會期切迫と共に各館新營建築物の完了も近づき、會務益々激甚となつたので更に三月四日同公園南端の元區裁判所廳舎内に移動、會期中の本據と定めたのである。

同裁判所廳舎は、かねて市に於て新裁判所廳舎を建設寄附して他に移轉を求めることになつてゐたものであり、

會務の遂行に利するところあつた。



多忙を極むる事務局内

裁判所側の好意により博覽會開設援助の意味から、豫定より早く立退き提供をうけたもので、本會としては全く萬事都合に運び、既設の洋風建築物なるため、一部の改装を加え、階上を迎賓館並に大會議室とし、階下に會長、副會長はじめ各部係室を設け、處務規定の定むるところにより事務總長の統制下にあつて、總務、出品、宣傳、經理、工營、特營、警備、衛生、接待、餘興、國防の十部及び景品陳列場、團體幹旋係、會議室、新聞記者室、應接室、倉庫並に電氣會社出張所等々を設け各部の部長は各幹事(市各課長)及び囑託を以て命じ、各部の事務を分掌、克く互ひに聯繫共同動作を執り、各部共連日連夜不眠不休の状態で、各種會議寧日なく、會務の煩瑣日もなほ足らざる繁劇を呈し全員一致協力激勵奮闘、市の名譽のためあらゆる努力を傾倒した。尙、國防部は遠隔の地にある川原石海軍用地を第二會場として國防關係の施設を、こゝに集中されることとなつたので連絡の便宜上、第二會場内事務室に本據をうつして、

準備事務開始

準備事務開始

出品部長 出品部

囑託 峰松眞三郎
主事 水野熊雄
囑託(兼) 山本賢二
囑託(兼) 野村義郎
職業紹介所長(兼) 井上浩
書記 田中正
〇松井一三
〇國重吾
〇下藤恒彦
〇齊藤素道
〇藤谷素道
〇會我文五
〇內田眞人
〇小山幸一
〇小林武揚
〇山本寬
〇伊藤吾弼
農林技手 小島俊夫

宣傳部長 宣傳部

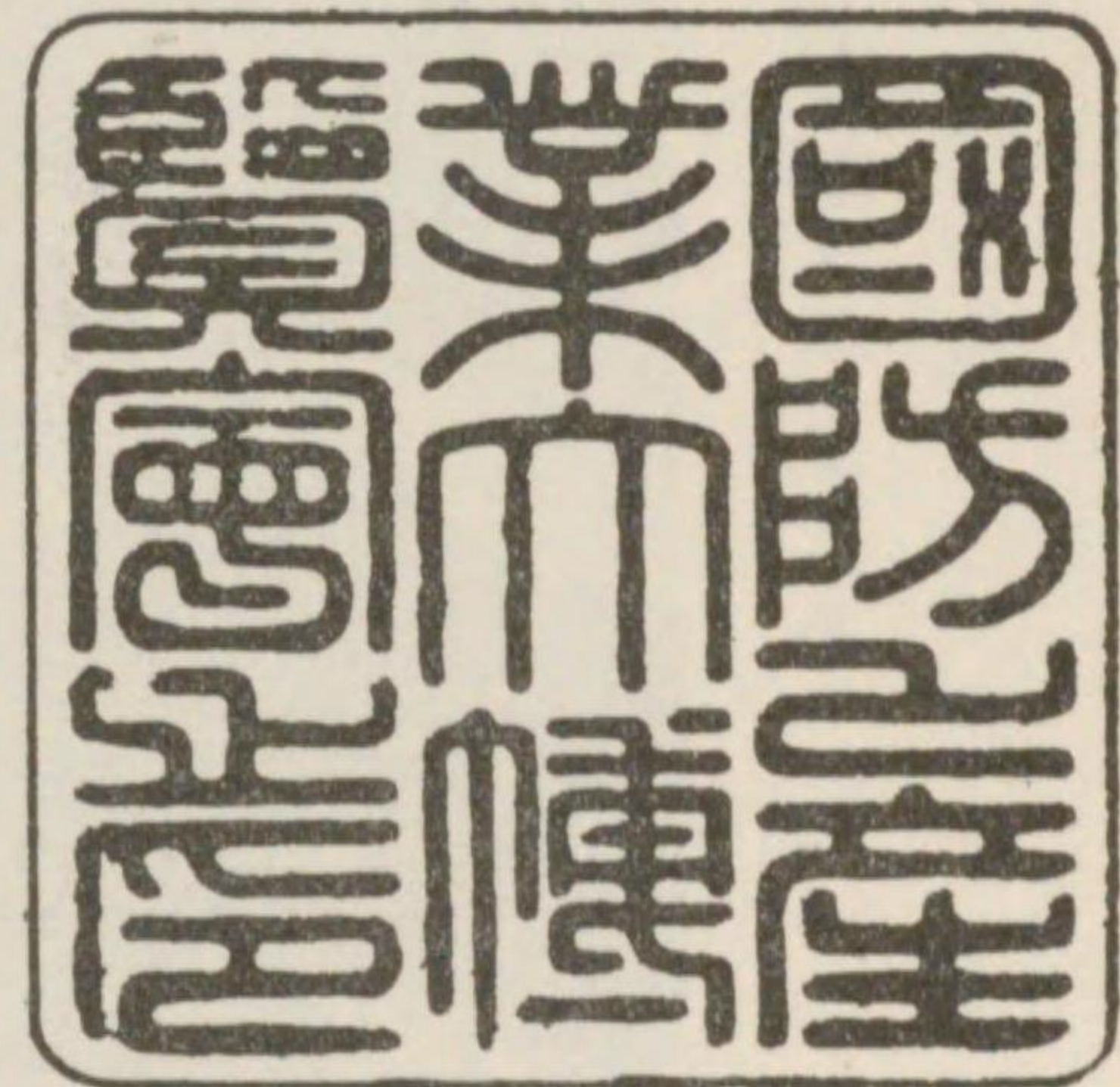
臨時囑託 兒玉信雄
給仕 寺尾末雄
給仕 小林勝太郎
給仕 下江政見
給仕 一人

市會書記長 〇小田福松
市會書記長 〇若林馨
市會書記長 〇石井延三
市會書記長 〇桂親良
市會書記長 〇中谷正美
市會書記長 〇岡田登
市會書記長 〇吉岡勇人
市會書記長 〇岡田登
市會書記長 〇下敷芳夫
市會書記長 〇屋敷芳夫
市會書記長 〇杉本保眞
市會書記長 〇江崎達城

教育課長 〇小田福松
市會書記長 〇若林馨
市會書記長 〇石井延三
市會書記長 〇桂親良
市會書記長 〇中谷正美
市會書記長 〇岡田登
市會書記長 〇吉岡勇人
市會書記長 〇岡田登
市會書記長 〇下敷芳夫
市會書記長 〇屋敷芳夫
市會書記長 〇杉本保眞
市會書記長 〇江崎達城

商工技手

準備事務開始



博覽會印



博覽會長印

今事務局員と事務の分掌を示せば次の如くである。

事務局職員

(〇印ハ市吏員ニシテ兼務セル者)

事務總長 助役 月形七郎

總務部長 勸業課長 〇山田芳信
囑託 野村義郎
囑託 中邨末吉
書記 〇重國彌作
〇新谷勝

〇陣崎唯夫
〇坂上好生
堀谷高志
小田守一
タイピスト 二人
給仕 一人

準備事務開始

衛生部

衛生部長 ○松浦輔彦

衛生課長 ○松浦輔彦

衛生監督長 ○德田眞次

書記 ○石川助四郎

衛生巡視 給仕 一人

接待餘興部長 (昭和九年八月十三日退任) 庶務課長 ○松井坂市

(昭和九年八月十三日就任) 庶務課長 ○角谷治郎一

職業紹介所長 ○井上浩

書記 ○村田武

○河野正人

○音森作次郎

○平田喜一

國防部

國防部長 戶籍兵事課長 ○大窪博

主事 守武幾雄

主事(兼) 水野熊雄

技師 ○下岡俊一

書記 ○植木明義

○服部正次郎

○西尾玉吉

○角井潤二

臨時囑託(兼) 下江正美

囑託部員 二十九人

臨時囑託 ○倉本勇

○中鹽勝

○新谷勝

○土屋伊三郎

○前谷音松

古森文五

臨時囑託 給仕 二十一人

事務備人 二十一人

準備事務開始

工營部

工營部長 給仕 一人

土木課長 ○大谷榮助

技師 ○藤澤慶次

書記 ○今田憲三

○森元與三郎

○實近朝男

○松田政助

○小田直三郎

○田邊一

日比定一

野間久雄

水野菊之助

片山末雄

○入江圓之助

○渡邊純一

囑託 十二人

工手 七人

人夫監督 二人

木工 七人

經理部

經理部長 給仕 一人

收入役 ○池田壽一

主事 ○小林孫一

囑託技師 ○由比周吉

書記 ○豐島敬三

○中鹽敬三

○大井久一

○堂城正藤

○芳野芳一

○松井尚

臨時囑託 岡田靜登

女事務員 森兼正夫

給仕 二十一人

警備部長 一人

警備部 社會課長 ○平山謙吉

書記 ○森岡守人

○曾我文五

準備事務開始

特 營 部 長 給 仕 一 人

特 營 部 稅務課長 ○谷本琢哉

囑託(兼) 野村義郎

書記 ○齊藤 綠

○近藤武一

○田中榮次郎

○小田 政

○細川清治

○坂田壽雄

給 仕 一人

事務日誌

八年十月二十六日 準備調査會規程決定

同 十二月十四日 準備調査常任委員囑託

同 十二月二十四日 各府縣及商工會議所近傍町村ニ博覽會開催決定ヲ通知

九年一月十四日 規程ノ作成、日程ノ編成、豫算内譯ノ作成着手

同 一月十五日 出品勸誘日程作成

同 一月十六日 要項、會則、會場計畫圖、職別ノ原案作成

同 一月二十三日 處務規程脱稿

同 二月五日 豫算案決定發表、四國、九州、山陽山陰ニ出品勸誘班派遣ヲ決定

同 二月七日 各縣商工課長、市長、會議所會頭、植民地宛、第二回依頼狀發送

同 二月十六日 ポスター懸賞募集規程作成發表、海軍關係諸官廳ニ趣意書依頼狀發送

同 二月十九日 勸業委員會ポスター懸賞募集ノ件

準備事務開始

同 三月一日 市會ニ於テ博覽會一般豫算確定

同 三月五日 協賛組織ノ件會議所側ト打合

同 三月十八日 ポスター當選者發表、事務員各部配當決定

同 四月七日 勸業委員會ニテ會則機構庶務規定可決

同 四月十日 市廳内ニ事務局開設訓示

同 四月二十三日 博覽會關係職員トシテ各府縣商工課長宛職名依頼

同 四月二十五日 宣傳用ラベル、博覽會徽章圖案決定

同 四月二十六日 宣傳マツチ圖案決定

同 四月二十八日 宣傳スタンブ調製配付

同 五月一日 廣島、福山、尾道ニ於テポスター展開催決定

同 五月六日 市内岩方小學校講堂ニポスター展開催

同 五月七日 宣傳部立看板設置ニ付五十一町村ニ依頼

同 五月十一日 出品部打合會

同 五月十五日 第二會場敷地借用願吳鎮守府へ提出

同 五月十七日 博覽會諸規程、役職員名簿原案成ル

同 五月二十三日 滿洲國出品勸誘ノタメ外務省ヲ經テ依頼

同 五月二十五日 三吳線連絡バス運轉方鐵道大臣へ申請

同 五月二十八日 貿易移民館出品依頼ノタメ拓務大臣ニ依頼狀提出

同 六月二日 樺太廳、南洋廳長官ニ依頼狀提出

同 六月四日 滿鐵出品決定

準備事務開始

同 六月六日
 同 六月十一日
 同 六月二十四日
 同 六月二十五日
 同 八月七日
 同 八月十五日
 同 八月二十六日
 同 八月二十八日
 同 九月一日
 同 九月六日
 同 九月十八日
 同 九月二十日
 同 十月一日
 同 十月十日
 同 十月十六日
 同 十月二十三日
 同 十月二十四日
 同 十月二十七日
 同 十月二十九日

各種辭令印刷
 諸規程ヲ各府縣市等ニ發送
 海軍納入代理人ニ依頼狀發送
 鐵道貨物及其他割引承認方申請
 小間割協議
 出品主任者會議案内、各地出品協會宛勸誘狀差出、陸軍省後援許可書到達
 町總代總會ヲ開キ援助懇請
 陳列柵設計決定
 出品主任者會議依頼狀差出
 更生豫算作成
 宗教館設置ニ付寺院ニ依頼狀差出
 日本製鐵株式會社ニ特設館建設依頼
 本會ト協賛會トノ事務分擔決定、會計規程、守衛看守人規程、入場券割引規程決定
 出品主任者會議錄發送
 市内各戸ニ宣傳ビラ配付
 全國觀光客誘致協議會開催通知
 縣補助申請
 陸軍省ヨリ軍需工業館ノ計畫ニ關スル件通知ヲ受ク
 兵學校及ビ運輸部ニ記念品出品願ヲ提出

準備事務開始

同 十月三十一日
 同 十一月一日
 同 十一月十二日
 同 十一月十三日
 同 十一月十四日
 同 十一月十六日
 同 十一月十七日
 同 十一月十七日
 同 十一月二十一日
 同 十二月十八日
 同 十二月二十七日
 十年 一月二十一日
 同 二月一日
 同 二月四日
 同 二月十四日
 同 二月二十日
 同 二月十七日
 同 三月三日

東京放送協會へ出品依頼狀差出、全國一般商工業者ニ對シ出品勸誘狀差出
 全國各新聞社、旅館、觀光協會宛ポスター發送
 徽章通門證發行規程、入場料割引規程、入場券前賣規程、事務員採用規程決定
 本願寺出品目錄ヲ受附
 產業館、軍需工業館、郷土產業館、觀光館、貿易移民館、教育館、體育館、農林
 水産館ノ入札執行、記念館出品依頼狀差出
 觀光館設置依頼狀差出
 鐵道省割引ノ件許可通知
 地鎮祭案内狀發送
 軍需工業館出品依頼狀第二回分發送
 郷土產業館出品勸誘狀ヲ發送
 會長年賀郵便發送
 滿洲館設置具體案通知
 全國出品團體ニ對シ確定小間割通知
 第一會場圖書館内ニ事務局移轉
 守衛、看守婦採用試驗實施
 朝鮮館ノ入札決定
 商工省補助指令到着
 下關稅關ヨリ免稅指令ヲ受ク

準備事務開始

- 同 三月 七日 會長放送
- 同 三月 二十七日 開會式舉行
- 同 四月 十五日 商工省岸技師來吳鑑查開始
- 同 四月 二十一日 吳工廠殉職者招魂祭舉行
- 同 四月 二十三日 日滿交驛式舉行
- 同 五月 十日 閉會式舉行
- 同 五月 十四日 公園事務所ヲ引揚ゲ市役所ニ移ル

吳市 國防と産業大博覽會處務規程

第一條 本會ノ事務ハ會長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ノ決裁ヲ經テ施行スルモノトス

第二條 左ノ事項ハ事務總長ニ其ノ決裁ヲ委任ス

- 一、輕易ナル文書ノ往復照會及報告ニ關スル件
- 二、雇員傭人ノ任免ニ關スル件
- 三、各部ニ職員配置ノ件
- 四、職員ノ出張命令ニ關スル件
- 五、人夫傭人ニ關スル件
- 六、物品出納命令ニ關スル件
- 七、確定シタル債權、債務ニ基ク收入又ハ支出命令
- 八、其他簡易ナル事項

第三條 本會事務ヲ處理スル爲左ノ各部ヲ置ク

- 總務部 出品部 宣傳部 經理部
- 工營部 接待餘興部 衛生部 警備部
- 國防部 特營部

第四條 會則第十三條ノ理事ハ前條ノ各部ニ分レ重要ナル事務ニ參劃ス

前項各部ノ理事中ヨリ理事長一名、副理事長一名及常任理事若干名ヲ置ク

第五條 名部ニ部長一名事務員若干名ヲ置ク 部長ハ幹事又ハ囑託ヨリ之ヲ任命ス

第六條 各部ニ於テ取扱フ事項左ノ如シ

- 總務部 一、文書ノ收受及發送ニ關スル事項

八、出品物ノ引渡ニ關スル事項

宣傳部

- 一、新聞及通信ニ關スル事項
- 二、會報ニ關スル事項
- 三、宣傳用立看板、船車廣告ポスターニ關スル事項
- 四、其ノ他宣傳用印刷物ノ發行及頒布ニ關スル事項
- 五、標語ニ關スル事項
- 六、其ノ他宣傳報道ニ關スル事項

工營部

- 一、敷地、建築、土木其他工作物ニ關スル事項
- 二、照明、瓦斯、給水ニ關スル事項
- 三、動力ニ關スル事項
- 四、電話ニ關スル事項
- 五、會場内外裝飾ニ關スル事項
- 六、式場ノ設備ニ關スル事項
- 七、建物其他保管ニ關スル事項
- 八、其ノ他ノ營繕ニ關スル事項

接待餘興部

- 一、餘興ニ關スル事項
- 二、接待、送迎、案内ニ關スル事項
- 三、優待券及無料入場券ニ關スル事項
- 四、宿屋料理屋自動車等ニ關スル事項
- 五、諸催物ニ關スル事項
- 六、交通機關ニ關スル事項

- 二、印章保管ニ關スル事項
- 三、諸規定ノ制定ニ關スル事項
- 四、儀式ニ關スル事項
- 五、會長交際ニ關スル事項
- 六、機密ニ關スル事項
- 七、役員、職員、雇員及傭人ノ進退ニ關スル事項
- 八、出張ニ關スル事項
- 九、宿直ニ關スル事項
- 十、豫算及經理ニ關スル事項
- 十一、徽章、觀覽券、入場券、門鑑等ニ關スル事項
- 十二、各種大會ニ關スル事項
- 十三、諸運賃割引ニ關スル事項
- 十四、會議ニ關スル事項
- 十五、各種印刷物ニ關スル事項
- 十六、記録、編纂及報告書ノ調製ニ關スル事項
- 十七、他ノ主管ニ屬セザル事項

出品部

- 一、出品ノ勸誘整理陳列ニ關スル事項
- 二、陳列場ノ裝飾ニ關スル事項
- 三、陳列場ノ設備及館内取締ニ關スル事項
- 四、出品物ノ授受、保管、賣約及即賣ニ關スル事項
- 五、陳列場所、割當ニ關スル事項
- 六、出品ニ伴フ動力供給ニ關スル事項
- 七、看守人ノ監督ニ關スル事項

準備事務開始

準備事務開始

經理部

- 一、金錢物品出納ニ關スル事項
- 二、物品ノ購入保管ニ關スル事項
- 三、賣約及即賣代金精算ニ關スル事項
- 四、諸給與ニ關スル事項
- 五、有料入場券出納並ニ販賣ニ關スル事項
- 六、不用品處分ニ關スル事項
- 七、決算ニ關スル事項

衛生部

- 一、保健衛生救護ニ關スル事項
- 二、場内飲食物販賣取締ニ關スル事項
- 三、撒水ニ關スル事項
- 四、尿尿及汚物處分ニ關スル事項
- 五、掃除人夫取締ニ關スル事項

警備部

- 一、會場内外ノ警備取締ニ關スル事項
- 二、守衛ノ監督ニ關スル事項
- 三、消防ニ關スル事項
- 四、觀覽人ノ保護、取締ニ關スル事項
- 五、入場券ノ改札集札、並ニ門鑑ノ検査ニ關スル事項
- 六、遺失物、拾得物、迷兒ニ關スル事項
- 七、其他保安ニ關スル事項

國防部

- 一、國防館ノ出品取纏並ニ搬入出ニ關スル事項
- 二、國防館出品物ノ陳列ニ關スル事項
- 三、國防館看守人ニ關スル事項
- 四、其ノ他國防館出品ニ關スル事項

特營部

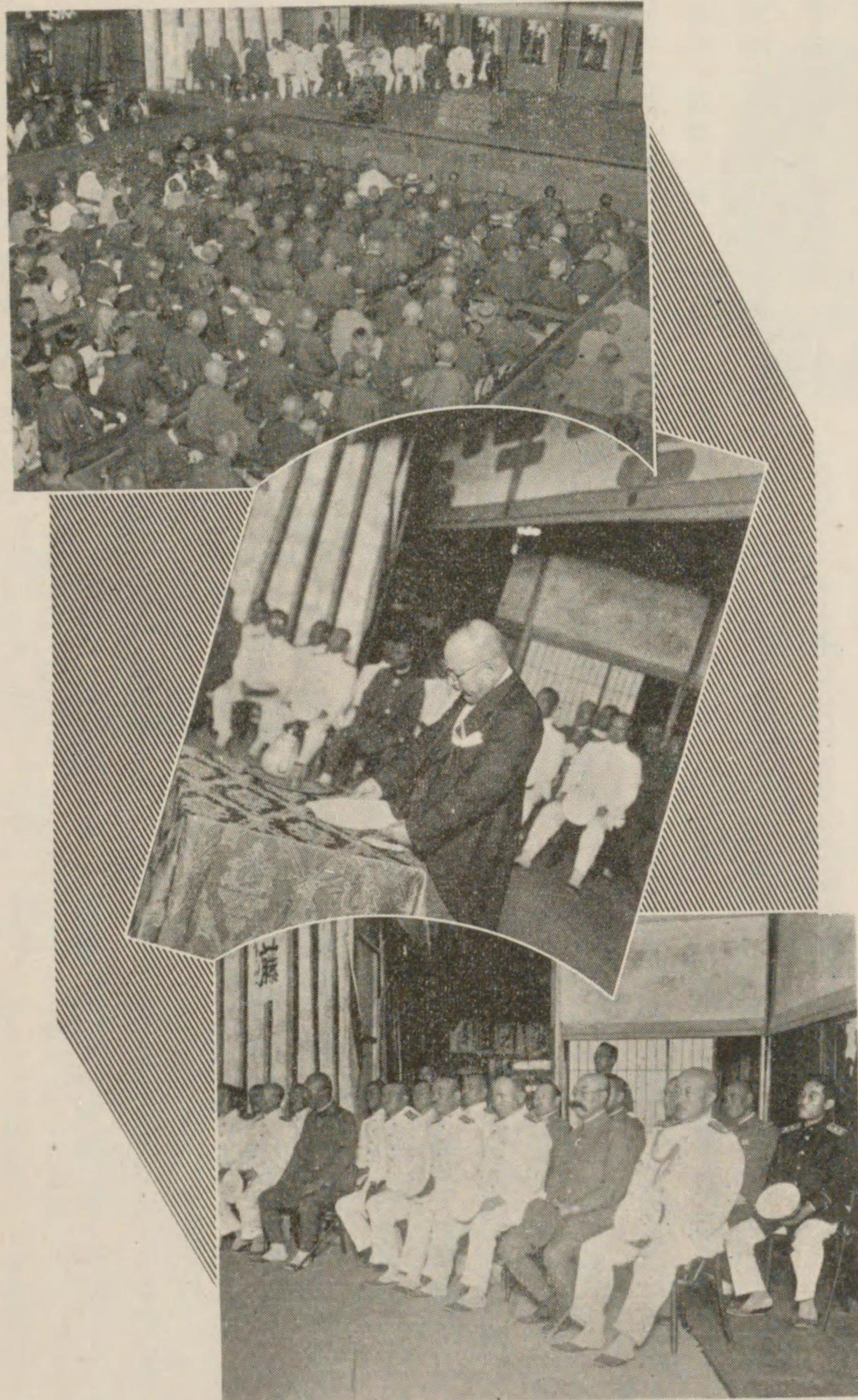
- 一、特設館ニ關スル事項
- 二、場内外賣店ニ關スル事項
- 三、場内外個人興行物ニ關スル事項
- 四、場内外廣告塔其他ニ關スル事項
- 第六條 本會ニ到達シタル文書ハ總テ總務部ニ於テ收受シ各主管部ニ配布スベシ
- 第七條 現金有價證券其他貴重品及重要書類ハ帳簿ヲ備ヘ主管部長ノ受領印ヲ徴シ其ノ授受ヲ明ニスベシ
- 第八條 各部ノ發案ハ總務部並ニ關係各部ニ合議スベシ
- 第九條 完結書類ハ主管部ニ於テ整理ノ上閉會後總務ニ引繼クベシ
- 第十條 總務部長ハ閉會後決算報告書並ニ博覽會事務報告書ヲ作り會長ニ差出スベシ
- 第十一條 本規程ニ定ムルモノノ外總テ吳市役所處務規程ヲ準用ス

附則

本規程ハ昭和九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

役員總會開催

諸般の準備工作も漸次進展を告げ、此間三吳線開通を機とする一部會期延期説も熱心な諒解工作効を奏し非常時



士名軍海陸の賓來(下) 揆長會贊協宅三(中) (てに座吳)會總員職役(上)

準備事務開始

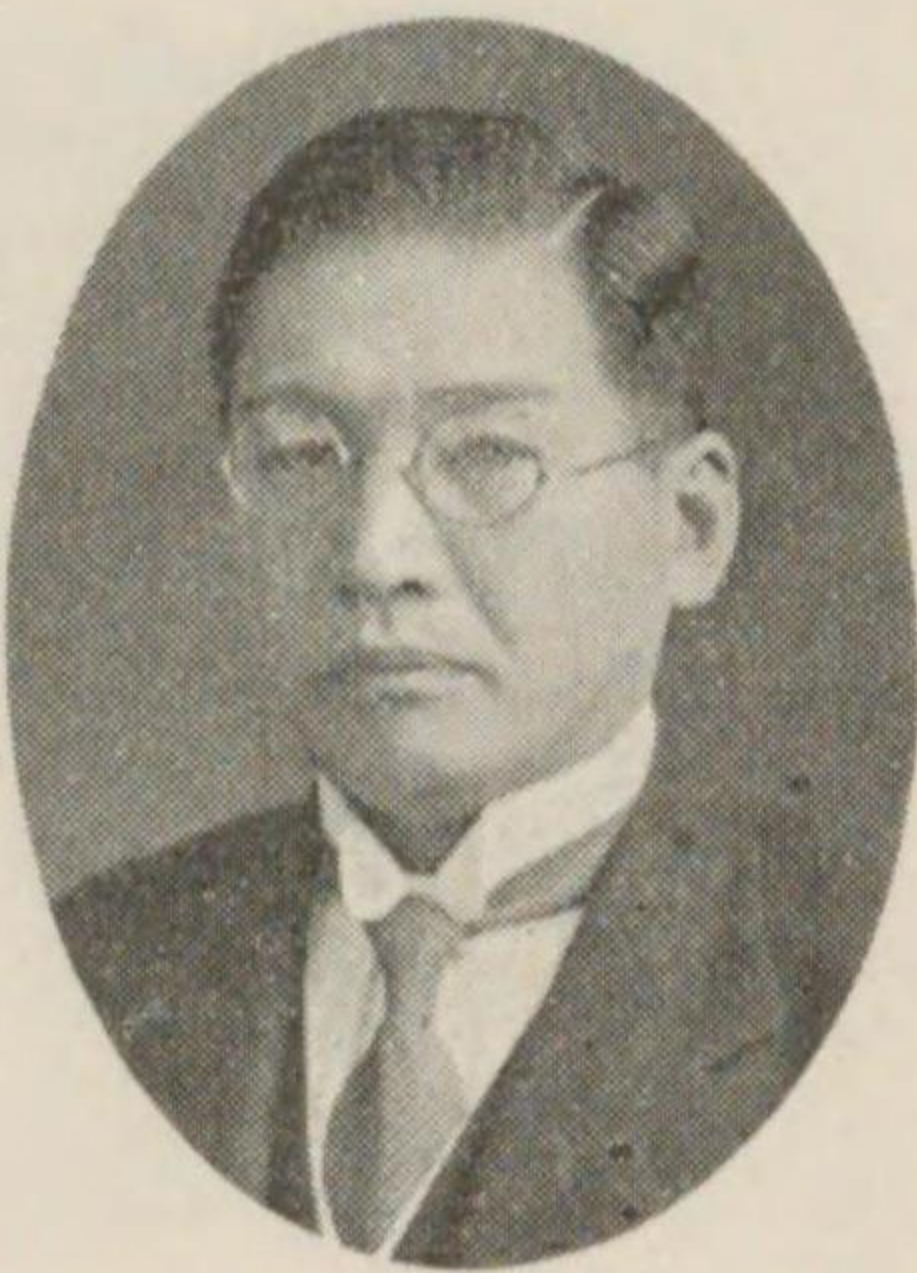
準備事務開始

の聲と共に全く克服解消し、吳鎮守府へさらに一段の援助を懇請した結果、國家非常時の際であり、海軍を背景とした博覽會は最初のことであるから軍事上支障ない限り援助する。又、他の海軍關係についても吳鎮守府を通じて連絡をとり出来るだけの助力をするから、此際市民は一丸となつて博覽會開催にあたり目的の貫徹を期せられたい

との好意ある激勵の辭をうけたので渡邊會長始め關係者一同勇躍鼓舞、諸種の狀勢亦頗る好轉を示し、新春以來の第一期準備工作も滞りなく進展、多大の收穫をあげ、愈よ新秋第二期工作に入るのこの機會に於て一段の緊張と陣容の整備を期し、一路第二期工作に邁進すべくその首途を祝福するため、昭和九年九月二日午前十一時より吳市吳座に於て本會役職員總會を開き、商工會議所側を中心としてかねて組織した本博協賛會もこれに加はり、

總裁湯澤本縣知事(代理二宮縣商工課長)顧問藤田吳鎮守府司令長官(代理住山吳鎮守府參謀長)以下各幕僚、吳、廣兩工廠長、小磯第五師團長(代理坂本部附少將)以下幕僚その他市内官公衛長はじめ市内縣下の本博顧問、理事、評議員、委員等約一千餘名、及渡邊會長、月形事務總長、以下各部長、係員總出動、協賛會側から三宅會長、稻葉事務總長以下全員動員

先づ月形事務總長、萬場の拍手に迎へられ、開會の挨拶を述べ第一期工作の經過を報告、次いで渡邊會長、三宅協賛會長、湯澤總裁(二宮商工主事代讀)の各挨拶があり、更に吳鎮守司令長官(住山參謀長代讀)第五師團長(坂本部附少將代讀)の激勵鞭撻の辭があり、終つて月形事務總長は名譽總裁淺野長勳侯の祝電を披露し、足利協賛會副會長の挨拶で總會を閉ぢ引きつづき開宴、月形事務總長より各役職員の勞を謝し、さらに今後一段の努力を切望、主客歡を盡して、祝盃をあげ、水野市會議長の發聲で「國防と産業博萬歲」を三唱頗る盛會を極め、めでたく午後二時散會した。



月形事務總長(報告)

ます。

茲に博覽會事務總長として今日迄の經過を報告させて戴

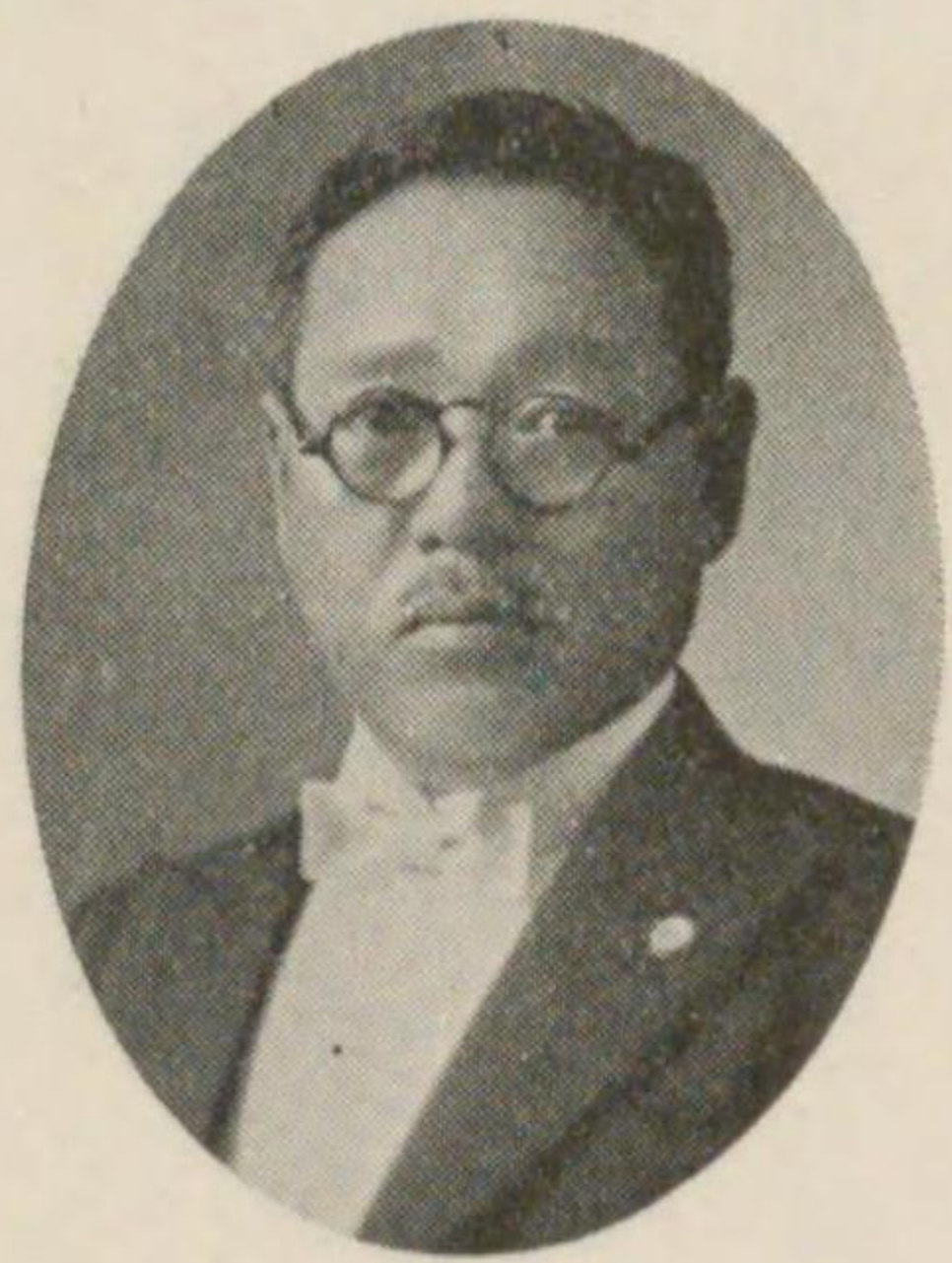
昭和八年八月三十日吳商工會議所會頭三宅清一郎氏、博覽會促進委員長石原丈吉氏より、三吳線開通、廣島吳間國道開設、阿賀築港完成を期して本市に産業博覽會を開催し以て本市産業の伸展に策すると共に非常時現下に於ける商工業者の發奮を促し、經濟界躍進の素地を培ふことは記念事業として最も時を得、最も當を得たるものなりと確信す。依て會議所は、慎重審議の結果議員總會滿場一致の決議に依り要望する旨の陳情書を市長に差出されたるに依り市長は直ちに九月六日勸業委員會を開會、博覽會開催の可否を協議しました所、調査委員會を設け、調査の上開催を可とすることに決定いたしました。依て九月十一日博覽會調査委員を決定し、十月二十六日第一回の委員會を開會規定を設けて、夫々準備調査に掛り十二月二十二日第二回の委員會を開會豫ねて調査中の博覽會開催に關し協議の結果愈々開催することに決定いたしました。三吳線開通記念の博覽會を前提として居りましたが、時季が偶々一九三六年の國際的非常時局に際會するを以て、此の時季に博覽會を開催することは、各方面に支障ありこの點に就いて種々慎重協議の結果此の非常時局に際し大いに、國防思想を涵養し、國防の充實と産業振興に關し、全國に飛激して國民思想を統一するは、軍都たる本市の責務であると云ふ高い見地から昭和十年陽春の候を期し、吳市主催の下に國防と産業大博覽會の名稱を以て、四十五日間開催することに決定會議所は、協賛會を組織して本會を援助することとなり準備調査委員會を解散致しました。

翌十二月二十三日市會協議會に調査委員會の原案を提出異議なく承認を得、直に全國各府縣市、商工會議所及び近接町村に決定の通知書を發して愈々準備工作に移り豫算及び要項、會則、會場計劃書、職制等の作成審議を終へ何れも市會に於て、可決承認されましたので、各部に部長事務員を囑託し勸業課内に、事務局を設け、諸般の事務の進行を計つて居ります。出品の勸誘も本年二月以降數回に涉りて、全國各地を歴訪して依頼しました處、大體に於て、豫定通りの出品を願ふ見込確實になりました。又殖民地も樺太、北海道、南洋方面は、東京に於て、該地長官に面談の上諒解を得、滿洲、朝鮮、臺灣方面は直接彼地に出張、廣島縣人有力者の應援を得まして、極力運動しました結果、横濱、熊本と三つ巴の競争にも不拘、豫算の許す範圍に於て、希望に副ふ旨の諒解ができました。此れによつて、大體出品に關しては、好結果を得るものと確信致しますが尙今後共、機會ある毎に勸誘は怠らない考へであります。本月十六、七日全國出品團體主任者會議を開催、全國各地及び植民地より主任者來吳さるゝを

準備事務開始

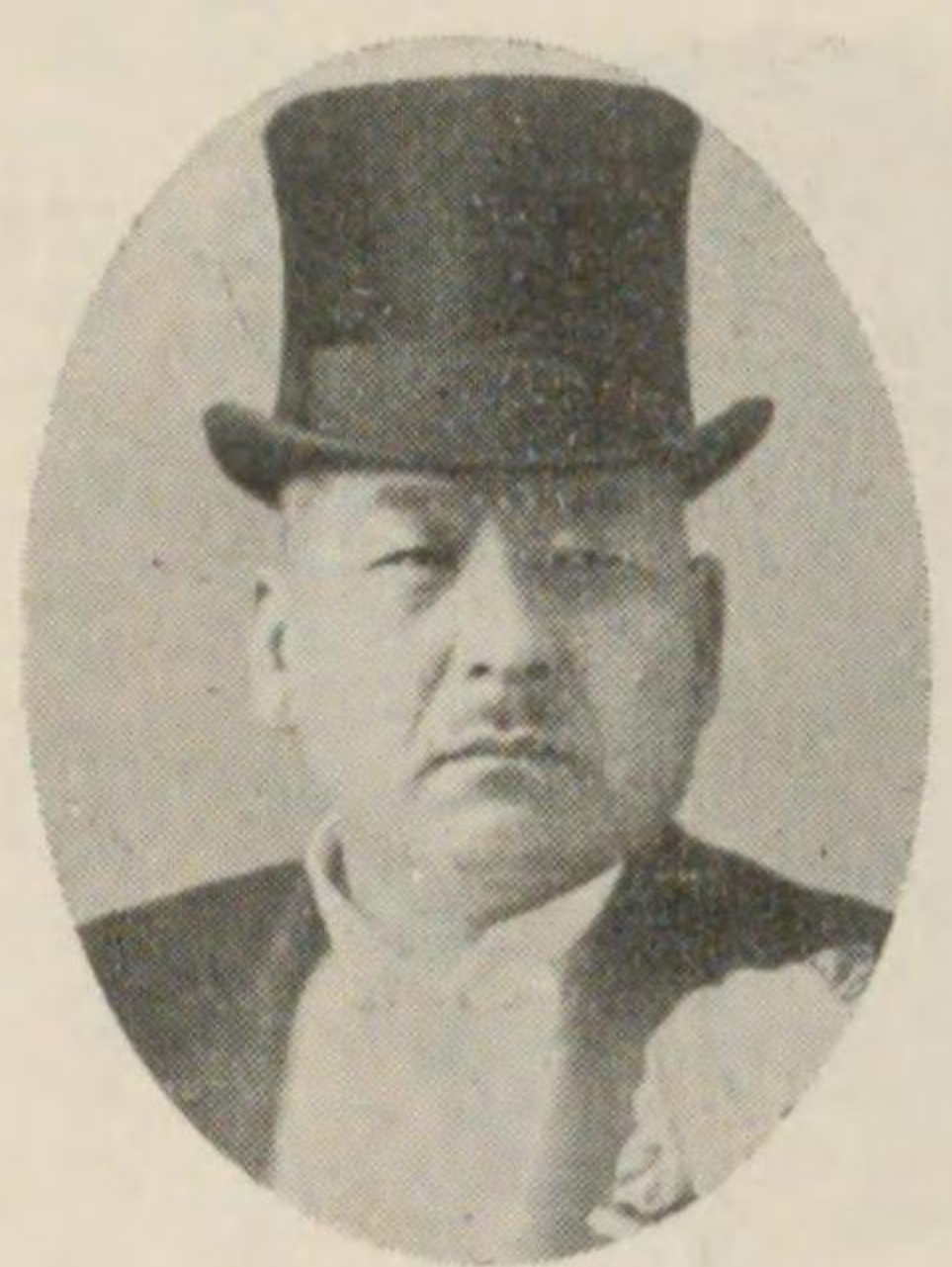
準備事務開始

以て其の機會にも一層の拍車を加へる積りであります。宣傳につきましては、第一期工作として、ポスターの懸賞募集を行ひ、一等入選を印刷に付し、全国各地に配布致しました外、應募作品の巡廻展覽會を縣下四市に開催して、人氣を博し、立看板を縣内各地及近縣樞要地に數十枚設置し、漸次之を充實させて行く考へであります。尙宣傳用スタンプ、燐寸、團扇、繪葉書、暑中見舞狀數十萬個又は、數十萬枚を作成配布し、海水浴場、盆踊大會、嚴島管絃祭、同玉取祭、全國中等學校野球大會等を利用して、諸種の宣傳方法を講じ、大方の人氣を呼んで、第一期工作を終へ更に第二期工作に、諸種の宣傳方法を考究實現に大童になつて居ります。會場施設も諸種成案を得て、着々準備進捗を見せ居りますが、中でも本願寺寶物、觀光「モデオラマ」軍需工業品移民資料、テレビジョン等の出品及び滿洲、朝鮮、臺灣の特設館は異彩を放つものと期待して居ります。就中國防に關する施設は海軍側に於かれては海軍省は勿論、吳鎮守府にても軍事御多端の際にも不拘長官閣下を始め各官の絶大なる御厚意により、あらゆる御便宜を供與せられ、陸軍側に於かれても陸軍省の後援許可を得、第五師團司令部に於て、之が中心となられまして、計劃實施の研究に熱烈なる御厚意を寄せられて居られますので、總ての計劃が實現しますならば名實共に立派なる國防博として大成功することを確信して居ります。即ち鎮守府御膝下の軍港都市として更に精銳を誇る師團を隣接に迎へ國防を首位に置く博覽會として特異の企圖ができるわけでありませう。此の兩軍都に對しましては、其の寄せられました御厚意に深く敬意と感謝とを捧ぐる次第で御座居ります。以上述べました通り、第一期工作も皆様の御援助により豫想外の進行を見ましたが、更に九月よりは、第二期工作に移り大馬力を以て、邁進する覺悟で居ります。何卒役職員諸賢に於かれまして一層の御援助と御指導を與へられまして、本會の成功を御助成下されんことをお願い申し上げます。以上の通り今日迄の經過御報告申します。



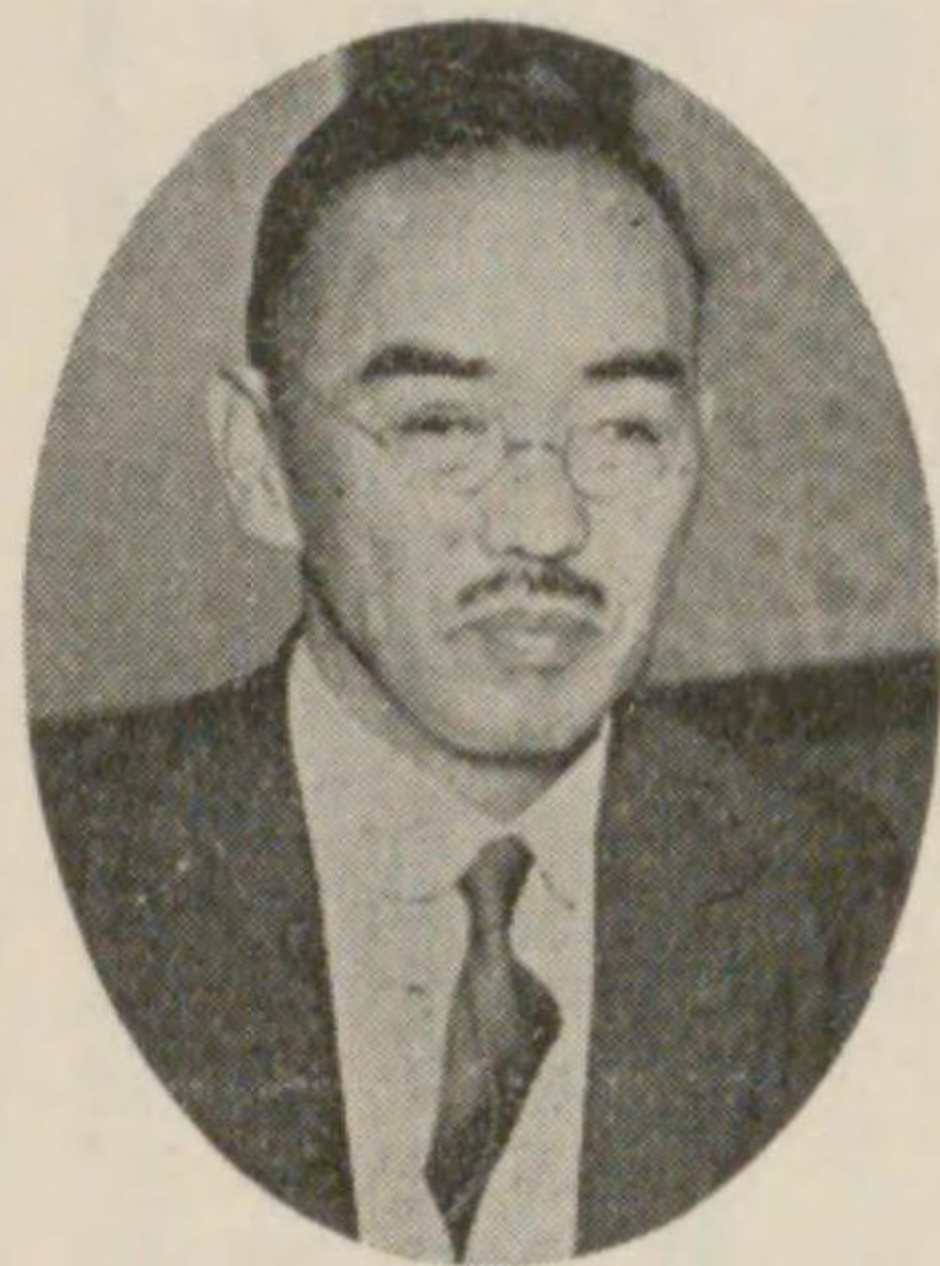
渡邊博覽會長(挨拶) 博覽會は、諸君の御努力によつて今日迄事務進捗致して参りました。博覽會については、兎角種々の意見があり、開催期の問題についても、三吳線開通後、廣島、吳間國道開通後、或は阿賀築港完成後との説もあり御尤ものことでありますが、一九三六年の非常時局を前にし、萬一の場合は博覽會開催の餘裕なく、こゝに國防博として、全國に呼びかけたものであります。これは最も効果的であると信じたるによるもので、この點充分に御諒承願ひます、かうして開いた上からには、市民のため、縣民のため、どうしても成功させなくては、ならぬもので成功の自信はあるが當局だけでは、出来ないことでは是非諸君の御努力を俟たなくてはならぬ

のであります、この上とも御後援の程を願ひます。尙ほ出品勧誘等についても市會議員の出張に當つては市よりも旅費を妙なくして、僅少な経費でやつてをり、決して濫費と云ふが如きことはなく極めて、経費を節約して、旅費規程なども改正してやつてゐるから此の點も御諒承願ひます。



三宅協賛會長(挨拶) 只今市長さんから御挨拶がりましたが、私は之の機會に協賛會を代表して一言御挨拶を兼ね御依頼申上げて置き度いと存じます。

明年開催せらるる國防と産業大博覽會は、大にしては、明年明後年の非常時局に直面してゐる國家の見地よりして、又小にしては、生産都市吳市の産業を普く全國に紹介する點に於て其の重大性に富むことは、私の茲に改めて冗議するを要しない所でありませう。併し折角の博覽會、我々商工業者が多年要望したこの博覽會の實現に對して、私共は、吳市の爲骨を粉にしても奉公し、博覽會をして大成功裡に終了せしめ以て、國防に關する認識を一般國民により強く徹底せしむると同時に、商工都市大吳市を天下に宣傳し、益々本市産業の發展を計るべきであると思ふに、右の理由よりして博覽會の成功を助くるため商業に就いて皆様の御援助と御努力とを仰ぎ度い次第であります。本會の主旨を御協賛下され、本會の諸事下に宣傳し、益々本市産業の發展を計るべきであると思ふに、右の理由よりして博覽會の成功を助くるため商業に就いて皆様の御援助と御努力とを仰ぎ度い次第であります。本會の主旨を御協賛下され、本會の諸事



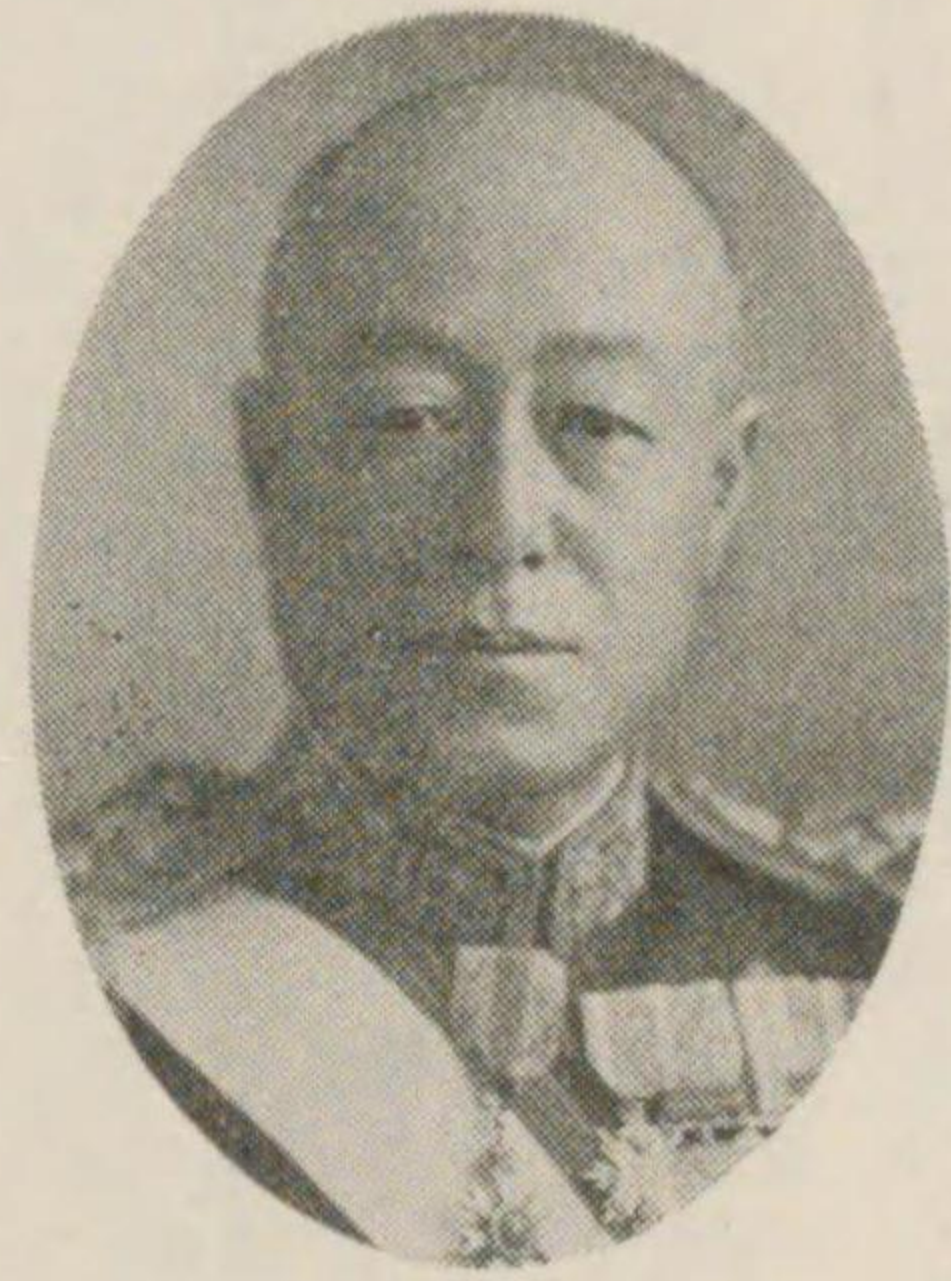
準備事務開始

湯澤總裁(挨拶) 明年春季を期し、吳市主催のもとに、開催する國防と産業大博覽會關係役員總會に臨み、一言挨拶を述べは欣幸とする所なり。我國經濟界の現況は、當局の施設獎勵と當業者の自制發奮に依り、事業の整理漸くその緒に就き

準備事務開始

好轉の曙光を見るに至りたるは、洵に慶賀すべき現象なりとす。然りと雖も國際經濟界の狀勢は、各國共輸入防遏主義を策し、通商貿易は幾多の難關に遭遇し業界の前途直ちに樂觀を許さざるものあり、此の秋に方り吳市は本博覽會の開設を企圖し、以て富國と強兵を強調し、全國並に植民地より産業の粹を網羅して現代産業發達の實績を展示するとともに、國防思想の涵養と軍事知識の普及を圖り、益々國民の自覺を促し、軍民一致各その本分を盡し、以て一つは軍國の大事に任じ、一は産業經濟の發展を期し、國運の興隆に資せんとす。誠に機宜に適するの舉にして時局の前途に貢献する所亦尠からざるを信ず。

冀くは關係者諸氏、よろしくその準備經綸を誤ることなく和衷協力事業の遂行を期し本會をして有終の美を濟すに努められんことを、聊か所懐を述べて挨拶に代ふ。



茲に一言所見を述べて御挨拶に代ふ。

坂本第五師團部附少將(挨拶) 當吳市は、近時振興氣運横溢し、獨り、産業都市に止まらず、軍國都市として見るべきものあり、特に、滿洲事變勃發以來國論の喚起統一、軍民の一致結束を初め、出動將士に對する激勵慰問其他銃後の後援國防兵器



亦偉大なる躍進を示しつゝあるは御同慶に堪へざるも、我對滿國策の大成は寧ろ今後にあるのみならず列強の重壓日に加はり帝

國四圍の狀勢眞に一日の偷安を許さず、内經濟思想の國難を叫ばるゝものあり此時に當り、我帝國の使命國策に關する一般の理解と熱意を進め、益々國防思想の普及徹底を圖ると共に國防を充實し、一面産業の振興を圖りて國力の充實を策し、舉國一致國難突破の決意を一層鞏固にすることは實に國家の急務なりと信ず。

今回當市に於て、開催せられんとする博覽會の趣旨亦茲にあるが如く實に時機を得たるものと云ふべく従つて大いに賛意を表すと共に陸軍側としては出來得る限りの援助を措まざるべし、幸に、市當局を初め、官民各位の努力に依り、所謂目的を達成せられんことを切望す、一言述べて辭とす。

名譽總裁 (祝電)

協力一致成功を期せられんことを祈る

國防と産業大博覽會名譽總裁

候補 淺野 長勳

市民各位に告ぐ

一部に傳はつた本會の延期説なるものは、その理由とするところ三吳線未開通、その他各地博覽會競催、云々といふにあり、且政治的反對あつたので博覽會關係者としては此際かゝる障害により前途を躊躇さるゝことある場合は、折角苦心經營今日を迎へた基礎を危ふくするものとして極力これら時期尚早論の説破納得に努め、役員總會の名によりその蜂起を克服、輿論の一致を表現、さらに市民間に流布されつゝある各種の悲觀説を一掃すべく宣傳部の名により、同年十月「市民各位に告ぐ」の激文を頒布、本市發展の有意義なる大事業である本會の成功を市民と共に待望、念願し誓つてこれが成功を期する市當局の確固不拔の決意を披瀝所々方面の好感ある反響と支援を得、この一部悲觀説は却つて當局者に絶大の覺悟と決意を與へ雨降つて地堅るの好結果となつた。

準備事務開始

準備事務開始

市民各位に告ぐ

博覽會の準備着々進捗す！

明春の國防と産業大博覽會は本會及協賛會の關係者並大方の聲援により、日夜の苦心次第に酬ひられ、今や着々其準備工作は進み、陸海軍兩省及商工省でも積極的後援の態度を決定せられ、各館の内容も著しく本格的形態を備へ來り、本派本願寺の如きは本市の壯舉に協賛せられ、所謂門外不出の至寶數百點を出陳に確定し、内部の準備事業も總て順調に進み、會期漸うやく近づくに従ひ、更に一層の拍車を掛けて一致邁進を續けてゐるのであります。

本市の劃期的發展の第一歩はこれ！

此の博覽會の開催は、弘く本市を天下に紹介して、國道、鐵道、港灣が一齊に成るの曉、飛躍的な本市の繁榮を期する上に、絶好な機會を作るものであります。之を國家的に見るも、今や我帝國は一方には軍縮問題と我國防の大事が横はり、他方には日本品排斥の世界的潮流が押寄せつゝあるの時に當り、國防によつて發達し、將に産業によつて大發展を遂げやうとする我吳市として、最も意義ある大事業であることは動かし難い確信であります。

今後一層の活動を期待す！

然るに博覽會がかゝる勇ましい行進を續けて、終始目的達成に邁進しつゝあるの時に際し、色々悲觀的な風評が流布さるゝやに仄聞するのであります。こは本市永遠の福利の爲め、甚だ遺憾千萬でありまして、今回の大博覽會は審議の上に審議を重ね、既に一大決心を以て、馬を陣頭に進めた以上、斷乎邁進の決意は既に固いのであります。本會は各位がかゝる風説に惑はず、一層協力を寄せらるゝことを確信し、更に今後の活動に對する協賛を期待する次第であります。

昭和九年十月

吳市國防と産業大博覽會宣傳部

宣傳振作

「先づ宣傳」のモットー

一九三五、六年の世界的危機を控へ、國民は擧つて、國防に重大なる關心を持ち、富國と強兵の、日本精神の強調が號ばれてゐる折柄、本會の冠した國防と産業大博覽會といふ會名は、宣傳前、既に宣傳の効果を充分あげてゐた。

しかし、博覽會の生命線である宣傳の適否巧拙は、忽ち觀覽者の誘致に、出品勧誘に、其他總ゆる機構に反響するので、如何なる場合でも等閑にはできない、と云つて徒らに大規模な空宣傳、お祭騒ぎは禁物である。

本會に於ては「先づ宣傳」のモットーのもとに精密なる研究と、最善の計畫を樹て、昭和九年五月、博覽會事務局の陣容が整備すると共に、直ちに宣傳部會を開いて宣傳に關する大綱を定め、小田宣傳部長總指揮のもとに部員は一糸亂れぬ統制をもつて、最大最密の注意と努力を拂ひ、時に臨み、機に應じ、總ゆる方面に宣傳を行つた結果、豫想外の反響を呼び、博覽會は未曾有の大成功を納め得た。

宣傳計畫とその大綱

宣傳方法は、時間的に最も研究を要するもので、その巧拙は經費と効果に最も大きな結果を招來するので、本會宣傳部に於ても特に注意を拂ひ、宣傳の時期を大體左の三期に分ち、各其宣傳の内容に手心を加へた。

第一期

四月より十月末日迄を第一期とし、主として本博覽會の趣旨、名稱及會期に對する注意喚起に努むると共に實行方

宣傳振作

法の調査立案

第二期

十一月初旬より三月中旬までを第二期とし、主として本博覽會の施設の内容を周知せしめると共に、第一期宣傳の効果を徹底せしめ、會期切迫と共に第一區——特に本縣下郡部への宣傳に全力を注ぐ。

第三期

三月中旬より會期終了までとし、主として博覽會觀覽慾を誘致する方途を講じ、専ら動的宣傳に主力を注ぐ。

本博覽會の企画時代から終末に至るまで、常に貴重な紙面を割讓せられ、詳細にして且つ迅速正確な報道をして貰つた。

● 吳日日新聞社、吳公論社、吳新聞社、中國日報社、中國新聞社、藝備日日新聞社、大阪毎日新聞社、大阪朝日新聞社、大阪時事新報社

等、本市に本社或は支局、通信部を有する新聞社、および全國の各新聞、雜誌等の熱意ある支援を得たことは、宣傳上最大最高の收獲を齎らし、本會が有終の美を克ち得たのも、實にこれら各新聞社の理解ある記事及寫眞掲載の賜と信じて疑はず、本會の感謝措く能はぬものである、尙本會では新聞其他の記事及寫眞宣傳のため特に總務部および事務局各部に一名宛の報道資料蒐集係を置き、之に備へた。

宣傳に當ては、總ゆる部内にわたり周密なる研究調査を遂げたが、殊に急を要する臨機宣傳には、交通網、通信網を詳細調査し置く必要があるので、本會では縣警察部その他諸機關によつて交通網を、遞信局其他に於て通信網を先づ調査して置いたので、宣傳の實績を擧げるに大いに役立つた。

宣傳の對象と効果

總ゆる部門にわたり、驚異的發達を遂げた近代文化の諸相を、全國民に親しく觀覽せしめるといふ、本會の趣旨に鑑み、これが觀覽者誘致は、文化の恩恵に浴した都會人よりも、寧ろこれら諸相を直觀するに不便な農山漁村に

主眼を置いた、隨つて僅少な費用で來吳觀覽し得る地方に宣傳の主力を注ぎ、漸次この條件に遠ざかるに従ひ、宣傳の手を緩め、適宜な處置を採ることに大綱を決し、これが實施も、先づ繪畫、文書等眼よりする靜的宣傳によつて絶えず、注意を喚起すると共に、續いて動的、且つ直接的な宣傳を重視して、常にその機會を捉へることに努力した。

宣傳區域の設定

本會の宣傳にあつては「先づお膝元より」出發して遠心擴大政策を採り、近くより遠くへ、全國に叫びかけるべく最も効果的な方法として豫め

第一區 本市及本縣下

第二區 山口、岡山、香川、愛媛、島根、鳥取、大分の七縣

第三區 第一區、第二區以外に於て、吳鎮守府の管轄する海軍區域

第四區 全國及植民地

右の如く、大體を四區に區分した。これは大體の目標で、實際に於ては本市と軍事上、産業上密接な關係のある地方および、遠隔の地並近接地をのぞいた中間距離にある、交通上至便な農山漁村を重んじ、本市と隣接廣島市に對する宣傳は出來得る限り經費の節減を期した。是は即ち、近接地は會期切迫と共に、自然のうちに本會開設を周知し得る機會も多く、遠隔地は宣傳費と、其努方を最も多く要するに比して、觀覽者數の比率が上らないことを思考したゝめである。

臨地宣傳

次々開かれる各種大會或は協議會等々、大小總ゆる會合の機會を狙つて、之に臨席し、本會の開設趣旨或は會期、内容を記載した印刷物を配布し又は口頭で宣傳するのも亦、宣傳上効果があるので、本會では

宣傳振作

大阪市で開催された瀬戸内海沿岸水産聯合大會、宇和島市に於ける中國四國各市水道協議會、本市に於ける吳鎮守府管下兵事主任會同、廣島市に於ける縣下市町村長會同、縣教育研究會等を初め、各種の會同には夫々係員を派遣し大いに宣傳を行つた。

學校宣傳 別項の如く、本會は各種關係團體觀覽者の獲得に努力を注いだが、更にこれを小學校を中心とした教化修養團體に及ぼすため、本市小學校教職員に依頼して、各自の緣故ある縣下の教職員に勧誘狀發送方を依頼する一方に於ては、校長會、教員會の應援を求め、縣下の教育視察其他教育的會合の總會の總てを見逃さず、直接臨席して宣傳並に勧誘に努力を乞ふたが、果してこの方面には偉大なる功果を擧げることができた。

文書宣傳

「先づ市民へ……」

博覽會の宣傳は、先づ市民諸氏に會の開設趣旨、機構を充分認識せしめ、市民と共に外部に宣傳するを要するの
で、昭和九年四月二十九日左記の通り宣傳ビラを作成して市内各戸に配布した。これは即ち本博覽會の宣傳にあつては先づ膝元の市民から……といふ必然的見地に出發したもので、宣傳の眼目も開催の時期、開催の趣旨、主催並後援關係、博覽會場の位置、準備の經過概要等に置いて市内各町總代の手を経て全市へ配付を行つたので完全に各戸に行きわたり、吳市民は一齊に本博覽會開催の確定を知り、市内は急に博覽會の話題で賑ひ第一期宣傳としては最も幸先よいトップを切つたものだつた。特に此の第一回のステートメントを發せられたのは實に天長節の佳日を選ばれたことも非常時國防博の意義を高めた。

國防と産業大博覽會の開催

主催	吳市
後援	博覽會協贊會
會場	二河公園と海軍用地
會期	昭和十年 自三月二十七日 至五月十日

國防と産業大博覽會開催の趣旨

本市は國防によつて成立した都市であり、産業によつて自立せんとする都市であります、富國と強兵とは、我帝國の國是であり、國防と産業とは、本市發展の兩輪であります。續つて現下我國の情勢は、滿洲國獨立を轉機として非常時局に直面して居ります、之を打開するには益々國防を充實し、産業を振興して、實力を以て正義を貫く意氣が最も必要であります、不屈不撓の精神と高揚闊達な精神とが、吾人の胸に漲つて居らねばなりません、本博覽會の開催によつて天下に吳市を紹介し、博く天下を見聞して益々將來の活躍に備へたいのであります。

國防と産業大博覽會の時機

國防と産業博の會期は昭和十年の春と決定しました、之は慎重に審議を重ねた結果であります、昭和十一年は實に所謂一九三六年で、帝國外交の危機と豫想されてゐる年であります、萬一我帝國の平和策成らず、不幸列國と東洋平和に對する所信反する時は、我々は勿論軍部の活動は異狀な緊張を示し、とても博覽會後援の邊がないと思はれます、斯の如き確信を持つことのない時機を目標に、多大な努力と日時と經費とを費して準備、宣傳に着手するわけには行かないのであります。

宣傳振作

宣傳振作

勿論昭和十年の春と雖も、如上の見地よりすれば時機寧ろ遅き感がないでもありませんけれど、國防に對する一般國民の觀念を明にして、一九三六年を迎ふる國民運動の豫備知識を普及する上には最適切な時機であるといふ確信に到達しました。

茲に於て關係各方面と熟議の結果、斷然昭和十年陽春の候と決定を見たのであります。

國防と産業大博覽會は既に準備時代

既に開催の大綱は定まり市會に於ては全員一致豫算の承認を得、協賛會の組織も活潑に動き始めました、博覽會の事務局は内には準備、外には宣傳今や酣に其の廣汎な事務に忙殺されてゐます。

矢は既に放たれました博覽會は本市空前の事業で、決して單に市役所や商工會議所の仕事ではなく、實に市民各位の總動員即吳市民の全面的活動に期待せねばならぬのであります。

市民各位の聲援を乞ふ

博覽會は文字の示す通り、博く觀覽者を吸収せねば成功とは云ひ難いのであります、故に宣傳戰が其の前驅の事業であります、隨つて、市民各位が總ゆる機會を利用して本會の宣傳に参加し、縣下各都市は勿論、近縣、國內、海外へと宣傳區域を擴大して、本市主催國防と産業大博覽會が、明春を以つて開催せられることを、一人でも多くの人に知らす方法に對して、公私共に後援を祈る次第であります。

昭和九年四月二十九日

國防と産業大博覽會事務局

國防と産業大博覽會協賛會

景氣をあふる年末宣傳

年末年始の旅行其他取引等の繁盛期に於ても、市民は必ず本市の博覽會の事を話題に供して貰ひ度いといふ本會宣傳部の趣旨は、機に臨み、事に應じて市民へ訴へてゐたが、十二月一日から一週間第一回市内宣傳デーを行ふ機會を捉へ年賀端書の利用並に大景品附割引入場券の前賣宣傳を兼ねて左記の通り第三回宣傳ピラを作製、前回同様町總代を通じて市内全戸へ配布すると共に宣傳部員の手で要所々々へ配布したが、之が宣傳ピラは『非常時現下の報國的大事業』、『國防と産業大博覽會の開催は明春』、『市民總動員で御後援を乞ふ』、『吳市の景氣は博覽會から』と、太文字で書いて本文を體裁よく圍み、先づ見る者の注意を喚起し、本文は

●報國の大事業 我國未曾有の難局を控へて本市が國防と産業大博覽會を開催し以て國防思想の普及徹底と産業の發展助長に資せんとすることは極めて意義深いことでありまして正に報國的大事業と謂ふべきであります。

●軍部並に商工省の後援 幸に各方面に於ては此の催の時宜に適したることを認められ深き御諒解と御援助により着々準備を進めてゐますが、特に陸海軍、商工各省並に吳鎮守府の絶大なる御後援を賜ることゝなりましたことは市民の感謝に堪へない所であります。

●吾等の博覽會 然しながら此の國家的大事業の目的を達成し一段と意義あらしめる爲には是非共全市民各位の手に俟たねばなりません、宣傳の如きも、固より當局として萬全を期してはゐますものゝ、全市民各位が『我等のための博覽會』として凡ゆる機會に凡ゆる方法で絶えず外部へ向つて働きかけて下さることが最も大きな効果をもたらすものであります。

●軍港市民の熱と意氣 この催は大吳市躍進の第一歩を意義つけるものであります、此際全市民各位は愛市否愛國の見地からして一致協力して我軍港市民の熱と意氣のある所を天下に示されんことを切望致します。

宣傳振作

宣傳振作

と、出来るだけ簡潔な文字のうちに本會の意志を述べて、市民各位の博覽會に對する關心を強め、最後に次の如く景品附割引入場券の前賣および年賀郵便の利用方を慫慂した。

●大景品付割引入場券の前賣 五十枚を一口として一割引で十二月一日から明年一月末日まで發賣致します、これには抽籤番號が記入されてゐて、明春の會期中抽籤會を開いて驚異的大景品を差上げます、年末年始の大賣出しや御贈答にも是非御利用下さい。

●美麗な年賀用繪葉書 四種組合せ四十枚一組十五錢で發賣されました、未だ御買ひにならない方は賣切れない内に協賛會でお求め下さい 御希望の方には八十枚二十錢で發信者の住所氏名を印刷の需めに應じます。

國防と産業の充實振興

本會開設の目的は國防の充實と、産業の振興にあることは屢々強調されてゐるところで本會の意義もこれにより極めて重大性をもつものであり、あらゆる機會に於て宣傳振作を試みられ國民的感激を以て本會を迎へられたが、さらに會期中待望の我が聯合艦隊を吳軍港に迎へ名實共に「國防博」たらしめんがため本會では艦隊入港の絶好機に於て宣傳部の名により四月二十五、六兩日を國防デーと名づけ、一大宣傳を試み現下非常時局の再認識を全國民に懇へるべく、左記のビラ十萬枚を撒布した。

國防の充實を促進

今、わが海軍聯合艦隊の精銳第一艦隊を吳軍港に迎へて切に國防の重大を感じ茲に一言その要諦を述べんとするものである。

一、國防は國民生活の保全

獨立國家に獨立自主の理想がある、我が大日本帝國の理想は天祖の大詔を奉じて天壤無窮の皇運を扶養し奉り、久遠の國民生活を増進保全せんとするにある。

此の理想實現の爲に樹てられるの國策である、此の國策を遂行する爲に要する實力が國防である、國防の中心をなすものが軍備である。

軍備は實に國家の意志の實現能力であつて國民生活の大黒柱である。

二、海軍々縮條約の不當

我が帝國は、大正十一年ワシントン條約で米、英、日三箇國の主力艦と航空母艦の保有量五、五、三の比率を承認した、尋で昭和五年ロンドン條約で甲級巡洋艦に於て一〇、一〇、六、乙級巡洋艦一〇、一〇、七、潜水艦一〇、一〇、一〇、の比率保有を承認した。

かゝる條約は獨立國家の獨立の意志を無視する不當條約である。

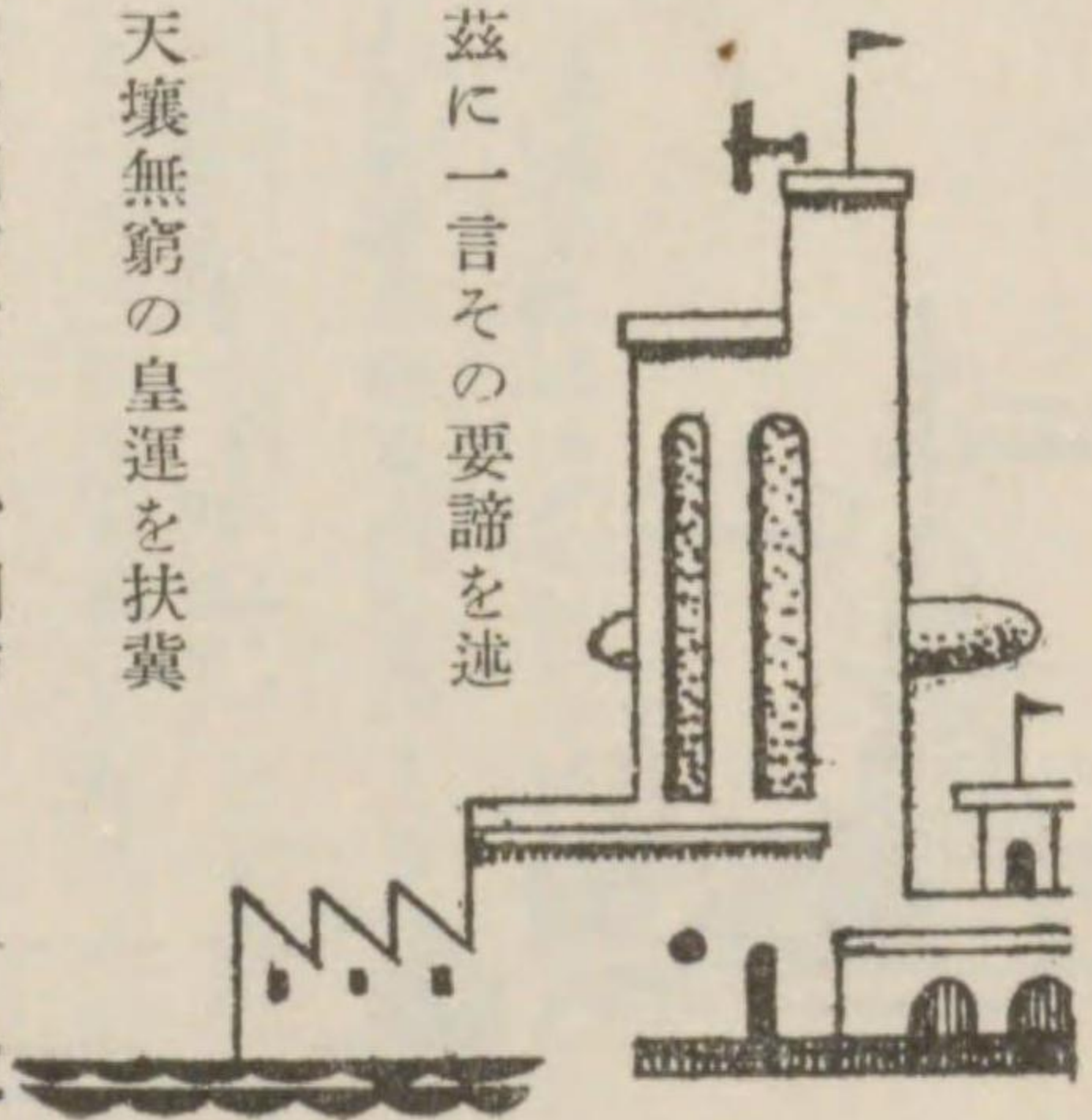
然し我が帝國は平和愛好の精神と本條約が遠からず改廢し得る餘地があつたから不満足乍ら調印したのである。

三、國際情勢は刻々と變化す

●華府會議の當時に比して今日は全く國際情勢が變化した。

國際聯盟の脱退後は極東の情勢に大變化を來した。支那は米支合辦によつて連りに航空兵力を増大せしめ、蘇聯は要塞軍團の充實、航空兵力の増加及浦鹽に於ける潜水艦の建造に依つて我國を脅威しつゝある。

◇軍事科學の進歩も全く隔世の感がある。軍艦の航續力は五千哩より二萬哩に延長し、無電は一千哩より五萬哩に躍進し、航空機は其の航續力



宣傳振作

宣傳振作

と爆弾搭載量に非常なる進歩を示し、航空母艦の性能増進と共に著しく脅威を増すに至つた。
◇六千哩の太平洋は今や恰も一葦帯水となり、米國の渡洋作戦は非常に日本を脅威することゝなつた。
されば國防不安を増す現行條約は一日も速く廢棄して公正なる方式の下に新條約が生れなければならぬ。

四、一九三五、六年の危機とは

條約の制限に縛られて日本が思ふ通りの製艦が出来ないのに、米國は一九三九年迄に百三十四隻をもの建艦を急いで居る。之が爲め日米の勢力比は日に月に其差を増大して行つて一九三六年には國防上非常に不安を來す時期となる。
また露西亞の第二次五ヶ年計劃も完成し露領漁業協約の期限も一九三六年に満期となる、これも相當の紛糾は免れ得ないであらう。一九三五年聯盟脫退の効力發生期には南洋委任統治の問題も起るかも知れぬ。

支那も露西亞も一九三六年を目掛けて各種の準備を進めて居る。

米國も今尙ほ滿洲國不承認主義を堅持してゐるから機會均等主義の名の下に難題を持出すかも知れぬ。

即ち第二の三國干渉を豫期せねばならぬ時機——これが三五、六年の危機である。

我帝國は今や完全に國際聯盟を離脱し、海軍々縮條約の廢棄を通告した、帝國の肚はきまつてゐる、列國の出様を凝視するのみである。

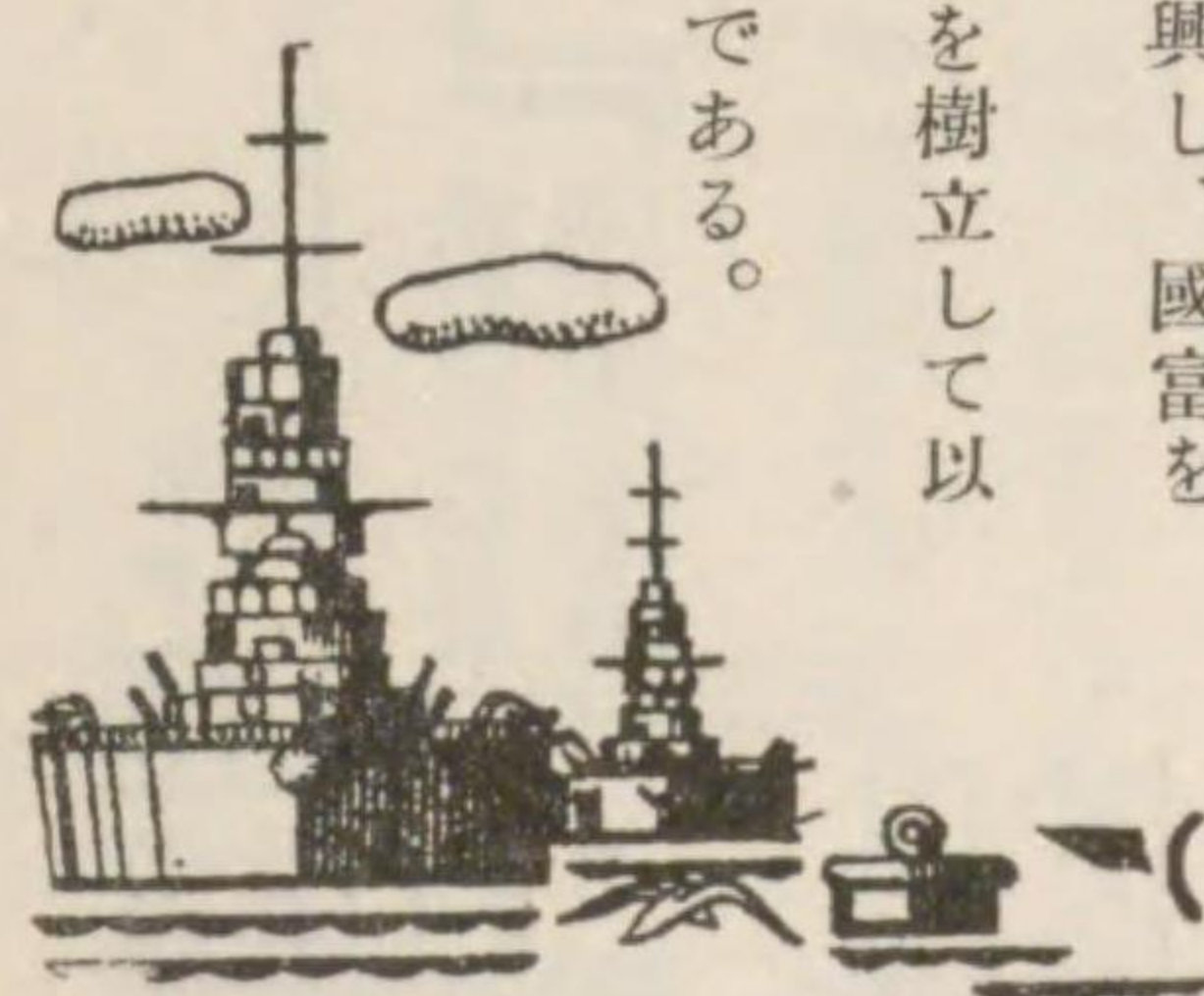
五、國防とは何ぞや

精神的には國民精神を作興して一死報國の念を以つて事に當り忠實勤敏業を勵んで産業を興し、國富を培ふと共に困苦缺乏に堪へて軍備の充實に勵進することである。

然して軍備充實の方式は互に他を侵さず脅かさず國防の安全感を保ちつゝ永久の平和を樹立して以て、國民生活を幸福ならしむるにある。

然り國防は國家總動員の結合と緊張とによつて實現される、獨立國家の意志實現の生命力である。

産業の振興に邁進



電波に乗せて

渡邊會長のラヂオ放送

いよ／＼華やかな幕ひらく開會式を前にして陣容全くなつた本會では、開會前期の宣傳掉尾を彩る試みとして、かねてニュース放送その他により、本會については格別の好意を寄せられつゝあつた廣島中央放送局より電波に乗

せて本博の趣旨を懇へるため渡邊吳市長自らマイクの前に立つて三月十七日午前十一時十分より同三十分までFKスタジオから「國防と産業大博覽會の開催に就いて」と題する感動的な講演を放送各方面の絶賛反響をまきおこし幸先き頗る恵まれ大成功であつた。

國防と産業大博覽會の開催に就いて

豫てより吳市に於て開催の準備を進めて居りました國防と産業大博覽會は愈よ三月二十七日から向ふ四十五日間櫻の花に恵まれた二河公園と、川原石の海軍埋立地の二ヶ所に於て華々しく舉行される事となりました。

此の博覽會の計畫は既に數年前より目論まれて居たものでありまして吳軍港が置かれて約五十年、吳市に市制を施行されてから、これも約三十五年といふ記念すべき時期を迎えますので吳から三原に通ずる。

三吳線が開通する時期を捉へて博覽會を開催しやうではないかと云ふ意見もあつたのであります。



長會邊渡たしに前をクイマ

宣傳振作

吳市では約十二、三年以前中國四國共進會と云ふものをやりまして成功を納めてゐるので、こんど博覽會をやることにでもなれば大いに經驗になる、そんな意味でいろ／＼心仕度をしてゐたのであります、時恰も滿洲事變の突發により所謂日本は國を擧げて非常時と云ふことになりまして、吳市は軍港所在地として、逸早く最も重要な愛國的役割を果すことになつたのであります。或は軍艦の出動或は陸戦隊の出征、或は兵器の製作等頗る繁忙を極め吳軍港は最も樞要な海軍の策源地となつたのであります。非常時の聲は滿洲、上海兩事變の進展と國際危機の深刻化と共に益々大となり吳軍港の使命も亦愈々重大となつて來たのであります。其爲一部では博覽會騒ぎでもあるまいではないかと云ふ意見も出たのであります、寧ろ此機會に於て一步考へを進めて、從來の産業中心の博覽會を改めて非常時にふさわしい國防觀念を盛つた所謂非常時博覽會を舉行して大いに國防意識の強調を計らうではないかと云ふことに期せずして意見の一致を見たとあります。

これこそ吳市が多年軍港都市として育つて來たところの海軍に對する何程かの御恩返しもなるし、軍港都市として非常時に處する當然の責務ではあるまいかと考へまして、名も「國防と産業大博覽會」と名付て國防と産業を結びつけた博覽會を開催することになつたのであります。もとより國を護るものは完全なる國防であり完全なる國防を築くためには産業の勃興國力の充實と云ふ事に俟たなければならぬのであります、此二つは相扶け相以て、所謂富國強兵を結晶するものであると信ずるものであります、此の意味に於きまして、

本博覽會は、企ての動機に於て、既に時局に反映した頗る意義深い壯舉であり國を護る博覽會、國を富ます博覽會として、典型的なものであると各方面から絶賛を以て迎へられたのであります。

海軍側でも非常に其趣旨を賛同せられまして吳市から特に會場敷地として拜借を願出ました川原石の海軍用地を軍事上多端な時に不拘、大英斷を以て貸與相成つたのであります。其爲土地狹隘を懸念されて居ました二河公園の三萬坪を第一會場とし、海軍埋立地の約二萬坪を第二會場と云ふ事に致しまして、約五萬坪の敷地を以て計畫を進める事が出來たのであります。

最近各地で盛んに行はれてゐます博覽會の傾向を見ますと、其土地、土地の特殊性を取入れることは勿論であります、矢張り時代の流れと云ふものを汲みまして横濱等ではアメリカの延長のやうな物をやり熊本では歴史と産業を中心におくと云つたやうであります、吳の博覽會は非常時をしつかりと擱んだもので所謂一九三五、六年の危機を如何にして突破するかを目標において國民の覺悟と迫力を示さんとするものであります、如何に平素國防に強い關心を持つて居るか云ふことを此機會に皆さんに知つて戴きたいのであります。滿洲事變を契機と致しまして世界の眼は東洋に、否日本に向けられてゐるのであります、世界の舞臺は今や太平洋上に展開しつゝあるのであります。

吳軍港は地の利から申しまして、太平洋作戦上の最も重要な、根據地でありまして、吳市民としましても非常時に對する強い認識を持ちまして、

これ迄都市の燈火管制や防空演習等を他に率先して實施して來て居るのであります。今度の博覽會にしましても、當局の計畫が實現するまでにはかうした、全市民の深い郷土愛と、強い愛國心が織り込れて築きあげられたのであります。

先づ第一會場は、全國の産業を網羅した産業本館と、此の博覽會の最も特色であり、誇りとするところの軍需工業關係の製品を陳列する軍需工業館と、廣島縣下の特産品を廣く紹介しやうとする郷土産業館の三つを、中心に置いて教育館、體育館、拓殖館、觀光館、子供の國と云つたものを建て、別に滿洲、朝鮮、臺灣と云ふ植民地關係の特設館を各關係要路の援助によつて、特設していただくことになつたのであります。既に工事は至極順調に運びまして、いづれの館もみなその特性を發揮して、各々その出來榮えを競ふて居るのであります。又各館の出品關係も此の十五日前後から、それ／＼搬入を開始され、今や晝夜兼行で其整理飾付を急いでゐると云ふ、即ち仕上の時期であります。何さま吳市は非常時と共に益々日本一の軍港のある所だといふ認識が高まつて其の特殊性の再認識が高まり、其特殊性を再認識すると云ふ事が一般から希望せられて居る際でもあります、産業本館などの出品も全國各府縣の参加に依つて、どの小間もみな豫約済みになつてしまつた。また呼物となつた軍需工業館の如きは國防の背後に控えてゐるところの、素晴らしい發展を極めつゝある軍需工業を

廣ろく世の人々に紹介するには非常によいチャンスでもあり、亦ふさわしい土地柄でもあると云ふので、競つて出品が集り軍需工業館も一ぱいとなり、拓殖館として建てた隣りの建物まで占領して此れを別館としてやつと收容し拓殖館を別に建て増さなければならぬといふ様な豫期以上の大盛況を以て迎へられたのであります。

之れはとりもなほさず國を擧げて國防と云ふことに如何に熱烈であるかと云ふことを物語るには實によい例證の一つであります、この爲めには特に海陸軍部及び商工省の絶大な援助を辱ふたのであります、かうした物の外又「心の國防」と云ふ新しい提唱をしようと云ふので、特に廣島縣下は昔から安藝門徒として宗教の盛んな土地でありますから、之れに關する珍しい出品も計畫しました。この提唱はあらゆる方面から時節柄非常にいゝ試みであると云はれてゐるのであります。

又近頃の博覽會は餘興にも力を入れまして、横濱などはアメリカ式の餘興を呼物にしてゐるやうであります、本博覽會は非常時を目的とした物で餘り浮れつばい餘興は排斥しまして、やるなら奇抜で思ひ切つたものといふので、さうした物を撰んで塗り潰されてゐると云ふところが、此の博覽會の特色とするところであります。其最も優れて居るのは川原石海軍用地の第二

宣傳振作

會場で此海軍用地は軍港内に臨んだ一角を占めて會場から沖はすぐ雄大な軍港を眺められると云ふ實に理想的なところでありまして、正門からして大きな軍艦の錨を湛らせて入らせやうと云ふ新しい趣考で、吳鎮守府を始め海軍各部が擧つて自慢の出品を競ふてゐるのであります。吳海軍は御承知の如く、軍需工場としましては東洋一といふ吳工廠を持つてをりまして、其規模の雄大と技術の優秀は實に世界に誇るべきものであるであります。

又第二會場の海岸に臨んだ附近には軍事實演場がありまして、種々の軍事作業が試みられ海軍知識の普及上、本物の魚雷發射や水中爆破等の壯快な實演も行はれるのであります。かうした海軍の御好意に對しては深く觀覽者と共に感謝しなければならぬこととあります。又有難いことには今まで餘り許されなかつた潜水艦を第二會場の岸壁に横着けされて自由に拜觀が許され、又軍艦が會場近くに繋留されて艦内の拜觀が許されると云つたことが決つたのであります。

海軍ばかりでなく陸軍當局でも特に本博の爲に御後援を賜りまして陸軍館が出来上つて居ります。其外航空館だの軍事記念館といつたものもあり又廣島中央放送局出品のラヂオ電氣館と云ふ近代的な建物も出来て居ります。

吳市は此劃期的大博覽會を開催するために、昭和九年、十年の兩年度にわたり、七十萬圓の巨費を計上して準備工作を行つたのであります。特に開會の日取りも、國防博の意義を強めるため、三月二十七日の國際聯盟脱退の記念日をもちまして、蓋を明けると共に開會式を行ふことに取りきめたのであります。其會期中には幸い聯合艦隊の主力第一艦隊が吳へ入港せられますので益々吳軍港は非常時の氣分が横溢するわけでありまして、今までの數字から見ますと

吳軍港を一ケ年に見學する地方の人々は約十萬乃至十五萬人に及んでをります。これは非常時と共に益々激増して行く傾向がありまして、こんどの國防博を見に来る人々も皆軍港の觀覽といふことを其日程に取り入れて日歸りの人々でも是非其半日でもよ

いから軍港の見學をするやうにプランを立て、欲しいと云ふやうな希望や問合せが誠に多いのであります。今まで博覽會事務局で受付けて居る團體から見ますと殆んど海軍部内を見學したいと云ふことなので實に非常時の折柄心強いこととであり、感謝すべきことだと思ひます。これでこそ吳市が積年の用意と巨費を投じて此の企てを實現した努力も酬はれる譯であります。

需部、潜水學校、航空隊、廣工廠、海軍兵學校等の各實施部隊をなるべく廣く見學させて戴く事になつたのであります。其手續等も便宜上博覽會の事務局の方で斡旋致しまして、海軍へお取次ぎして許可して戴くと云ふことになりまして、海軍側では、各團體の見學の際は現役の軍人によつて、部内の案内なり説明なりをして下さると云ふ、好意あるお取扱ひをして下さるこ

とになつたのであります。これ亦感謝に堪へません、かうした絶好の機會に於いて親しく海軍の見學をせられるといふことは益々吳軍港内外の海軍施設といふものが如何に完備し、如何に誇るべきものであるかといふことが皆さんに深く強く、認識せられると共に、國防博の内容を併せ觀て

わが國防の現状が如何に重要であり、又如何に緊張感ぐべからざるものであるかといふことが、ハッキリ腦裡に印象づけられるであらうことを信じてをるのであります。

特に吳軍港は國際危局の深刻化と共に其軍事的地位を重要視され、太平洋上事ある場合は其策源地の中心ともなるべきものであり、其心臓ともなるべきものであることは疑ふべくもないのであります。これを極めて申しますならば吳軍港は我國防の中心であると云ふことを云ひ得られるのであります。時は恰も百花燦爛の春、國際聯盟の羈絆から脱退して、愈よ世界の檣舞臺へ一人立となつて行く、日本の門出を迎ふるにあたり、まことに緊禪一番を要する重大な秋であることを切に切に痛感するものであります。

「國防と産業博」はかうした時に於きまして、文字通りの國防觀念の徹底と、産業の振興といふことに重點をおいたものであります。まして、非常時に處するものゝ決して見逃してはならないものであります。

宣傳ポスター

全國から懸賞募集

宣傳上最も有効なポスター宣傳は、本會としても第一に企劃した。しかし、これが圖案の良否は、忽ち宣傳効果に影響するので、その點を特に研究した結果、ポスターの圖案募集それ自體が既に宣傳を兼ねるので、賞金五百圓を懸け、左記規程のもとに、全國に之が募集を行つた。

ポスター圖案懸賞募集規程

- 第一條 ポスター圖案ハ「國防と産業大博覽會」ヲ表徴スルモノタルコトヲ要ス
 - 第二條 ポスター圖案ハ左ノ要領ニ從フベシ
- (1) 左ノ文字ヲ適當ニ挿入スルコト
- 一、國防と産業大博覽會
 - 二、會期 自昭和十年三月二十七日 至昭和十年五月十日
 - 三、會場 二河公園と海軍用地

宣傳振作

宣傳振作

- 四、主催 吳市
- 但シ「會期」ノ二字ハ場合ニヨリ之ヲ挿入セザルモ可ナリ
- (2) 應募圖案ハ縦三尺五寸、横二尺五寸ノ大サナルコト
- (3) 圖案ノ様式ハ平版印刷ノ原圖用トシテ使用シ得ルモノニシテ、其紙質ハ強靱ナルコトヲ要ス
- 第三條 版權ヲ所有スルモノ又ハ登録ヲ受ケタルモノハ應募スルコトヲ得ズ
- 第四條 圖案募集締切期日ハ昭和九年四月十日トシ、當日迄ニ吳市役所内本會事務局ニ到達セザルモノハ無効トス
- 第五條 應募圖案ハ之ヲ返戻セズ圖案ノ版權其他一切ノ權利ハ本會之ヲ取得ス
- 第六條 圖案ノ審査ハ本會之ヲ行フ
- 第七條 審査ノ結果當選者ニハ左ノ賞金ヲ贈呈ス
 - 一等 金五百圓 壹名
 - 二等 金壹百圓 壹名

優秀作品續々集る

ポスター圖案の募集は、忽ち各方面に反響して、北海道、朝鮮方面に至るまで殆んど全國にわたつて應募者が現はれ、締切の四月十日迄に集つたものは實に二百二十二點の多數に上つた。これを縣別に見ると次の通りである。

吳市	四二	廣島市	二二	廣島縣	七	大阪	五三	東京	一四	静岡	一一
北海道	一〇	京都	八	兵庫	七	山口	七	神奈川	六	栃木	六
名古屋	五	新潟	四	福岡	三	長野	三	島根	二	和歌山	二

書込申	住所氏名	簡單ナル説明
-----	------	--------

吳市主催
國防と産業大博覽會事務局
(吳市役所内)

- 三等 金五拾圓 貳名
- 右ノ外選外佳作若干名ニ賞品ヲ贈呈ス
- 第八條 應募者ハ圖案ノ審査ニ對シ説明ヲ求メ又ハ異議ヲ申述ブルコトヲ得ズ
- 第九條 圖案ノ審査ヲ爲サザルニ先チ火災其他ノ事故ノタメ應募圖案ノ毀損又ハ滅失等ノコトアルモ本會ハ其責ニ任ゼズ
- 第十條 應募者ハ左ノ様式ニヨル申込書ヲ作成シ圖案ノ下線ニ添附スベシ

埼玉	二	軍艦	二	山形	一	宮城	一	岐阜	一	福井	一
大分	一	朝鮮	一	計	二二二						

嚴密な審査

應募作品は、直ちに大阪市綿業會館に運び、四月十五日左記の審査員を囑託して嚴選を行つたが、第一回豫選にパスした六十四點は、いづれも國防と産業博を象徴した力作ばかりで、審査も約十時間に及んだが、最後に残つた四點は、いづれを見ても非點なく、優劣も決しかねるので、結局全審査員の無記名投票によりこれが等級を決したが、その結果は

審査等級	賞金	住所	氏名	使用種別
一等	(五百圓)	大阪市南區日本橋筋五丁目二二	河村 運平 (第一回ポスター)	
二等	(百圓)	廣島市己斐町第一印刷株式會社	青木 一夫 (第二回ポスター)	
三等	(五拾圓)	濱松工業試驗場	足立 眞藏 (立看板ニ利用)	
三等	(五拾圓)	大阪市住吉區阿部野筋二ノ二	山 茂雄 (立看板ニ利用)	

と、各入賞者を定め、更に選外佳作として選外佳作

大阪市東淀川區本庄川崎町一丁目三一田中虹兒、東京市豊島區西巢鴨町二丁目末永京治、大阪市東區和泉町二ノ一淺井洋、大阪市西區堀江通一丁目三四中村豊、東京市大森區山王二丁目一八五五中島白紅、廣島市己斐町第一印刷株式會社堀川勝

の六氏を決定、直ちに新聞其他に發表した。
宣傳振作

宣傳振作

審査員

審査長
審査員

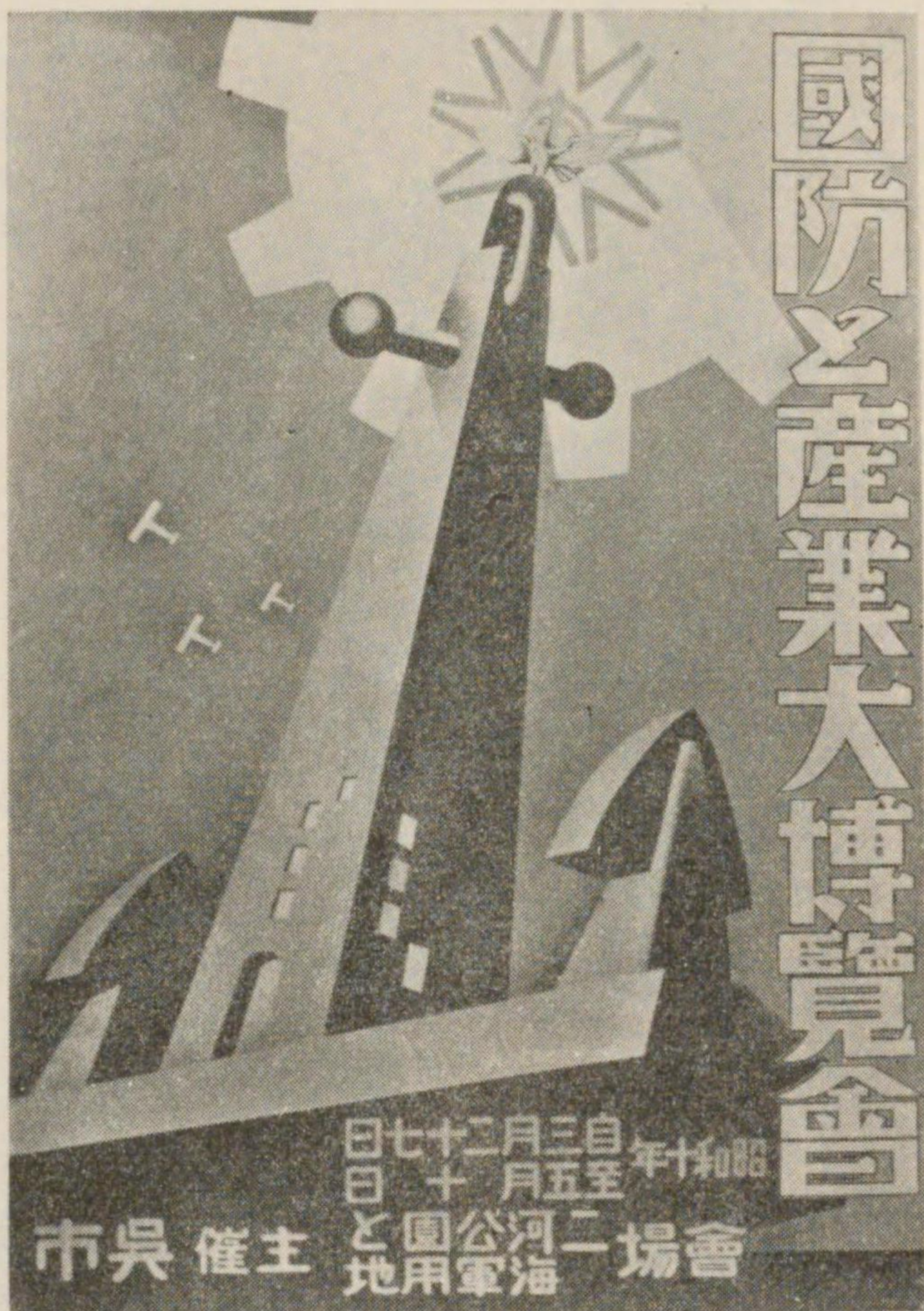
京都高等工藝學校教授	霜鳥正三郎氏
大阪精華美術學校校長	松村景春氏
三越考案部長	和田源吾氏
装飾部長	寺尾進次氏
高島屋宣傳部長	小林渙治氏
装飾部長	岩佐明氏
大丸圖案部長	森脇高行氏

當選ポスター街頭へ

ポスター圖案は審査決定と共に製作準備に取かかり、第一次は一等當選圖案五千枚、(四六全版八度刷)を吳市本通八丁目二宮興文舎で製作、概ね左の範圍に配布し、又役職員の出張等を利用して、間斷なく各地方に掲出を依頼したが、國鐵は料金の關係もあるので、中國、四國、近畿、北九州其他全國主要驛に對して十一月から一月まで掲出した。

各省及殖民地各官廳、道府縣廳、全國市役所、全國商工會議所、全國商品陳列所、全國日刊新聞社、全國觀光機關、各地ジャパ、ン、ツーリストビューロー、縣下並近縣町村役場、縣下産業組合、縣下並近縣各銀行、縣下並近縣私設鐵道會社(各驛)、

宣傳振作



三市共同觀光ポスター

なほ本博覽會と期を同じうして開催する熊本市の、新興熊本博覽會は、湯の街別府を挾んで交通上本市とも亦密接な關係があるので、本市並に熊本市、別府市の三者タイアップの宣傳を行ふことになり、三者合同協議會を別府市並に吳市で開催した結果、三市共同宣傳ポスター五千枚(四六全版)を印刷し、門司鐵道局および大阪商船株式會社の後援を得て、主要鐵道驛、船舶發着所の外、左記分擔により、全國主要地及び朝鮮、滿洲、臺灣地方に掲出した。

一等當選ポスター

縣下並近縣船舶會社(船舶及待合所)、全國主要地旅館、縣下小學校、縣下中等學校以上、近縣公立圖書館、近縣各驛並全國主要驛(省線)、縣下四市理髮屋及浴場

二等當選製作 第二次ポスターは二等當選によるものを九千枚(四六半截十二度刷)大阪凸版印刷株式會社に於て作製、大要第一次の範圍に配布したが、更に國鐵は二月から四月迄全國四百驛に對して掲出した。ほか近縣の有名旅館、商店等にも洩れなく配布掲出を依頼した。

宣傳振作

ポスター掲出分擔表

- 熊本市所管
- 九州全土、及臺灣、朝鮮、滿洲
- 別府市所管
- 四國全土、及近畿、東海道方面
- 吳市所管
- 中國（神戸以西）全部、及北陸、北海道



一タスポ傳宣同共市三

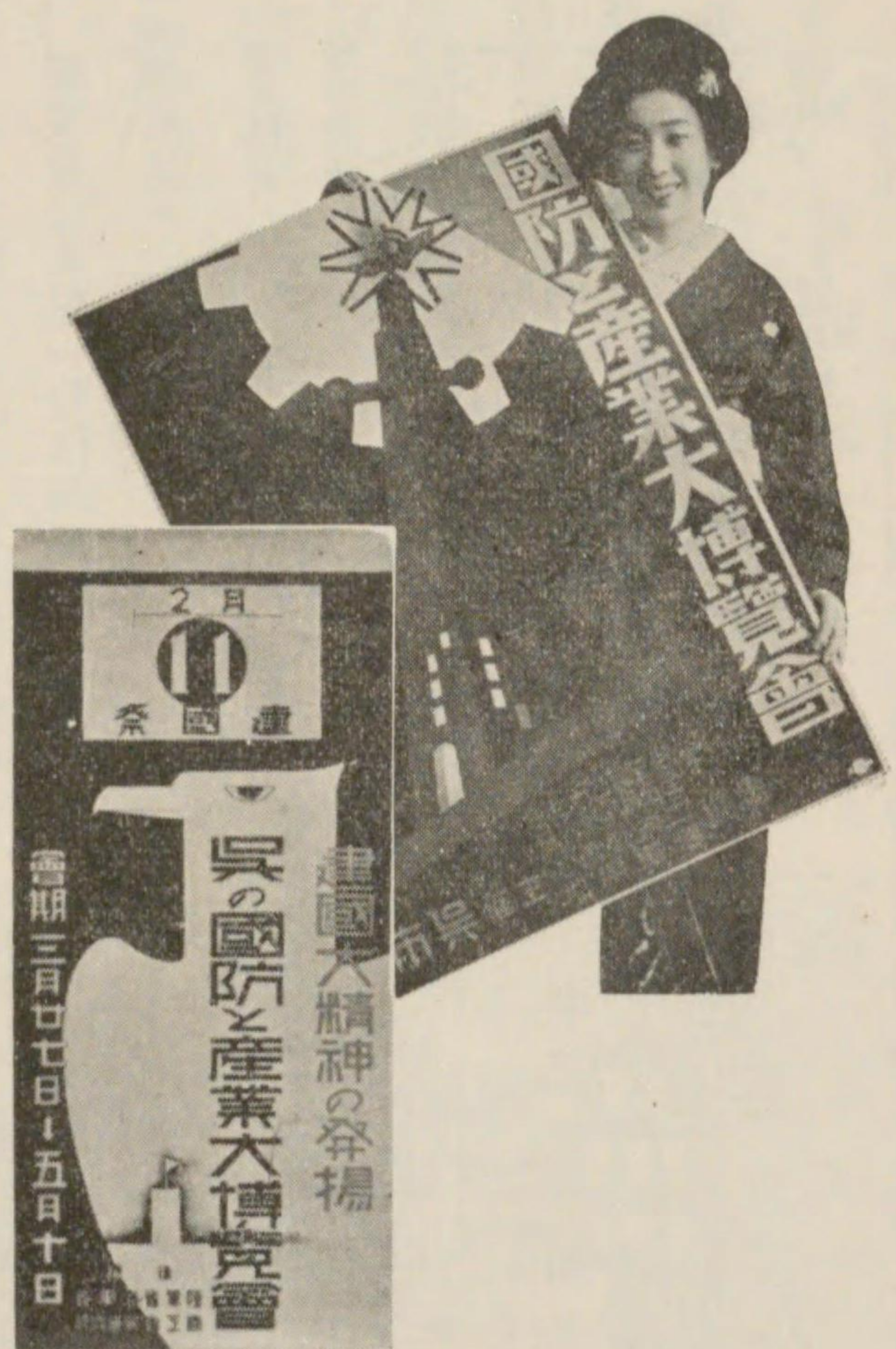
ポスター總動員

防空演習をとらへ、ポスター宣傳は、觀客誘致その他博覽會の光彩ある前衛であるから特に意を拂ひ、これが効果も亦頗る擧つたが、本會では尙あらゆる手法を總動員して部分的宣傳効果を狙つた小型ポスターの製作に意を注ぎ、先づ昭和九年七月二十一日施行せられた、第五、第十一師團及び吳鎮守府聯合の防空演習に際しては、防空思想の普及徹底を期するも、本會開催の趣旨であるので、これを象徴した圖案に空を護れの標語を大書した小型ポスター五千枚を製作、吳、廣島、高知、松山、福岡、今治、宇和島、尾道等の關係各市へ配布したが、軍民兩方面

からも非常な感謝の意を表せられ、本會の宣傳も亦豫期以上の實績を擧げ一石二鳥の好結果を見るを得た。また協賛會からも多數のポスターを製作共同宣傳陣を張つた。

先づ建國精神の強調 越えて昭和十

年二月十一日の建國祭に際しても、建國の精神發揚に資する小型ポスター三千枚を製作、縣下並に近縣の各小中等學校に配布掲出を依頼したが、これまたポスターの趣旨が趣旨なので非常に喜ばれ、宣傳上頗る効果をあげ得た。



童心に訴へる兒童作品

尙本博覽會の宣傳は、單に係員だけで行つたのではその能力も限定せられ、効力も擧らないので、總ゆる機會を捉へて市民に呼びかけ、市民總動員の宣傳に努めてゐるが、更に學童に對しても充分博覽會開催の意識を、強調すると共に、學童から一般に呼びかけさせるため、畫用紙四ツ切のもの、周圍に簡単な博覽會宣傳文字を印刷して、市内各小學校に配布、兒童の獨想になる博覽會宣傳圖案を描かせ、市内の各要所に掲出したが、これまた頗る人目を惹き、市民の博覽會氣分醸成には大いに効力を發揮した。

宣傳振作

宣傳振作

ポスター巡回展覽會

百花妍を競ふ應募作品は、全國斯道の大家が心血を注いだ力作品であり、捨て難いものばかりなので、これを公開して一般の參考資料に供すると共に、大衆の人氣は果してどの作品に注がれるか……賞金を懸け人氣作品を選出するのも興味多いことであり、延いては本會の間接的宣傳ともなるので、作品中優秀と認められる百點を選び、本市及び縣下三市で巡回ポスター展覽會を開催、特別出品の一等入選作品を除いた二等入選作品以下九十點にはそれら番號を附して、人氣投票を行ったが、懸賞金は人氣一等作品に投票した人から抽籤により

- 一等當選者 賞金 貳拾圓 一名
- 二等當選者 賞金 五圓 八名
- 三等當選者 賞品 三十一名

を贈呈することになり、昭和九年五月五、六日吳市岩方小學校講堂を皮切りに順次縣下各市を巡回したが、豫想通りに大衆の人氣を煽り、左の通り好況を示した。



一タスポ選當等二

宣傳振作

開催月日	市名	會場	入場人員	投票人員
五月五、六日	吳市	岩方小學校	四、三〇〇	一、五七八
五月十二、十三日	廣島市	産業獎勵館	三、〇〇〇	一、〇二七
五月十六日	福山市	公會堂	四、五〇〇	二、〇五九
五月二十日	尾道市	久保町小學校	五、五〇〇	二、六一四
計			一七、三〇〇	七、二七八

而して、大衆の最大人氣を獲得した作品は京都市上京區新町通能勢元三氏作の軍艦に稻を配した圖案であつたが、投票は規定に基づき、本會事務局に於て嚴正なる抽籤を行った結果左の通り幸運者を決定した。

一等當選 (賞金貳拾圓)

尾道市久保町 平賀賢志氏

二等賞 (賞金五圓)

- 廣島市楠木町 高山 巳氏
- 吳市公園通四丁目 高橋 義一
- 尾道市東御所町 山縣 亮太
- 廣島市千田町 大鼓 矢野 陽三
- 深安郡引野村 桑田 敏三
- 福山市古野上町 濱田 博敏
- 廣島市外矢賀町 島中 勝男
- 尾道實務學校 中谷 繁樹

宣傳振作

三等賞 (賞品)

- 【吳市】 森原元治氏、堀安之進氏、藤岡カズ子氏、高東美恵子氏、濱中タマ子氏
- 【廣島市】 森田豊氏、臺ヒナ氏、田中常雄氏、石田志夫氏、森川照夫氏、船原通英氏
- 【福山市】 川崎チヨ子氏、穂垣軍二氏、日村琢也氏、倉田三助氏、三村誠二氏、川崎悟氏、水野友晴氏、重政光二氏
- 【尾道市】 高田哲氏、井上ユキエ氏、壇上トシ子氏、杉原弘氏、森本一男氏、平賀安志氏、田中育孝氏、倉田彌吉氏、平田恭夫氏、倉田平藏氏、村上一夫氏、柏原寅夫氏

なほ巡回ポスター展覽會の投票および懸賞に關しては左の通り規定を設けた。

投票ニ關スル規定

- 一、投票用紙ハ會場ニ於テ交付スル投票用紙ニ限ル
- 二、投票ハ一人一票トス



一人一票當選ポスター

- 三、會場ヲ閉鎖シタルトキハ、係員ハ投票ヲ點檢シ、有効投票ト無効投票ヲ區分シ、有効投票ハ作品番號毎ニ一括シ、其票數ヲ記録シ無効投票ト共ニ全投票ヲ密封シテ保管スルモノトス
- 四、投票用紙

懸賞 (一等二十圓)

投票用紙	
吳市 主催 國防と産業大博覽會 宣傳ポスター展人氣投票	作品番號
投票者住所氏名	
住所氏名ノ無キ方ハ無効トス	

懸賞ニ關スル規定

- 一、賞金ハ投票者ニ贈呈ス
- 二、四市ヲ通ジ最高票數ヲ得タル作品ニ投票シタル投票者ヲ受賞資格者トス
- 三、受賞者總數ハ四十名(四市ヲ通ズ)トシ前項資格者中ヨリ抽籤ニヨリ選出ス
- 四、各開催市ニ於ケル受賞者數ハ資格者數ニ比例スルモノトス

宣傳繪葉書

ポスターの繪葉書

博覽會關係者或は市民の通信のため、宣傳葉書を利用せしむるのは、效果頗る大なので本會では先づポスター一等當選作品及び、第一會場鳥瞰圖を組合せた二枚一組の繪葉書一萬枚を作製し關係方面に頒布したほか、吳海兵團入團兵引率その他の機會で來吳する團體等に配布利用を乞うたが、更に第二回宣傳繪葉書としてポスター圖案を利用したものおよび、二河公園と軍艦を配した二枚一組の繪葉書一萬枚を作製前回同様各方面に配布し、側面からの宣傳に成功した。

暑中見舞の繪葉書大好評

この外、當選ポスター圖案を利用した暑中見舞用繪葉書(二枚一組)を作製、實費で市民に頒布したが、圖案の巧緻、美麗な印刷は各方面に豫期以上の反響を呼び、豫定の六萬枚は現品納入前に於て忽ち豫約濟みとなつた

宣傳振作

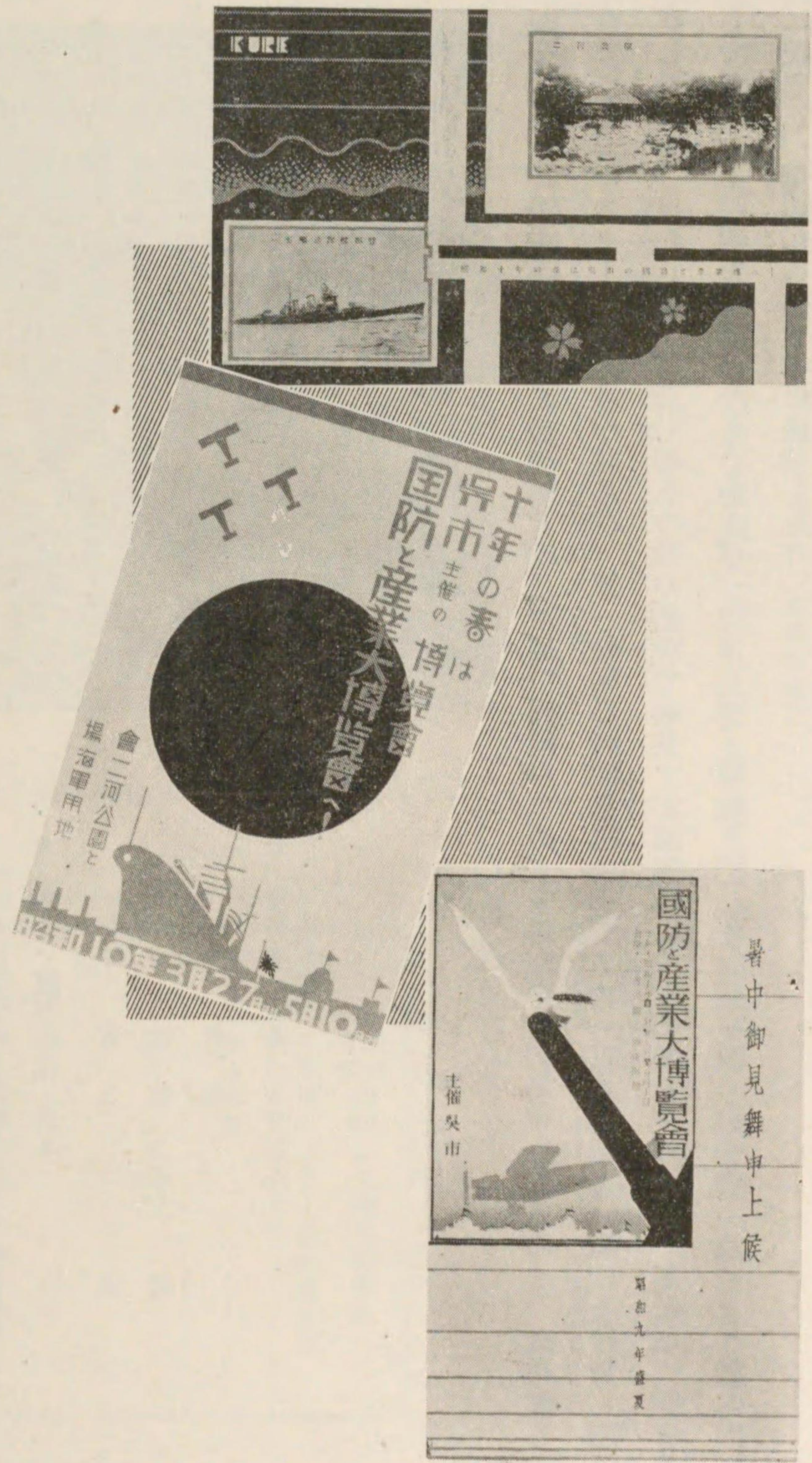
- 五、四市受賞者全體ヨリ一等一名、二等八名、ヲ二回ノ抽籤ニヨリテ選出シ、殘餘ヲ以テ三等トス
- 六、各等ノ懸賞金左ノ通り

一等 賞金	二十圓
二等 賞金	五圓
三等 賞品	

- 七、受賞者ノ發表ハ五月末日トス

宣傳振作

ため更に四萬枚を増刷したが、それでも尙豫約を満し得なかつたため、引續き第三回増刷四萬枚を敢行計十四萬枚を市中に頒布したが、尙人氣は暑中見舞に集められ、市民が如何に本博覽會に對し關心を持つて居るかを知らしめた。

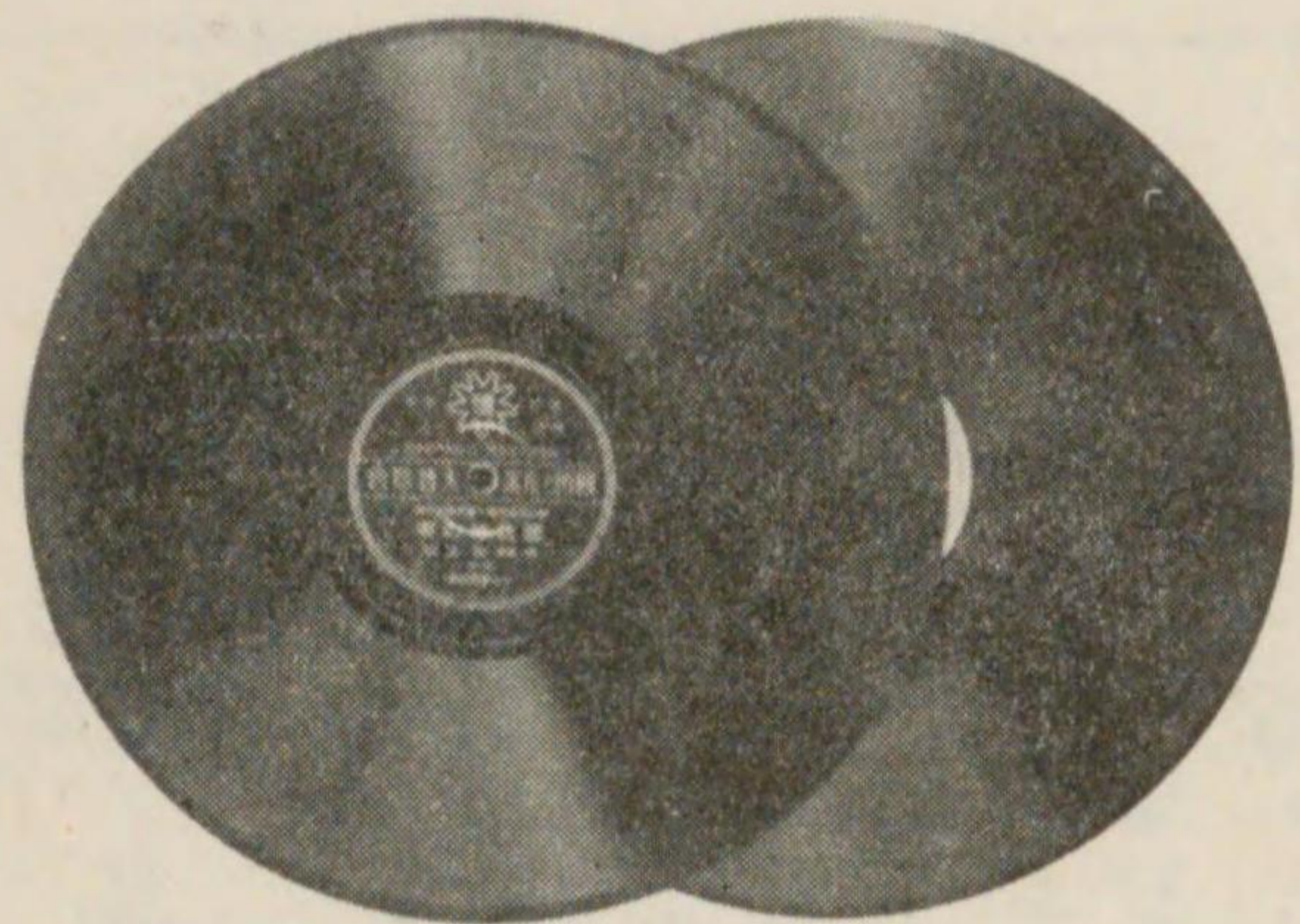


宣傳繪葉書

「年賀はがき」も大成功

暑中見舞狀に成功した本會では、更に年賀用葉書の計畫を樹てたが、年末年始の事務繁忙の折柄本件は協賛會と協議の結果、同會に於て發行することになり、暑中見舞の例を以て優秀ポスター圖案數葉を採用四枚一組として豫約頒布を行つたが、これまた約百萬枚に達する好評を博し、宣傳の實績は益々擧げられた。

「吳博小唄」發表



小唄レコード

景氣をメロデーに乗せて 博覽會宣傳の小唄、歌謡は本會の『吳博小唄』

をはじめ、新聞社、檢番等も連續的に創作發表して、レコードに、舞踊に、三絃にそれら乗せられるメロデーに乗せて博覽會景氣を招いた。本會の計畫した『吳博小唄』は日本の代表的民謡詩人野口雨情氏に依頼して左記の通り宣傳歌詞を作製し、これが作曲は吳市歌、吳小唄等既に多數の有名曲譜をもつて市民とは最も親しみ深い郷土の生んだ唯一無二の作曲家藤井清水氏の力作を得たので、早速京都市ショウチクレコードスタジオと契約を結んでレコードに吹き込み、吳市内のカフェー、料理店其他一般家庭に於て大いに宣傳の効果を擧げた。

宣傳振作

宣傳振作

呉博小唄

野口雨情作歌
藤井清水作曲

く れ - の (アラ スイトセ)

こ く ば - は く は た い し た ん だ ね ゆ

め ぢや な い か と お じ ろ く - は か り

(エ エ - コ ラ シ ョ) す す - じ -

科 が - く や (ヨ イ ト) さ ん - だ

と む と め だ も よ い

(ト イ ト ト イ ト サ) み せ た い ん ち な い

チ ャ ラ ホ イ ノ ホ イ

宣傳振作

呉博小唄

野口雨情作歌

(一) 呉のアラスイトセ
国防博は大したもんだね
夢ぢやないかと驚くばかり
エ、コラシヨ (ツレ)
進む科学やヨイト産業を
一目でもよいチヨトリ〜サ見せたい
もんぢやないか チアラホイノホイ

◇

(二) 呉のアラスイトセ
国防博は大したもんだね
ニ河公園 第一会場
エ、コラシヨ (ツレ)
第二会場はヨイト河原庄
一目でもよいチヨトリ〜サ見せたい
もんぢやないか チアラホイノホイ

(三) 呉のアラスイトセ
国防博は大したもんだね
見わけわらぬ 国防と産業
エ、コラシヨ (ツレ)
見れば誰にもヨイトすむわかる
一目でもよいチヨトリ〜サ見せたい
もんぢやないか チアラホイノホイ

◇

(四) 呉のアラスイトセ
国防博は大したもんだね
春は桜が 街中までも
エ、コラシヨ (ツレ)
咲き揃ふてヨイト賑かに
一目でもよいチヨトリ〜サ見せたい
もんぢやないか チアラホイノホイ

宣傳振作

大衆の禮讚小唄を募る

吳博小唄は斯道の大家野口雨情氏及び藤井清水氏に依囑し、既にレコードに吹込んだが、年末年始の忘年会或は新年宴會等に際して、市民に歌はすための簡易な宣傳歌を作製することになり

宣傳歌謠募集規程

- 一、國防と産業大博覽會ノ宣傳効果アルモノ
- 二、都々逸、磯節、デカンショ節、或ハ佐渡おけさ節、鹿兒島小原節ノイズレニモ歌ヒ得ル歌詞
- 三、一人三句以内
- 四、締切期日 昭和九年十二月二十日
- 五、送先 國防と産業大博覽會事務局
- 六、審査 事務局宣傳部
- 七、賞金
 - 一等 一人 金十圓
 - 二等 二人 金五圓宛
 - 三等 五人 薄謝

と云ふ規程を設けて一般から懸賞募集を行ったが、十二月二十日の締切日までは、應募者も百六十三名に達する盛況で、直ちに宣傳部に於て審査會を開いたが、歌詞は概して優秀作揃ひで、相當苦心が拂はれてゐたが、最後の選に残つた三篇は、いづれも長短なく、等級も附しがたいので、協議の結果、左記の通り三篇をそのまま二等賞に決定、其他の入選作も夫々決定したが、更に捨て難い九點は選外佳作として採用薄謝を呈した。

入賞者

二等當選 (賞金五圓宛)

- 吳市和庄通三丁目八六 松坂 義一
- 吳市中通八丁目二一 飯坂 正一
- 吳市本通七丁目齊藤帶地店內 金藤 宮登

三等當選 (薄謝)

- 吳市今西通二丁目一四 泉 狷之介
- 吳市溝路町二七 佐名木 喜久恵
- 尾道市久保町 三上 正雄

吳工廠製鋼部工務係 木村 雅一

吳工廠會計部製鋼工事費係 秋月 三一

選外佳作 (薄謝)

- 廣島市松原町七〇六 高島 茂基
- 吳市中通七丁目大島屋方 岡村 祐次郎
- 安藝郡音戸町字鱒濱 名原 三代一

- 吳市和庄通一丁目八八ノ六 竹中 英子
- 吳市東畑町五八 石村 市造
- 吳市警固屋町七丁目一四七 池田 進
- 吳市和庄通一丁目八八ノ六 竹中 英子
- 吳市本通十三丁目一六 漆畑 皎
- 吳市阿賀町字原一二五 足立 始

尙當選作品中最も優秀であつた次の八點は、直ちに印刷(二種類)に附して、吳檢番及びカフェー組合を始め、市内の料理屋、カフェー、飲食店に配布した。

○躍進日本の譽は高し

國防と産業の博覽會

○見たや、見せたや故郷の人に

吳の國防と産業博

○一寸見て行こ、國防博を

詞「吳方面行きのかへ」

二人下車する海田市

○一度は見たまへ、血潮は躍る

さすが吳市の國防博

宣傳振作

○女ながらも、日本の生れ

伊達にや行くまい國防博

○心強さを文字にも見せて

里へ案内の國防博

○新興日本の國防と産業

吳で豪華な博覽會

○坊やのお手々を二人で引いて

あなたた行きましよう國防博

宣傳振作

檢番でも新作發表 吳檢番でも三絃に乗せて國防博景氣を唄ふため、特に作歌を發表した。

鳴緑江節

○東洋で 一番大きな吳軍港

海にうつるは アノ海軍工廠で

國防と産業博はよ 美しき

それにまた非常時景氣の花が咲く

○ネーあなた 往つて觀ましょか國防博へ

二河公園 アノ摩天樓を

陸軍海軍のよ 二會場へもよ

それにまた 軍艦飛行機を

磯ぶし

○吳の名所は二河の公園 麗女の小島

廣の航空隊に 音戸の瀬戸よ

まだも名所は音に名高い アノ國防博よ

○吳の名物お酒に金ペンよ

二河櫻花に 横路の桃花よ

まだも名物人氣振興の アノ産業博よ

デカンシヨ節

○不景氣くところぼすなおやじ

景氣直しの産業博

○國防産業博まだ見ぬやつは

木佛金佛石佛

ひとすじ

けさもまた 主の羽織をひきとめて

つれて往かんせ 國防博

なんぼお前が つれなくも

一人で往くとは 情がない

宣傳振作

一等當選歌

(國防博おどり)

一、晴れた晴れたよ 國防博日和

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサ

呉れに吹く風 呉れに吹く風

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサで 國護る

二、海の朝霧 喇叭にとけて 昇る旭日に 昇る旭日に

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサで 國護る

三、國は非常時 花見も勇む 咲いた櫻に 咲いた櫻に

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサで 國護る

四、響けプロペラ 空から空へ サーチライトに サーチライトに

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサで 國護る

五、競へ若者 國防博踊り かけて踊れや かけて踊れや

ヨイトヨイトヨイ ヨンヤサで 國護る

サア 瓦斯マスク

(り) 踊 吳

一等當選歌

一、ハアー吳は鎮守府 國護る

ますら猛夫の 晴ればれと アリヤサ

ますら猛夫の チヨイト晴ればれと

シヤシヤント揃うて ソレ 吳踊り

シヤント シヤント 乗り切れ

アリヤサの花

二、ハアー艦に煙く鐵 工廠の

揮ふハンマに 咲く火華

揮ふハンマに チヨイト 咲く火華

三、ハアー櫻二河ヨ 月湯舟

宵はネオンの 中通り

宵はネオンの チヨイト 中通り

四、ハアー向ひ江田島 響れ島

海の浮城 膽で乗る

海の浮城 チヨイト 膽で乗る

五、ハアー吳の港は 茜染め

街に黄金の 風が吹く

街に黄金の チヨイト 風が吹く

宣傳振作



武者踊

(太平洋踊)

吳海軍軍事普及部
中國新聞社 共選

- 一、弓手に太平洋押へて置いて
馬手に滿洲可愛がる
- 一、比率軍縮カットバシて置いて
急げ正義のホームラン
- 一、此處は串本向ひは濠洲
中をとり持つ南洋群島
- 一、此處は串本向ひは南洋
鱒鮪の橋渡せ
- 一、やつて『吳』よと後援うけて
勇士三萬意氣昂し
- 一、世界一とのモットー掲げ
縦横生み出す吳工廠
- 一、皇國の守護彌益軍港
心からなる拜賀峯
- 一、吳の軍港に一足入れて
襟を正してきくラツパ
- 一、なつて來たのか軍港のかもめ
朝日かがやく軍艦旗
- 一、無敵艦隊見送る出ふね
やさし麗女のたち姿

宣傳振作

郵便記念スタンプ制定

國防と産業大博覽會を永久に記念し、一面に於ては本會の宣傳の一助ともするため、會期中會場内臨時郵便局出張所で捺印使用される記念スタンプに就いては、遞信省の制定方を當局に申請した結果、左記の通り遞信省告示で

「軍港まつり」

(中國日報社提供)

廣島縣立吳第一中學校披露

作詩 田口定男
作曲 高橋祐一
編曲 藤井清水
振付 藤間勘次郎
唄 吳券八千代・千代
伴奏 タイヘイ和洋合奏團

(一)

昔しや柳に 蛇の目の傘よ
今じや鈴蘭 灯も戀し
(折返し) ヨイトツレ ヨイヤサツサ
ヨイトツレ ヨイヤサツサノ吳軍港

(二)

娘 十 八 花なら櫻
二 河 月 花さかり

(三)

男瀧女瀧が 碎けて添へば
灯影星影 波に添ふ

(四)

青い海原 あの波枕
出艦いとしや 麗女島

(五)

濡らす春雨 ついほだされて
土筆芽を出す 灰ヶ峰

(六)

港ちよいと出りや 音戸が瀬戸よ
せかれこがれて 戀の渦

(七)

寄せる人波 輝くネオン
商工榮えの 花と咲く

宣傳振作

本會の希望條件を充分加味したものに決定、會期中第一會場内の呉郵便局臨時出張所で使用したが、この種記念スタンプの蒐集は一般的にも一大流行となつてゐるので、利用者も多く頗る有意義に終始することができた。

逓信省告示第六百九十號

昭和六年七月逓信省告示第千四百號中左記第二號「使用ニ期間アルモノ」ニ左ノ通り追加ス
昭和十年三月二十二日

使用局所

日附印形式

使用期間

逓信大臣 床次竹次郎

呉郵便局國防と産業
大博覽會場内臨時出張所



自昭和十年三月二十七日
至昭和十年五月十日

圖案は一般募集

尙本會では之が記念スタンプの圖案に關しては、懸賞募集によつて一般の興味をそゝり、之が優秀圖案は逓信當局に提示して特殊日附印圖案の參考に供するため左記の如き條件で一般に募集した處、九月二十日の締切までに百六十一點の應募を得たので引續き、事務局で審査會を開會「圖案として最も優秀」なるものを主眼として嚴選の結果

入選 (賞金十圓) 呉市鹿田町 鎌田省彦氏

佳作 (薄謝) 廣島市己斐町青木一夫氏(二點) △廣島市尾道町戸田圖案社 △廣島市船入町南比田雄氏 △呉市鹿田町前田高一氏

を決定、入選並に佳作には規定による賞金又は薄謝を贈つた。

記念スタンプ圖案募集規定

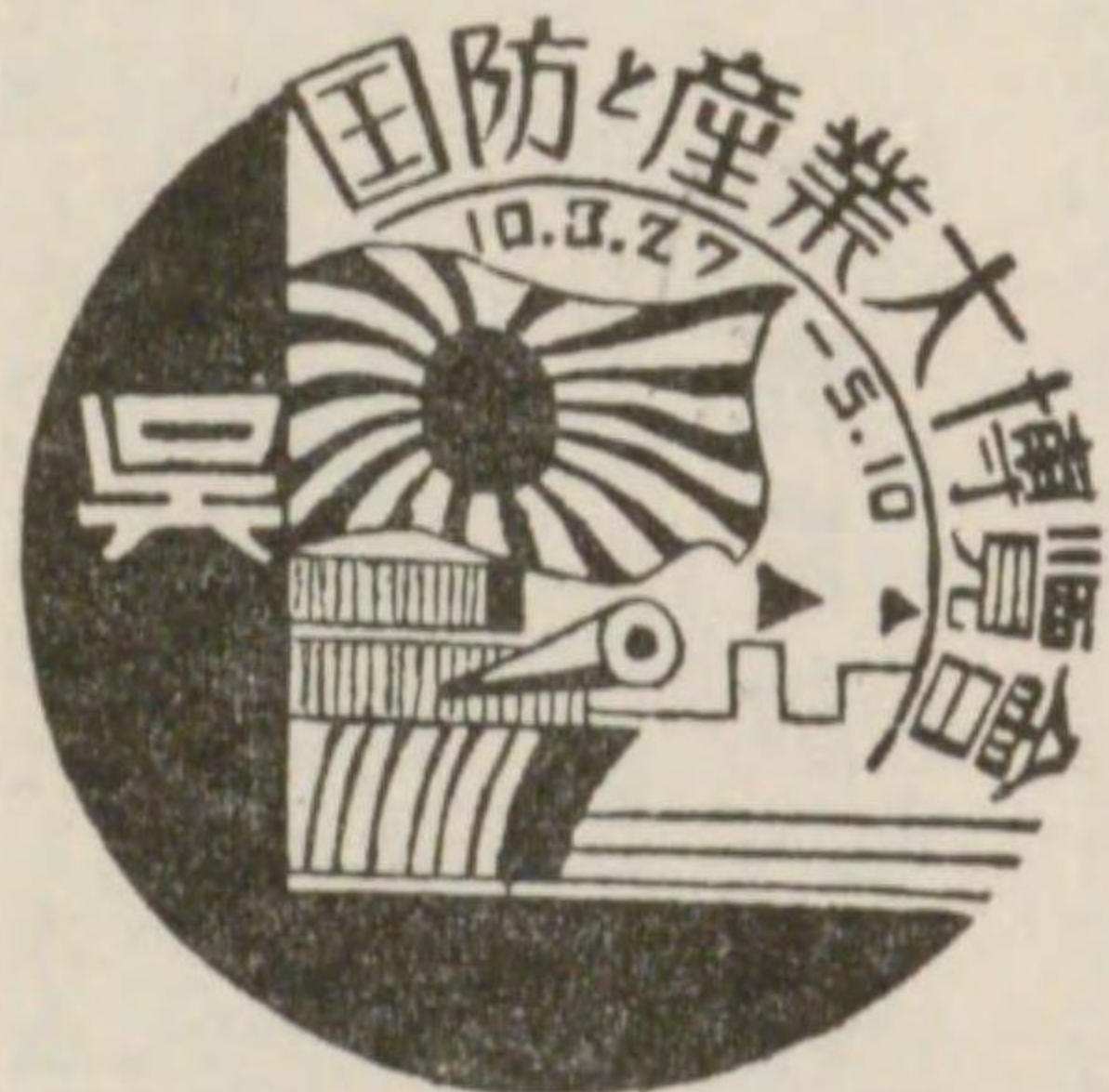
- 一、條件「國防と産業大博覽會記念」及「呉」ノ文字並ニ會期ヲ必ズ表示スルト共ニ博覽會ト呉市ヲ巧ニ表現シタモノ
- 二、形状必ズ圓形トシテ直徑一寸二分タルコト
- 三、締切 昭和九年九月二十日
- 四、届先 呉市役所内 國防と産業大博覽會事務局宣傳部

本會も記念スタンプ利用

博覽會發送の各種書類や、市内の會社、銀行等の發送書類、商品包裝紙等に本會の宣傳スタンプを押捺使用することは、會の宣傳上頗る効果が多いの

- 五、審査 博覽會事務局ニ於テ行フ
- 六、入選賞 入選 一點 賞金 十圓
佳作 五點 薄謝 二圓宛
- 七、使用權 入選圖案ノ使用權ハ一切博覽會事務局ニ歸スルモノトス
應募圖案ハ返戻セズ

宣傳振作



宣傳振作

設置場所	構造仕様	大サ	設置月日	備考	設置場所	構造仕様	大サ	設置月日	備考
西條盆踊	布張照明付	六、二、四	九、八、一 九、六、一		可部花田植	布ペンキ塗	三、六、一 三、六、一	九、六、一	
宮島管絃祭	提灯アチ	二〇、二〇	九、八、一		石槌山頂上	トタン張	九、三、七、一		
松山椿祭	布張大鳥居照明付	二〇、二〇	九、八、一		大朝主催甲子園中等野球	ペンキ塗	三、三、三		
西大寺會陽祭	布張照明付	九、四、一〇、一	九、八、一		金光教春季大祭	鉤形	三、三、三		
廣島招魂祭	布張ペンキ塗塔	七、尺、四、五	九、二、一、四						

各地宣傳

又盆踊り、或は祭禮等短時日の臨地宣傳に於ては前記様式による宣傳塔を設置した外、紅白市松模様染抜きによる美麗屋根を飾り、電飾をなした大提灯數個を連らねた、宣傳門を作り、或は紅白染抜き幕を街上に張り、或は高所に垂らす等、いづれも移動用のもの數種類を作製活用した。

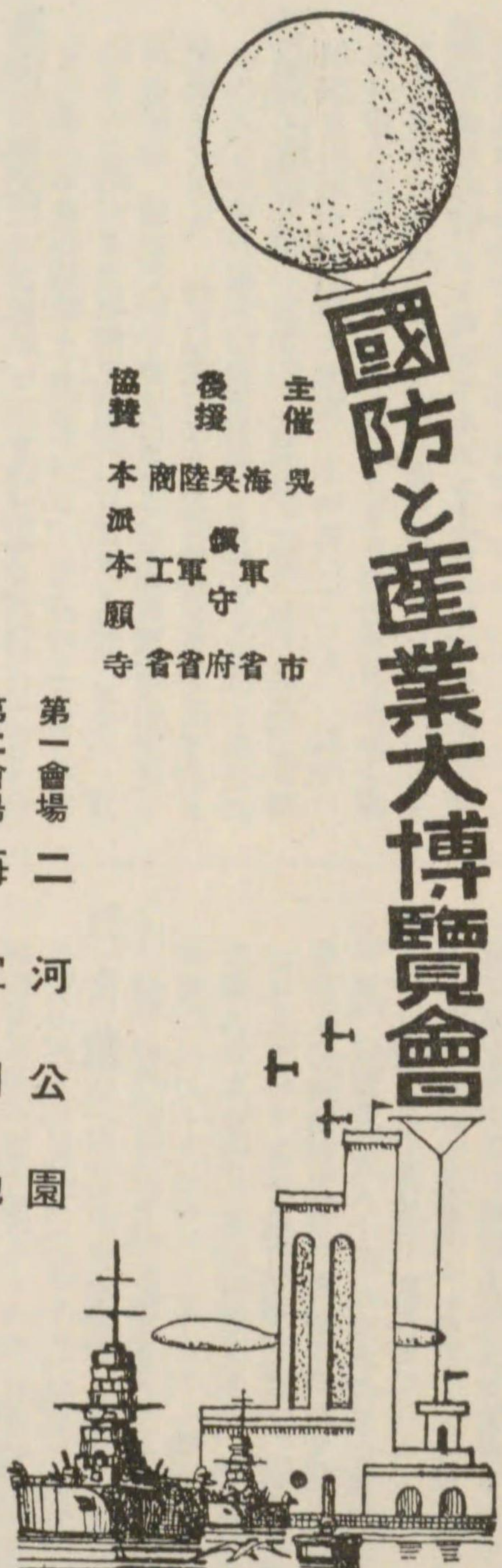
パンフレット

大量な前驅宣傳の試み

開會前期の文書宣傳にはあらゆる新機軸をこらして眼から、耳から、呼びかけたが大量パンフレットの宣傳としては特にロール紙八ツ切大の會場鳥瞰圖入兩面刷のもの約三十萬枚を印刷に附して豊富に頒布し、特に團體勧誘、觀客誘致の資料として歓迎された、本博の全貌を窺ふに好適であるからこゝに轉載しておく。

宣傳振作

會場案内



國防と産業大博覽會

主催 吳 海軍省
後援 陸軍省 吳軍守
協賛 商工省 吳省府
本派本願寺

第一會場 二河公園
第二會場 海軍用地

日七十二月三年十和昭自 期會
日十月五同至

世はまさに櫻花燎爛の季、非常時に魁けた軍港吳の春を彩る「國防と産業大博覽會」は愈よ國際聯盟脱退記念日の三月二十七日より向ふ四十五日間、櫻花に埋まる二河公園を第一會場に、艦艦浮ぶ川原石海軍用地を第二會場として華々しく蓋明けすることゝなつた。第一、第二兩會場併せて廣袤實に五萬坪の宏大な地域と、七十萬圓の巨費を投じ、非常時日本の心臓吳軍港の春にふさはしく、我海國日本の生命を護る近代海軍の精銳を眼のあたり舉國産業の振興と、近代科學の精粹を誇る軍需工業の全貌を窺め、非常時國民の意氣を示さんとする吳市空前絶後の壯舉は、實に光芒燦として輝く、わが日東帝國の愛國の熱情と、興國の覇業を表現せんとするものであり、新裝成れる其の堂々たる威容、壯麗なる精彩、今や國際危機を突破せんとする意氣やめざましく、げにや豪華な近代文化の一大殿堂は築きあげられた。

宣傳振作

第一會場 (二河公園)

吳驛より西北へ向つて約八丁、徒歩約十五分、バス電車の便あり、場内觀覽所要時間は、約五時間

産業本館(一千餘坪) 會場正門の中央に精彩を放つ雄大壯麗な、近代大建築様式の粹を探り、出品申込み既に三府二十五縣十二市の外、北海道、樺太、南洋等々全日本お國自慢の特産品を網羅、我が國産業の精華を一室に蒐めて大觀せんとする、國産愛用謳歌の絢爛、華麗な一大縮圖である。

郷土産業館(五百餘坪) 我らの郷土廣島縣を誇る郷土色を盛りあげた代表的生産品を拓く紹介、縣外雄飛を旨とする郷土産業の振興振を披露、特に新興都市吳の優良生産品を普く出陳、新販路の開拓、生産向上の躍進を期する。

軍需工業館(五百餘坪) 非常時日本を背負ふべき軍需工業界の全貌とも云ふべく、世界の工業界に君臨する全國主要海軍指定工場三百餘より精巧無比、列強工業界と機械文明の精華を競ふ我國の驚異的軍需工業製品を出品、特に館内にて製作過程を實演するものもあり、本博の最も待望せらるゝ雄たるもの。

軍需工業別館(百餘坪) 本館に隣接して軍需工業機械類を主として網羅其充實さを物語つてゐる。從來の機械館の領域をも遙に凌駕してまさに近代日本の工業界を代表する新鋭軍需工業製品の總動員である。我堅陣な國防のバックにあるものゝ力強さは、此軍需工業兩館に満ち溢ふれてゐる。

本願寺館(二百餘坪) 心の國防、心の産業を提唱する

宣傳振作

體育協會の参考出品 逓信省保險局の自動轉換表示器、餘命表示器、珍奇な有益資料も多い。

農林水産館(二百餘坪) 農林省始め各關係官廳團體等全國農林参考品、各種生産状態の模型、其經營法等を判り好く解剖、縣下水産物及加工品等、郷土色豊かなものを紹介する。

滿洲館(百五十餘坪) 滿洲國、關東廳、滿鐵等共同特設館で、先づ異國情緒纏綿たる特異な形態の滿洲建築に目をひき、館内は滿洲生産物を網羅、滿洲事情紹介宣傳等、日滿親善を表象する新興滿洲帝國の全貌を浮現せしめ、滿洲服を着飾つた女看守を配してサービスマに努め、滿洲情景を描出。

朝鮮館(五十餘坪) これまた朝鮮總督府が巨費を投じ華美麗麗な極彩色の建築物に朝鮮物産を陳列、朝鮮風物の紹介幹旋に努め、斷然風俗情緒を添へようといふ試み。

臺灣館(七十餘坪) 臺灣總督府の直轄により、臺灣建築を移して、獨特の異彩を放ち、珍奇な臺灣風物、特産品等を陳列、滿洲、朝鮮に對應して、いづれも輪奐の美、規模の壯、内容の充實を競ひ、三館共本博の呼物揃ひ。

リングェンス冒險曲技(餘興) 米人曲藝團リングェンス一行を招聘、百餘尺の高塔より直径二間、深さ六尺の小型タンクへ金髪美人が跳び込む決死的ハイ、ダイビング冒險演技、其他奇魔術等何れも、世界的離れ業公開の日本最初の大興行。(入場料大人三十錢、軍人學生二十錢、小人十錢)

子供の國(特設) ベビー自動車、サイクルリング等々新しい兒童遊具を揃へ、楽しいお伽の國を現出、一般

爲特に本願寺の協賛を得本願寺門外不出の御寶物、靈元天皇御染筆六字尊號を始め歴代天皇の御物、御下賜の品々、歴代上人の遺物、佛門に秘めた勤王資料等々京都御本山を參詣しても容易に拜觀出来ぬ秘寶をそのまま開陳する寶物館に併せて親鸞聖人、明如上人の御一代記を繪解きとした隨喜喝仰のパノラマ館、歴代上人の御繪傳等々、安藝門徒の地に始めて繰り展げられる一大聖觀である。

觀光館(百餘坪) 鐵道省が嘗てシカゴ博へ出品好評を博した日本最初の卓抜な妙趣考であるモデオラマを採用、巨費を投じて東京二重橋、大阪城、琵琶湖等全國三十有餘の觀光地の景觀を其まゝ立體的に出陳、居ながら名勝舊蹟に杖を曳くといふ嶄新な試みと、國際觀光局其他の参考資料等で賑ふ場内の呼物。

拓殖館(百餘坪) 海外を雄飛せる邦人の活躍を偲び海外移住地の情景と特殊産物等、世界の珍奇をあつめ海外發展の知識を養ふ。メルレー國の秘寶『姪婦のミイラ』の如きは日本唯一といふ呼物の一つ。

教育館(百餘坪) 日本精神を高揚するため楠公父子訣別等の教訓ものを始め馴染深いお伽話を撰び更に八段返しのパノラマ等三十場とし、物云ふ人間等、興味を取入れた兒童の情操教育を試み、特に伊勢神宮の大パノラマはさながら神路山の聖地に詣でる感あらしめ場所も池に臨む高臺の梅林を選び會場から陸橋で連絡する。(觀覽料大人十錢、小人五錢、團體二割引)

體育館(五十餘坪) 教育館に隣してスポーツ王國吳市の體育團體の活躍振りを展示した模型其他を陳列、澄宮殿下御下賜の優勝名鏡、伏見宮殿下賜の優勝旗(少年野球)を始め、榮譽を飾る記念品、其他早稻田大學、

野外劇場(特設) 巨費を投じた華美な記念音樂堂を開放郷土新人の自由演奏、舞踊、演藝等、場内觀覽者をして自由の境地に憩はせる。

演藝館(餘興) 二千人を收容し得る豪華な大劇場、吳券名妓總出演、羽田歌劇等を招き、櫻花と共に研欄目をあざむく各種新作演藝も發表、錦上さらに美花を添へる。(協賛會直營、觀覽料大人三十錢、軍人學生二十錢、小人十五錢)

大食堂 協賛會が入場者サービスマのため巨費を投じて華麗宏壯な大食堂を經營し、二河川畔に臨む清淨な眺望すぐれた地帯を占めて、安價で美味な和洋食喫茶を提供する、階上大ホールは五百餘人を收容する大設備が整つてゐる。特に團體客の便利を圖り約五百人までは、短時間にて辨當等の需に應ずる用意もある。

商談所 吳商會議所ではこの博覽會來觀の商工關係の人達に對して極めて簡便に商工業上の各種の問合せに應ずると共にこの機會を利用して廣く生産品を紹介し販路の擴張普及に努め商取引の幹旋仲介をなす爲商談所を設置した。

一般餘興 其他會場内外の餘興を添へる各種演藝は何れも粒揃ひ、先づ場内では、獵奇的な海女館(入場料、大人十錢、小人五錢) 場外では正門前の大餘興場を埋めて小川興行部經營金丸管絃樂大サーカス團(入場料、大人三十錢、小人二十錢) 宮川猿犬サーカス團(入場料大人二十錢、小人十錢) 桐口動物園猛獸使(入場料大人二十錢、小人十錢) 庄司オートバイ、サーカス團(入場料大人二十錢、小人五錢) アイヌ人種風俗館(入場料大人十錢、小人五錢) 皇國歴史館(入場料大人

宣傳振作

十銭、小人五銭)等々が賑ひを競ひ、意匠を誇る大廣告塔が奇観を呈する。

第二會場(川原石 海軍用地)

吳驛より西南へ向つて約八丁、徒歩約十五分バス電車の便あり、第一會場より二河川に沿ふて下流へ約十三丁、徒歩約二十分、バスの便あり、場内觀覽所要時間は約四時間。

海軍館(五百餘坪)

海軍省、吳鎮守府の絶大な後援で近代海戦の最新式科學兵器軍需品等世界を驚倒せしめる我海軍の偉觀を其まゝ、館内は總て吳鎮守府始め工廠、航空隊、潜水學校、兵學校等々より舉つて出品就中巨大な近代海戦のバノラマ無電操縱、勇壯凄絶、心膽を寒からしむる科學戰術の實況等、非常時國難突破を期する海國日本の強さを表現嘗ての博覽會に到底觀ることの出来なかつた大規模の海軍出品は、地の利に恵まれた第二會場へ悉く網羅され、本博の國防を冠する所以も實に本館の面目躍如たる内容の豊富充實さにある。

陸軍館(百六十餘坪)

陸軍省第五師團の後援により最新兵器、軍需參考品、資料等々、近代陸軍に備へる各種化學兵器を蒐め、皇國日本の生命戰を護る陸軍の現狀を偲ばせ、國民の覺悟を喚起する。

軍事記念館(百二十餘坪)

各宮家御貸下の戰役記念品を始め、過去幾多の戰役に血を染めた尊い記念品、軍神乃木、英雄東郷兩將星の遺品等々初めて世に贈られる江戸丸血染の日の丸等、從軍勇士の秘藏、秘録が此

機會に公開される感激の逸寶千數百餘點、非常時にふさはしい日本精神の壓巻である。

航空館(百三十餘坪)

近代戰の花形、國防の第一線に活躍する海、陸航空機と、航空資料を出陳、目覺しい制空日本の濺刺たる風姿をくりひろげる。

ラヂオ館(百五十餘坪)

日本放送協會出品の電氣應用『百年後のラヂオ都市』を始め科學時代の超尖端を行くラヂオ資料を公開、神秘の扉を開く。

輪型陣艦隊大模型

軍事實演場附近の大廣場の中央へ英國艦隊が得意とする輪型陣艦隊序列の大模型を直徑十間の大圓陣とし、精巧な軍艦模型を裝置して近代戰術の解剖を行ふと共に、輪型陣、何物ぞ!の觀念を養ふ。

彈除け地蔵

砲煙彈雨の上海大激戰に、猛射を浴びせる敵艦をくゞつて突撃するわが勇敢なる海軍陸戰隊を護つて奇蹟に富む、お地蔵さまの功徳を禮讃して、時の植松上海陸戰隊司令官が『彈除け地蔵』と名付けて、海軍省軍事普及部に奉安されたものを吳海軍人事部の好意により第二會場内へ移奉して、その奇特と靈顯を偲ぶ、わが戰史に秘そむ珍らしいもの。

水族館(二百二十餘坪)

廣島縣水産會の經營、珍奇なギャング魚、熱帶魚、大鰐、正覺坊、オットセイ、鵜飼の實演其他世界の珍魚數百種を游泳、海女の實演等獵奇の世界をたづねさせる。(入場料大人十銭、小人五銭)

日本製鐵館

八幡市の日本製鐵所より巨大な熔礦爐を出品元礦を溶解し、鋼鐵を造る驚異的實演を行ふ。

一般餘興

第二會場軍事實演場附近において吳市在郷軍人第四分會が巨費を投じて特設した『國防戰史パノ

宣傳振作

ラマ館』はわが輝く皇軍の戰勝繪巻をくりひろげ、(入場料大人十銭、小人五銭)陸軍字品糧秣支廠内糧友會經營の『國防食堂』では陸軍獨特の野戰氣分を盛つた陸軍食を實費で一般に提供する試み。

主なる會場施設

博覽會事務局 商談所
協贊會事務局 工營部

觀覽接待と優遇

觀覽者の利便を計る爲め、第一、第二兩會場間(徒歩十五分)には連絡バスを運轉、吳驛と兩會場間には直通バスを運轉する、いづれも團體優待割引の便あり、團體觀覽者の接待斡旋に就ては、博覽會事務局團體係及吳商工會議所内協贊會接待部等で遺憾なくお世話することになつてゐる、尙、團體觀覽のプラン、(軍港見學を含めて)等の作成、宿舍其他の斡旋等にも應ずることゝなつてゐるから遠慮なく御照會ありたい。

觀覽料

一般入場料 (第一、第二兩會場共通)(午前八時より午後五時まで開會) 大人四十銭、現役下士官兵二十銭、小人二十銭△夜間入場料(第一會場のみ四月三日より同十七日まで午後六時より午後十時まで開會) 大人十銭、現役下士官兵及小人五銭

團體入場料

△普通團體三十名以上二割引、百名以上一割五分引、五百名以上二割引△小學兒童團體、教員の引率せる小學兒童三十名以上の團體入場料は一人に付十五銭△學生、生徒團體、教員の引率せる學生、生徒(補習學校、青年訓練所)は三十名以上五百名未滿の團體は一人に付三十銭、五

倉庫 女看守詰所
場内賣店 憲兵詰所
場外賣店 警官詰所
市金庫出張所 消防詰所
郵便局出張所 救護所
鐵道案内所 場内電話
運送店出張所 湯茶接待所
守衛詰所 休憩所

宣傳振作

百名以上は一人に付二十五銭
優待 尙、團體入場の際は三十名に對し引率者一名、五十名を増す毎に一名の割合を以て無料とす。

吳軍港の偉觀

吳軍港は世界屈指の大軍港である、明治十九年、第二海軍區鎮守府として制定され、同二十三年四月二十一日畏くも明治大帝の臨御を仰ぎ、吳鎮守府開廳式を舉行、約五十年の歳月を迎へて、今日の大偉觀を整へ今や、海國日本を護る海軍の大策源地となつてゐる。廣島縣南部、海邊の要害の地をとし、我領土の中心を占め最も規模壯大、堂々たる大厦高樓、藁を連らね、非常時日本の意氣潑刺として、無敵を誇る艦艦、海を壓し、躍進日本のめざましき興隆を表象してゐる。

吳鎮守府

海軍構内の約中央、展望すぐれた淨域に、赤煉瓦の宏壯典雅な大建築が聳え、第二海軍區二府十五縣下の防禦警備、並に出帥等の司宰及麾下全般の指揮統率の任に當つてゐる、「幕僚の外、工廠、海兵團、防備隊、人事部、軍需部、艦船部、港務部、經理部、建築部、無線電信所、海軍病院、軍法會議、刑務所、航空隊、潜水學校等々、陸上部隊及軍港所屬艦船部隊はみな其麾下である。

吳海軍工廠

吳海軍の最も誇るべきもの、一つ、東洋第一の大工廠、製艦軍需工場として、優秀な機能と大規模の施設は、造兵に造船に、日本最大の科學の殿堂

吳海兵團

ともいふべきもの、其専門部門は總務、砲煩、水雷、電氣、造船、造機、製鋼、潜水艦、砲煩實驗、魚雷實驗、電氣實驗、會計、醫務の各部及職工教育所、技手養成所等にわかれ、今や非常時軍需作業に繁忙を極め從業員四萬に垂んとしてゐる、以て吳市の労働都市と稱せられる所以である、驚嘆すべき第四ドックの如きは世界の一、二を争ふもの。
(吳驛より海兵團、鎮守府廳舎前を経て、工廠表門に至る。見學は海軍側より案内人を附し、午前、午後二回づゝ、一回約五百名まで觀覽を許される、見學通路は表門より本門まで、所要時間は約一時間)

吳軍需部

海軍々需品の供給、保管、整備を行ふ海軍の臺所といふべきもの、自慢の大冷凍倉庫を始め、短時間で數千人のパンを作る最新式パン焼籠等、新時代の設備を誇つてゐる、軍艦旗をはじめ、軍服などもここで裁縫されてゐる。

廣工廠

航空機の製作並に整備工場としては、日本の代表的工場で世界に誇る九〇式大飛行艇をはじめ優秀國産飛行機の製作に繁忙を極めてゐる。
(吳市外廣村にあり吳驛より汽車、電車バスの便あり、距離約二里(交通機關約三十分)廠内觀覽は第一門より第四門まで約一時間、午前九時半より午後二時半まで、人員は特に制限なく大量にても許される)

吳航空隊

吳市外廣村に十餘萬坪の陸上滑走場を新設、近代建築の廳舎も頗るモダン、絶えず飛行機の飛翔訓練がつけられ、大空を護るわれらの勇士の明朗さを表現してゐる。日曜日を除き毎日午前中飛行訓練を行つてゐる。高等飛行の妙技は軍港見學に一段の色彩を加へ、新興廣工廠と共に見逃してならぬもの。

海軍見學の注意

海軍の觀覽は吳鎮守府の許可を要するので豫め申請をしなければならぬが、博覽會々期中は本博覽

宣傳振作

海軍潜水學校

優秀な潜水艦乗員を養成する日本海軍唯一の機關で列強海軍の畏怖するもの、校門前には沈没當時のまゝ引揚げられた、第六號潜水艇が神社として祀られ、佐久間艇長以下殉難勇士の悲壯な遺品を永久保存する養生館が建てられて一般に公開されてゐる。
(吳驛から約二十餘町、吉浦驛から約十餘町、その中間にある。バスの便あり、吉浦から五錢、吳驛から七錢、第二會場から五錢、團體割引あり、校内見學約一時間)

海軍兵學校

吳軍港の沖合江田島の景勝の地にあり、海國日本を背負ふアドミラル搖籃の地として、若人達の憧憬するところ、校内の海軍參考館は、東西古今の名將の遺品、海軍に關する歴史的資料等數千點に及び世界人の羨望する寶庫となつてゐる。

(吳、川原石港より發動機船にて約三十分。江田島小用上陸後徒歩約十丁、二十分を要す、バスあるも大量輸送には適せぬ(往復三十錢)校内拜觀は日曜、祭日が最も可、其他は水、土、火を撰ぶがよい、其の外は見學許可せられぬ場合がある。

宣傳振作

會事務局團體係に於ても斡旋取次することになつたから、本會へ直接申込まれるのも便利である。海軍構内までは博覽會側の案内人が案内して、先づ鎮守府裏の海軍案内所へ赴き、此處に於て休憩、或は手荷物などを預け(一切無料)それより案内所側海軍々人の親切な案内をうけて、各所の案内、説明をうけ、終つて、軍港案内所へ集合、それより、また博覽會側の案内をうけて市中へ……………

吳市及名勝地

吳市は、軍港の建設に伴つて特異の飛躍的發展を遂げた近代新興都市である、現在既に人口二十一萬餘我國第十二位の大都會に列し、非常時景氣と共に、底知れぬ發展性に恵まれ益々將來の幸運を約束され、美望の的となつてゐる。賑々たる生氣と、潑刺たる活動力のみなざる素晴らしい軍港都市である。

名勝、古蹟

新興都市といふ吳市には古蹟は少いけれど、附近には平清盛の傳説に因む、天下の名峽『音戸瀬戸』あり、廣村に新名所『龍涎峽』あり、繪の『宮島』、湯の町『道後』に近く、海賊の古蹟『大三島神社』亦海路交通に恵まれ、市内には、噫壯烈鬼神をも泣かしむる佐久間艦長の記念碑『鯛の宮』、櫻ほころびる博覽會第一會場の『二河公園』、『二河峽』あり、靈泉『湯舟』淨域『平原淨水地』等々、杖を曳くところも少くない。市街の整然たること亦以て他都市の模範とすべきところ、軍港の夜景は、高きに倚りて臨むべく、一大不夜城を描く、其壯麗さは、實に天下の奇觀として、快哉を叫ばしむるもの、代表的商店街は中通、本通筋。歡樂街は朝日町、目抜き盛りの盛り場は中通六丁目より八、九丁目の横貫線道路、麗女通等々で特にカフエー

宿泊料に就て

吳市内の旅館は組合で其料金を協定してゐる。團體割引等についても協定料金があるが博覽會團體は特にサービスする筈で、本博事務局接待部及協賛會、吳驛等で斡旋してゐる、必要に應じ御照會ありたい。一般の宿泊は左の通り

一等(甲)三	圓一四	圓一五	圓
一等(乙)二	圓一二	圓一三	圓一五
二等	圓一〇	圓一二	圓一五
三等	圓一〇	圓一二	圓一五
普通	圓一〇	圓一二	圓一五
團體宿泊料	圓一〇	圓一二	圓一五
學生	圓一〇	圓一二	圓一五
小學生	圓一〇	圓一二	圓一五
中學生	圓一〇	圓一二	圓一五
但中食辨當付	圓一〇	圓一二	圓一五

宣傳印刷物

「博覽會のお知らせ」 博覽會の經營に關しては一般入場者の高率を必要とするは勿論であり、各方面からの團體を獲得することも亦重要な一要素であるため、本市は幸に東洋第一を誇る吳軍港の所在地として毎年春秋の候の團體來吳者は日々數千名を算してゐるが、博覽會の開催期が恰度春の旅行シーズンに重なるので、軍港見學を兼ねた來會者も相當多く、本市は未曾有の盛況を示すだらうと豫想はされるが、本會としてはかうした來吳者を期待するだけにとどめず、更に各方面の團體に働きかけ、より多くの團體を勧誘するため宣傳部では昭和九年十月、「吳の大博覽會お知らせ」と云ふオフセット三色極彩色のリーフレットを作成した。

同印刷物の内容は名所寫眞を巧みに挿入した吳市内交通略圖と、一面には博覽會開催の趣旨、開期、場所、入場料(特に團體に對する割引特典等詳細に記した)第一、第二會場の概観、海陸商工省吳鎮守府の後援、吳軍港の偉觀及市内近郊の名勝舊跡等と、博覽會および吳軍港とその附近の名勝を親切に紹介し、本縣下は勿論近縣の學校、青年團、在郷軍人會、會社工場等へ約六千部を發送團體觀覽客誘致に努めた。

その他博覽會の趣旨宣傳並に觀客誘致、接待用都市紹介資料等と前期後期を通じて發行頒布したものの、主なるものをあげれば左の通り。

「吳市と海軍」

美麗優雅な四六版全アト三十頁の小冊子先づ吳と海軍の全貌を解説し名所舊蹟から産業、交通、旅館案内をもかね、吳市歌、吳小唄など郷土情緒をも織り込んだローカルなつぶりなもの、海軍見學者の爲には、見學プログラム四種を

宣傳振作

編んで親切な手引とし、吳市の地圖まで添へた頗る氣の利いたもの、その目次をみると
△吳と海軍△海軍を先づ見て△海軍觀覽の葉△市内の風光△附近の名勝舊蹟△吳と産業△交通機關△旅館土産品△吳市歌△吳小唄△新吳小唄△軍港音頭。

宣傳振作



素描の呉

四六版横めくりのすつきりした小冊子、先づ汽車に乗つて海路を撰んで天然の樂土呉を訪れるところから書き起して素描の呉を遺憾なく表現してゐる、その編輯技巧、印刷技術共に苦心の跡見るべきものがあり、在來の「市勢一般」の型を全然破つてやはらかい感じを出してゐる、僅かに二十頁の手軽なもので内容の豊富なことも誇つてよい、索引に曰く、

△緒言、沿革(大呉市の出現まで)△行政機構、市會△市財政△交通運輸△教育施設△衛生施設△社會施設△呉と産業(工業、商業、農業、水産、金融)△上水道施設△軍

港の偉容△呉及近郊の名所舊蹟△附近の名所舊蹟里程表△國防と産業博概観△旅館案内。

呉市交通案内

呉市を中心とした交通案内を蒐録したもの、汽車、汽船、電車、バス、タクシー賃金時間表等を、何から何まで、よく氣が配つてある、これは主として本博接待餘興部から觀客誘致接待のため發行したもので、大いに歓迎された、四六版二十頁で大型の近海航路圖が附録として折込んである。

博覽會案内 (會場配置圖)

花の二河公園第一會場、海の川原石第二會場の平面圖二枚を一組とし會場圖案をあしらつたもので新聞二頁大のものから、小さいのは四六版のポケット用まで各種取揃へて印刷、主として開催前期に頒布された。

國防と産業博の榮

精巧無比、あでやかなグラビヤ印刷の菊三倍版四ツ折の解説付寫眞グラフを裏面に、内側に博覽會の諸施設について叙述的な案内記をのせ、市内名所寫眞をあしらつて旅行の榮もかねてゐる、これは特に本博協賛會側とタイアップして前期並に會期中よりの前後二回にあたり二十萬枚を印刷全日本よりの觀光誘致のため頒布した、特に大阪精版印刷の優秀精版によるもの。

宣傳振作

呉市案内

東京日本名所圖繪社に依頼し、特に常光畫伯が本博のため畢生の技巧をこらして描いた鳥瞰圖である、軍港大呉市の偉容と大博覽會場をありのまま、描寫した華麗な大繪巻物で、巻頭に明治大帝の呉を詠ませ給ふた御製を謹載、特に同社の試みでなる書簡圖繪として會期以前十萬枚を印刷頒布、來賓の贈呈に用ひ、すこぶる歡迎好望された。

觀光客のため榮として作られたもの、呉市の鳥瞰圖と、博覽會記念スタンプを取入れ、市内の名所寫眞を配して非常時吳の姿を誌した、美術石版印刷の美しいもの。

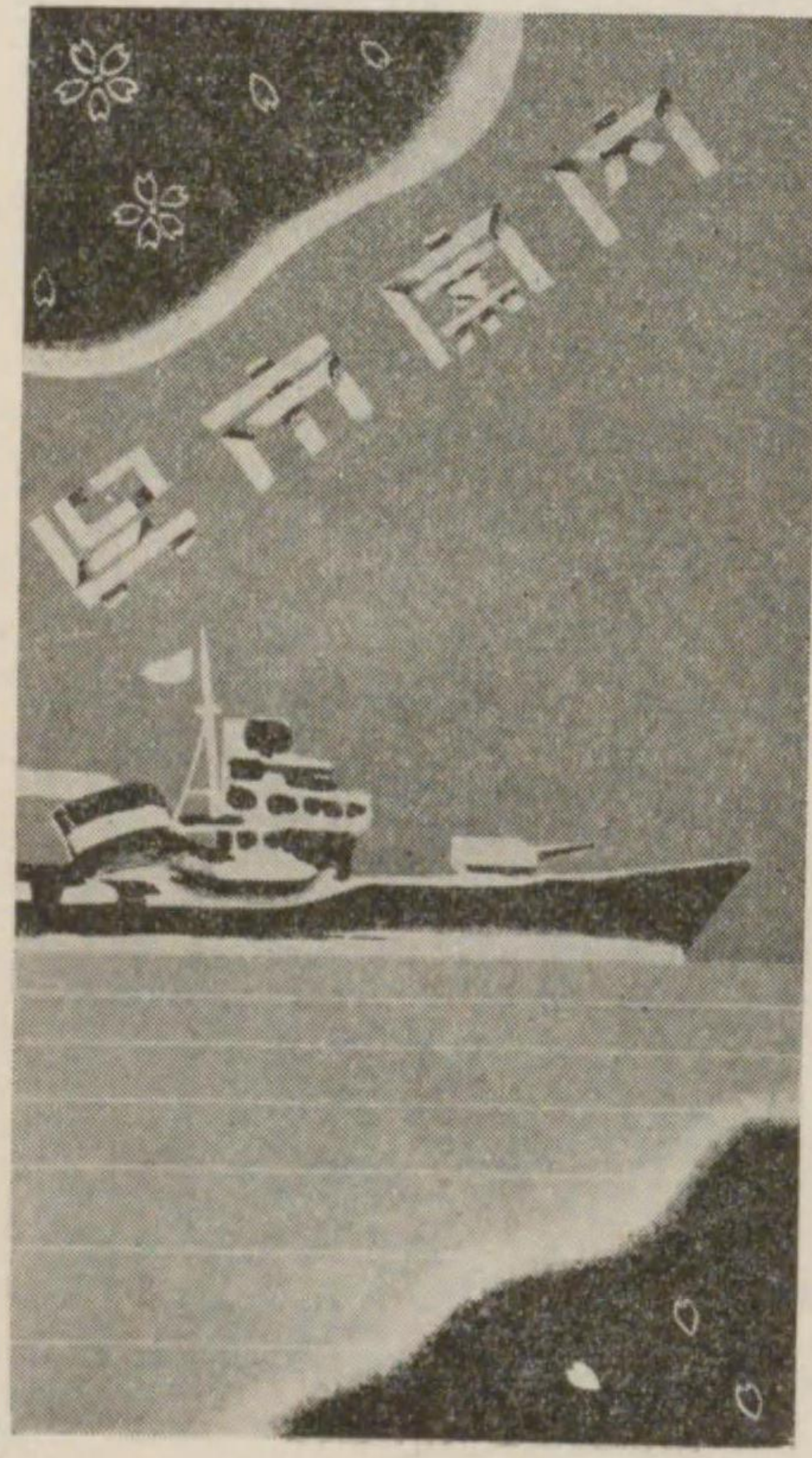


國防と産業博の榮

會期 昭和十年三月廿七日より五月十日まで
第一會場 吳市二河公園
第二會場 同 海軍用地

會場案内鳥瞰圖

技巧をこらした會場鳥瞰圖を畫家に依頼執筆を乞ふてこれを各種宣傳印刷物に利用すると共に裏面に案内記を附したものの五十萬枚を印刷前期宣傳に用ひ入場者に榮として贈呈好評を博した、尙本圖は極彩刷の鳥瞰圖として市中に現れこれまた本會の異彩を飾つた。



宣傳振作

国防

産業大博覧會

呉市主催 **3月27日→5月10日**

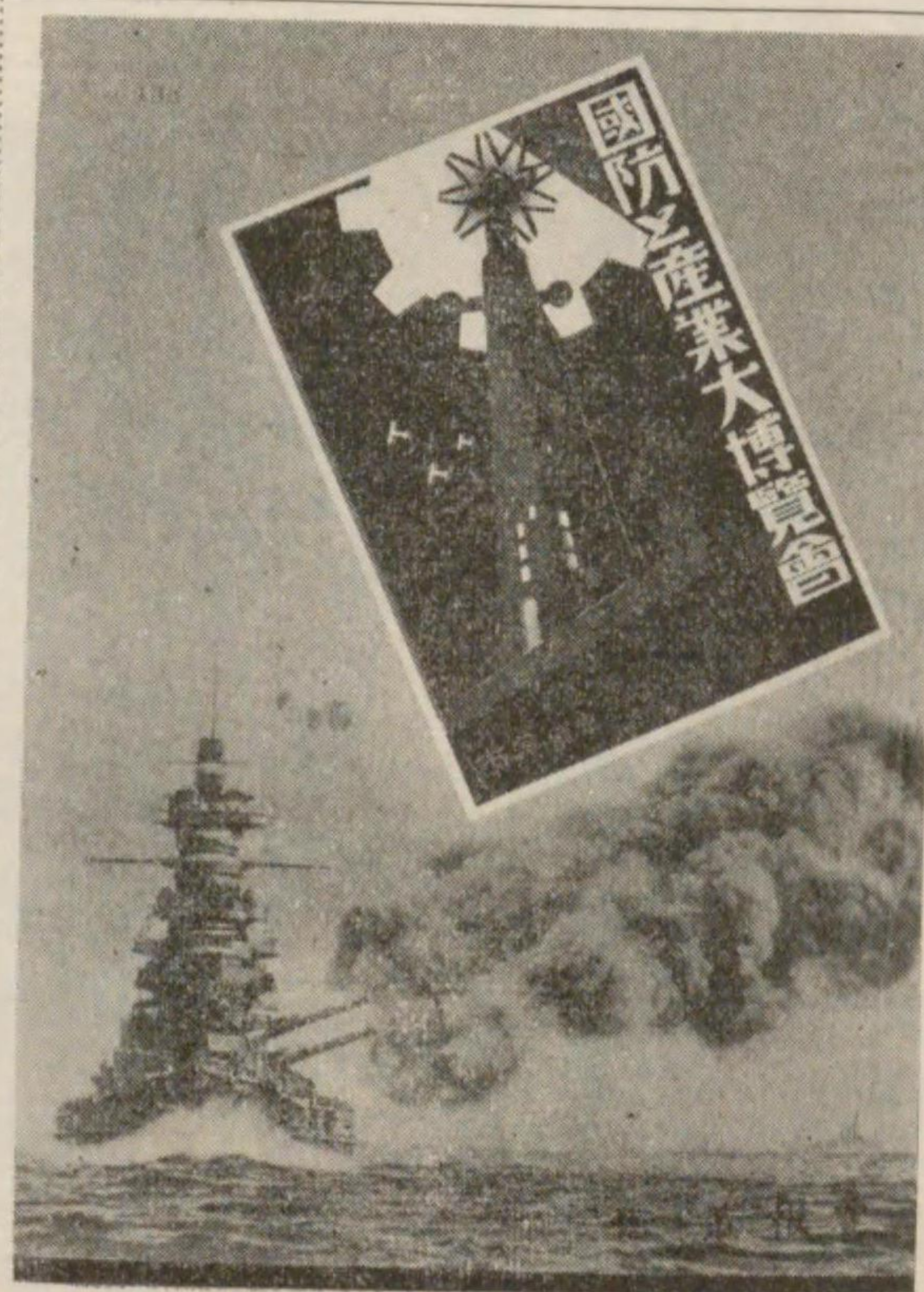
支援
海陸軍省・商五省・呉鎮守府

折れぬクレヨン
デンパス
色のよい つきのよい

株式会社 東京 大阪

「一タスポンアフロセ」

宣傳陣の尖兵としてセロファンも新登場し大阪市橋高商店の「デンパス、クレヨン」の廣告入セロファン、ポスター一萬枚の寄贈をうけたので、これを全市交通機關ショーウインドその他遊覽バスへ貼付、多大な効果を納めた。



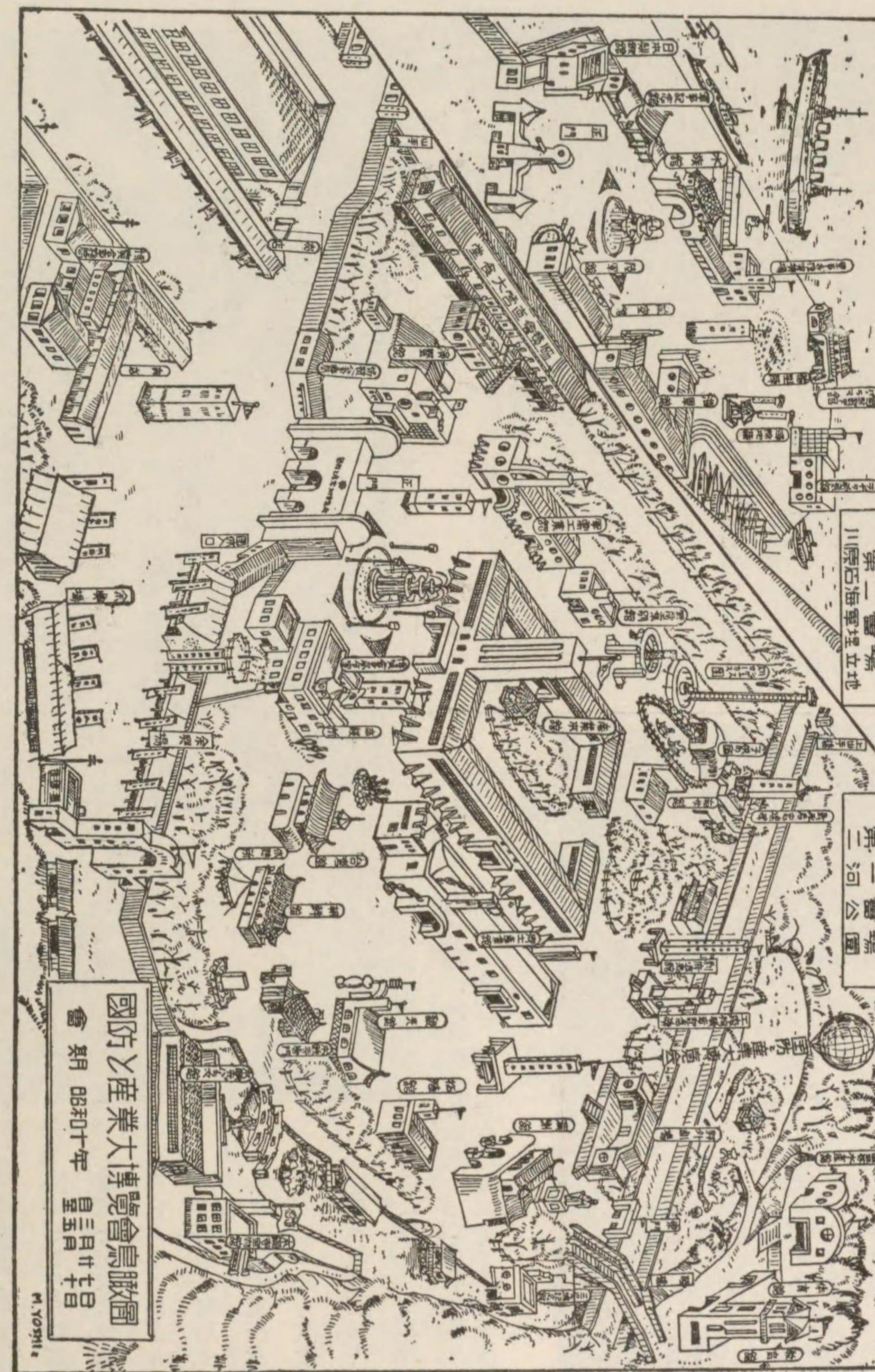
「呉市觀光地圖」

呉市街の明細地圖の縮刷版ともいふべきもののポケット用として折疊み自在とし海の艦艦、飛行機の快翔を圖案化し第一會場の正門寫眞を取入れ國防博の威容を諷刺してゐる、特に内容も呉軍港の偉觀を中心に、海軍見學希望者のためにつくられたもの。

「會報第一號」

輝く本博覽會の全貌を盛つた四六、二倍大の美麗極彩色オフセット精版の會報で開會に先つて竣工した會場を撮影スビード印刷に附し協賛會とタイアップして約三萬部を作成開會式にはすでに來賓へ贈呈喝采を博した。

宣傳振作



宣傳振作

「宣傳ピラ」
その他宣傳ピラは前期、後期を通じて隨時機會を捉して數種を作成、あらゆる時期に於て間斷なく頒布速射砲列を布

花にきざけ開く

全国に未だ當て類の無い
海陸軍省 吳鎮守府 後援
本派本願寺協賛

国防と産業大博覽會

會期 三月二十七日より
五月十日まで

會場 吳市 二河公園三万坪
海軍用地三万坪

非常時國民の見逃し難い

會覽博大業産と防国の吳

その他新宣傳手法

第一期宣傳として本會の會名、開催日時、場所等の宣傳に全力を傾注してゐた本會宣傳部では更に梅雨明けを待つて七月からは一齊に本縣下並に近縣の盆踊大會、納涼場、夏祭等の機會場所を狙つて、小團扇、マツチ等可憐な小宣傳物で涼風を送つたが、この企ては季節的利用物の贈物といふので、いづれの地でも大歓迎をうけ好印象を與へることが出來た。尙宣傳團扇およびマツチはいづれも吳市内有名商店からの寄贈によるもので、各十萬個づつを

愈々三月廿七日から

海陸軍商工省 吳鎮守府 後援
本派本願寺 協賛

吳の国防と産業大博覽會

三月廿七日!! 五月十日

非常時國民の見逃し難い

(面告廣)

いて宣傳陣の擴大強化に努め多大の收穫を齎らすところあつた、その一、二を参考にとどめておく。

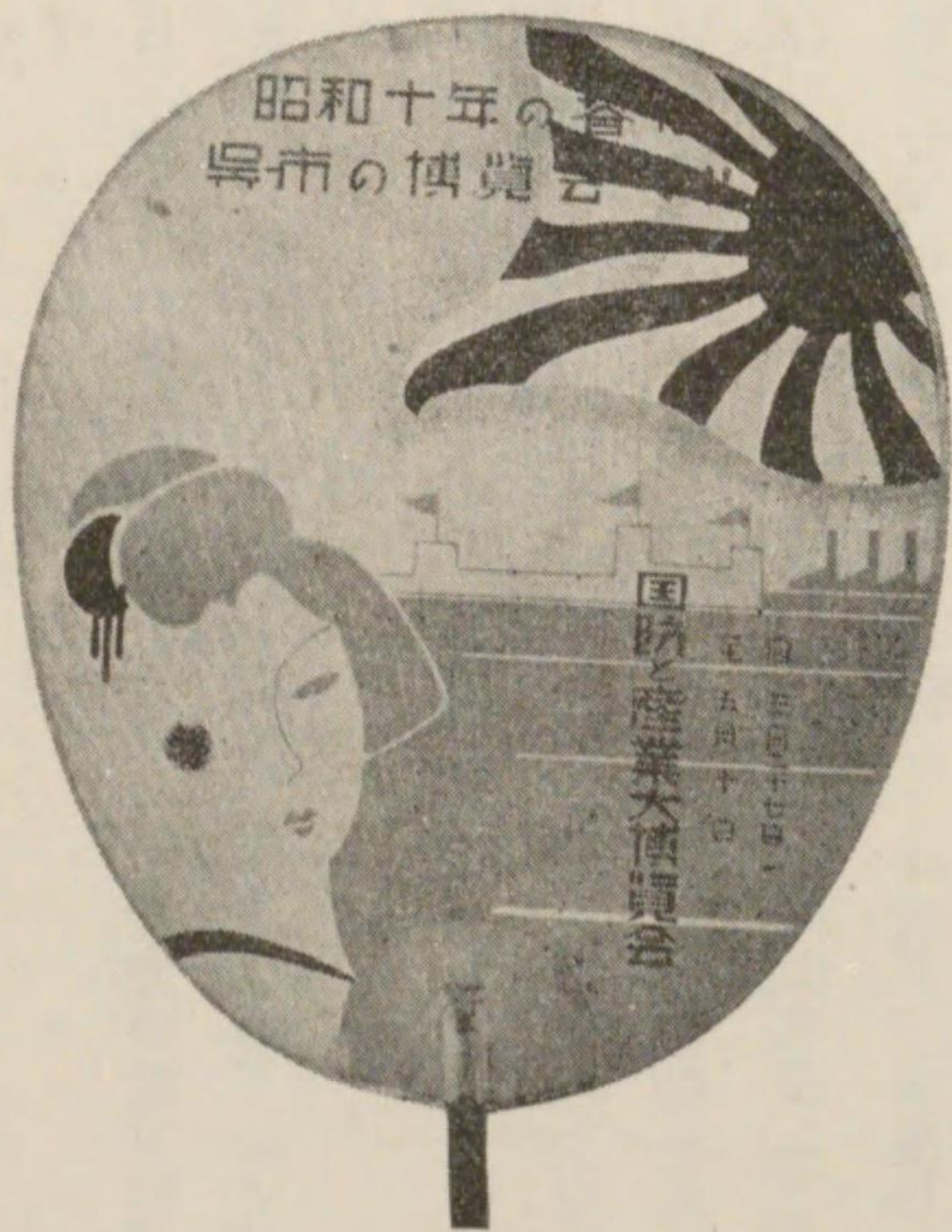
宣傳振作

作成した。

「宣傳團扇」 孟蘭盆前後の季節は、一般商工業者に於て團扇を作成顧客のサービス用に供する當地方の風習であるのに鑑み、之を利用するため本會では市内有力商店に對して、團扇製作(本會に於て希望を取纏めて製作)および之が博覽會宣傳利用を依頼した結果、各業者に於ても頗る贊意を表し、左記商店から寄贈をうけた宣傳團扇の圖案は宣傳部に一任せられた、め、本會に於て製作したが、圖案は右上から中央にかけて勢のいゝ軍艦旗に紺碧の海に中央に博覽會場建物の遠景を見せたもので、武威と優婉のうち博覽會氣分を表はし、色彩は濃淡の配合を巧みに使ひ分けた頗る涼しい感を抱かしめるもので、寄贈者にも一様に満足を與へ得た。

堺川通八丁目天勝食堂、本通五丁目京屋子供百貨店、中通五丁目紀の國屋食堂、長の木町宮崎酒造場、中通七丁目宇都宮支店、本通九丁目灘波洋服店、中通六丁目岩越料亭、本通五丁目旭パン、本通三丁目都宮本店、中通五丁目葛山製靴店、中通八丁目喜樂館、本通十丁目十字屋藥店、本通十三丁目佐々木佛壇店、本通十一丁目十川大元堂、中通八丁目かき伊、中通九丁目出野履物店、中通六丁目岡本龜樂堂、本通六丁目富士屋商店、本通七丁目二宮興文舎、本通八丁目天明堂、本通四丁目山城屋商店、本通四丁目山川菓子舖、中通五丁目櫛部洋服店、本通十一丁目植木喜三郎氏、本通八丁目二鶴料亭、本通四丁目井口清吾氏、堺川通四丁目華山料亭、中通八丁目地球館、中通六丁目新野田料亭

「宣傳マツチ」 マツチによる宣傳の効果も亦、從來開かれた各博覽會の經驗により見逃し難いものであるので、本會では宣傳用團扇製作と共に調製を計畫したが、之が經費は團扇と同様市内有力商店の寄附を仰ふぎ兩者タ



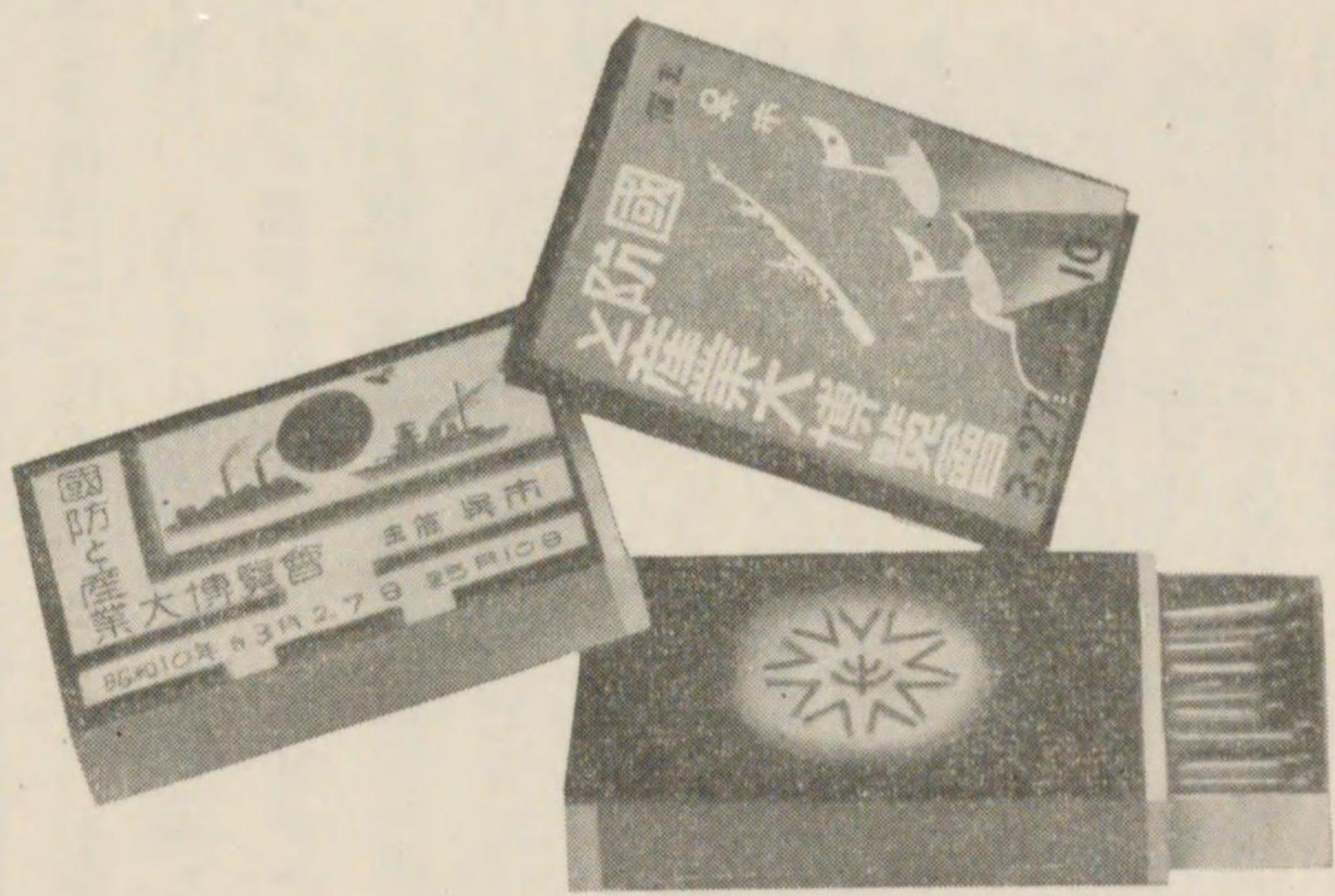
宣傳振作

イアップの宣傳戦線を張ることになし、勧誘した處千福三宅醸造場の一萬個寄贈を筆頭に有力商店からは率先して申込みをうけ豫定の十萬個は忽ち突破し、總計十二萬個に及んだので、本會に於ては圖案三種を選んで調製、團扇と共に各種會合に對する臨機宣傳に使用したが、マッチは家庭必需品であるのと一面に於ては喫煙用に供せられたので大いに宣傳効果をあげることが出来た。

「宣傳カード」五月二十七日の海軍記念日に當り、本會宣傳部では國防思想普及と本博宣傳をかねて美麗カード、葉十萬枚を作成、縣下および近縣の小學校へ配布した。

銀幕利用の映畫と幻燈

活動寫眞常設館を利用する宣傳は、最も經費が尠くしかも功果の大なるものがあるので本會に於ても、本市及縣下四市の活動常設館に交渉し、十二月一日から一週間の期日で開いた第一回市内宣傳デーに當り、宣傳用幻燈板を製作、市内各常設館に依頼して、幕合ひに映寫せしめたが、幻燈板には勇壯その儘の戦艦の艦砲操作の状況、或は吳券番の誇る美妓を寫し出したので、觀覽客の人氣もいやが上に煽ふり得て、先づ計畫の適中に喜び、引續き昭和十年一月から、會期終了までの間は左記の通り縣下四市の、映畫館に依頼して同様幻燈板の映寫をすると共に、毎週發行する活動ニュース、或はプログラムの餘白には、本會で豫め製作した凸版或は銅版の宣傳圖案を挿入し、宣傳に一段の功果を擧げた



が、本會の趣旨を贊助せられたこれら各館經營者はいづれも多大な犠牲を拂つての、サービスであり、本會の最も感謝するところである。

- 吳市 大衆樂館、喜樂館、トキワ館
 廣島市 太陽館、東洋座、有樂館、帝國座、歌舞伎座
 尾道市 階樂座、玉榮館、大陽館
 福山市 久松館、大勝館、大日活、東活俱樂部
 三原町 佐盛座

巡回映畫宣傳 活動常設館利用の宣傳にヒントを得た本會は更に活動寫眞の地方巡業で權威のある、廣島市塚本興行部に、宣傳幻燈板及撒布用チラシに宣傳圖案の挿入を依頼した處、快諾を得たので更に映寫幕兩袖に吊る、宣傳用大幟を作り、昭和十年一月早々から郡部に巡業する五隊にそれら宣傳を依頼したが、これまた大當りで、郡部方面の人氣を煽ふるに十分だったが、本宣傳も同商會主の義侠によるもので、感謝の至りに堪へない。

宣傳總動員

第一回市内宣傳週間

市内宣傳については、各種臨機宣傳の外既に二回にわたる宣傳ビラ配布で殆んど徹底したかの觀もあつたが、昭和九年度第一期準備工作時代)掉尾の市内宣傳を行ふため、十二月一日から一週間を第一回吳市内宣傳デーと銘打つて、宣傳部總動員のもとに、

△市内各商店ショーウィンドウ及目抜街路に宣傳ポスターの掲載△宣傳ビラの配布

宣傳振作

を行ふことになり、部員を三班に分けて、博覽會廣告幕で飾つた自動車に分乗各自「國防と産業大博覽會」と染抜いた赤襷、或は同宣傳部と記した腕章等をかけ、市内本通、中通の主要街を蓋開けに、毎日市内各方面に出動、吉浦、警固屋、阿賀町及隣接廣村(長濱も含む)に順次宣傳の歩を延したが、いづれの班に於ても市民の注意を惹き、博覽會氣分をますます濃厚にして、豫期以上の効果を挙げ得た。

自動車宣傳隊

開期直前の劃期的一大宣傳行事として、自動車宣傳隊の縣下並近縣巡訪を行つた、自動車宣傳隊は先づ次の如く三班三コースに分け、

宣傳自動車は二臺を使用して國防博を象徴する種々な裝飾を施し、大擴聲機を取付けた電氣蓄音機を裝備して輕快な行進曲を奏でながら各市町村を訪問し、

町村に入れば車をとどめて吳小唄其他吳市で出來た俚謡或は有名歌曲の車上レコードコンサートを聞き、或は博覽會紹介のパンフレット、宣傳ビラ、宣傳マツチ等を配布したが、この催しは近縣では初めての催しであり、殊に交通不便な山農村方面にまで、難險を突破して宣傳隊が進軍したことは、その地方は勿論各方面から驚異的讚辭をうけ、宣傳上からも頗る効果をもたらした。

自動車宣傳隊の出發は、いろいろ日時を研究したが結局、三月十日の陸軍記念日を期し、第一次宣傳隊を繰出し廣島市の宣傳を皮切りに安藝一圓コースをとることになり、

十日午前六時 栗山理事、吉田、屋敷兩部員は、音楽係員と共に二臺の裝飾自動車に分乗して賑々しく吳市役所を出發、直ちに昭和、熊野、中野、海田市等町村を経て廣島市に至り、鐵路で出張した小田宣傳部長外宣傳別部隊と合して西練兵場に於ける各種記念催しの見物者に先づ呼びかけ、自動車隊は更に廣島市内各所を巡回して夕刻には

可部町に至り、翌十一日から更に

高田郡吉田、栗原方面、安佐郡龜山、飯室、鈴張、山縣郡壬生、八重、川迫、新庄、大朝、加計、戸河内、殿賀、筒賀、佐伯郡

吉和、四和、津田

と、各町村を歴訪、更に行程を島根、山口縣に移し、島根縣津和野、六日市方面から山口縣玖珂郡廣瀬村に出で、更に出合、南桑、河内、藤河村を経て岩國町に至り、瀬戸内海に添ふ山陽國道を麻里布、大竹、玖波、廿日市、五日市と歸還したが、之が行程は實に百五六十里に及び、第二班と交代した。

第二班は、十六日吳市役所出發、栗山理事、中谷、岡田兩部員で組織し、

賀茂郡廣村から三吳沿線を経て三原町に出で、糸崎、尾道、松永、福山經由備後奥に向ひ、府中、上下、庄原、東城、油木方面の難關も無事突破して岡山縣に出で、

倉敷、玉島、岡山市等で大宣傳を行ひ更に本縣に引返へし、そのまゝ第三班コースに入り御調郡三原町から

坂井原、久井、甲山、吉倉、三良坂と三次町に出で、更に赤名峠を越へて島根縣濱田町に向ひ、濱田方面町村を巡訪して再び三次町に歸へり、ついで甲立、吉川、川源、乃美、志和堀を経て八本松に出で、更に西條を経て黒瀬街道を一直線に廣村に歸還



自動車宣傳隊の出發

第二次宣傳隊は第三次コースもその儘進出したので、全行程は實に二百五十餘里を突破し、開會式直前の二十五日

午後二時、目出度吳市に歸着したが、約三週間に及ぶ本宣傳は、開會直前の催しとしては實に素晴らしい企てで、全縣下は勿論近縣町村の國防博氣分を醸成するに最も實効があつた。

珍案「西瓜取り」

現地宣傳の皮切りとして、吳市及廣島市附近の海水浴場十八ヶ所に、臨時的な立看板を設置した外、適宜宣傳用團扇、或は燐寸を配布したが、海水浴場經營者及これが後援者たる新聞社等とも連絡をとつて、數回にわたり私船を裝飾して西瓜を満載して現はれ、西瓜流し、或は寶探し等を催ほして海水浴客を喜ばせ、博覽會開催の第一印象を與へた。主なる海水浴場左の通り

藝南遊園地、狩留賀、濱崎、天應、小屋浦、高須、辨天島、龜石

石槌山へ大幟

白衣淨心の信者參拜一ヶ年三十萬人を下らぬ伊豫の國石槌山にある石槌神社の夏季大祭が七月一日から十日間執行せられ、吳地方からも多數信者の參拜があるが信者の近藤清八氏も參拜の節好意的に同山頂に宣傳看板掲出を申出られたので宣傳部では幅九尺長さ十八尺の大布看板を作製依頼した、同看板は山頂の社前に掲げられ、更に大祭後は同社武智社司、神社總代の好意で神社指定商人の店舗に掲げられたので、博覽會終了まで宣傳効果をあげることが出來た。

宣傳部出張所

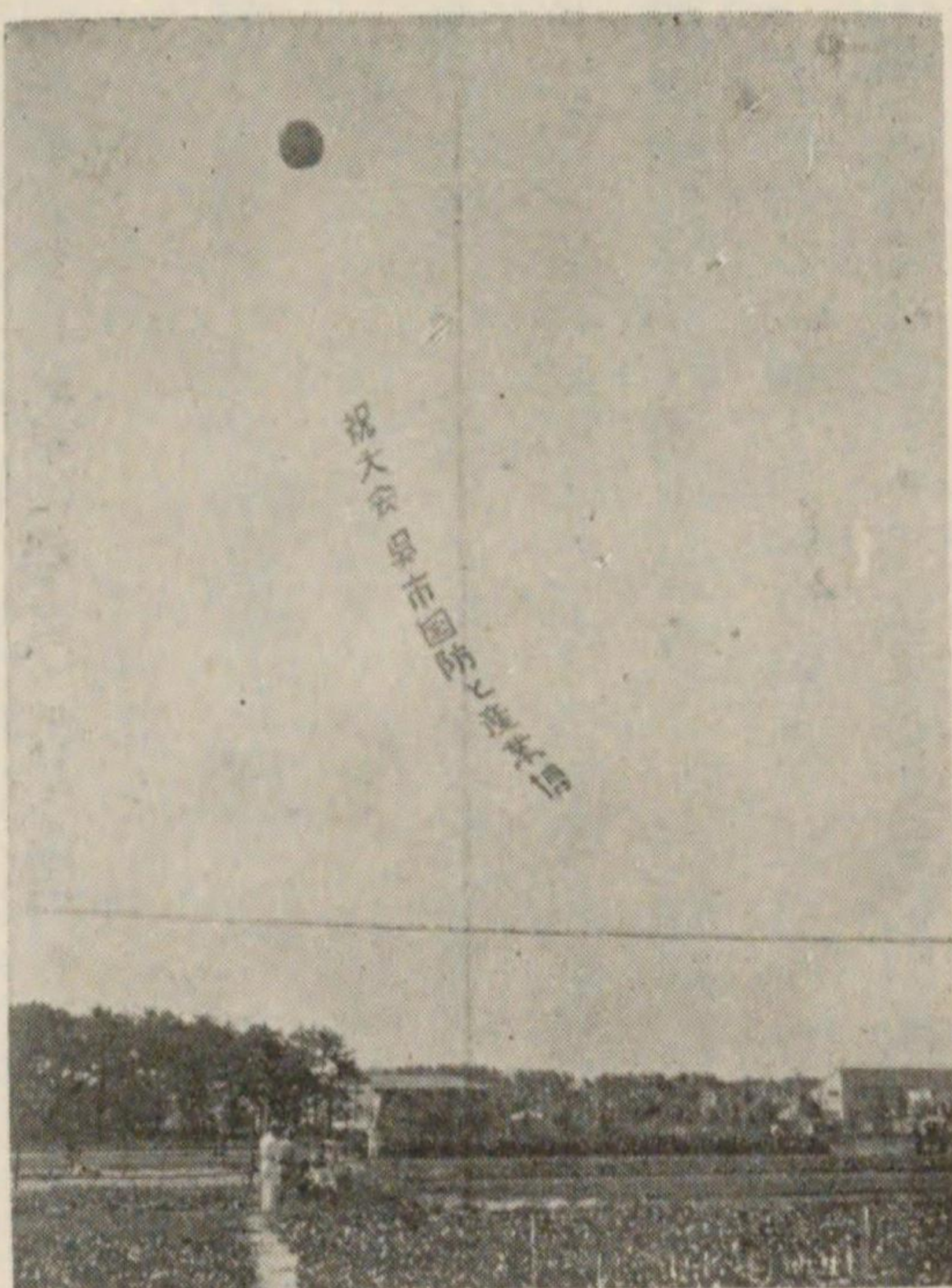
香川縣琴平町の琴平觀光案内所に本會の西部讃岐宣傳部出張所を設置、金比羅宮參拜者に直接宣傳を行ふと共に、香川縣下全般に亘り機會ある毎に宣傳を行つた。

甲子園野球宣傳

第一期宣傳の各事業を成功裡に終つた宣傳部では第二期宣傳の第一事業として、八月十二日から八日間大阪朝日新聞主催第二十回全國中等學校優勝野球大會が甲子園球場で開かれ、全國のファンを熱狂の渦中に投げ込む機會をとらへ、同大會を祝福すると共に大觀衆に國防博を印象づけることになり

直徑二十二尺の大輕氣球に、一文字八尺平方の「祝大會、吳市國防と産業博」の文字を浮かせて、球場附近の上空三百尺の所に

掲揚して先づ空から大會を祝福すれば



甲子園球場に浮ぶアドバルーン

甲子園球場では宣傳部理事栗山市會議員を團長とする吳港中學應援團數名は、本會特製「必勝の吳港」の濫團扇を手に手にスタンドから吳港中の人氣と國防博景氣を煽ふりたて、別に用意した宣傳用小團扇五千本、宣傳マッチ一萬個、宣傳用野球記録用紙二萬枚は、宣傳部出張員や應援團員の手で入場者に配布したが、遂に吳港中學軍は同大會に優勝するの榮冠をかち得て、大吳市の潑刺たる意氣をスポーツ謳歌の若人に問ふには充分なる効果をあげ

げ、「吳博宣傳」は甲子園の一名物とさへなつた、この計畫は蓋し第二期宣傳振作劈頭のクリン・ヒットであつた。

野球記録用紙配布

夏季に於ける納涼場其他の集會宣傳に力を注いだ本會では更に全國ファンを熱狂さす大朝主催の全國中等學校野球大會を利用することになり前項の如く甲子園に於ける本大會にはアドバルーンを掲揚、吳港應援團に依託して本會特製濫團扇の利用、宣傳カード、宣傳マッチ、團扇の配布等總ゆる角度から一般大衆の注意喚起に努めたが、本會とは最も密接な關係にある中國四國地方には一層馬力をかける必要がある、「けふは野球、明春は國防博へ」「吳市主催國防と産業大博覽會」「會期昭和十年三月二十七日から五月十日」等の宣傳文字を入れた實用的小型記録用紙七萬枚を作成、左記日時で開催された山陽、四國、山陰豫選大會へ小團扇、マッチ等と共に配布したが、一般ファンは思ひがけない本會宣傳軍の進出にいづれも吃驚すると共にヤンヤの喝采を博し十二分に宣傳の目的を達成することが出來た。尙同宣傳に際しては大阪朝日新聞吳通信部をはじめ、廣島、山口、

宣傳振作

高松、岡山、米子各通信局、同通信部に於て多大な御盡力をうけ本會の感謝する處である。

野球大會臨地宣傳日時場所

- 一、山口縣第一次豫選 (七月二十五日から三日間於山口高商球場)
- 一、廣島縣第一次豫選 (七月二十五日から三日間於廣商球場)
- 一、岡山縣第一次豫選 (七月二十七日から三日間於岡山醫大球場)
- 一、山陰地方豫選大會 (七月二十九日三十日於米子中學球場)
- 一、四國地方豫選大會 (八月一日から三日間於高松球場)
- 一、山陽地方豫選大會 (八月二日から二日間於山口高校球場)

大毎バス栗毛宣傳

人氣を沸騰させた大阪毎日、東京日日新聞社主催の東京下關間バス栗毛選手が八月十五日朝、三吳線沿線經由で來吳、吳方面からも歡迎自動車隊が出るので本會宣傳部でも「歡迎バス栗毛選手」と染抜いた裝飾幕を自動車に巻き、賀茂郡内海附近まで出迎へて、沿線並吳市内宣傳を併せ行つた。

新案宣傳行脚隊

先づお膝元の地盤堅めに成功した宣傳部では各班總動員で近縣各地に催された代表的行事へ、宣傳隊を繰り出し時にふれ、新趣考をこらして人氣を博した。その主なるものをあげよう

嚴島管絃祭及煙火大會

——昭和九年七月十七日——

參拜者の殺倒する前日から、係員により目拔の場所に奉納提灯アーチを設け、街路上數ヶ所にはこれまた博覽會の會期等現した染抜大幕を横に引き、或は高所より吊垂れて衆目を惹き、更に煙火プログラム、宣傳ビラ、宣傳用マツチ、同團扇等を配布したが、煙火大會に於ては特に會名、會期を表はす牡蠣火花を用ひて人氣を

煽つた。

大阪朝日新聞社主催全國中等學校優勝野球大會山陽一次、二次豫選 ——七月二十七日より七日間——

宣傳標語を入れたる小型記録用紙を數萬枚配布して、ファン諸君の喝采を博す。

大阪朝日新聞社主催全國中等學校優勝野球大會 ——八月十三日より八日間——

大會前日から、大會終了まで甲子園球場中空に目懸けて、會名および會期を表はした大アドバルーンを掲げし、本市から船出した吳港中學應援團には、それら會名等宣傳文字の入つた團扇を贈り、更に應援團員に依頼して、宣傳標語入りのスコア用紙を入場者に配布し、關西地方への呼び懸けに努めた。

縣下西條町主催中國盆踊大會 ——八月十七、十八日——

高さ二十四尺、六尺角の照明燈付大宣傳塔を會場入口に建て、更に大提灯を連らねたアーチを設けて先づ來會者の眼を見張らせ、紅地に白で國防博の文字を染抜いた裨がけの係員により、宣傳團扇、燐寸、或はチラシを配布したが、臨時列車で繰込む來會者に非常な感動を與へ得た。

廣島招魂祭、大轟進轉四十周年記念展、發明品展 ——十一月八日より八日間——

招魂祭場附近には七尺角——四十五尺の大宣傳塔を設け、廣島驛前商品陳列館には長さ四十尺の大垂幟を吊るした外、市内隨所に宣傳用幟を引張り、襟姿で繰込んだ宣傳隊は手に手に燐寸、小旗、シヨリ、其他の宣傳物品を配布し、或はこの機會を捉へて市内目抜き場所にポスターを掲出する等活躍目醒しいものがあつた。

山口縣防府町 松崎神社大祭 ——十一月二十日より三日間——

宮市の天神祭と稱して關西では有名な祭禮で見逃し難く、染抜幕、ポスターを隨所に掲げ、宣傳ビラ、燐寸等を配布した。

岩徳線開通式 ——十二月一日——

宣傳振作

宣傳振作

山口縣徳山驛より岩國驛間の新線全通に際し、徳山驛前及び町役場前に宣傳用染抜き幕を吊り、開通式場及び目抜通りに宣傳小旗を張り、當日は同町小學校兒童の祝賀旗行列に小旗を提供すると共に、宣傳用小カードを配布し、更に沿線玖珂町其他にはポスター小旗及び宣傳ビラを配布した。

道後温泉初子祭

——十二月七、八日——

參道に染抜き幕を張り、道後湯之町隨所にポスターを掲出し、宣傳ビラ及び燐寸を配布した。

中國新聞社主催福山廣島間驛傳競走

——昭和十年二月十一日——

自動車二臺に會名、會期を表はした、「祝驛傳競走」の幕を張り、福山市の出發點を始め各中繼所、廣島市決勝點に於てはそれ、祝意と博覽會の文字を表はした煙火を打揚げ、其他沿道には小旗及び宣傳ビラを撒布して、大會の景氣を煽ると共に、本會の宣傳に努めた。

松山市椿祭

——二月十二、十三日——

椿祭は松山地方に於ける最大な祭禮で、見逃し難い、本會では參道に照明燈付鳥居型宣傳塔二基を設け、隨所に染抜き幕或はポスターを掲出し、紅襷がけの係員は同地青年團員の應援を得て、宣傳ビラ、燐寸を參詣者に配布したが、參詣者も無慮數萬に及び効果百パーセントであつた。

西大寺會陽及會式

——二月十七日より一週間——

岡山縣西大寺の所謂裸祭で、天下の奇觀として全日本はもとより海外にまで知られたもので、この間の參詣者は十數萬、數十萬を算するといひ、各撮影會社、大新聞社等でも情景をトキーニュースに撮る等、大懸りなもので本博覽會としても、この種の宣傳對照としては最も重きを置き、先づ、式場附近の最も人眼を惹く場所を選んで九尺角高さ四十尺の大照明付宣傳塔を設け、同地青年團、在郷軍人有志の應援を得て燐寸、チラシを配付した外要所々々には染抜き幕、或はポスターを掲出して心ゆくまでの宣傳を行つた。

宣傳振作



尾道港祭へり宣傳隊

日露戰役三十周年記念陸軍記念日

——三月十日——

廣島市において盛大に執行される機會を捉え、廣島驛前其他に染抜き幕を吊り、宣傳隊員も繰込んで、宣傳ビラ或は燐寸を配布した。

大阪毎日新聞社主催全國中等學校選拔野球大會

——三月二十八日より八日間——

甲子園球場附近最も交通頻繁な箇所を選んで鏝型大廣告塔を建て、係員を特派し入場者を備入して入場者に、宣傳用記録用紙、或は燐寸、宣傳ビラを配布した。

尾道港祭

——四月一、二日——

市内目抜通りの要所に染抜き幕及びポスターを張り、豫ねて用意した、紅白のダンガラ布で陣羽織式に仕立てた揃ひの衣装で勢揃ひした二十五人のサンドウィッチマンはそれ、宣傳用看板を背負つて、同市商工會議所主催の廣告行列其他に参加して、觀衆からヤンヤの喝采を博したが、更に全市にわたつて宣傳マッチ、セロファンポスター、チラシ等を配布した。

別府市港祭

——四月四、五日——

尾道市に於ける宣傳を、その儘別府市に移したが、流石に遊覽地のことであり、各地方の人々の注意を惹き、頗る効果的であつた。

宣傳振作

岡山縣黒住教春季大祭

——四月六、七日——

市中にポスターを掲げ、教會附近には染抜幕を張つて參詣者の注意を集め、宣傳ビラ、燐寸の配布で人氣を呼んだ。

金光教春季大祭

——四月九、十日——

岡山縣金光町の金光教本部の大祭は當地方からも臨時列車數本が繰出されるといふ大祭である、本會では既に宣傳効果があがりつゝあるので、幾分の樂觀は得たが、尙宣傳の手は緩められないので、同町參道附近鐵道線に面した箇所へ、照明付鏝型大廣告塔を建て、更に參道數ヶ所へは染抜幕を張り、參拜者には例によつて宣傳マツチ、チラシを配布した。

三市共同宣傳協議會

本會および本會と期を同じくして開催する熊本市の新興熊本博では、更に兩市の間位置する湯の街別府市と共に、三市共同觀光コースを設定し、相互の連繫を保ち、阪神、東海方面の觀光客誘致を行ふことを申合せ、かねてから門鐵並に大阪商船に接渉中であつたが、いよいよ具體案を決定したので十月十一日、別府市に第一回協議會を開き、本市からは月形助役、山田勸業課長、仁田會議所副會頭、金子同書記出席、熊本、別府市からもそれぞれ係員出席した外門鐵から齊藤大分運輸事務所長、横山門鐵旅客係主任、安部別府驛助役、栗田東別府驛長、大阪商船から飯田別府支店長も出席、各市が持寄つた觀光客誘致に關する具體案につき協議した結果左の如く決議並に細目實行方法を取まとめた。

決議事項

昭和十年三月開會の新興熊本博覽會及吳市の國防と産業大博覽會の開期中兩市及び之が中央にある別府市は相互連絡を保ち觀客誘致に關する共同宣傳に努むること

- 一、別府—廣島間航路の汽船を吉浦港まで延長し吳、熊本の兩博開期中優秀汽船を該航路に廻航方大阪商船に要望のこと
- 一、兩博開期中阪神を基點として瀬戸内海經由吉浦港に至る臨時汽船就航方大阪商船に要望のこと
- 一、九州各線並に山陽本線主要驛に別府驛及廣島驛、吳驛を連絡驛とし、大阪商船別府廣島間航路を經由する荷客船車連絡切符發行方を鐵道當局並に大阪商船に要望すること
- 一、豊肥線列車のスピードアップ並に准急列車の新設および該列車内に於て擴聲機による沿線各名勝地の紹介方を鐵道當局に要望すること
- 一、大阪商船に對し兩博覽會開期中、阪神別府間、阪神吉浦間及び別府廣島間の航路乗船賃二割引の交渉をなすこと
- 一、吳、熊本、別府三市共同して宣傳施設を圖ること

の各條件を決定、その筋に要望することになつたが、最後の項に關しては更に次回に於て具體案を決定することとなつた。尙右の外協議題として

吳、熊本兩博覽會の共通入場券を發行し、兩博に於てこれが適當な割引をなし、なほ別府案内所でもこれを發賣しては如何といふ問題も出たが、本件は會計關係にも繁忙を來すおそれがあるので問題を保留して第一回會合を終へた。

第二回協議會

第二回三市合同協議會は十月二十九日、吳商工會議所で開催、出席者は吳市側、渡邊市長、

月形助役、山田勸業課長、足利、仁田會議所副會頭、稻葉同理事、熊本市、熊本博理事永野秀五郎氏、別府市、永松勸業課長、河村會議所理事鐵道側、渡邊廣島運輸事務所營業主任、平岡同旅客係、毛利吳驛長、熊野、中安同助役大阪商船側、岸田東洋課員、前野吳代理店代表で、先づ別府市に開いた第一回協議會に於ける諸議案に對する各經過報告の、

一、別府廣島間航路の汽船を吉浦まで延航、並に博覽會開期中優秀船を該航路に廻航方を大阪商船へ要望の件

は、大阪商船岸田東洋課員から三市の要望通り延長寄航し、優秀船の廻航については現在未定であるが頗る有望

宣傳振作

である旨言明され、大阪商船別府廣島間航路を經由する九州各線並に山陽本線主要驛相互間の荷客船車連絡切符發行方に關する鐵道當局および大阪商船に要望は、今後も引續き三市共同のもとに之が運動をつゞけ

一、共同宣傳用ポスター圖案 は各市持寄つたものにより審査を行つたが、一長一短あつて決定までには至らなかつたが、大體吳市提案のものを基礎となし、補訂ののち至急調製することになり

一、共同施設に關する件 は、關門附近に大廣告塔を樹て、會期中列車ガールを雇用して三市の景勝地および吳、熊本兩博を宣傳し、更に宣傳ビラ、パンフレット等を發行することに決定、更に前回保留となつた吳、熊本兩博共通入場券に就ては之を中止し、割引券を發行するだけにとどめて第二回協議會を打ち切り

引續き宣傳の具體的方法其他を打合せ、各分擔を定めて急速に各種案件に着手することになつたので、本會に於ても、直ちにポスターの補訂、大阪商船の優秀船の臨時就航要望等に着手、別項の如く大阪商船に於ては會期中厦門丸を増隻就航せしめ、三市共同宣傳ポスターも亦大阪凸版印刷に於て三千枚を調製、豫定通りの宣傳を行つた。

列車内でアナウンス

新しい宣傳手法として列車へガイドを乗り込ませて、乗客を吳へ誘致すべく計畫をしたが、乗り込みは困難な點があり、鐵道側の好意により、臨時車掌によつて乗客へアナウンスを試みた。

皆さんに御知らせ申上ます、只今吳市には約百萬圓の巨費を投じた「國防と産業大博覽會」が開催されて居ります、會場は二つに分れ第一會場は二河公園内に又第二會場は近代海軍の精銳を眼のあたりに眺め得る川原石海軍用地にあります、第一會場には産業本館、郷土産業館、軍需工業館、軍需工業別館、拓殖館、觀光館、教育館、體育館、農林水産館、本願寺門外不出の御寶物を開陳する本願寺館、滿洲館、朝鮮館、臺灣館、三吳線記念館、リンゲンス冒險曲技、子供の國、野外劇場、演藝館等又第二會場内には海軍館、陸軍館、軍事記念館、航空館、ラヂオ電氣館、水族館、日本製鐵館、國防戰史パノラマ館等があり特に魚形水雷發射水雷爆破等の實戰的作業の實施公開並に軍艦潜水艦の見學が出来ますことは非常な呼物となつて居ります博覽會の開期は五月十日迄でありまして入場料は第一、第二會場共通で大人四拾錢、小兒貳拾錢、現役下士官兵のお方は貳拾錢となつて居ります吳驛第一會場間は徒歩にて十五分、第一會場第二會場間は二十五分、第二會場吳驛間は十五分で乗合及貨切自動車の便もあります、吳線の分岐驛海田市から吳驛迄の運轉時間は約三十分であります以上御邪魔致しました。

サンデー毎日座談會

大阪毎日新聞社で發行する「サンデー毎日」編輯局では、昭和十年春、時を同じくして開催する横濱、神戸、熊



(てに社本毎大) 會談座催主日毎ーデンサ

本の各博覽會および本博覽會が智囊を搾つて主催する博覽會の特殊的な計畫、宣傳等について各主催者の秘傳を公開する座談會を昭和九年二月初旬大阪大毎本社で開催。同月十七日發行の「サンデー毎日」紙上に發表せられたが、全國に莫大な發行部數と、愛讀者を持つ同紙の記事は豫想以上の反響を呼び、本會宣傳上にも頗る有意義だつた。

同座談會には本會から山田總務部長、大谷工營部長、稻葉協贊會事務總長が出席したが、當時の追想の爲に本會關係記事を抜萃する。

非常時氣分の吳國防博

高原大毎學藝部副部長 非常時らしい特色がありさうな軍港吳に願ひます。

山田總務部長 私の方は十一年目に博覽會をやります、恰度、吳から三原に通ずる海岸線が開通の曉には大規模の博覽會をやらうといふ、多少準備をしてをったのであります、ところがわが國は國際聯盟を脱退し、また三五、六年の國際關係は非常に緊張してをりますので、もしかして鐵道の開通を待つて博覽會をやつてゐるうちに、戦争でも始まつたら、吳は博覽會騒ぎでもあるまいといふので(笑聲)むしろこれは國內全般に呼びかけ、國防意識を強調する博覽會を開催したらいふ軍港都市としての當然

宣傳振作

の責務をこの際果し、それから海軍方面にいろ／＼御厄介になつてをりますので、その謝恩もいたしたいといふことで計畫を立てました、吳は軍港地でありますから會場としましては第一會場は公園を使用し、第二會場として、海軍用地を貸して貰ひたいと願ひましたところが、今申しました通り國際關係が面倒になつたから、海軍は一朝有事の時には、戦時計畫といふものがあつて、その敷地を借るには困難を感じましたが、長官の大英斷をもつて、來年の三月から四月ごろまでなら貸してよからうといふことで、昨年博覽會が實行できるやうになつたので第一會場の海軍用地一萬五六千坪約二萬坪に軍需國防方面の陳列をすることになりました、それで國防と産業といふ名をつけました、第一會場の公園の會場には、各府縣の出品物を收容するので本館と呼ぶことにしまして、この坪数が千二、三百坪であります、博覽會は御承知のごとく、産業館の収入は幾らか上りますが、國防館は収入がなく支出許りで、経費が澤山要るやうな關係で、豫算七十萬三千圓であります。順序上、第一會場から申しますと、公園入口の産業本館には、各府縣の出品物、そこに千餘小間を設備しましたところが申込みが殺到しまして、最近では斷はるのに困つてをります、建て増してもいゝですが場所がありません、その他に海軍の關係上、軍需工業に特殊の關係がありますので軍需工業館、これは機械館のことです非常な盛況で、住友、三菱その他國內の大きな製造工場から殆ど皆出して貰ふことになり實は小間が足らずに困つてをります、それらが

特色ですが、その他に吳地方は宗教に熱心で、本願寺の門徒

が非常に多い關係から本願寺館(笑聲)といふものを計畫しました、これは本願寺の御援助を戴きまして、畏き邊りからの御下賜品とかあるひは歴代上人の遺品をはじめ門外不出の國寶などを御出品下さることになつてをります、殊に本願寺は日露戦争で國防方面に盡くしたので、明治大帝より勅語を賜はつてをります、それをできることなら一般の信者に拜觀させたいといふ意向もあります。その他に親鸞上人等高僧の一代記をパノラマ……パノラマをやりますのは相當面積がいりますので、本願寺館は餘ほど大きな計畫になつてをります、私どもでは、餘興で客を引かなくてもいゝと考へましたが近ごろ餘興が流行のやうでございいますから、横濱の方から話がありました、百廿尺の高所から跳び降りる今カルカッタで興行してをり、二月にマニラでやり、マニラからこつちに引つ張り寄せる計畫をしてをります。第二會場は、吳の博覽會の呼び物として、かつまた一九三五、六年の國防關係をハッキリ認識させようといふ計畫であります、恰度軍港の中に飛び出した一角に陳列をやり、そこで海に向つて、本もの、魚形水雷の發射を見せたり、火薬を使用して水雷爆破をやり、百五十尺も水を打ちあげる壯觀を實演したり……海軍は潜水艦をみせるのを嫌つてをりましたが、潜水艦を海岸に引揚げて、陸上から潜水艦を見られるやうな設備にしまして、會期中は第二會場から軍艦の見學をやるといふことにしたい、殊に博覽會期中に聯合艦隊が寄港することになつてをりますの

宣傳振作

で、大きな艦が何十隻もまゐりますから、第二會場から壯大なところが眼前に見られます、博覽會としては軍艦拜觀に辭を出して便利をはからうと思ひます、それから館の内容は一等大きいのは海軍館、陸軍館、航空館の三館で、總坪数が千二、三百坪、産業本館と殆ど同じ坪数で、こんな大きな國防館を計畫したのは日本ではまだ初めらしい、はじめ海軍の方でもそんな大きな國防館を計畫しても出品物が集まるまいと心配してゐましたが、最近になつて、海軍の御後援と第五師團の御援助によりまして、出品物が多過ぎて百五十坪程足りないほどになつてをります、海軍館の方の催物としましては、まづ會場入口に大きな池を作り、その中に米國海軍の輪形陣—戰艦を中において、小さい艦を外側におき、哨戒しながら行動する輪形陣の模型を作つてをります、軍艦の長さを三寸にしても五十坪要ります。

高原副部長 模型戦争ですか。

山田總務部長 さよう、その模型を作つてみせる、そとがは日本の戦艦が無電装置でもつて海の中を行動するやうな設備をする。

高原副部長 それで、外國人を歓迎されますか……スパイもは入り込むことでせうね。

山田總務部長 外人は見るだけはない、海軍の用地に入ると警戒されます、その他にまだ七トン半の砲塔の模型があります、精巧なものでこれは確かにびつくりするだらうと思ひます、それから上海事變で、いはゆるシヨートの飛

行機を射落した、あの海軍の飛行機戦争の模様を電氣でもつて行動するやうにしたい、それから方位盤射撃といふのがありまして、これは觀覽者が砲術長の部屋にをつて、艦内の主砲を一齊に射撃する方位盤射撃、それを模型によつてやらせる仕組で大分大掛りです、その他電氣應用の戰艦狀況燈火管制また海兵の生活の大場面、さういつた風で大變充實した計畫をやつてをります、また潜水學校から、徳川時代の潜水器を出して貰ふはずでグロテスクなものです、陸軍館は第五師團から、他に見られないやうな立派なもの、移動式井戸掘機械だとか、湯を沸かす車とか變つたものが出るやうであります、航空館でははだかの飛行機と着物を着た飛行機、はだかの飛行機で最近の海軍機の内容がよく説明してあり、着物を着た方は機關銃から實際彈丸が出るやうな状態にしてあります、それから爆彈の威力とかその他いろいろ新しいものが澤山あります、また軍事記念館、これは海陸軍あるひは戰役に關する歴史館みたやうなもので、東郷元帥、乃木大將のお居間の状態、その他宮内省からの御貸下げのもの、橋中佐、廣瀬中佐、その他の將軍の遺品を陳列できるやうにしてあります、それから上海事變で支那軍と日本軍との間にあつて彈丸があたらないかつたといふ彈丸除地藏尊を軍事普及部の方から貸してくれることになつてをります。

宮内氏 吳は要塞地帯で、外人に宣傳できませんね。

高原副部長 宣傳の寫眞もむつかしいですか。

山田總務部長 面倒です、許可を得ればなんでもないので

宣傳振作

すが。
 高原副部長 外國人を呼びたくなし、お客様は来て欲しい
 矛盾しますね。

山田總務部長 外國人には私の方は関係はない、たゞ警察
 と憲兵隊の方が……

高原副部長 一々尾行されては困るでせう(笑聲)

山田總務部長 吳には宗教關係の外人が澤山をりますが、
 一々憲兵が尾行してをるわけではありません。

宮内氏 寫眞を撮つてはいかん、寫眞を撮るならば許可を
 得よと、この館の便利なところにわかるやうな方法をとつて
 やれば非常にいゝことなんですがね。

山田總務部長 それはやります。

高原副部長 ツーリスト・ビュローとしては外人に宣傳
 なさいますか。

宮内氏 私の方ぢやいけないです、折角やつて、要塞地帯
 で寫眞を撮つたりして問題にされるとえらいことになるん
 ですからね。

大谷工務部長 寫眞は軍港要塞の規則によつて、撮る前に
 許可を得まして、それから撮る、かういふ形式になつてを
 ります。

山田總務部長 活動寫眞は絶対にいけない、それは私の方
 でも宣傳しようと思つてをります。

觀客誘致

山田總務部長 吳では聯合艦隊が入りますから、陸戦隊を

繰込んで貰ふことにしてをります、軍樂隊も出して貰ひ、愛
 國精神をあふつて見たい、三月二十七日は國際聯盟脱退の日
 ですから、その日を選んで開會したいのです。

宣傳について

山田總務部長 私の方の宣傳部長は教育課長がやつてをり
 まして、神經過敏の人で、宣傳はいたれりつくせりで、小學
 校で作文に作らせたリ繪をかゝすことは勿論やつてをります
 子供に年賀状もやらせました、繪はがきも何回も何回も追注
 文で百廿萬枚出ました、その他にあらゆることを利用して、
 吳港中學が野球が強いから利用して宣傳しました、これから
 さきは近縣中國筋を自動車で會期中大聲でどなつて廻らうか
 というてをります(笑聲)

稻葉事務總長 吳では、輕快な服裝をした列車ガールを汽
 車の中に乗込ませて宣傳をさせる、もう一つはサーヴィス講
 習會をやつてをります、これは接客從業婦即ち藝妓とかカフ
 エーの女給、飲食店の仲居などで、吳には五千人以上ばかりを
 ります、もう一つは協賛會マークを十萬個注文しまして、小學
 校の児童をはじめ誰でも博覽會を禮讚し佩用する、單價七錢
 です、それから協賛踊りといふものを新らしくやる、會期中
 觀客を接待する意味で市民運動として踊りをやらうといふこ
 とにしてあります、これらは變つた催しと思ひます。

高原副部長 いろ／＼伺ひまして、お互に參考になつたと
 思ひます。ではこれくらゐで。(終)

出品勸誘

出品勸誘の目標

本會は趣意書の卷頭に示す如く「富國と強兵」の二元に立脚する日本精神の強調を主目的として開いた博覽會であるから、その出品内容は從來の博覽會の如く、一時的な地方振興策のため、或は事業完成記念のため等のものとは自から趣を異にし、出品の蒐集方面も亦その軌を異にして、國防に關するものに先づ主きを置いた。

即ち海陸軍省、吳鎮守府、第五師團の絶大な積極的御後援と直接御指導により、本會としても最善の注意と努力を傾注した、め破天荒の成果をあげ、軍艦及潜水艦の特別拜觀を許された外第二會場に設けた海軍館の如きは我國未曾有の大海軍館として海軍の大量出品を仰ふぎ、陸軍館、航空館また國防博の名に叛かぬものたらしめ、更に第一會場に設置した軍需工業館は我國重工業界を總動員した大機械工業館としてデビューしたが、之等各館の出品物は、我國防の實體を直觀せしめる必要上、いづれも立體、動的なものを選び、科學萬能時代に相應しい陳列をしたので、來觀者は興味深いうちに充分我國防の偉觀を再認識することが出來た。しかし科學的國防智識の普及は本會の目的の一面に過ぎず、精神的國防觀念の涵養を併せ行つて初めて本會の趣旨も完全に遂げられるもので、日本精神作興に資するため記念館に於て、また第一會場本願寺館に於て、心の國防を唱導した。

しかしながら、現下世界の經濟界の趨勢は頗る鋭化し、我國も國際聯盟を離脱してからは列國の經濟的重壓のうちにあるが、敢然起つて國産の振興を強調し、兵備の擴充と相俟つて一意國權の伸張に努めてゐる。富國と強兵の日本精神を強調する本會は國防關係に於ては前述の如く未曾有の盛觀を誇つたが一面産業方面に於ても亦商工省

出品勸誘

出品勸誘

御後援のもとに産業本館、郷土産業館、農林水産館、拓殖館等を經營し、全日本の優良國産品を、網羅すると共に満鮮、臺灣、南洋方面各殖民地に於ける邦人企業的全貌を蒐めて、今や世界市場を征服しつゝある我國産業界を大觀せしめて、國家興隆に資し、郷土産業館を特設して今や隆々たる發展を示しつゝある本縣下特産品を展觀した事は特に衆目を惹いた。

本會の出品勸誘はこうした良心的な目安のもとに成されたのである。

出品取扱主任者決定

本會出品物の勸誘に就ては、博覽會會長の概括的一般勸誘文書、各施設館毎に行ふ文書勸誘、直接折衝による出張勸誘等總ゆる方法を講じたが、更に徹底せしめるため各館に於ける出品物收容力、出品種目等については専門智識を有する主任者によつて、出品物の整理を行はすため左記の通り各館の施設及び主任者を選定し、その分掌統制により専ら事務進捗を圖つたので、準備事務は日々進捗して昭和十年三月二十七日の開會式當日は全館全部の出品が出揃ひ、この種博覽會の通弊として喧傳される出品不揃の例を完全に一掃することが出来た。

館名

主任者職氏名

産業本館	廣島縣産業獎勵館長	峯松眞三郎
郷土産業館		
農林水産館		
拓殖館		
軍需工業館	吳市主事 海軍大佐	水野熊雄
全別館		

教育館	吳市教育課長	小田福松
體育館		
觀光館		
本願寺館	吳市稅務課長	谷本琢哉
海軍館	吳市軍事課長 海軍大佐	大窪博
陸軍館		
航空館	吳市主事 海軍中佐	守武幾雄
軍事記念館	吳市職業紹介所長	井上浩
臺灣館	廣島縣産業獎勵館長	峯松眞三郎
滿洲館		
朝鮮館	吳市稅務課長	谷本琢哉
日本製鐵所館		
水族館	廣島縣水産會技手	野口壽一

出品規程

- 第一條 出品ノ申込ハ府縣市又ハ之ヲ地域トスル團體ニ於テ之ヲ取纏ムルモノトス但シ本會ニ於テ必要ト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ス
 - 一、衛生、風俗ニ害アリト認ムルモノ
 - 二、發火其ノ他危險ノ虞アリト認ムルモノ
- 第三條 前各號ノ外出品ニ適セスト認ムルモノ
- 第四條 本會ハ出品物ノ審査ヲ行ハス
- 第五條 出品人ニハ感謝狀ヲ贈呈ス出品人ニシテ産業上特ニ功勞アリト認ムルモノアルトキハ別ニ特功狀ヲ贈呈スルトアルヘシ
- 第六條 出品人鑑査ノ申込ヲ爲シタルトキハ鑑査規程ニ因ル

出品勸誘

出品勸誘

鑑査ヲ行ヒ其ノ優良品ハ國產振興部トシテ別ニ陳列スルモノトス

前項鑑査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 出品物ノ陳列ハ府縣又ハ市別トス但シ特殊ノモノニ限リ部類別ト爲スコトアルヘシ

第七條 出品陳列場所及小間數ノ割當ハ本會ニ於テ決定ス

第八條 出品物ノ陳列場所使用料ハ左ノ通定ム

- 一、館内土地使用料 四拾圓
- 一、陳列棚使用料
 - 壹小間〔間口六尺〕特等 四拾圓
 - 〔間口三尺〕一等 參拾五圓
- 一、陳列臺使用料
 - 壹小間〔間口六尺〕特等 參拾圓
 - 〔間口三尺〕一等 貳拾五圓

前項陳列小間中角小間及特殊施設ニ要スル土間ハ該當料金ノ參割増トス

第九條 前條ノ使用料ハ總テ前納トシ其ノ使用ノ取消又ハ減少シタルトキト雖既納ノ使用料ハ之ヲ返還セス

第十條 出品人ハ陳列場所ヲ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得ス

第十一條 館内ニ於ケル裝飾ハ陳列ノ鴨居ノ上端ヨリ垂高ニ四尺平面ニ二尺以内トシ旗、幟、額等ハ通路又ハ他ノ妨害トナラサル様設備スヘシ

第十二條 左ニ掲ケル出品又ハ設備ヲ爲サムトスル者ハ豫メ申込書ニ仕様書及設計書ヲ添エ提出シ本會ノ承認ヲ受クヘシ、仕様又ハ設計ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前條ノ期間内ニ陳列其ノ他ノ設備ヲ完了シ本會ニ引繼キタルトキハソノ出品關係取扱者ニ對シ第八條ニ依ル使用料ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ獎勵金トシテ交付ス

第二十三條 出品物本會々場ニ到達シタル後該出品人又ハ其ノ取扱人ニシテ第二十一條ノ期間内ニ處理セサルトキハ之ヲ場外ニ搬出シ又ハ倉庫ニ寄託スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ出品人ノ負擔トス

第二十四條 出品物中直ニ補充陳列シ得ルモノニ非サレハ即賣品ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 出品物ノ補充交換又ハ價額ノ變更ニ付テハ其ノ都度出品目録及出品臺帳ヲ提出シテ本會ノ承認ヲ受クヘシ

第二十六條 出品物ノ陳列及裝飾ヲ本會ニ委託セムトスル者ハ第五號様式ノ委託證ヲ差出スヘシ

前項ノ陳列及裝飾ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トス

第二十七條 出品物ノ賣約及即賣ハ總テ本會ニ於テ之ヲ行ヒ出品人自ラ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十八條 出品人ハ賣約又ハ即賣シタル出品物ニ付其ノ價額ノ百分ノ五ヲ手数料トシテ本會ニ納付スヘシ

第二十九條 販賣シタル出品物ハ左ノ各號ニ依リ取扱フ

一、即賣品ハ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

一、賣約品ハ其ノ價格十圓未滿ノモノハ代金ノ全額十圓以上ノモノハ代金ノ三割以上ニ相當スル手附金ヲ徴シ夫々賣約證ヲ交付ス

賣約品ノ交付ハ會期終了後三日以内ニ賣約證及殘金引換ニ之ヲ行フ

前項ノ期間内ニ賣約品ノ引取ヲ爲ササルトキハ解約シタ

出品勸誘

一、重量物ニシテ基礎工事其ノ他特別ノ裝置ヲ必要トスルモノ

一、運轉ノ爲電氣、瓦斯、水道ヲ必要トスルモノ

一、特別ノ建設物又ハ特殊ノ陳列ヲ必要トスルモノ

第十三條 出品物ノ荷造、運搬、陳列裝飾及前條ニ要スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス但シ本會ニ於テ特ニ指定シタル出品物ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 出品人ハ本會ノ承認ヲ得ルニ非サレハ本會ノ施設物又ハ土地ノ形狀ヲ變更スルコトヲ得ス

第十五條 出品人陳列場所使用申本會ノ營造物其ノ他ノ設備ヲ毀損シタルトキハ本會ノ指揮ヲ受ケ直ニ原形ニ復スヘシ

第十六條 出品人ハ會期中猥リニ陳列場所ヲ閉鎖シ又ハ出品物ヲ撤去スルコトヲ得ス

第十七條 本會ニ出品セムトスル者ハ第一號様式ノ出品申込書ヲ昭和九年十二月二十日迄ニ差出スヘシ

第十八條 出品ノ申込ニ對シテハ昭和十年一月三十一日迄ニ會長ヨリ其ノ諾否ヲ通知ス

第十九條 出品承諾ノ通知ヲ受ケタル者ハ昭和十年二月十五日迄ニ第二號様式出品目録一通ヲ同年三月十日迄ニ第六號様式ノ出品臺帳三通ヲ本會ニ差出スヘシ但シ本規程第五條ニ依リ鑑査ヲ受ケムトスルモノハ第三號様式出品解説書二通ヲ出品目録ト同時ニ差出スヘシ

第二十條 出品物ニハ總テ本會ヨリ交付シタル第四號様式ノ傳票ヲ添附スヘシ

第二十一條 出品物ハ昭和十年三月十日ヨリ同月二十四日迄ニ搬入陳列ヲ完了スヘシ

ルモノト看做シ手附金ヲ出品人ニ交付ス

第三十條 本會ニ於テ出品物撮影模寫又ハ印行スルコトアルモ出品人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

出品人ハ本會ノ承認ヲ得ルニ非サレハ攝影又ハ模寫スルコトヲ得ス

第三十一條 出品人ハ普通出品物ニ在リテハ閉會後五日以内自營工作物ハ十日以内ニ之ヲ撤去スヘシ

出品人前項ノ期限内ニ其ノ撤去ヲ爲ササルトキハ本會ニ於テ之ヲ代行シ其ノ費用ハ出品人ノ負擔トス

第三十二條 出品物ヲ搬出セントスルトキハ本會所定ノ搬出證ヲ携帶スヘシ

第三十三條 出品物ノ撤去搬出又ハ返還ヲ本會ニ委託セントスル者ハ閉會五日前迄ニ書面ヲ以テ申出スヘシ其ノ費用ハ出品人ノ負擔トス

第三十四條 本會ハ出品物ニ對シ保險ヲ附セス但シ出品人ハ自己ノ負擔ニ於テ保險ヲ附スルコトヲ得

第三十五條 本會ハ出品物ノ保全ニ對シ相當ノ注意ヲ爲スト雖モ火災、盜難、毀損、亡失、雨漏、其他ノ不可抗力ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ其ノ責ニ任セス

第三十六條 出品人本規程及其ノ他ノ規程ニ基ク義務ヲ履行セサルトキハ本會ハ適當ノ處置ヲ爲シ之カ爲メ費用ヲ要スル場合ニ於テハ出品人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十七條 出品人ハ其ノ使用人ノ行爲ニ付イテモ其ノ責任スルモノトス

附則

本規程ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

出品勸誘

(第一號樣式)

府縣市	受附	昭和	年	月	日	係
		第	號			

(第一號樣式)

出品申込書

注意

- 一、摘要欄ニハ土間及土地ニアリテハ動力瓦斯ノ要
- 一、不要水量等簡單ニ記入サレタシ
- 一、本申込書ハ昭和九年十二月二十日限り差出サレ
- 一、本目録ハ昭和十年二月二十日限り差出サレ

府縣市	受附	昭和	年	月	日	係	
		第	號				
吳市主催 國防と産業大博覽會長殿	右貴會ノ諸規程ヲ承認シ出品致度此段申込候也	館別					
		出品物					
		陳列棚	小間				
		陳列臺	小間				
		館内土地	坪				
		小計					
		摘要					
		氏名	(商略)				
		住所	(電話)				

出品勸誘

(第二號樣式)

府縣市	受附	昭和	年	月	日	係
		第	號			

(第二號樣式)

出品目録

注意

- 一、本目録ハ二通調製差出サレタシ
- 一、本目録用紙ハ本會調製ノモノ若クハ同一寸法様式ノモノニ限ル
- 一、本目録ハ昭和十年二月二十日限り差出サレタシ

府縣市	受附	昭和	年	月	日	係	
		第	號				
吳市主催 國防と産業大博覽會長殿	吳市主催 國防と産業大博覽會長殿	番號	一	二	三	四	
		品名					
		數量					
		單價					
		小計					
		賣約、即賣、非賣、參考品ノ別					
		氏名	(商略)				
		住所	(電話)				

出品勸誘

(第三號樣式)

(第三號樣式)

出品名	事業創始	事務所	工場所在地	原料種類及產地	製造方法	外國品ヲ用ヒタル部分アルトキハ其内容	製品ノ種類及特徵	製品ノ種類及特徵	一ヶ年ノ生産數量	一ヶ年ノ生産額	販賣先	内外博覽會褒賞ノ内容	鑑査請求ノ主眼	其他參考事項
	住所	職業	(出品人氏名)											

右ノ通りニ候也

昭和 年 月 日

吳市主催 國防と産業大博覽會長殿

右

印

出品勸誘

(第四號樣式)

(第四號樣式)

館	號	品名	價格	出品人住所	氏名	摘要
			金圓錢			

吳市主催國防と産業大博覽會長殿

(第五號樣式)

(第五號樣式)

〔非賣品、參考品及即賣品ノ別ニ夫々其ノ旨摘要欄ニ朱書サレタシ〕

館	號	品名	價格	住所	氏名	摘要	看守人
			円				

委託證

貴會ニ出品候ニ付テハ出品規程第二十六條ニ依リ出品物ノ陳列及裝飾ヲ委託候也

昭和十年 月 日

出品人住所

氏

名 印

吳市 國防と産業大博覽會長殿

出品勸誘

			番號	市 府 縣	氏 名				
			品 名						
			數量						
			單 價 円						
			價 額 円						
月日	數量	印	月日	數量	印	月日	數量	印	販賣整理欄
			販賣數量	合 計 欄					
			販賣金額 円						
			印合引	殘品引					
			渡點數						
			備 考						

(第六號樣式) 即賣品臺帳

出品勸誘

			番號	市 府 縣	氏 名			
			品 名					
			數量					
			單 價 円					
			價 額 円					
			額	賣約品別	非賣品別	參考品		
月日	數量	印	月日				數量	印
			販賣數量	合 計 欄				
			販賣金額 円					
			印合引	殘品引				
			渡點數					
			備 考					

(第六號樣式) 賣約非賣參考品臺帳

出品勧誘

第一回依頼状發送

出品勧誘の成否は博覽會の目的達成上重要な鍵を握り、宣傳と共に先づ之が方策を樹て全力を傾注せねばならぬ、殊に博覽會開催地としての本市は國內主要産業地域とは稍々遠隔の位置にあるので、特に勧誘に努力を要するるので先づ各員の精勵を促した。

渡邊本博覽會長より 昭和八年十二月二十六日本會の開催を決定すると同時に趣意書、出品規程、其他規程計畫概要等を印刷に附すると共に、準備委員は晝夜兼行で諸準備を急ぎ、印刷物の出來上るのを待ち、昭和九年二月十一日先づ前哨戰として左記の文書に火蓋を切つたが、之が勧誘範圍も全國各府縣市、殖民地を初め縣下各市町村、各種公私團體に及んだ。

拜啓愈よ御清祥奉慶賀陳者曩に得貴意候當市主催の下に明春三四月に亘り開催可仕國防と産業大博覽會に關しては種々御高配を煩はし奉深謝候以御蔭其準備も着々進歩致居候間追而詳細御報告申上べく候へ共何分當地方空前の大規模に候へば之が成功は一に各位の絶大なる御援助に俟つの他無之候就而貴地當業者に對し精々出品御勧誘被下本會に一層の光彩を添へられ度は勿論目下豫算時期と被考候間明年度貴豫算に對して出品費御計上方特に御配慮相蒙り度重而此段御依頼迄得貴意候 敬具
追而簡略なる圖面及要項等別紙同封仕候間御一覽相願度申添候

昭和九年二月

吳市長 渡邊 伍

要項

- 一、會期 自昭和十年三月二十七日 至同 五月十日
- 一、會場 吳市

一、出品種類

- 一、國防資料 一、農林鑛産品 一、飲食料品
- 一、水産品 一、染織工業品 一、化學工業品
- 一、製作工業品 一、機械工業品 一、美術工藝品
- 一、國産貿易品 一、觀光資料 一、交通資料
- 一、教育學藝品 一、保健資料 一、各種參考品

一、陳列館 四千五百坪

一、陳列小間 二千八百九十七小間

一、諸期限

- 一、出品申込 昭和九年十二月二十日
- 一、特設館及賣店申込 同 十一月三十日
- 一、出品目錄呈出 昭和十年二月十五日
- 一、出品物搬入 同 三月十日
- 一、出品陳列 同 三月十五日
- 一、出品陳列完了 同 三月二十四日

一、參加資格

- 一、内地は各府縣市又は之を區域とする團體に於て取纏めのこと
- 一、賣店經營は出品者に限る

一、出品

- 一、出品物は即賣品、賣約品、非賣品及參考品に分つ

一、陳列

- 一、各府縣別

出品勧誘

出品勸誘

軍需工業館特別依頼狀 然も本會の文書勸誘に當つては博覽會當局としての一般勸誘の外、之が徹底萬全を期するため各施設館毎にも行ひ、事務總長自から之が指導位置にあつて各館責任者を督勵して、各館の完備を期すると共に現下の嶄新、天下の珍奇を蒐集するに非常な苦心を費した。之が一例を示せば、海、陸軍方面の絶大な御後援で前古未曾有の大國防館を設營し得た本會では、國防に重大役割を持つ我重工業界の全貌を示すため大軍需工業館を設け、我國軍需工業會社總動員の出品に成功したが、同館出品勸誘も左記の如く總ゆる方面から接衝を進め努力を拂つたものである。特に吳鎮守府松崎少將の名により各軍需工業品の出品に關し依頼狀の發せられたことは本會の權威を高めるものであつた。

謹啓 時下盛夏の候益々御清穆の段奉慶賀陳者別紙趣意書の通昭和十年陽春の候を期し國防と産業大博覽會を開催し國防資料及内外産業の現狀を展示し以て我國産業の興隆發達を誇ると共に將來の進展と啓發に資し併せて國際危局に直面せる非常時に際し國防の重要性を汎く天下に呼號せむとす而して此目的達成の爲めに吳鎮守府並に左記顧問の絶大な御後援の下に地方稀に見る大施設を着々計畫中有之候處更に錦上花を添ふる主旨に於て民間軍需工業界の爲めに特に大規模の軍需工業館を特設し軍需品生産業者の進展を得て名實共に國防と産業大博覽會たる特色を發揮すると同時に軍都の主催として他の企及し能はざる獨特の光彩と内容を具有せしむると共に此機會に貴社(店)生産品の特長と眞價並國家的重要工業たる價値と名譽を天下公衆に紹介致度希望に有之候
庶幾くは本會の趣旨に御賛同被成下奮て御出品を賜り本會をして豫期以上の成績を收めしむべく特別の御援助に預り度切望に堪へず候此段御依頼旁々得貴意度如斯御座候

昭和九年七月二十日

國防と産業大博覽會長
吳市長 渡邊 伍

吳博第五一三號

昭和九年十一月一日

國防と産業大博覽會長
吳市長 渡邊 伍

軍需工業館へ御出品御依頼

秋冷の候益々御清穆爲邦家祝上候陳ば曩きに御依頼申上候通り本市の博覽會は時節柄
一、國民精神の作興
一、國防智識の普及
一、産業の發達、獎勵、促進
を企圖仕り海軍、陸軍、商工三省吳鎮守府の絶大な御後援を得て着々準備中に御座候就ては非常時局の際我軍部の背後に卓越せる軍需工業諸會社の嚴存することを實物展示に因り國民に知らしむるは頗る意義ありと信じ候特に軍都吳に深き御縁故を有らせらるゝ貴社の御出品を切望致し居る次第に候本館は四百數十坪の大特設館にして全館悉く軍需工業に關するものゝみを網羅し、吳博に於てのみ見得る人氣集中の一異彩館たらしめんと努力中に御座候就ては貴社御所要の面積及小間數至急申込み被下度願上候何れ不日本館擔當者出向懇請可任も不取敢御願旁々得貴意候 敬白

出品勸誘

- 一、館内土地使用料 一坪 四十圓
- 一、陳列棚使用料 一小間 (間口六尺) 特等 四十圓
- 一、陳列臺使用料 一小間 (奥行三尺) 特等 三十五圓
- 一、前項陳列小間中角小間及特殊施設ヲ要スル土間ハ當該料金ノ參割増トス 特等 三十五圓
- 一、所定期日迄ニ陳列終了セバ右ノ十分ノ一ヲ獎勵金トシテ交付ス 一等 二十五圓

(爲御參考)

出品勸誘

松崎吳鎮守府委員長より

拜啓初冬の候愈々御清穆の段奉賀候
陳者來春開催に確定したる吳市主催國防と産業大博覽會に對しては吳鎮守府は勿論海軍省に於ても大に後援せられ此が成功を期待致居る次第に候
就ては特に建設する軍需工業館出品方に關し同會長より懇請有之候節可然御執成方御依頼申上候

昭和九年十二月七日

吳鎮守府地方博覽會委員長
吳海軍人事部長 海軍少將 松崎伊織 殿

出品勸誘班總動員

文書による出品勸誘を前哨戰として火蓋を切つた本會では、總ゆる方法、機會を捉えて着々と効果をあげるに努め、種々なる經驗と研究の結果は、出品成績の正確、迅速を期するには「直接折衝によらなくては徹底しがたい」といふ結論に到達したので遲滯なく出品勸誘班を組織し、渡邊會長自から之が陣頭に立ち理事總動員で左記分擔により各責任區域に派遣し、本市の現勢を説き

博覽會開催の趣旨、會期、會場（位置總坪數）豫算、會場施設、出品種類、陳列小間數等親しく説明勸誘宣傳に努めたので、豫期に叛かず出品成績を挙げ得た。

即ち渡邊會長は先づ野村囑託、新谷書記を隨へて六月二十一日吳發、京阪地方を経て東京市に至り、主なる官公署、會社、團體を歴訪して後援出品方を懇請したが、更に理事總動員の勸誘班も夫々七月上旬から五日乃至十日間の豫定で責任區域へ出張した。

出品勸誘

地方別		勸誘員		府縣名		小間數		及割當小間數	
地方別	班	勸誘員	府縣名	小間數	及割當小間數	名	數	名	數
東海地方	第一班	岡本 木本 八木 灘田 中野 出本	岐阜縣 愛知縣 靜岡縣	一〇 五〇 二五	岐阜、大垣 一宮、名古屋、豐橋、岡崎、瀬戶 靜岡、濱松、沼津、清水	一〇 五〇 二五			
近畿地方	第二班	三藤 久保田 富田 富島 富原 篤原 長原	奈良縣 和歌山縣 兵庫縣 大阪府	一〇 一〇 四〇 一三〇	奈良 和歌山、海南、新宮 神戸、西宮、尼崎 大阪、堺、岸和田	一〇 一〇 四〇 一三〇			
近畿地方	第三班	大林 室津 加藤 藤津	京都府 滋賀縣 三重縣	五〇 一〇 一〇	京都、伏見 大津 津、四日市、松坂、宇治山田	五〇 一〇 一〇			
山陽地方	第四班	舟木 大木 宮下 尾山 若山 堀山	廣島縣 岡山縣 兵庫縣 鳥取縣	四〇 一五	廣島、尾道、福山 倉敷、岡山、津山 姫路、明石 鳥取	四〇 一五			
陰地方	第五班	天宮 中宅 山理 石理 中理 崎理 中理 事	山口縣 島根縣	四〇 一五	宇部、萩、下關、山口 松江、米子	四〇 一五			

出品勸誘地並割當小間數班別表

方地州九北	方地州九	方地國四
班八第	班七第	班六第
平龜松久每 本井岡保本 理理理郎理 事事事事事	岡作杉栗島 崎田岡山本 理理理理理 事事事事事	石都池宇 原築田根 理理理事 事事事事
長佐福 崎賀岡 縣縣縣	福熊鹿宮大 岡本兒崎分 縣縣縣縣	香愛德高 川媛島知 縣縣縣縣
一五	二〇 一〇	二〇 三五 一五
長崎、佐世保	門司、小倉、戸畑、飯塚、八幡、若松、福岡、大牟田 佐賀、唐津	高知 徳島 宇和島、松山、今治 丸龜、高松
	久留米	

尙出品勸誘に於ける訪問先の主なるものは
各府縣廳、各府縣廳所在地市廳、商工會議所、商品陳列所、主要會社、其他實業團、新聞社等であつた。

特設館獲得の猛運動

博覽會開催の重大使命を持つ出品の決定は一日でも早いだけ、その博覽會の價値を高めるので、何處の博覽會でも最も努力を注いでゐるが、本會でも渡邊會長自から陣頭に立ち、月形事務總長以下各部長はいづれも之に隨ひ各部長を督勵したが、博覽會の一異彩として期待される臺灣、滿洲、朝鮮館或は拓殖館等植民地特設館についても、横濱、熊本、富山(富山市は不慮の天災に遭遇したため、途中で開催を延期した)と本市の四都市で同時に開催す

るので、當然激烈なる勸誘競争が行はれることが豫想されたので、本會としては先づ朝鮮、滿洲、臺灣館を特設し、尙餘裕があれば南洋館、北海道館、樺太館も設置するの方策を樹て、周到なる戦備を整へたが、諸種の事情もあるので結局は前三館の特設館を設置するにとどめ、之が運動に全力を注いだ。

渡邊、月形正副會長出張 滿洲館及朝鮮館特設に就いては五月二十六日月形事務總長自から直接運動のため彼地に向ひ、先づ朝鮮館特設の内諾を得、大連市に於ては折柄滿洲國視察縣會議員團に加はり渡邊中であつた本市出身大村、檜垣、前田、山中の各縣議と落合ひ、協力勸誘を行つた結果大體左記の經過で快諾を得るに至り臺灣館を加へた本會の三大特設館は先づ凱歌を奏した。

朝鮮館 先づ、朝鮮總督府に、林財産局長、穂積殖産局長、山澤商工課長と面接、本會の開催趣旨、内容等につき詳細説明を行ひ朝鮮館設置の依頼を行つた處、本年は横濱、熊本、富山等同時期に博覽會を開催せられ豫算關係もあるので朝鮮館特設は非常に考慮を要する旨を述べられたが、尙極力運動の結果遂に特設の快諾を得たので、更に京畿道大芝内務部長其他要路をも訪問何分の應援を求めたが、臺灣地方と同じく朝鮮に於ても本縣人の進出は頗る注目に値ひし、一大勢力を以つて本會のために努力して下さつたことは本會の最も光榮とする處であり、深甚なる感謝の意を表するものである。

滿洲館 折柄滿洲國視察縣會議員團一行に加はり渡邊中であつた本市出身大村、檜垣、前田、山中の各縣會議員と大連市で落合つた月形事務總長は、元吳海軍工廠長伍堂滿鐵理事の來連中を知り、同理事を訪問滿洲方面の出品盡力方を依頼した處、極力盡力を惜まぬ表示をうけ、更に勸誘についての要所、方策等諸注意を受けたので、一行は先づ、關東廳に日下内務局長、中村財産局長、山中商工課長を訪ひ種々懇願した結果、滿洲國および滿鐵と協議の上何分の回答を得ることになつたが、關東廳に於ても本會の趣旨には非常な賛意を表せられてゐたので引續き大連市役所同商工會議所、營口領事館、税關、引續き滿鐵本社で八田副總裁、伍堂、山崎理事、石本總務、

中西地方各部長、高田商工課長と面接、極力設置運動を行つた、伍堂理事は元吳海軍工廠長として本市とは緊密な關係にあり、山崎理事も亦月形事務總長と交友關係あり是等諸氏の盡力で遂に特設館設置を確定することが出来た。

臺灣館

臺灣館設置については、昭和九年五月下旬谷本特營部長上京、在京中の水野市會議長と共に中川臺灣總督を訪問、引續き同財務局長、殖産局長等を訪問夫々臺灣館設置について懇願したが、殖産局長は六月四日神戸出帆大和丸で歸任の報を得て渡邊會長は之を同船に訪ひ極力依頼の結果ほど設置の内諾を得たので、渡邊會長は七月二十七日更に野村囑託を隨へて渡臺、

同月三十一日總督府に於て中川總督、中瀬殖産局長其他關係局長、課長に面談した處、總督府に於ては豫算縮減の折柄ではあり、特設館の建設は行はず、産業館に出品する程度の意嚮であつたので、渡邊會長は

本會の開催趣旨が國際的危局打開を主目的とする未曾有の國防博である事等より、會の内容に關しても詳細説明し、特設館設置を極力懇請した結果遂に本會の意ある處も諒解され、經費二萬圓程度の臺灣館設置を承諾されるに至つた。

右の如く特設館設置は遂に成功をなし得たが、更に個々の出品勧誘のため、會長一行は屏東、高雄、臺南、嘉義、臺中、新竹等に州知事、市長を訪問したが、總督府に於て既に特設館を設ける事に内定してゐるのを、會長自ら渡臺出品勧誘を行ふといふことが好印象を與へて到る處歓迎をうけ豫期以上の成績をあげたが、之が半面には本縣人の勢力は素晴らしいもので、是等の人々の陰となり陽となつて盡された厚意も亦偉大なものがあつた、かくて會長自からの臺灣出品勧誘は大成功裡に八月十日歸臺となつた。

出張利用宣傳に努む

博覽會開催を決定すると同時に、本會では廳員の出張には必ず本會の宣傳および出品勧誘を行はしめるため、豫め全廳員に注意を促し、各種會合其他の出張には必ず本會開催趣意書、會則、會場圖、

宣傳文書等を持參、説明諒解を得るに努めた。

全國出品關係 主任者會議

博覽會開設の諸準備の中で最も重要な役割を爲すものは出品主任者會議である、出品勧誘、宣傳方法いづれも不可缺のものではあるが、尙ほ計劃や組織を諒解し要領を體得して、出品の種類から小間割、出品物の取扱、陳列整理、賣約即賣、電燈電力給水の方法等に至るまで巨細に亘る一切の實務事項に關して、本會及び各地出品關係主任者が、親しく相會して、隔意なき意見の交換を遂げ、一層諒解を深めることは博覽會成功の樞軸をなすもので、常に各地の博覽會行事の一として採用せられて來た。本會に於ても昭和九年九月十六、十七日の兩日間吳市商工會議所講堂に各地から多數の關係主任者の來會を得て、非常に熱心にして盛況な會議を開いた。

(揆揆の長會邊渡) 議會者任主品出



(てに軒馨常) 會發午の待招長市

して盛況な會議を開いた。

出品勸誘

同	三十六番
同	三十七番
同	三十八番
同	三十九番
同	四十番
同	四十一番
同	四十二番
同	四十三番
同	四十四番
同	四十五番
同	四十六番
同	四十七番
同	四十八番
同	四十九番
同	五十番
同	五十一番
同	五十二番
同	五十三番
同	五十四番
同	五十五番
同	五十六番
同	五十七番
同	五十八番
同	五十九番

德島市	香川縣	丸龜市	今治市	福岡縣	福岡縣	久留米市	久留米市	小倉市	小倉市	若松市	別府市	大分縣	別府市	延岡市	那覇市	廣島縣	廣島市	同	廣島市	同	尾道市	尾道市	尾道市	尾道市	福山市
-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	-----	-----	-----	-----

銀川梅太郎	高橋金助	石川喜平	瀧見政吉	今泉五郎	草場信五郎	船越信之	久富金作	末永長通	井上賢二	大村信雄	永松信	手島森太郎	甲斐吉太	屋嘉宗靖	木村政恭	二宮實郎	平本博衛	福本一男	橋本種次	的場春哲	佐々木春一	大村護郎	清水重藏
-------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------

○印ハ當日欠席
 落合慶次郎
 杉山恭輔
 稻葉壽太郎

協議事項

第一、出品ニ關スル事項

- 一、出品ニ關スル一切ノ取扱ハ總テ各道、府縣市又ハ之ヲ區域トスル團體ニ於テ取纏メ之ヲ行ハレタシ、但シ特殊ノ事情アルモノハ此ノ限リニアラズ
- 二、所要小間數及坪數ハ左記各館別ニ十二月二十日迄ニ申込マレタシ
 - 産業館、郷土産業館、軍需工業館、農林水産館、貿易移民館、觀光館、電気交通館、教育館、體育館
 - 三、出品物ノ陳列ハ其ノ館内ニ於テハ大體府縣市別トス
 - 四、出品場所ノ位置及割當ハ本會ニ一任セラレタシ
 - 五、出品臺帳ハ各府縣市ニ於テ各館別ニ即賣、賣約別ニ三通宛作製セラレタシ
 - 六、特設館及賣店ノ外出品物ノ賣約、即賣等ノ自營ハ一切許サザルニ付御承知アリタシ
 - 七、出品物ノ受引繼ハ出品臺帳ト現品トヲ對照シテ之ヲ行フコトニ致シタシ
 - 八、即賣品補充ノ場合ハ當該團體ニ向ケ速報スベキニ付追加目錄ト共ニ速ニ現品追送セラル、様御配慮アリタシ

出品誘勸

第二、陳列、裝飾ニ關スル事項

- 九、國產振興部ニ出品セントスルモノハ出品物ノ解説書二通ヲ出品臺帳ト同時ニ提出セラレタシ
- 一、陳列棚裝飾ニ付テハ出品者ノ任意トスルモ出品規程第十條ノ通其ノ鴨居ノ上端ヨリ垂高ニ四尺平面ニ二尺以内トシ旗幟額等ハ通路又ハ會場全體ノ統制、採光、見透ヲ妨ゲザル様御留意願ヒタシ
- 二、音響、照明、動力、水熱等ヲ應用セントスル装置ニアリテハ豫メ本會ノ承認ヲ受ケラレタシ
- 三、動力ヲ要スル出品ハ其ノ申込ト同時ニ其所要動力ヲ申込マレタシ、但シ該料金ハ直接關係會社ニ支拂ハレタシ
- 四、出品物ノ陳列裝飾ハ成ルベク早く係員ノ御出張ヲ乞ヒ三月二十四日迄ニ必ず完了セラレタシ
- 五、同期日迄ニ陳列裝飾ヲ完了セザルトキハ所定ノ獎勵金ハ交付セザルニ付豫メ御承知アリタシ
- 六、陳列裝飾委託ノ場合ハ委託證ニ料金ヲ添ヘ申込マレタシ及者完成期日ヲ豫メ本會ニ届出デラレタシ
- 七、各館建築ハ梁下約十七尺五寸、窓下約十三尺採光ハ中央上部窓ト御承知アリタシ

出品勸誘

第三、看守人ニ關スル事項

- 一、看守人ハ約十小間毎ニ一人ノ割トス
- 二、特設館及賣店以外館内ノ自營看守人ハ許サザル方針ニ付若シ參加者ニ於テ特ニ看守人ノ増員ヲ希望アルトキハ其ノ旨本會ニ申込マレタシ但シ増員ニ要スル費用ハ申込人ノ負擔トス
- 三、前項看守人ノ給料、服裝及服務ハ本會ニ於テ之ヲ統一ス
- 四、看守人ノ日給ハ約八十錢、服裝ハ五圓以内ノ見込ナリ但シ夜間勤務ノ場合ハ相當ノ手當ヲ支給セラレタシ

第四、出品物保管其他ノ事項

- 一、本會ハ確實ル運送店ヲ指定シ場内ニ出張セシメ出品物ノ取扱ヲ爲サシムル方針ナリ追テ指定運送店選定ノ上御通知致シタシ
- 二、着荷ハ本會指定運送店倉庫ニ保管ス
- 三、荷箱ノ外装ニハ發送團體ノ名稱及所屬道府縣市名ヲ見易キ箇所ニ明記セラレタシ
- 四、出品物運賃割引證及出品人、關係役員乗車割引證ハ所要數ヲ一月十五日迄ニ申出デラレタシ

第五、出品事務所ニ關スル事項

- 一、參加團體ノ事務所ハ可成本市内ニ設置セラレタシ
- 二、事務所借入方御希望ノ向ハ出張人員、期間、坪數其ノ他ヲ一月三十日迄ニ本會ニ申込マレタシ

第六、特設館並賣店ニ關スル事項

一、特設館建設豫定ノ向ハ至急申込マルル様御配慮願タシ

二、特設館、賣店ノ申込ニ付テハ適當ナル經營者ヲ得ル爲、道、府、縣、市商工會議所ノ内其ノ一ノ推薦ヲ願タシ

三、特設館ノ敷地及賣店ニ付テハ豫メ等級ヲ附シテ申込ミヲ受クベシト雖モ同一等級内ニ於ケル場所ノ割當ニ付テハ本會ニ一任セラレタシ

四、特設館、賣店經營主任ハ本會へ届出ラレタシ異動アリタル時モ亦同ジ

第七、商取引相談所ニ關スル事項

一、本會ハ出品者各位ノ便宜ヲ圖ル爲商取引相談所設置ノ見込ナルガ專ラ本市商工會議所ニ於テ之ヲ取扱フヲ以テ各出品團體ニ於テ御利用セラレタシ

御依頼事項

一、本會開設ニ關シ事務局並ニ協賛會ニ於テ「ボスター」其ノ他勸誘狀ヲ發送シ夫々宣傳ヲナシ入場者ノ勸誘ニ努メツツアルモ普ク徹底ヲ見ルコト不可能ニ付各位ニ於カレテモ適當ノ機會ニ可然宣傳方特ニ御配慮願タシ

二、乗車割引證ハ出品並ニ關係役員ノミニ御交付相成タシ該割引證ハミシン入控書付ニ作製スルニヨリ交付ノ際ハ必ず

控ニ明細ヲ記入シ置キ後日一纏メトシテ御返送願ハシタシ三、全國名勝地ノ「モデオラマ」出品方各觀光機關ニ對シ依頼狀差出シ置キタルニ付可然配慮ノ上是非出品相成ル様御取計ヒ願タシ

船車賃割引

出品關係者並出品物の船車運賃割引については割引の方法、割引率、割引期間等につき申請して、許可を得た。往復文書は次の通りである。

昭和九年十月十五日

國防と産業大博覽會長

鐵道省運輸局長 新井 堯 爾 殿

吳市長 渡 邊

伍

國防と産業大博覽會出品者及出品貨物割引申込書

昭和十年三月二十七日ヨリ五月十日迄吳市ニ於テ本市主催ノ下ニ國防と産業大博覽會ヲ開催可致候ニ付之ニ參列スル出品者及出品貨物ニ對シ左記ニ依ル旅客及貨物運賃割引方御取計被下度別紙參考書相添へ此段及申請候也

イ、出品人、審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員

一、割引期間 内地全省線各驛及内地社線各連帶驛ヨリ吳驛行

二、割引期間 昭和十年二月一日ヨリ五月十日迄

三、通用期間 發賣ノ日ヨリ昭和十年六月二十日迄

四、割引率 二割

五、豫定人員

ロ、出品物

一、發着區間及割引區間 内地全線各驛及内地社線各連絡驛ト吳驛トノ相互間

二、割引期間

搬入 昭和十年二月一日ヨリ三月三十一日迄

搬出 昭和十年五月十日ヨリ六月二十日迄

三、割引率 二割

出品勸誘

出品勸誘
鐵道乙第二一五號
昭和九年十二月十四日

鐵道省運輸局長
新井堯爾

吳市長 渡邊 伍殿

貴市主催國防と産業大博覽會出品人、審査員、出品事務ヲ直接管掌スル役員及出品物ニ對シ運賃割引方拾月拾六日附吳博總第五
○二號ヲ以テ御申出ノ趣了承右ハ左記各項ニ依リ御取扱可申上候間左様御承知相成度尙割引證及荷票ハ別紙様式ニ依リ調製シ配
付臺帳ニ記帳ノ上夫々御配布相成度
追而割引證及荷票出來ノ上ハ見本トシテ數葉當局宛御送附相成度

記

出品人、審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員

一、割引方法及割引率

所定ノ割引證引換ニ二、三等普通運賃ノ二割引ヲ以テ往復乗車券ヲ發賣ス但シ十二年未滿ノ小兒ニ對シテハ發賣セズ

二、割引區間 鐵道省線各驛及北海道、本州、四國、九州内所在社線各連帶驛ヨリ吳驛行

三、割引期間 昭和十年二月二十日ヨリ昭和十年五月十日迄

四、通用期間 乗車券發賣ノ日ヨリ昭和十年六月十日迄

出品物

一、割引方法及割引率

所定ノ荷票貼付ノ貨物ニ對シ運賃二割引ヲ低減ス

二、發着區間割引區間

鐵道省線各驛及北海道、本州四國、九州内所在社線各連帶驛ト吳驛トノ相互間

三、割引期間

搬入 昭和十年二月二十日ヨリ昭和十年三月二十六日迄

出品勸誘

第 號		第 號	
旅客運賃割引證 (國防と産業)		旅客運賃割引證 (國防と産業)	
乗車船區間	住所氏名	乗車船區間	住所氏名
自 至	吳 往復	自 至	吳 往復
年 齡	當 年	年 齡	當 年
乗車船等級	等 二 割	乗車船等級	等 二 割
割引率		割引率	

○注意 博覽會終了後ハ一括御返送被下度

注 意

一本證ハ吳市主催國防と産業大博覽會出品人審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員ニ限り使用シ得ルモノニシテ番號及使用者ノ氏名ヲ記入シテ交附スルモノトス

二本證ニ依リ割引セラルベキ區間ハ期間及乗車券通用期間ハ左ノ如シ但二、三等往復乗車券ニ限ル

割引區間 鐵道省線各驛及北海道、本州、四國、九州内所在社線各連帶驛ヨリ吳驛行

割引期間 自昭和十年二月二十日 至昭和十年五月十日

乗車券 發賣ノ日ヨリ昭和十年六月十日迄

通用期間 發賣ノ日ヨリ昭和十年六月十日迄

三本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スル事ヲ得ズ

四本證ニ依リ購求シタル割引乗車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用ス事ヲ得ズ

五本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限り之ヲ有効トス

(一) 發行者ノ記入スベキ事項ニ付テハ發行者ノ印

(二) 使用者ノ記入スベキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

搬出 昭和十年五月十一日ヨリ昭和十年六月十日迄

追テ即賣品ニ對シテハ割引ノ取扱難致候間即賣品ニ對シ荷票ヲ使用セシメザル様御注意相成度萬一即賣品ニ對シ又ハ出品人、審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員以外ノモノニシテ荷票若ハ割引證ヲ使用シタルモノ有之候場合ハ出品物、出品人、審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員全部ニ對スル割引ヲ取消シ普通運賃ト割引運賃トノ差額ヲ貴方ヨリ收受可致候間左様御了知相成度

出品勧誘

吳主市權と防國大業産會覽博

一、割引率 二割
 一、割引區間
 鐵道有線各驛及北海道、本
 州、四國、九州内所在社線
 各連帶驛ト吳驛トノ相五間



一、割引區間
 搬入 自昭和十年二月二十日
 至昭和十年三月二十六日
 搬出 自昭和十年五月十一日
 至昭和十年六月十日

出品荷物

關稅免除

昭和十年二月十八日大藏省主稅局長に對し出品物關稅免除に關し左の申請書を提出した。

吳博特第六九三號

昭和十年二月十八日

國防と産業大博覽會長
 吳市長 邊 伍

大藏省主稅局長 石渡 莊太郎 殿

關稅免除申請之件

今回本市ハ現下ノ非常時局ト産業振興ノ實ヲ舉ゲ度來ル昭和十年三月二十七日ヨリ五月十日迄四十五日間當市ニ於テ國防と産業大博覽會開催致度候ニ付テハ右出品物ニ對スル輸入稅免除方何卒特別ノ御詮議ヲ以テ御取計被下度別紙本會規則相添此段及申進候也

追而右出品物ハ主トシテ下關港ニ陸揚シ一見當該品ナルコト判明可致候條別ニ特定ノ標語ハ添付致サズ此點御含置被下度右申添候

之に對し三月七日附を以て石渡主稅局長より、左の通り通牒をうけた。

藏稅第五一六號

昭和十年三月七日

國防と産業大博覽會長 邊 伍 殿
 大藏省主稅局長 石渡 莊太郎

客月十八日附吳博特第六九三號ヲ以テ申請相成候貴博覽會出品物ノ通關方ニ關スル件了承右出品物ハ左記ニ依リ取扱フコトトシ其ノ旨各稅關長宛通牒致置候條御了知相成度此段及回答候也

出品勧誘

出品勸誘

記

- 一、國防と産業大博覽會ニ出陳ノ爲輸入スル物品ハ關稅定率法第八條第八號ニ依リ關稅免除ノ取扱ヲ爲シ同條但書ニ依リ提供スベキ擔保ハ同博覽會長ノ保證書ヲ以テ之ニ代フルコト
- 二、輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再輸出スル出品物ニ付テハ特ニ關稅ノ例ニ準ジ消費稅ヲ免除スルコト
- 三、第一號ノ出品物ニ付テハ同博覽會長ヨリ稅關ニ輸入申告ヲ爲スコト
- 四、前號輸入申告ノ際當該稅關ノ満足スル出品目録ヲ提出スルコト
- 五、出品物輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再輸出ヲ爲ササルトキハ關稅及消費稅ヲ徵收ス但シ出陳中變質、腐敗等ニ因リ稅關ノ許可ヲ得テ廢棄シタルモノニ對シテハ此ノ限りニ在ラズ
- 六、政府ノ專賣品ニ付テハ專賣局長官ノ許可ヲ受クベキコト但シ博覽會閉會後ハ之ヲ政府ニ寄贈スベキモノトス
- 七、出品物ニ付稅關官吏、收稅官吏又ハ專賣官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ物品ノ現存スル場所ニ付検査スルコトアルベキコト
- 尙右ノ場合當該官吏ノ職員執行ニ關シ博覽會ハ相當ノ便宜ヲ與フルコト
- 八、出品物ニハ外裝ニ一見當該品ナルコト判明スル様爲シ置クコト尙輸出入ノ手續ヲ爲スベキ博覽會係員ノ氏名ハ豫メ同博覽會ヨリ直接關係稅關及地方專賣局ニ通報スルコト

尙右に次で專賣局長官よりも左の通り通牒を受けた。

乙第三三三號ノ二

昭和十年三月十一日

專賣局長官 中 島 鐵 平

國防と産業大博覽會長

吳市長 渡 邊 伍 殿

吳市主催國防と産業大博覽會出品物ノ通關方ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ主稅局長ヨリ詳細回答ノ處專賣法不施行地(朝鮮、臺灣ヲ含ム)ヨリ政府專賣品ヲ移入スル場合モ亦右回答取扱方ニ準ジ御取扱相成度

工 營

非常時意識の表現

曩に二河公園並に川原石海軍用地の兩會場敷地の決定を見、愈々工營を開始することとなり吳市土木課では昭和九年七月一日工營部を委嘱され、本格的な會場工作に取かゝつた。

會場の建設にあつて最も意を拂はれたのは「國防と産業」の名にふさはしい建築様式の表現であつた、本會では、夙に博覽會を經營するにあたり昭和八年四月、技師一名、技手一名、囑託一名を特設して、基本準備調査を開始、各地博覽會の規模と組織を研究調査すると共に事務及び機構の研究を重ね、これによつて生まれた成案を基調として吳市にふさはしい會場建築物を豫定し、第一、第二兩會場敷地の決定を見るに及んで、これに相應適切な各館並に附屬建物の配置を定め、建築費その他の經費を算出、豫算の編成を行ひ、執行に移したのであつた。

會場の計畫にあつて最も主力を注いだのは本會の目的が國防を表象するものであり、非常時意識の強調にあるので、幸ひ第二會場敷地として軍港に臨む海軍用地の借入に成功し、此の恵まれた環境を利用して第二會場へ國防博を集中、大いに特異の建築意匠を施すことになり第二會場正門の如きは、巨大な軍艦の錨を聳立せしめて好奇の眼をそゝり、海軍館は魚雷と錨をもつて海軍旗を護り全館軍艦色にて塗裝、心強い氣分を窺はせるに努め、陸軍館もまたタンクをあしらひ、航空館は大空を翔る航空機を象りそれら、特異の味を出してゐる。また軍事記念館の如きは莊重な日本古典式様式により日本精神を表現、神嚴な感じを與へ、ラヂオ館となるとすつかり近代風景を現出、頗る明朗快適である。第一會場の軍需工業館もまた機械色をもつて、近代工業を現はしてゐる、産業本館ま

工 營

た明粧新興産業の興隆を想はせ、郷土産業館もまた赤い浮標に鐵鎖、白いかもめを配して快よい軍港産業のローカルを盛りあげてゐる、特設館もまた新奇をこらし特異ある情緒を發揮して妍を競ひ、それら各館いづれもその持味を表現することに努め結果的にこの思ひつきは頗る終始好評且成功を納めた。

又、有料興業物を一定の地域に特定してこれを館外としたことは、會場そのもの、氣品を高めると共に場内の有料觀覽餘興を尠くしたいといふ親切からであつた。

巧みな構造と色彩の轉換

元來博覽會建築物は單一な色彩を用ひられてゐるのが通弊である、これは一時的建築物であること、及び建築費の節約から出たものであり、これがため觀覽者に非常な疲れを感じしめるものがあるので吳市では此の點を考慮して構造意匠を色彩によつて觀覽者の疲勞を防止しようといふ新試みを企て色彩の單調を排して、努めて巧みな構造の表現と、色彩の轉換により疲れを休めさせることに親切な意を用ひ、これまた好感を以て迎へられ、嶄新果斷な新試みとして讚辭をうけたのである。この傾向は漸次各地博覽會建築に應用され、吳市はその新傾向の誕生地でもあつた。

また第一會場は二河公園であるため公園の風致を努めて原形のまま、取入れ樹木も殆んど存置して觀覽者の遊歩に便を與へ他の博覽會場が主として空地、廣場を利用してゐるに鑑み、公園を會場とした特色を發揮し休憩所施設、特設賣店の如きも、疲れを慰はせるにふさはしい池畔樹下を選らび適當な施設を行ひ、梅林等もそのまゝ取入れて陸橋を以てつなぐなど至るところ變化ある趣好をこらした。館内出品物の陳列も大いに苦心研究を重ね、觀覽順序もひろく且行戻り見落しのない様ケースの配列等にも充分新試みを執り、採光、照明等も明るい、やはらかない感じを出させるため技術的な心やりを拂ひ、館内の天井はすべて白布をもつて覆ひ、清楚な感じとやはらかない光線を館

内へ吸取することにつとめた。

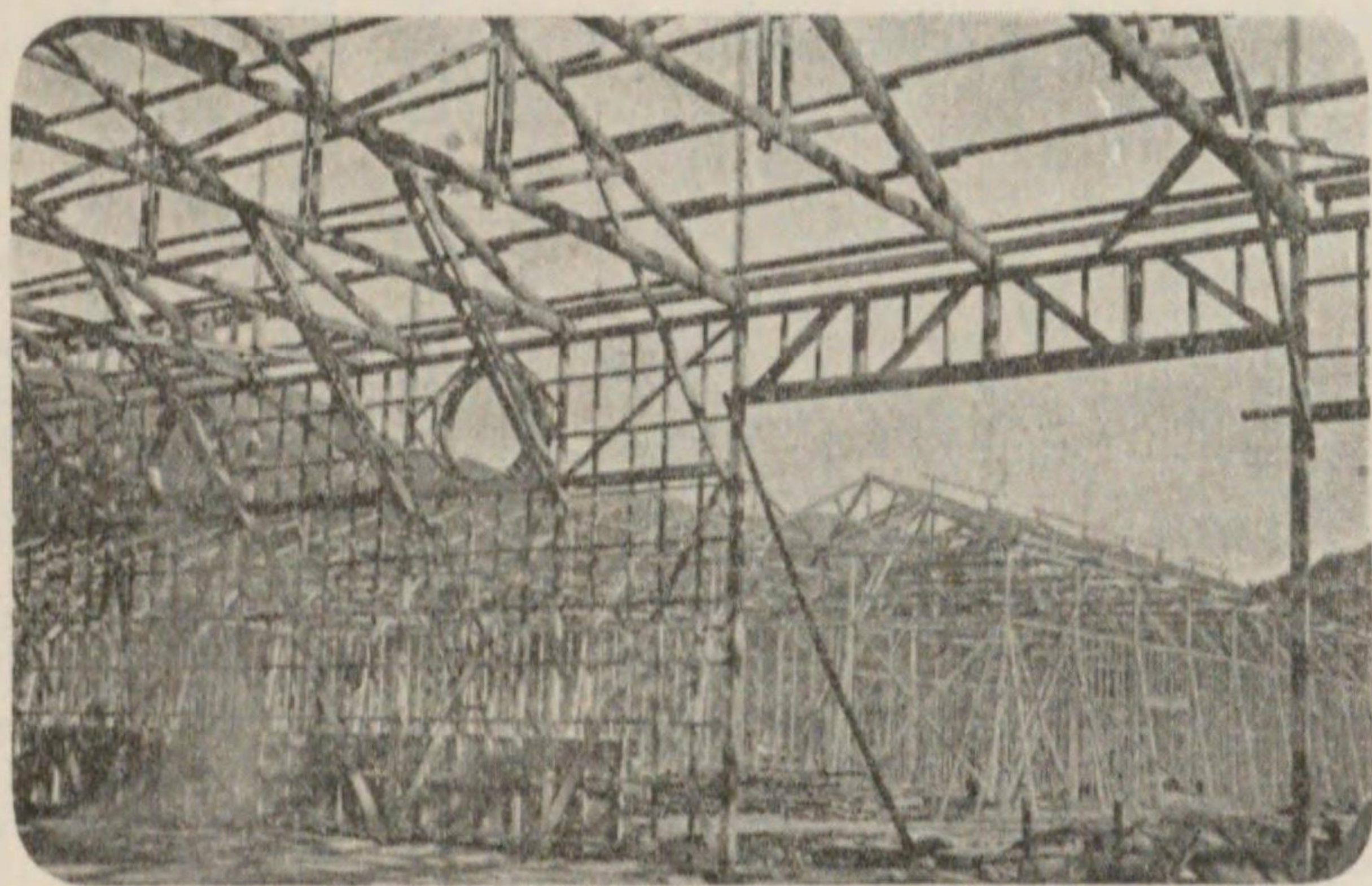
果敢な設計技術の遂行

博覽會の建築物は一時的のものであり經費を最も最少限に節約することを重大要件の一つとしてゐるので工營に

あたつては、主要構造物に丸太材を用ひ、且竣工を早めることにより開會間際に手直しをするが如き從來の不始末をなくするため果敢な技術的信賴をもつて開會間に外觀の明粧を完成せしめる様督勵した、これまた一部冒險を危ぶまれつゝも結果に於ては、その奇智を讚へられたのであつた。

本博ではまた計畫完了後、突如關西地方の大風水害に災され、諸材料の騰貴によつて設計々畫上多大な困難を伴ふと共に、構造制限をうけることとなり、高層建築物の一部變更を餘儀なくされたが、これが爲め各館の堅牢もさらに考慮され、安全度はより以上増されるに至つたのである、むしろ轉禍爲福でもあつた。

かくして兩會場共設計の完了、入札施行等を終り、昭和九年十一月二十日を卜して第一會場敷地たる二河公園に於て盛大なる地鎮祭を舉行し、茲に於て愈々兩會場は晝夜の別なく建設工作を始め、工營部では監督或は指導に遺漏なきを期するため豫め係員の部署を定め、諸工事裝飾



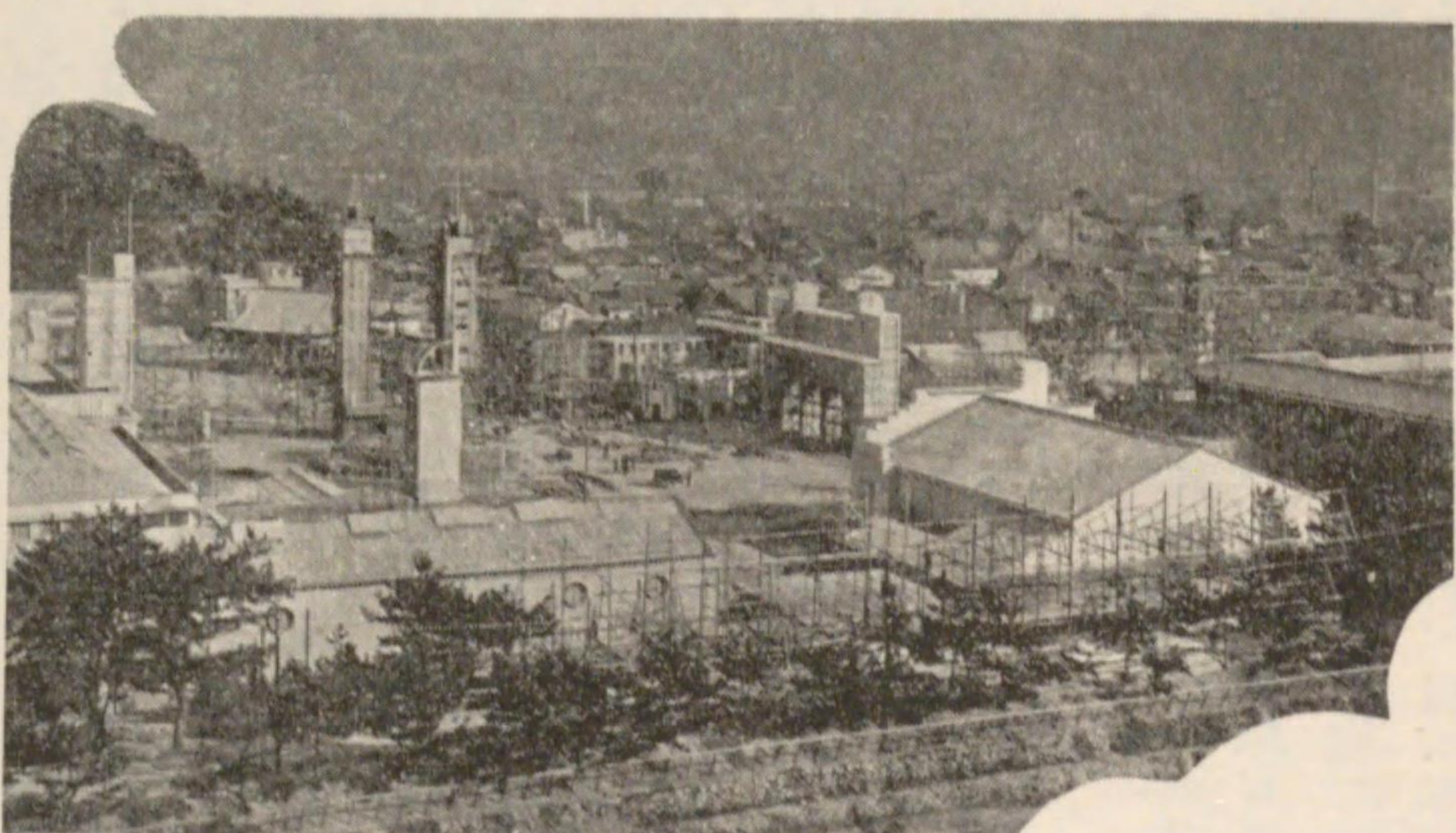
場會一第の中事工築建

はいづれも順調に進み、最初の計畫の通り開會式前日迄には全部の工事を完了することができ、工營部の見通しは全的中、博覽會の通弊とされてゐた未完成の儘の開會を美事蹴飛ばして、昭和十年三月二十七日の開會式には全館一齊開館といふ明朗開會を爲し遂げた、かうした驚異的好結果を得たのは工營部擔任の各技術者及び事務員其他關係者一同の不斷の熱誠と、各工事請負者の獻身的努力によるもので、本會が破天荒なる好成績を挙げ得たのも、既にその基礎工作に於て成功してゐたものであり、關係各位の奮闘には絶大な謝意を表する次第である。

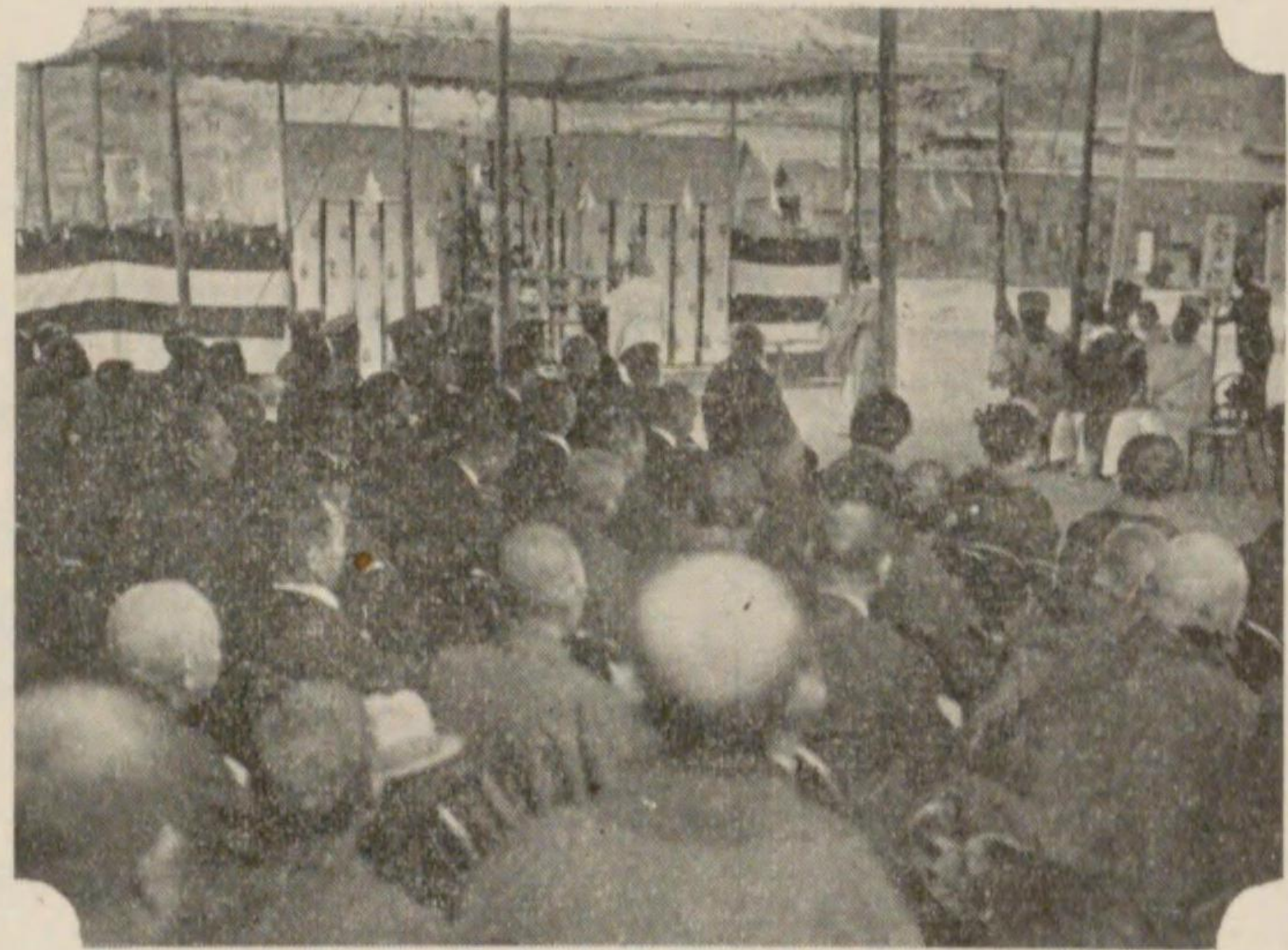
地 鎮 祭

博覽會敷地の決定を見るや昭和九年十一月二十日の吉日を卜し、本會前途の幸を天神地祇に祈願すべく、午前十時第一會場二河公園敷地に於て、いとも莊嚴なる地鎮祭を舉行した。この日前日の雨も名残なく霽れて、天氣正に晴朗、輝くこの吉日を天地共に祝福するかの如く爽な風になびいて薄寒い晩秋ながら萬物は躍動してゐる。看よ歡喜に躍るこの日、正に人氣昂騰の國防と産業博の前奏曲は奏でられんとしてゐるのであつた。

定刻に到れば、學式を合圖の三發の煙火は冲天に轟く。祭場は第一會場敷地三萬坪の内、本會に於て施設すべき産業本館豫定地の中央部に祭壇を設らへ七五三繩を張り、この中央部には神籬を樹て、南側には大神を供へ、祭壇



場會一第たつ成容外



場 式 祭 鎮 地

後東側に盛砂を設らへ、左面に被具、右面に齋鉞を置かれてある。祭壇前左側に神饌及び祭員舎、來賓席を、右側には樂人舎、祭員席及び博覽會職員席を設け、又正門入口には裝飾門を建て、式場の周圍には幔幕を繞らし莊嚴の感をいかに湧く。

來賓たる吳鎮守府司令長官代理班目大佐、總裁廣島縣知事代理二宮商工主事、澤原本會名譽顧問、其他縣下官民有力者約五百餘名所定の席に着けば、先づ神官の修祓あり、警蹕の裡に一同起床、齋主降神を奉止して神饌を供し、祝詞を奏す、この間森嚴なる奏樂あり、次いで渡邊會長の鉞入式あり、齋主玉串を奉りて拜禮、祭員列拜次いで本會を代表して渡邊會長、總裁代理二宮商工主事、工事施行者總代中川三郎氏、來賓總代吳鎮長官代理班目大佐、夫々玉串奉奠の儀あり、齋主昇神を奉仕して式を終つた。

式後一同祭場に隣接せる宴席に於て、祝宴を開き席上渡邊會長の挨拶あり、吳鎮長官代理班目大佐來賓を代表して謝辭を述べ、萬歳を三唱して本會の前途を祝福して正午盛會裡に散會した。



式入鉞の長市邊渡

地 鎮 祭 式 次

- 一、一同着席
- 一、修被式 奏樂、着席止樂
- 一、被主被詞
- 一、大麻鹽水行事 奏樂
- 一、祭典式
- 一、降神詞
- 一、神饌供進奏樂
- 一、齊主祝詞 奏樂
- 一、四方被
- 一、歛入式
- 一、玉串奉奠

地鎮祭祝詞

(昭和九年十一月二十日午前十時於二河公園執行)

是乃廣支園乎今日乃齋庭止忌竹爾注連引廻保志神籬刺氏啞世奉里齋支奉留大地主大神壇山姬大神產土大神等乃大前爾龜山神社々掌太刀掛信親畏美々毛白左久我大御國波大海原四方爾環里氏海幸多支國形奈禮婆大海乃事乎志深久遠久研支究米牟波誠爾然留倍支業爾氏徒爾思比過久倍支爾有良受特爾今波天下四方國乃人人皆悉爾大海乃事爾心乎潛米力乎盡世留乎我大帝國乃人爾志氏如何出加毛默止有留倍支殊爾巽年滿洲止云倍留新之支國家乃獨立乎援助介鎮米護里東洋平和乎安全爾確保知奴留波自奈留世乃理爾波有禮抒皇朝廷乃遠御祖乃大御訓乃隨爾正志支乎勸米曲禮留乎徵米給布日本心乃堅支理止奈牟斯久世乃亂乃跡毛無久治麻里平支奴留事止波云閉曲禮留外國乃何日如何奈留年爾加我國乎窺比多抒里毛知禮得壽此時爾當里皇大御國乎天足志爾足志爾輝志爾輝加志牟留本波志母先都海原乃軍乃種々乃器乎始米大空乎關流物迄毛博久採集閉此乃術乎世乃人乃爲其智乎示志其功乎擴志女又產業乃道乎勸米氏國力乎富麻志賑波左牟止昭和

- 齊主
- 會長
- 總裁
- 請負人
- 來賓總代
- 昇神式
- 撤饌式
- 閉式
- 神酒饗應

理事會	日	時	場所	事項
	昭和九年十月九日		市場役所内	博覽會配置ニ關スル件、音樂堂新築ニ關スル件、ケースニ關スル件
	同 年十月十六日		同	產業本館軍需工業館建築ノ件
	同 年十月二十五日		同	產業本館建築工事外六件入札立會並郷土產業館建築ニ關スル件
	同 年十月二十六日		同	博覽會用ケースニ關スル件
	同 年十一月十日		同	國防館建築設計決定ノ件、音樂堂位置決定ノ件、產業本館外五館設計變更ノ件
	同 年十一月二十六日		同	陸軍館、海軍館、軍事記念館、新築工事ニ關スル件
	同 年十二月八日		同	演藝場建築ニ關スル件
	同 年十二月二十七日		同	第一會場陸橋新築工事、第二會場電氣交通館(ラヂオ館)新築工事ニ關スル件
	昭和十年一月十八日		同	博覽會第二會場正門其他新築工事ノ件
	同 年一月三十日		同	第一會場正門其他新築工事ノ件
	同 年二月十八日		同	吳驛前歡迎門新設工事

工營部會議日誌

十年乃花咲久春乃眞盛爾國防止產業止乃大博覽會乃業乎此所爾興志開支氏國々乃人乃力爾成出都留種々乃工乃花乎毛手較倍競反牟止爲氏此園乃境廣久占米廻良志建列奴留館々乃清久美志久築支樞反牟止今日乃生日乃足日爾地鎮祭乃下爾會長渡邊伍歛入始米乃式仕奉畜狀乎平介久安介久開食志氏此乃大地乃雨爾嵐爾搖具事無久動久事無久地震伽具土乃荒毘在良志米受敷回良世留端垣乃堅久嚴志久搔均良須地乃面乃廣久平介久其賀建築久留請負人佐々木鹿造片山周吉小河內喜三郎乃營美勞久工乃業乃過都事無久蹟久事無久速介久造成左志米給反止畏美拜美毛白須

工 營
 昭和十年二月二十三日 市役所内 各博覽會場建築工事出來形視察
 同 年三月二十六日 同 博覽會場各館竣功検査立會
 同 年四月二十六日 第一會場事務局工營部 工事概要ニ關スル件

工事入札とその請負

本會の諸工事請負は昭和九年十一月十三日第一會場産業本館を第一回入札に附したのを始め、本市内の請負者中最も信用と經驗ある者を以つて指名入札に附し順次前記の落札者を決定すると共に直ちに工事契約を締結し着工せしめたが、入札に關する心得及び契約等は本市條例を適用し、建設物は總て竣工の日より、昭和十年五月十日即ち閉會式の日まで國防と産業大博覽會々場として使用を提供し、同終了後撤去指定の日より十五日以内に全部を取片付け跡掃除も共になす契約は、この種事業に於ては稀らしい事で特筆に價するものがある。

工事請負契約書

一、 吳市

但シ別紙工事設計書仕様書圖面ノ通り

此請負金

右工事ヲ國防と産業大博覽會長吳市長ヨリ

（前記請負金額ヲ以テ請負ハシメタルニ付契約スル條件左ノ如シ

第一條 請負人ハ契約保證金

ヲ納メ置クモノトス

第二條 本工事ハ昭和 年 月

日迄ニ着手シ昭和十年二月十日ヲ期シ、建物ノ建設ヲ了シ會期（延長ノ場合ヲ含ム）終了後十五日以内ニ撤去跡片付ヲナスヘシ

第三條 工事施行法ハ渾テ別紙設計書仕様書圖面標本等ニ依ルハ勿論ナリト雖モ會長請負人ノ權利義務ハ總テ吳市工事執行規

則並ニ吳市工事執行細則ニ據ル

第四條 本工作物ノ授受前ニ生シタル損害ハ其ノ原因ノ如何ニ拘ハラズ總テ請負人ノ負擔トシ又ハ作業ノ爲生シタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

第五條 請負人ハ建物ノ建設終了後請負金額ノ十分ノ一以内及ヒ昭和十年四月以降ニ於テ既成部分ノ十分ノ八以内ノ代價ノ假拂ヲ請求スルコトヲ得

但シ工事ノ出來高ハ請負金額ヲ設計金額ニテ除シタルモノヲ工事出來高ノ設計金額ニ乘シテ得タルモノヲ以テス

第六條 前條假拂ヲ請求セムトスル時ハ本工竣功迄本建築物一切ニ對シ市ニ於テ相當ト認ムル火災保險會社ニ於テ請負金額以上ニ相當スル火災保險ヲ締結シ其ノ證書並ニ寄託書外ニ一朝罹災ノ場合ハ該保險金受取方ノ委任狀ヲ作り差出シ置クモノトス

右契約書二通ヲ作り各一通ヲ保有ス

昭和 年 月 日

國防と産業大博覽會長

吳市長

請負人

第一會場

會設主要建造物其他

建物其他名稱	稱呼	數	量	金額	請負者氏名	記	事
正門	門		八二・五八	二、四八〇・〇〇 ^円	藤岡俊三郎		
東門	門		四・五〇		同		

工 營

特設主要建造物

建物其他名稱	稱呼	數量	金額	請負者氏名	記 事	
協贊會事務所	坪	四〇・〇〇	円	小河内喜四郎		
協贊會商談所	同	三四・三〇			同	
協贊會大食堂	同	二五四・〇〇			片山周吉	

協贊會主要建造物

無料休憩所並湯沸場	同	一〇二・五〇	九・六五	直營	
倉庫	同	五〇・〇〇	三〇〇・〇〇	海生逸一	
周圍柵	延間	六二四・〇〇	一、四四六・三〇	中川三郎	内六ヶ所通用門閉扉、鍍力板張、板塀、鐵條柵等
整地工事			六、四二九・六六	直營	
排水工事		一・〇〇	四三二・〇〇	直營	
橋梁工事	箇所	一・〇〇	一三六・〇〇	中道伊之助	木橋
道路橋梁工事	同	一・〇〇	四七八・〇〇	藤岡俊三郎	本願寺寶物館及觀光館連絡道及橋梁
事務所	坪	三一六・〇〇	二五一・一二		元吳區裁判所建物使用
衛生館		九六・二五			吳市立圖書館使用

噴水塔	基	一・〇〇	一、五八〇・〇〇	中川三郎	
産業本館	坪	一、〇〇八・〇〇	一七、六〇〇・〇〇	同	
軍需工業館	同	三三〇・二五	五、九五〇・〇〇	同	
同上別館	同	六〇・〇〇	一、二〇〇・〇〇	佐々木鹿藏	
演藝館	同	三三六・四九一	六、六七三・一四	水野超倫	
郷土産業館	同	四六一・〇〇	八、四一九・〇〇	片山周吉	
本願寺	同	一五・〇〇	一、一二五・〇〇	同	
觀光館	同	一二〇・〇〇	二、三〇二・〇〇	同	
拓殖館	同	四八・〇〇	九〇六・七四	中川三郎	
音樂堂	同	四〇・五〇	二、九五〇・〇〇	藤岡俊三郎	
陸橋	同	五八・〇〇	一、八七〇・〇〇	小河内喜四郎	
教育體育館	同	一五二・五〇	三、一三九・七二	同	
農林水産館	同	一〇〇・〇〇	一、九〇〇・〇〇	佐々木鹿藏	
リンダンス大演技場	同	八五・五〇	一、九一四・〇〇	海生逸一	演技場圍ヒ内七百六十八坪
本願寺館唐門	同	四・〇〇	三二〇・〇〇	上田近松	
賣道案内所	同	一七七・五〇	二、四五五・三八	藤岡俊三郎	
鐵道案內所	同	六・〇〇	二一〇・〇〇	中道伊之助	
教育館切符賣場	同	二・〇〇		片山周吉	
巡查派出所	同	二〇・〇〇	三六一・〇〇	山岡今市	
便所	同	三・〇〇	六九八・〇〇	小河内喜四郎	在來便所五ヶ所合計八ヶ所外有料便所ヲ設ク

一部増設外ニ延一六〇・五坪在來家ヲ本館ニ適合スル裝飾工シ使用

演技場圍ヒ内七百六十八坪

在來便所五ヶ所合計八ヶ所外有料便所ヲ設ク

工
營

建物其他名稱	稱呼	數	量	金額	請負者氏名	記	事
日本製鐵館	坪	五	一・二〇	一三〇・〇〇	同		航空館裏非常門前
海軍軍	同	四	六九・一二	九、五〇五・〇〇	中川三郎		
軍事記念館	同	一	〇八・〇〇	一、九〇〇・〇〇	同		
彈除ヶ大師堂	同	二	・五〇	二、一九二・六八	同		
ラヂオ電氣館	同	一	三四・〇〇	二、三〇〇・三七	山岡今市		
作業員及守衛詰所	同	三	・二五	八三・〇〇	小河内喜四郎		
巡查派出所	同	二	〇〇・〇〇	三六一・〇〇	山岡今市		
飛行觀覽臺	同	一	〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	同		
米國輸型陣臺、測巨儀臺其他	同	一	〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	中川三郎		
便所	同	四	〇〇・〇〇	六四八・〇〇	小河内喜四郎		在來便所一ヶ所合計五ヶ所 天幕張り
無料休憩所	同	六	五・〇〇		直營		
周圍柵	延間	一、一	一〇・〇〇	一、〇二八・六〇	藤岡俊三郎		
整地工事	同	一	・二五	一、二九八・二五	直營		
排水工事	同	四	二・〇〇	四二二・〇〇	中川三郎		
橋梁工事	同	一	〇〇・〇〇	一三〇・〇〇	同		

特設主要建造物

工
營

建物其他名稱	稱呼	數	量	金額	請負者氏名	記	事
臺灣	坪	六	九・七五				
朝鮮	同	四	四・〇〇				
滿洲	同	一	五七・七五				
三吳線開通記念館	同	五	二・〇〇				
子供の國	同	六	三〇・〇〇				
海女館	同	九	〇〇・〇〇				
國產館	同	五	五・二〇				
有料便所	同	二	〇〇・〇〇				
森永キャンデースト	同	一	五・〇〇				
陸軍館、航空館	同	二	八〇・〇〇	四、六八〇・〇〇	同		
裏門	同	四	・五〇		藤岡俊三郎		
正門	坪	八	九・〇〇	二、一九二・六八	海生逸一		

第二會場
會設主要建造物其他

工 營

水族館	同	一九八・五〇			
水産品即賣館	同	四三・五〇			
國防食堂	同	一六・五〇			
吳商業聯盟賣店	小間	五四・〇〇			一小間二坪二合五勺
發明品實演館	坪	八四・〇〇			
日ノ丸食堂	同	五六・〇〇			
日ノ丸喫茶室	同	三八・五〇			
世界一周館	同	四八・〇〇			
國防戰史パノラマ館	同	一〇四・〇〇			

歡迎門其他

建物其他名稱	稱呼	數	量	金額	請負者氏名	記	事
吳驛前歡迎門	箇所	一	〇〇	一、九三〇・〇〇 ^円	上田近松		内三〇〇 ^円 協賛會負擔
吉浦棧橋歡迎門	同	一	〇〇	二九六・〇〇	山岡今市		
警固屋棧橋歡迎門	同	一	〇〇				

感謝狀

殿

本市主催國防と産業大博覽會開催ニ當リ、建設物ノ工事(整地排水設備、裝飾設
備、陳列用ケース設備)ヲ請負ヒ夙夜精勵努力短期間ニ克ク所定ノ施設
ヲ完了シ以テ本會ノ盛況ニ寄與セラレタル所尠カラス仍テ茲ニ深厚ノ謝意ヲ表ス
昭和十年五月十日

吳市主催國防と産業大博覽會長

吳市長

渡邊

伍

一、建築工事

一、排水工事

(裝飾設備)

一、裝飾設備

一、ケース設備

工 營

不二裝飾株式會社專務取締役

くらふね裝飾合資會社
合資會社ヒラキ商店

中川三郎 藤岡俊三 佐々木鹿藏 片山喜四郎 小河内超四郎 水野今倫 山岡逸市 上海田近松 稻葉榮太郎 乃村泰資 森本敬二 山崎晴巖 開口吉次郎

工 營

感 謝 状

合資會社水利工業所

代表者 横 山 加 志 美 殿

本市主催國防と産業大博覽會ノ趣旨ヲ翼賛セラレ第一會場正面噴水塔ニ送水設備ヲ寄附セラレ其ノ送水成績優良ニシテ會場ニ一段ノ光彩ヲ添ヘ以テ本會ノ事業ニ寄與セラレタル所尠カラス仍テ茲ニ深厚ノ謝意ヲ表ス

昭和十年五月十日

吳市主催國防と産業大博覽會長

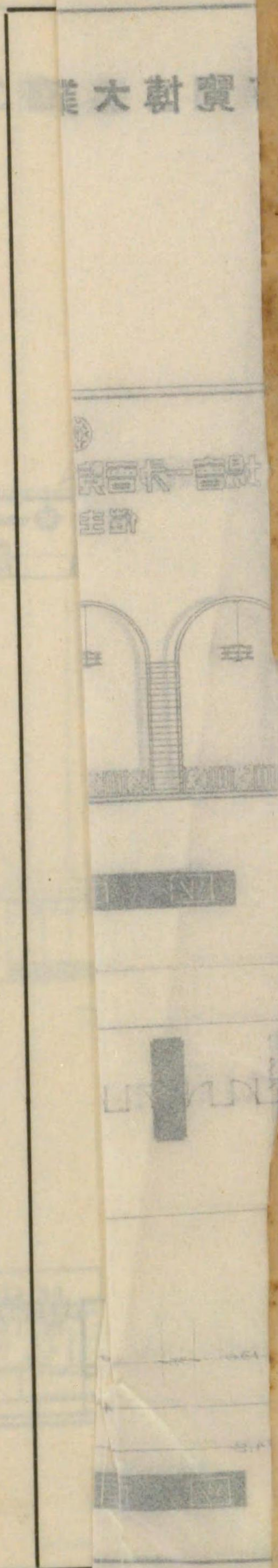
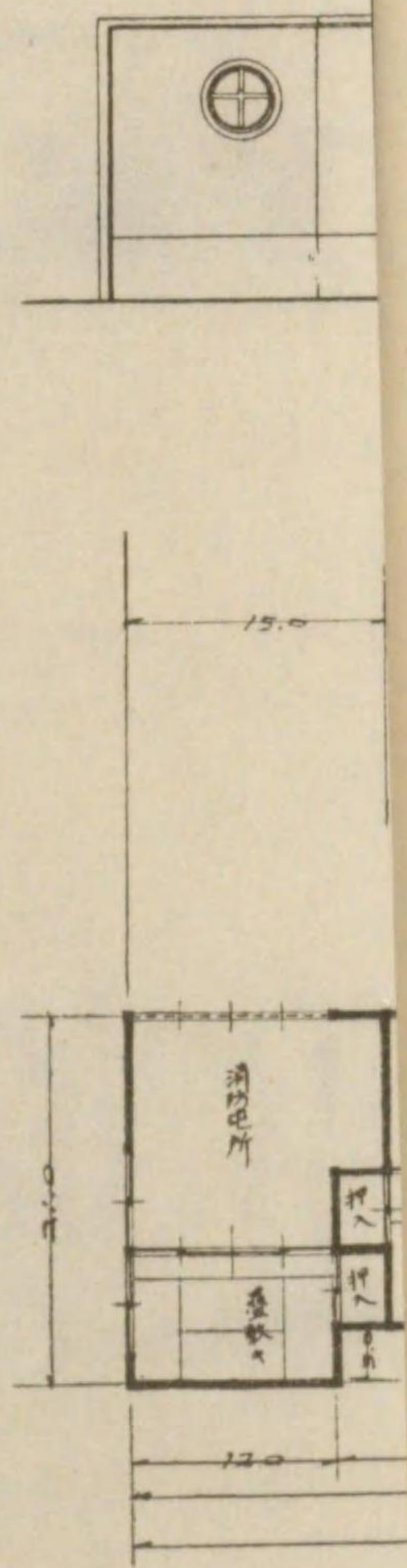
吳市長 渡 邊

伍

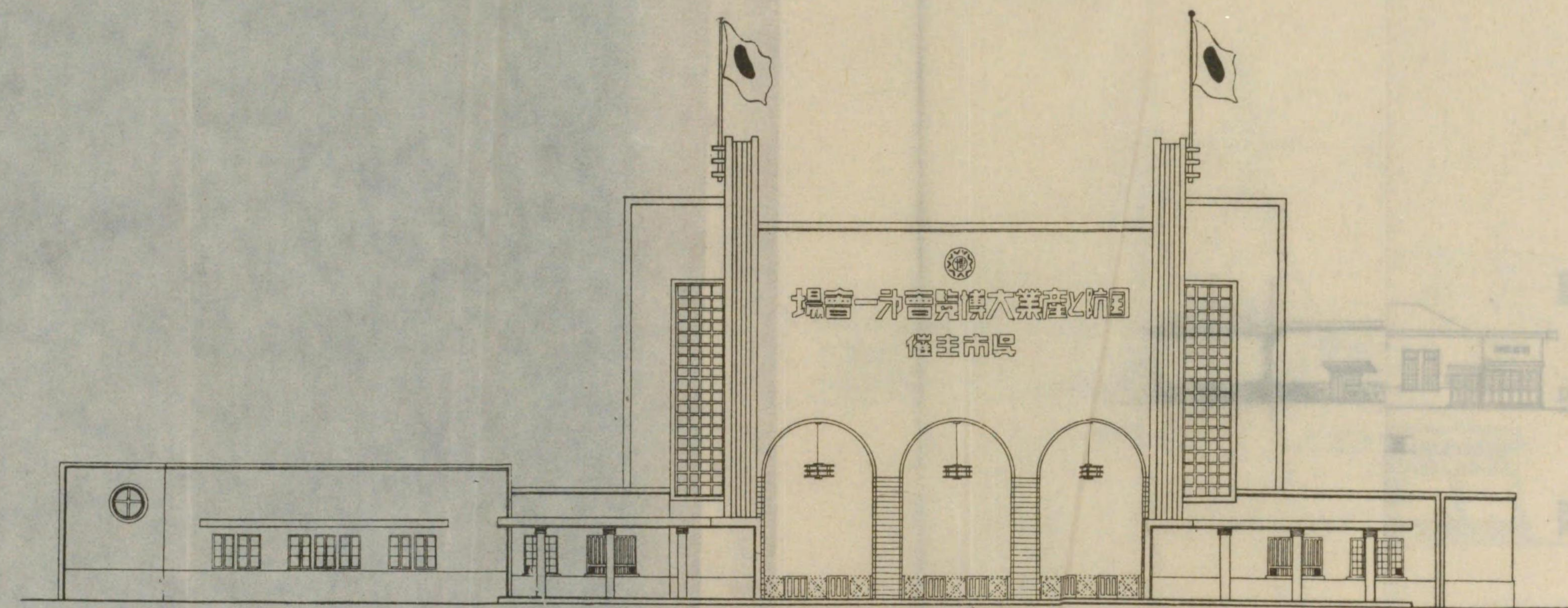
嶄新明朗な設計方針

本會々設建物の「デザイン」は、一般に舊習を破つた描寫的構成を主體とし、「モダニズム」を盛つた線と影により表現に努め、更に會の性質上各館の特色を表示すべく獨特な色彩を以て、觀客をアツピールすることに主眼點を置いた。

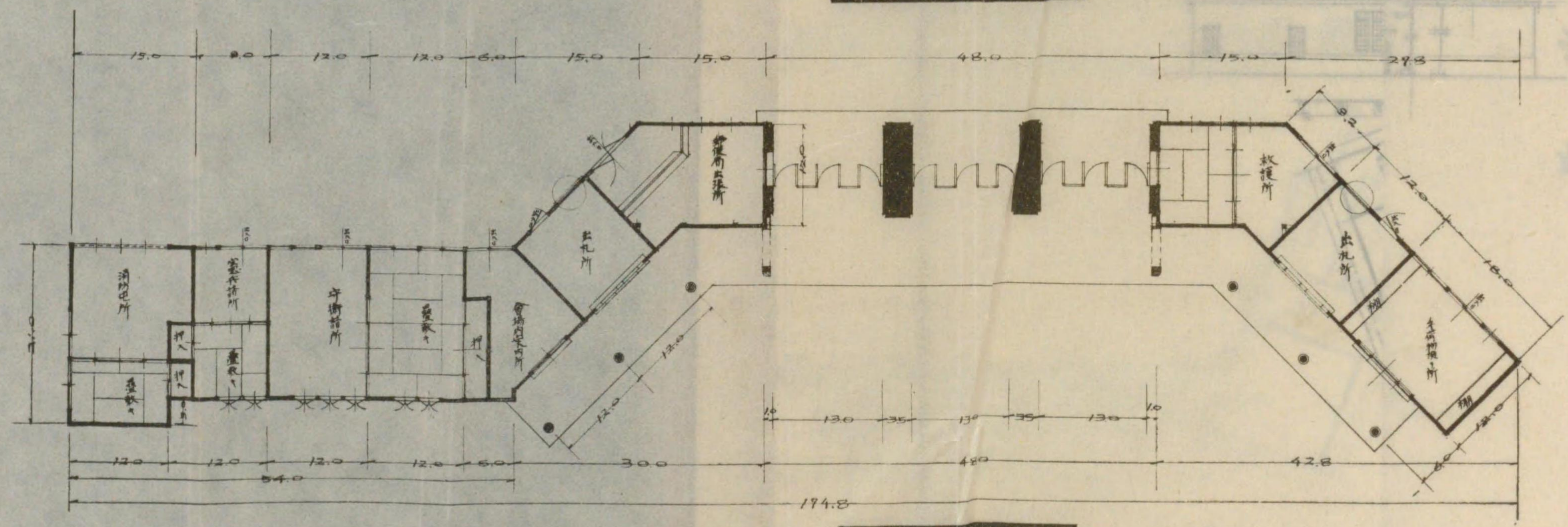
構造としては配置及び出品の關係から特殊なものを除き、大體其の梁間を分けて均一とした、用材は柱材としては地杉山挽及び松小割物を使用し、小屋材は地杉丸太を使用した、又屋根葺き材料は波型亞鉛引鐵板、特殊なものには「ルーフィング」を葺いた、外壁は漆喰塗とし、腰廻りはモルタル塗及び松板を採用し、土間は三洲叩き、内壁腰廻りは板張り、上部及び天井は布張とし、特殊天井には張板を用ひた。



圖計設門正場會一第會覽博大業産と防國



四面正

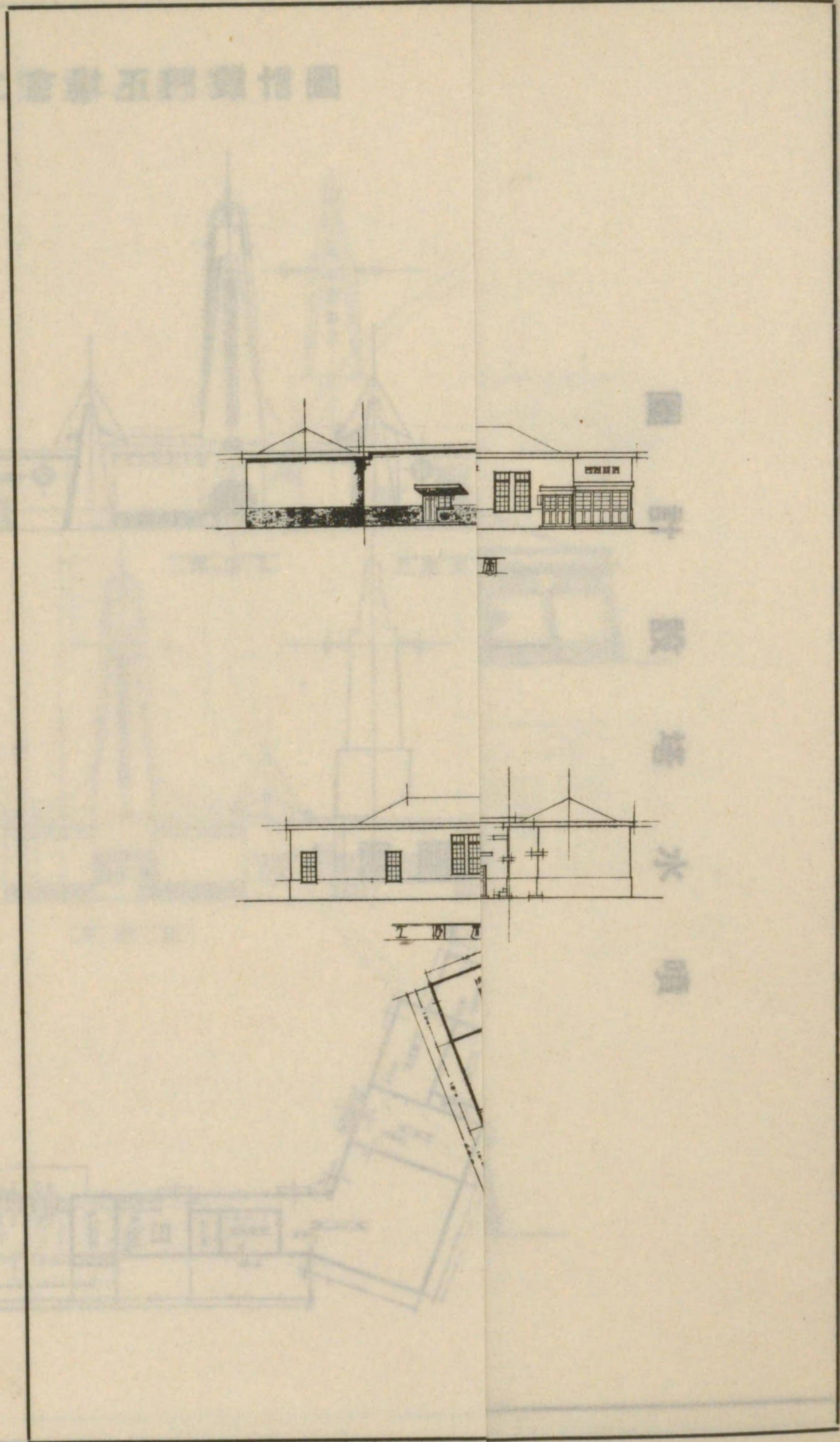


四面平

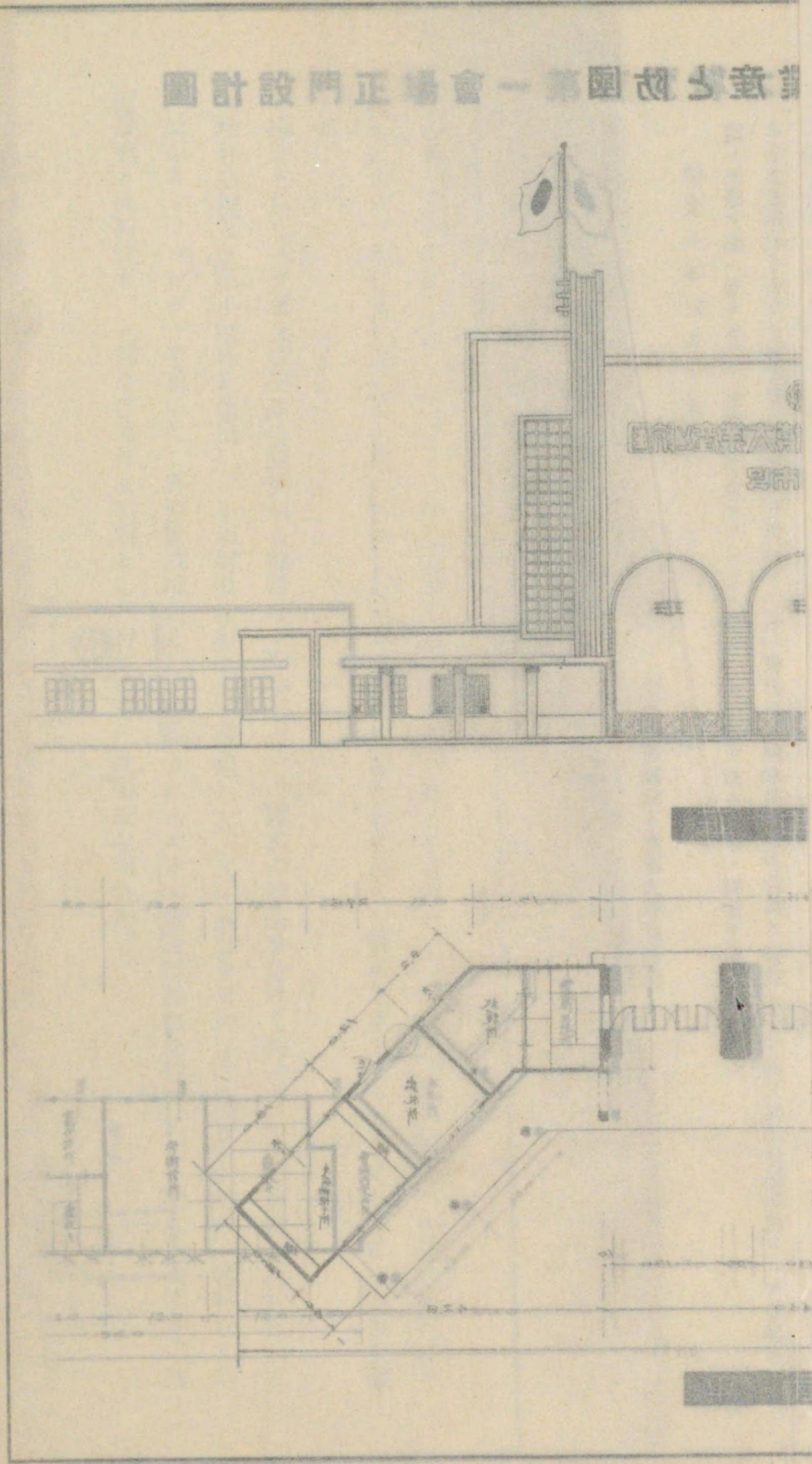
本會々設建物の「デザイン」は、一般に舊習を破つた描寫的構成を主體とし、「モダニズム」を盛つた線と影により表現に努め、更に會の性質上各館の特色を表示すべく獨特な色彩を以て、觀客をアツピールすることに主眼點を置いた。

構造としては配置及び出品の關係から特殊なものを除き、大體其の梁間を分けて均一とした、用材は柱材としては地杉山挽及び松小割物を使用し、小屋材は地杉丸太を使用した、又屋根葺き材料は波型亜鉛引鐵板、特殊なものには「ルーフィング」を葺いた、外壁は漆喰塗とし、腰廻りはモルタル塗及び松板を採用し、土間は三洲叩き、内壁腰廻りは板張り、上部及び天井は布張とし、特殊天井には張板を用ひた。

圖情類門五學二第



圖計設門正場會一第園胡少致第



工

營

感

謝

狀

代表會社水利工業所
橫山加志美殿

圖計設門正場會二第會覽博大業產と防國

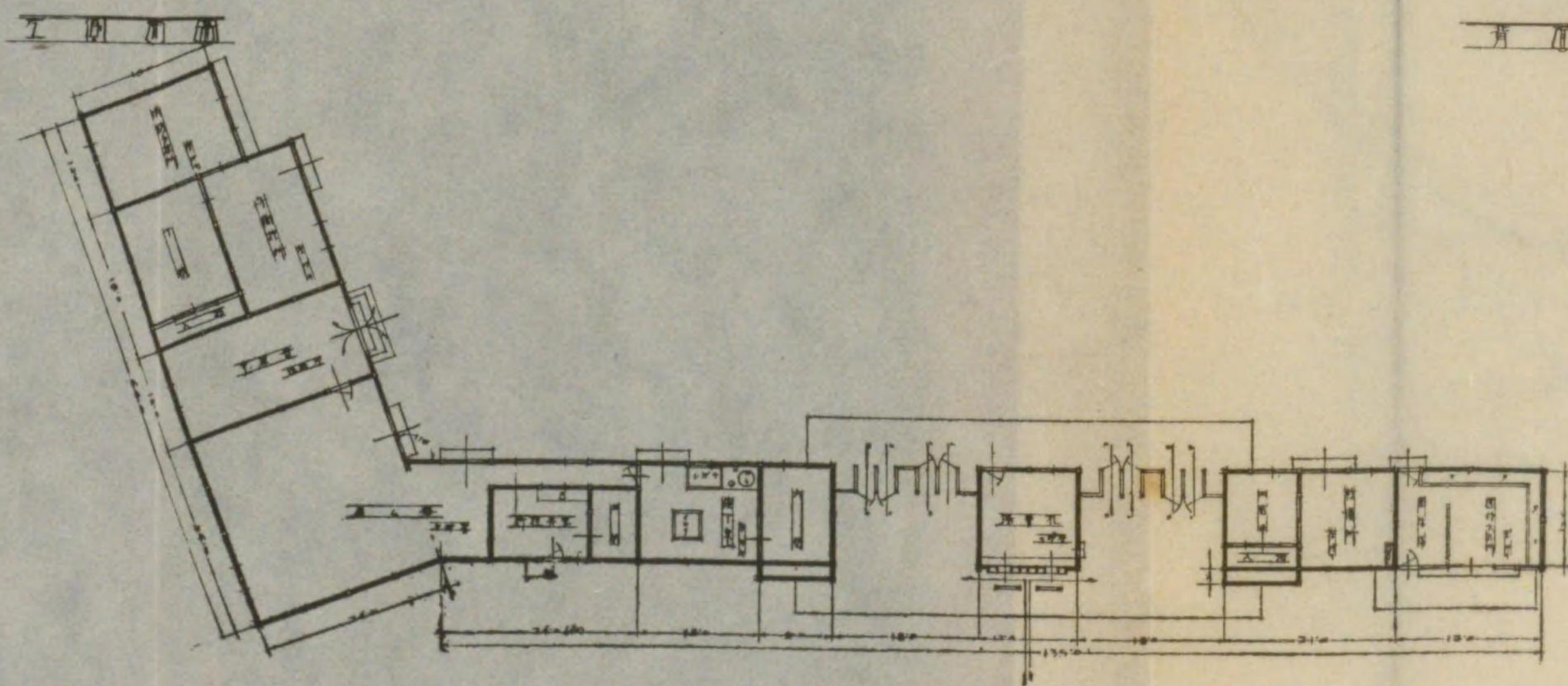
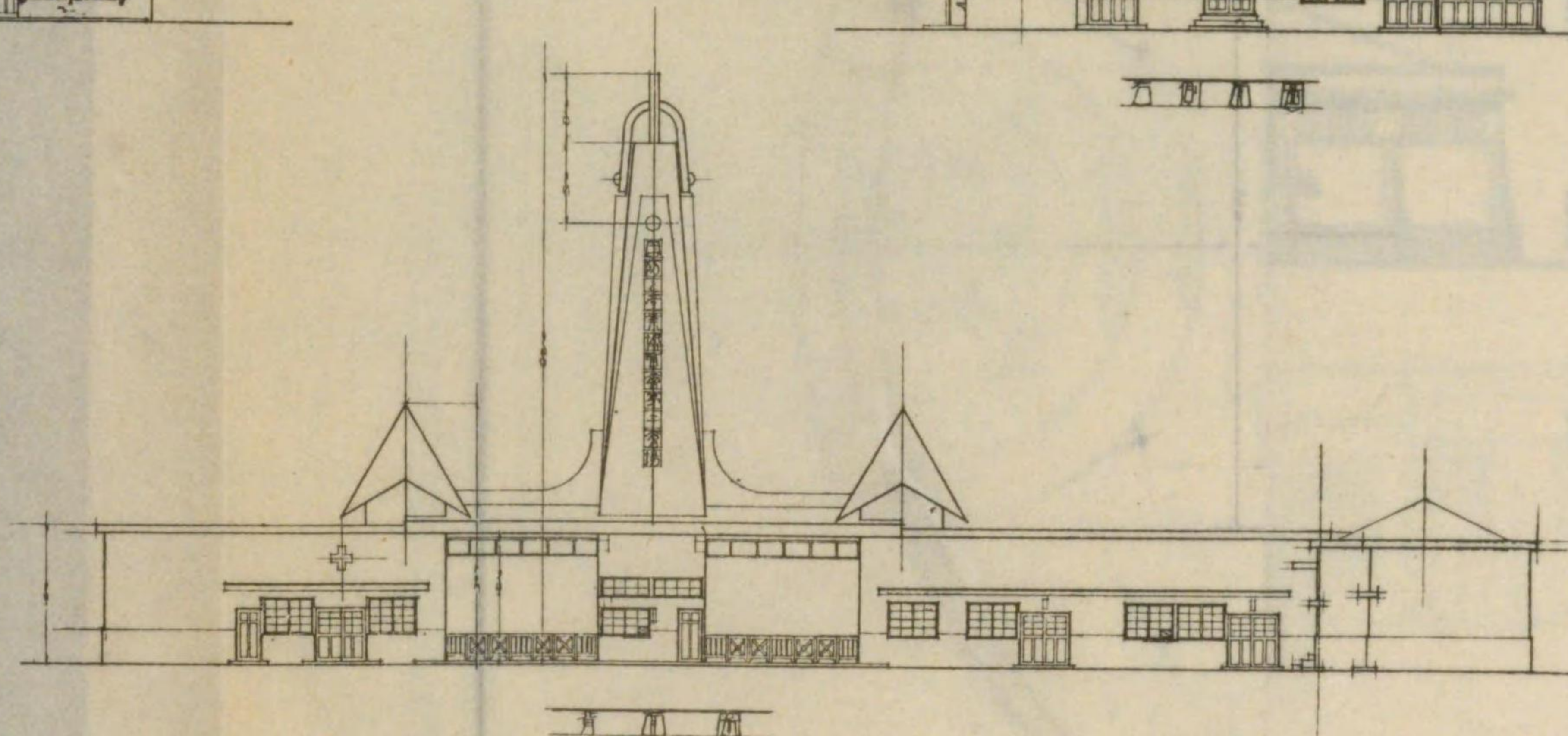
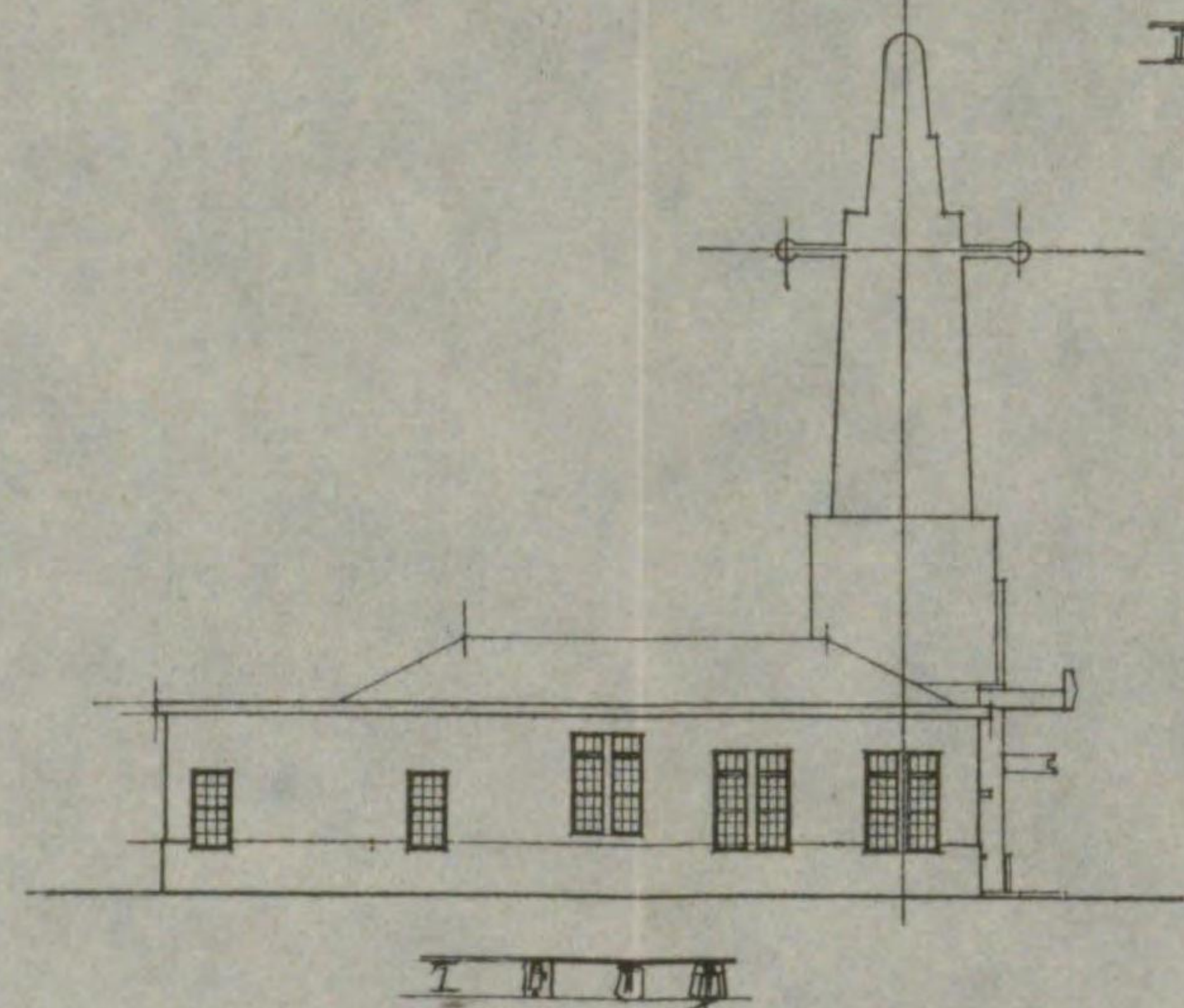
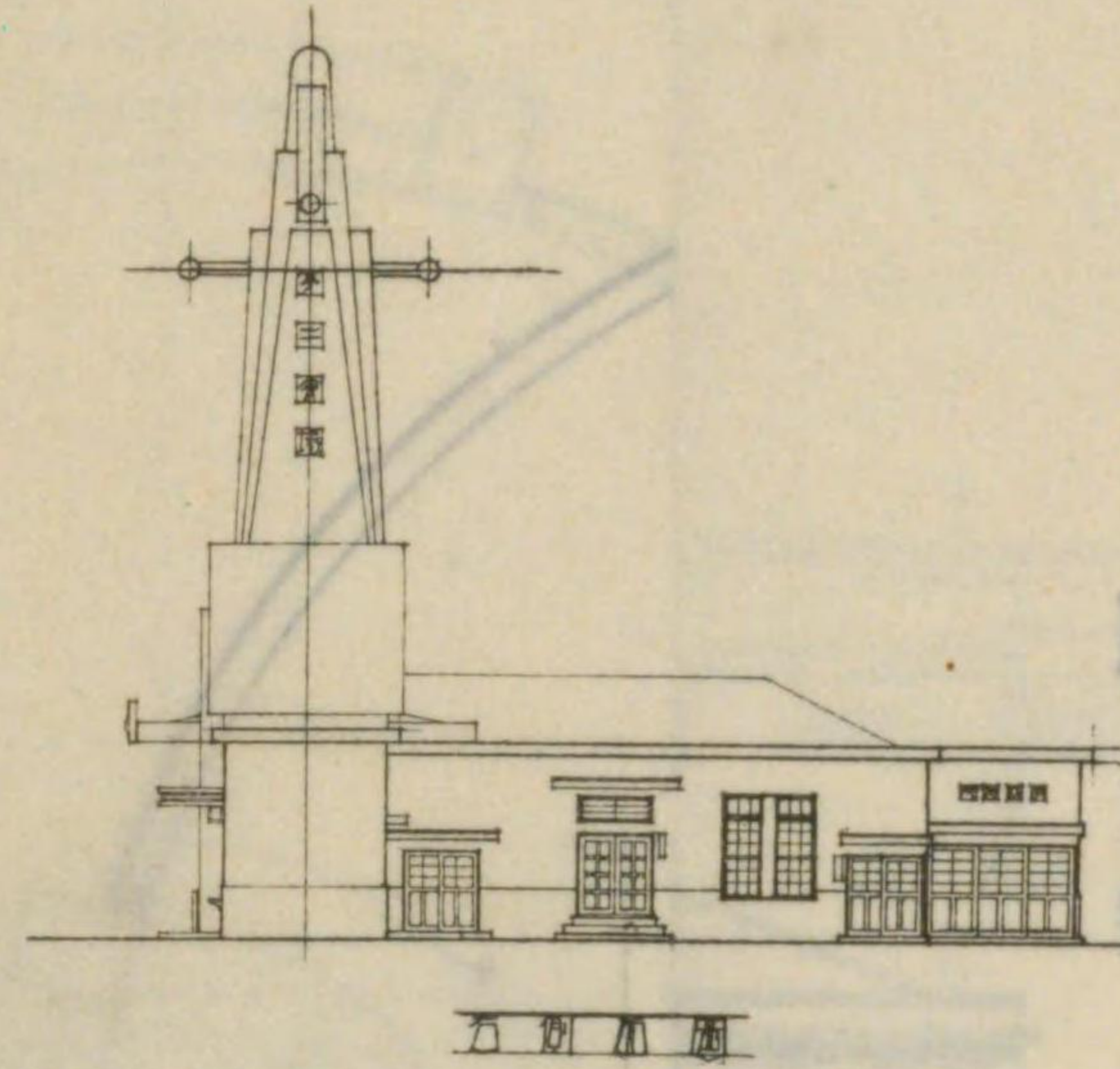
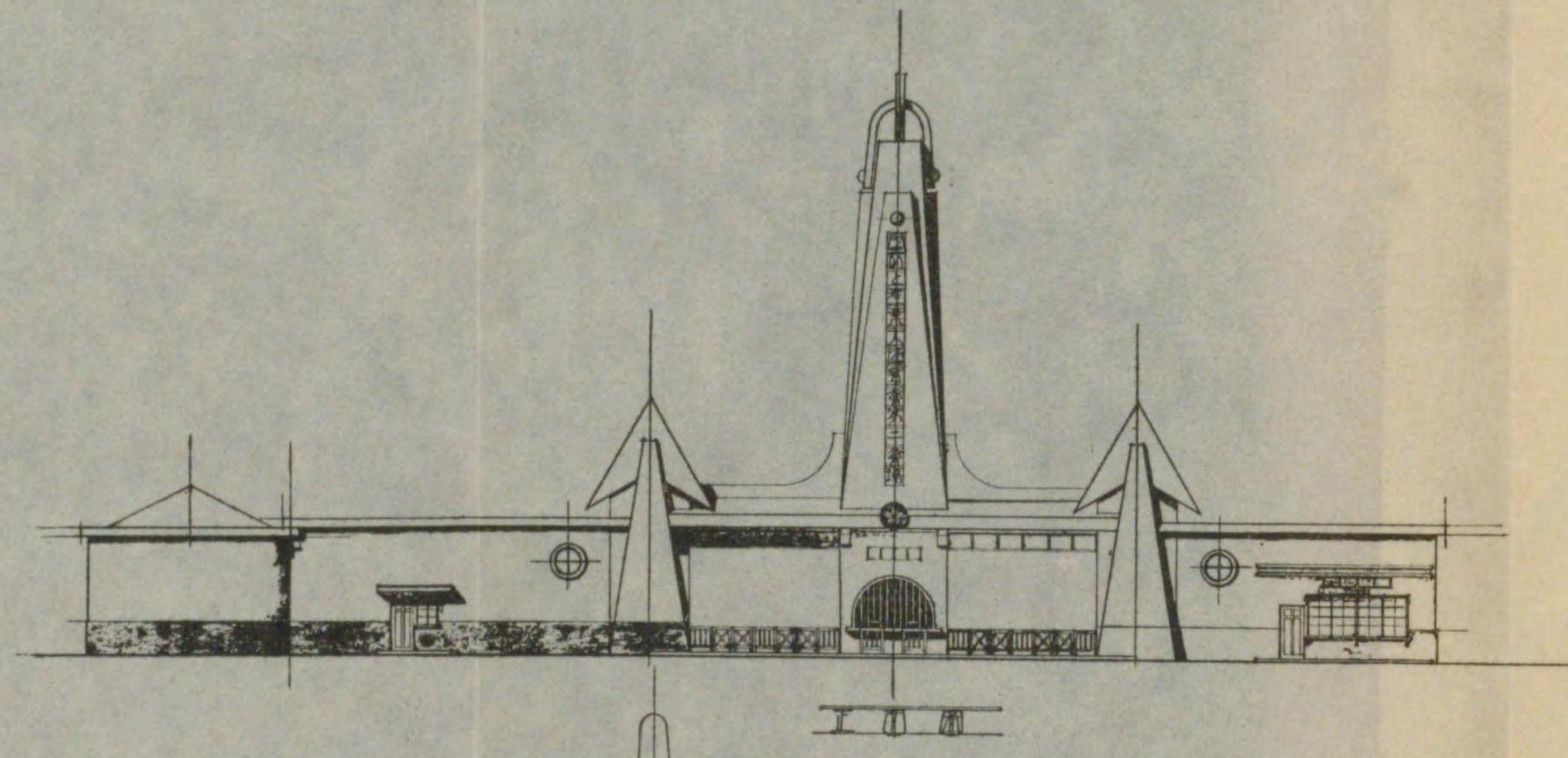
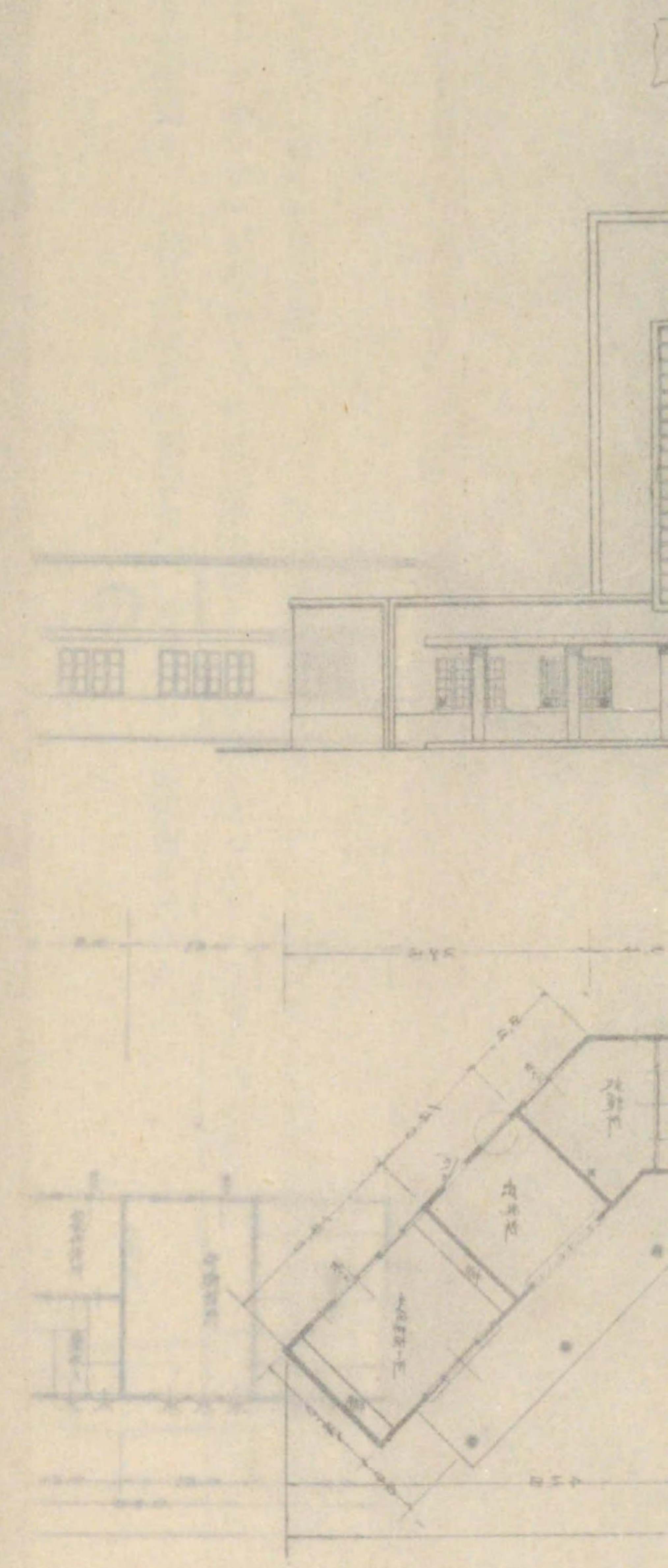


圖
計
設
塔
水
噴

圖計設門



工
營

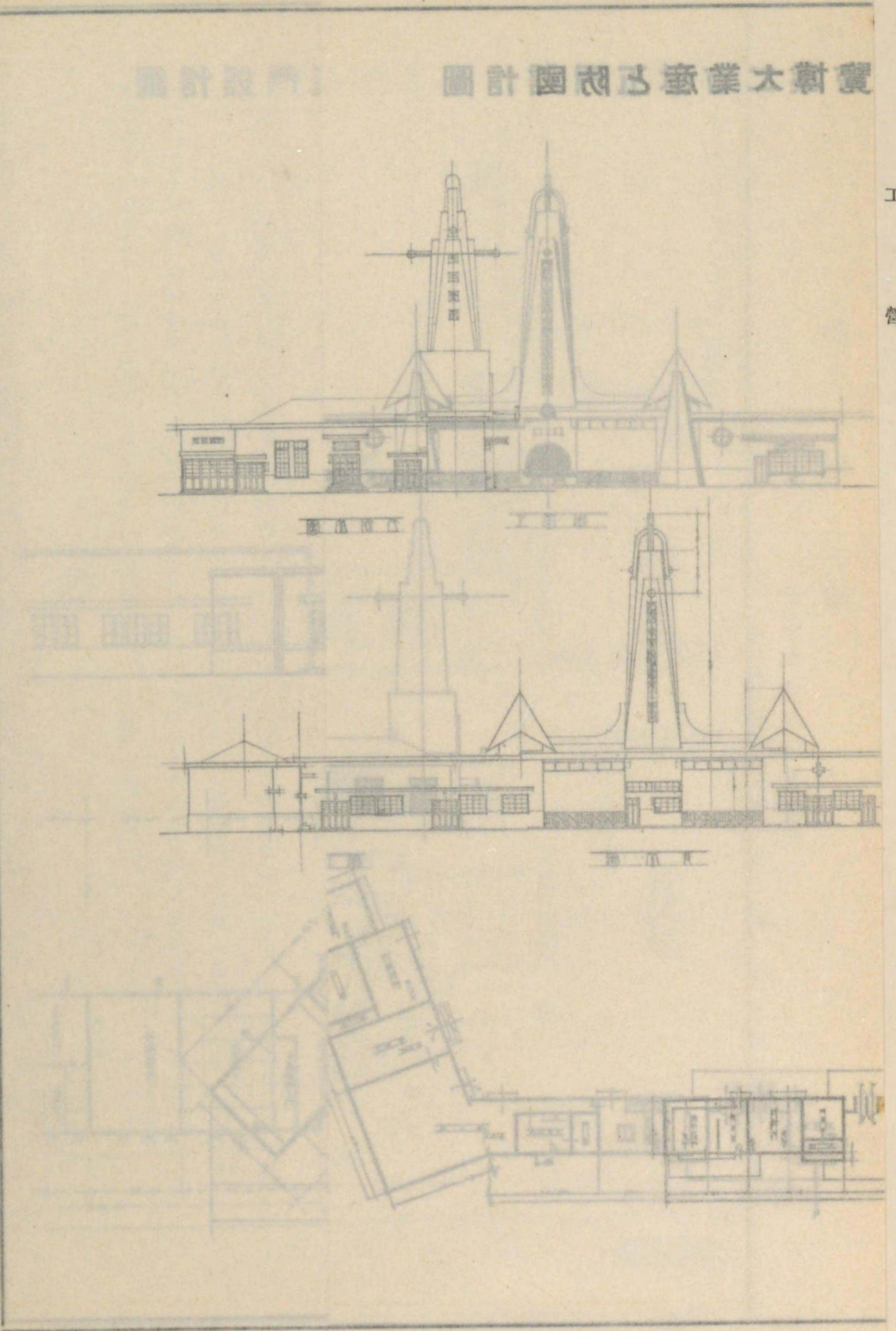
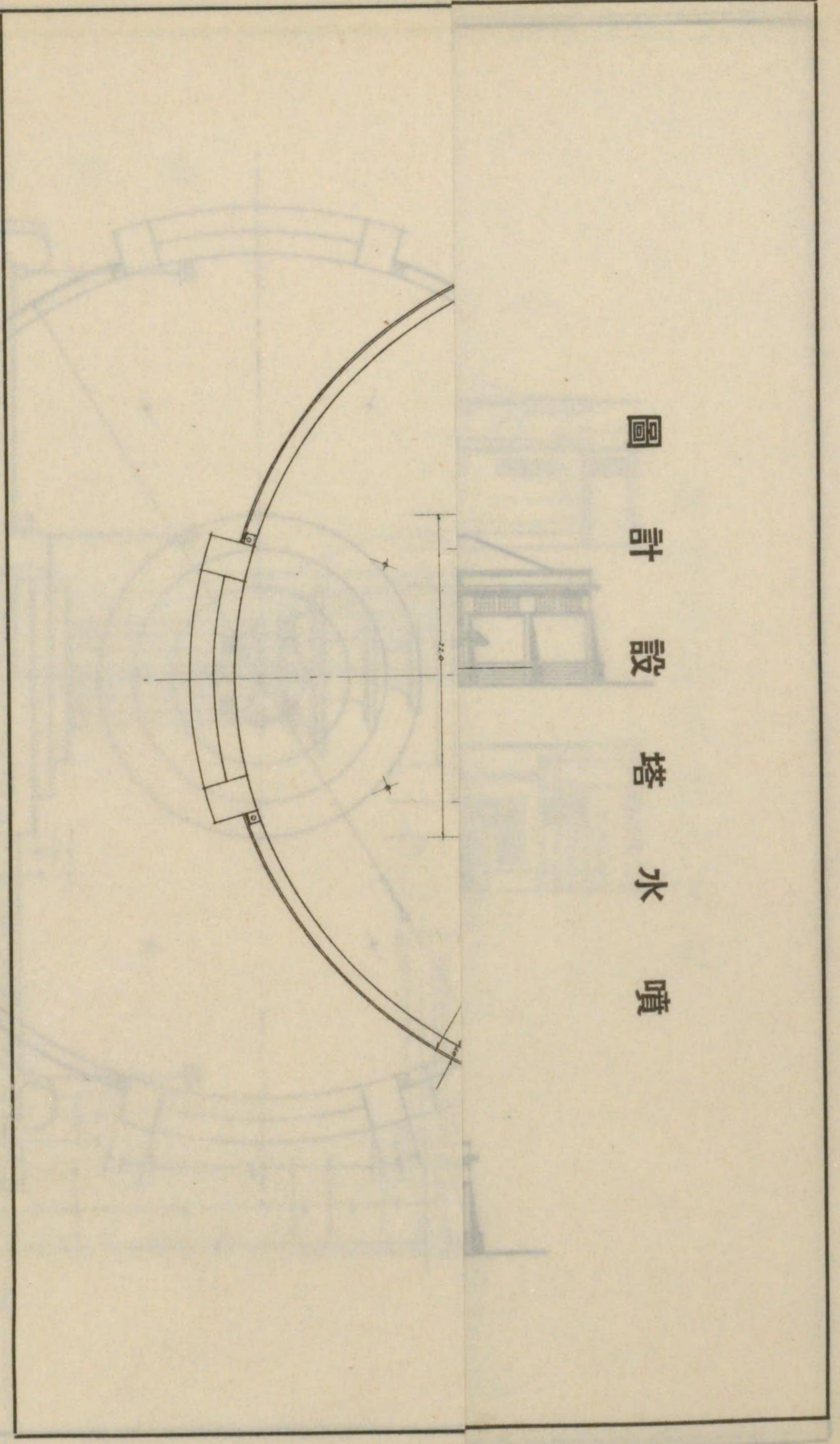
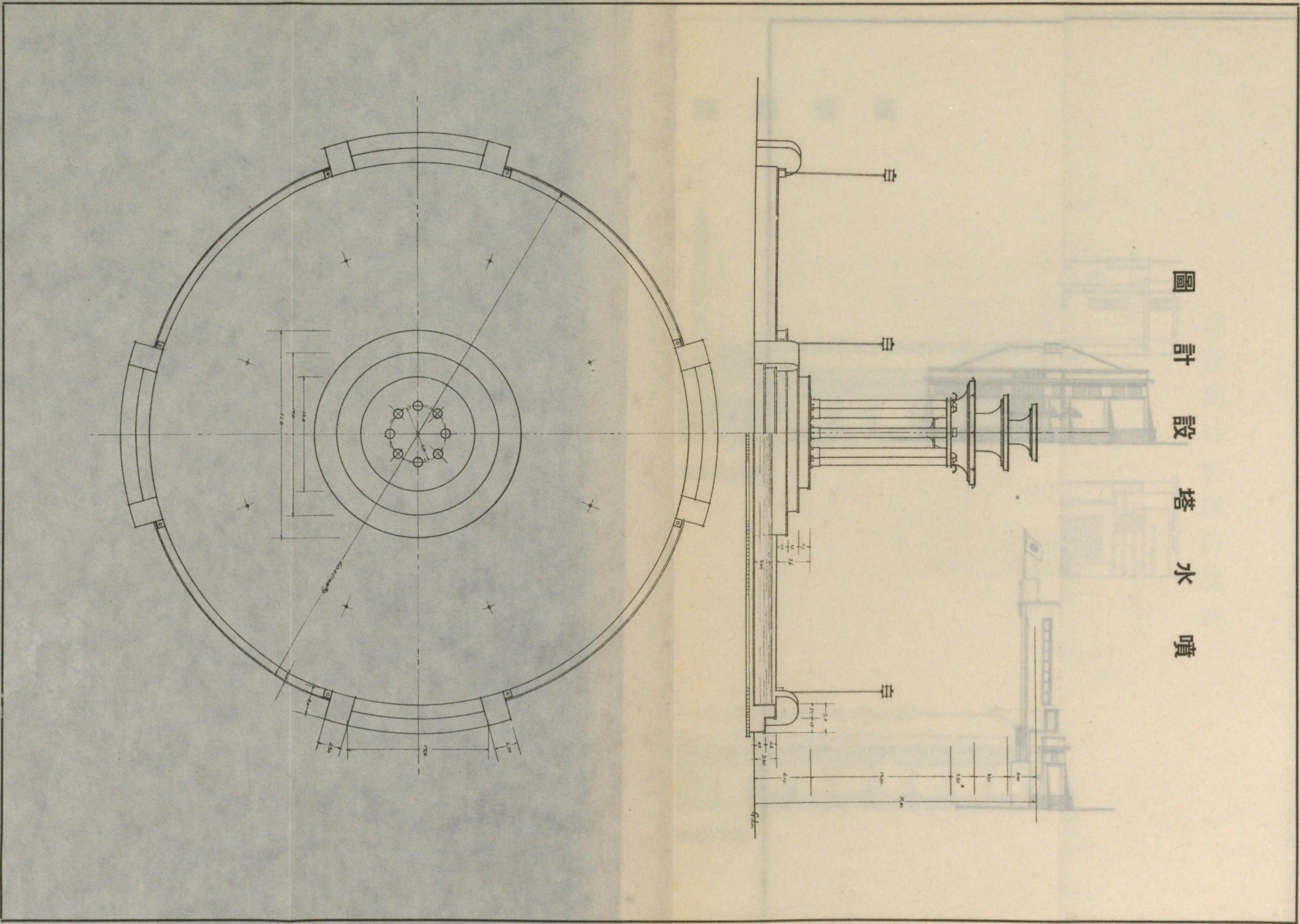


圖 計 設 塔 水 噴





噴水塔設計圖

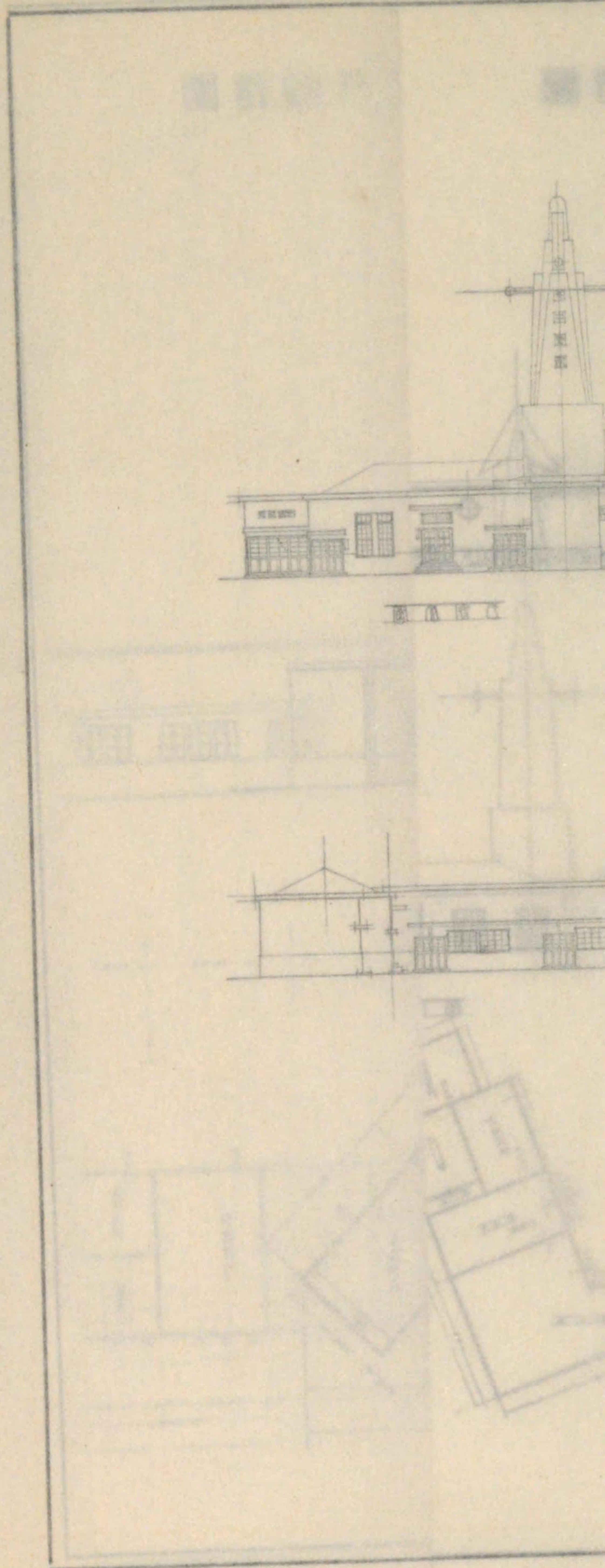


圖 樣 建 築

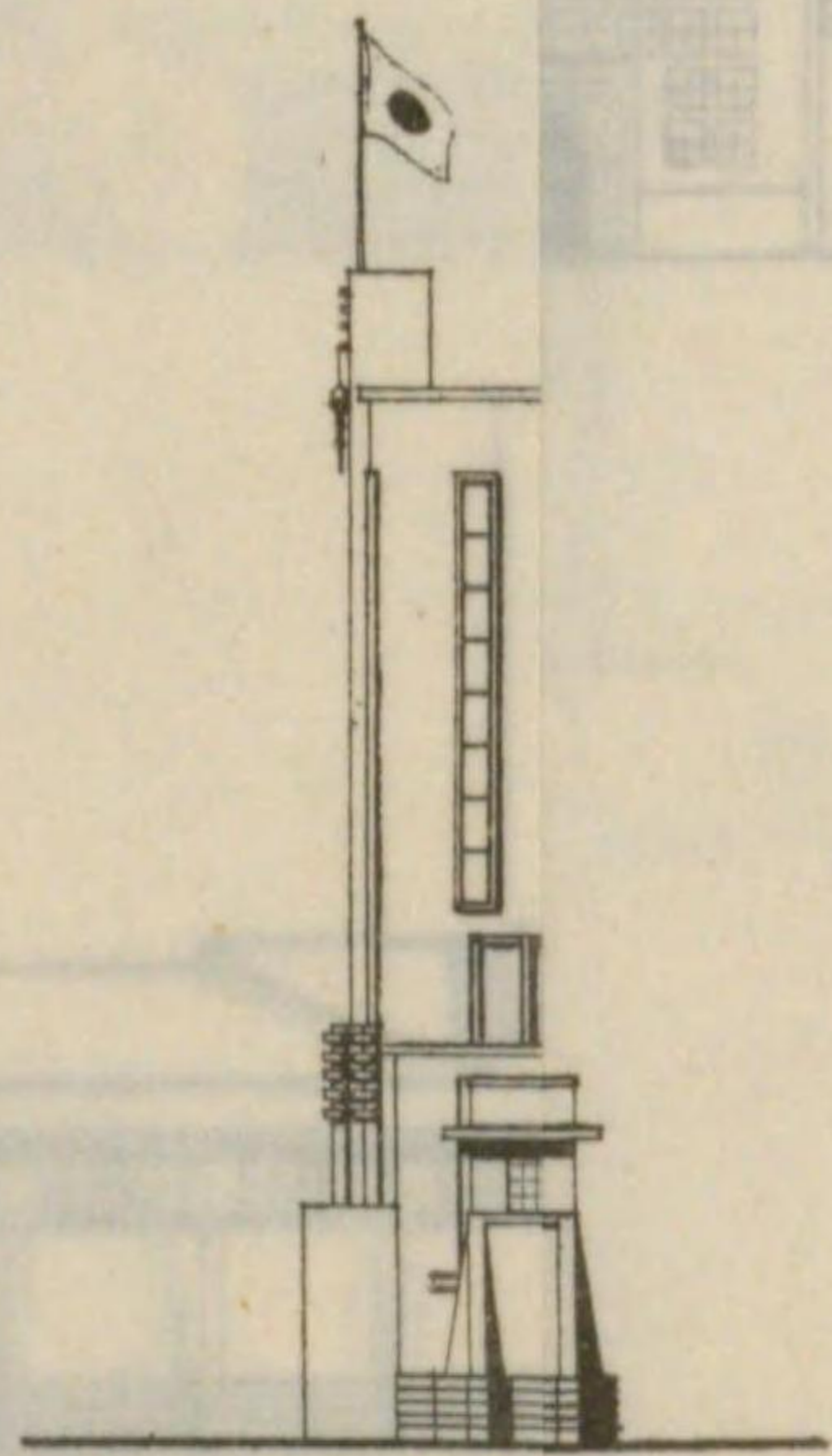
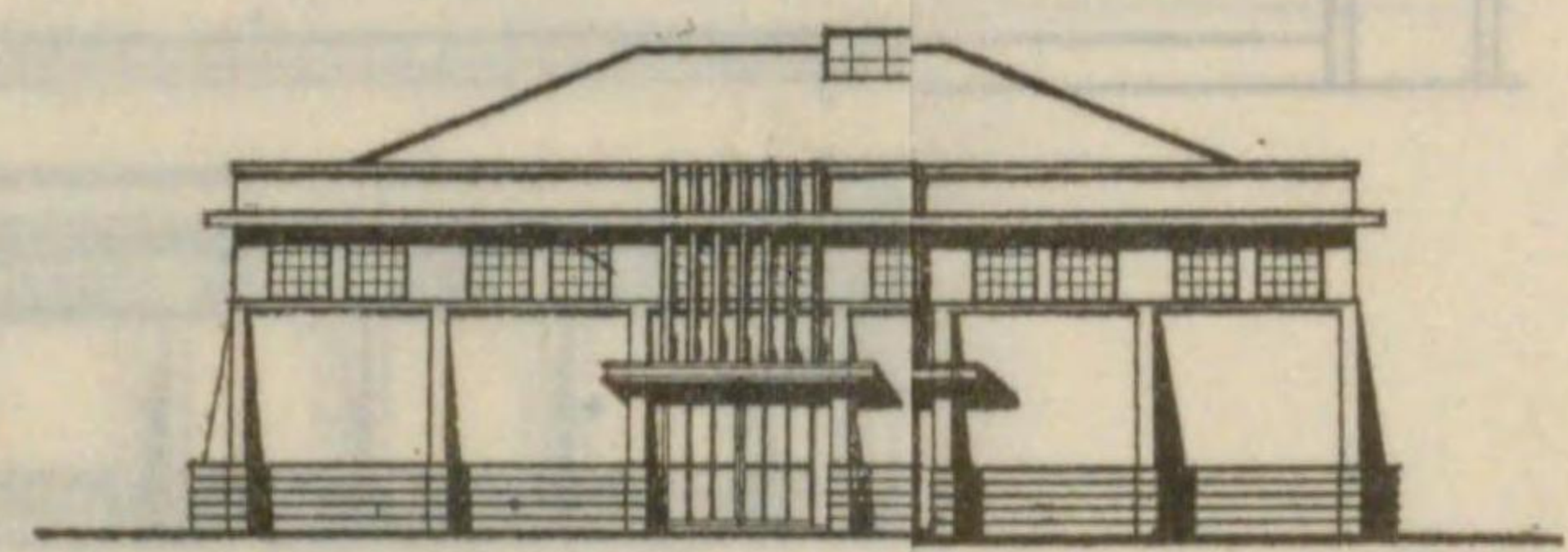
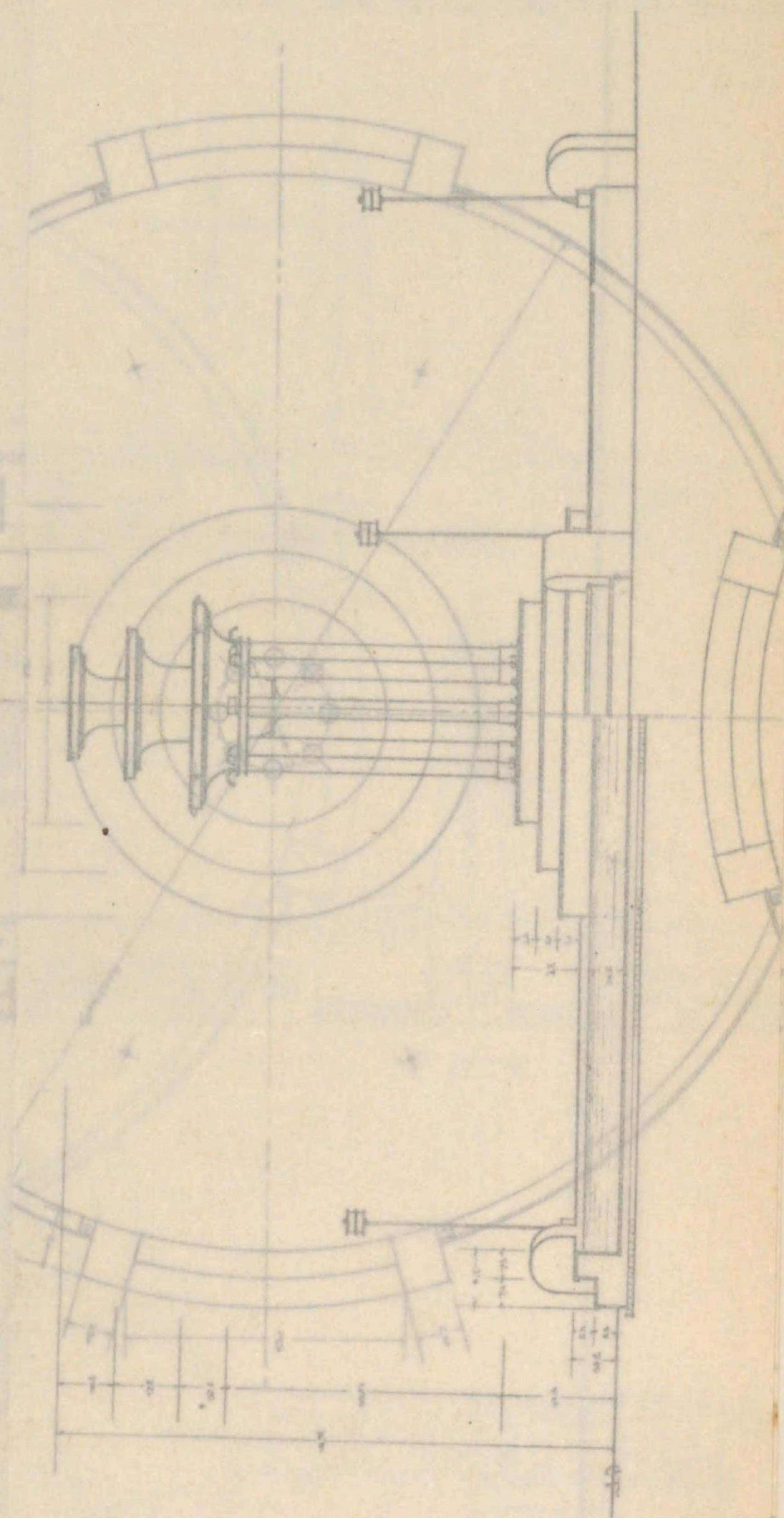
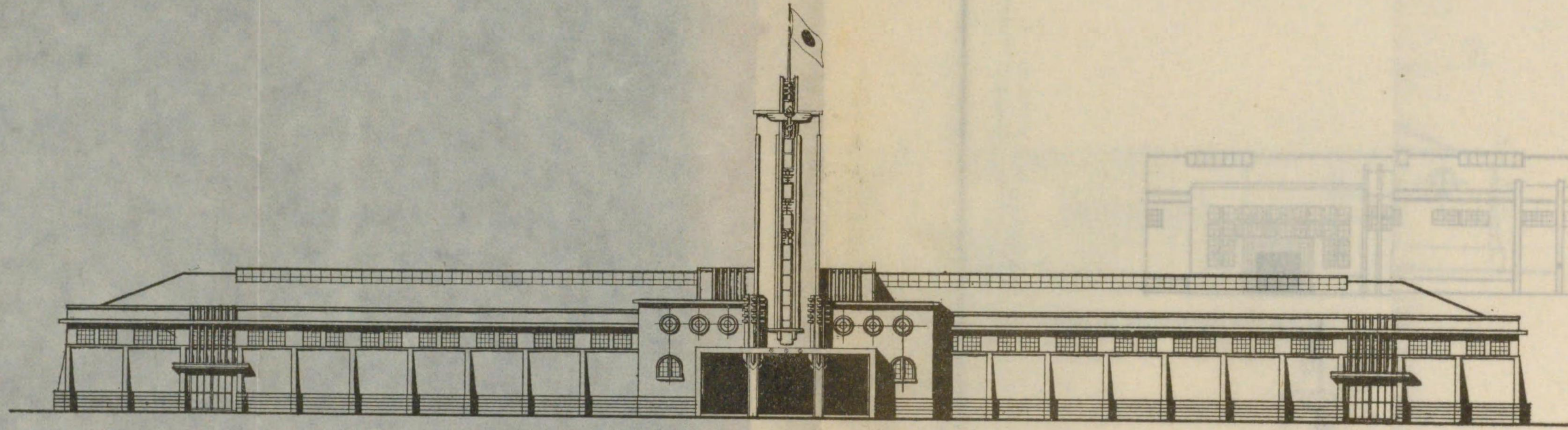


圖 樣 建 築 水 池 節

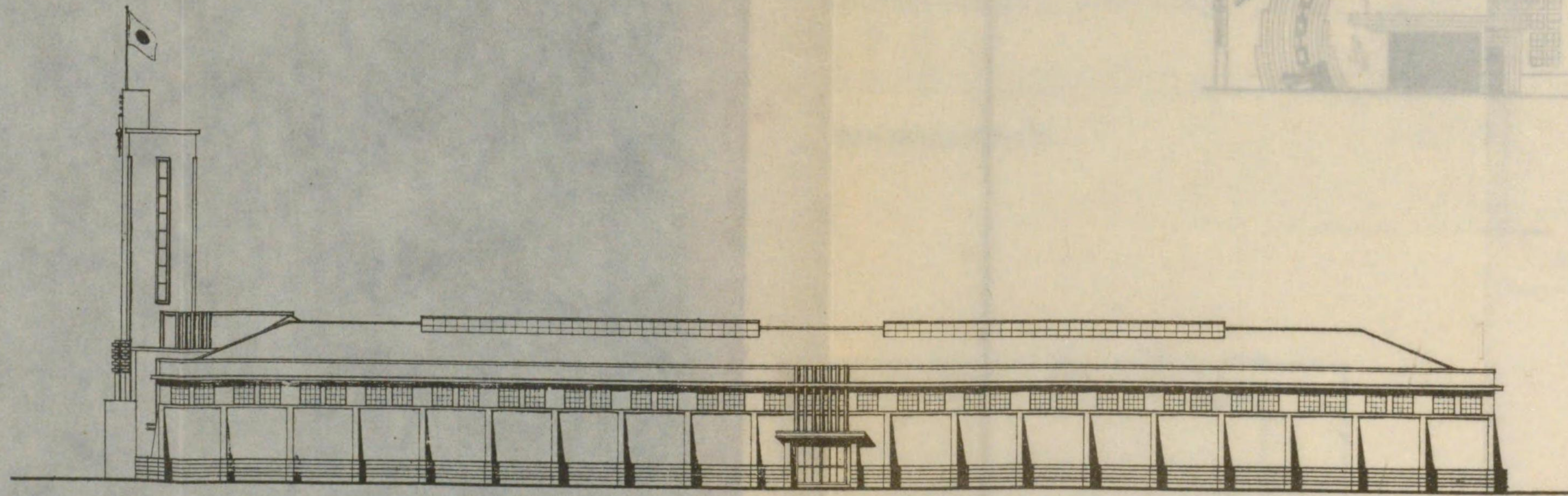


工
營

圖 計 設 館 本 業 產

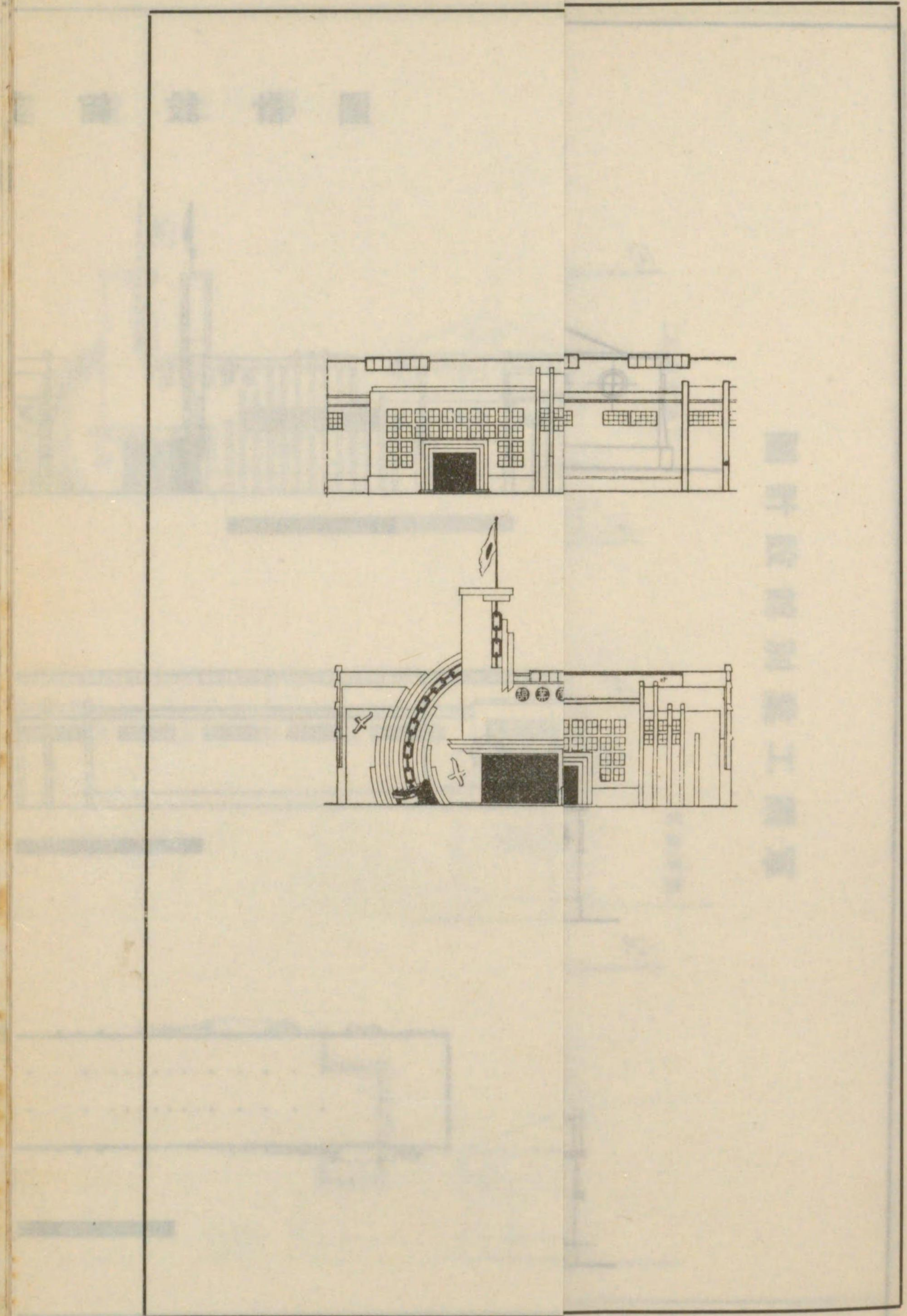


正 面 圖

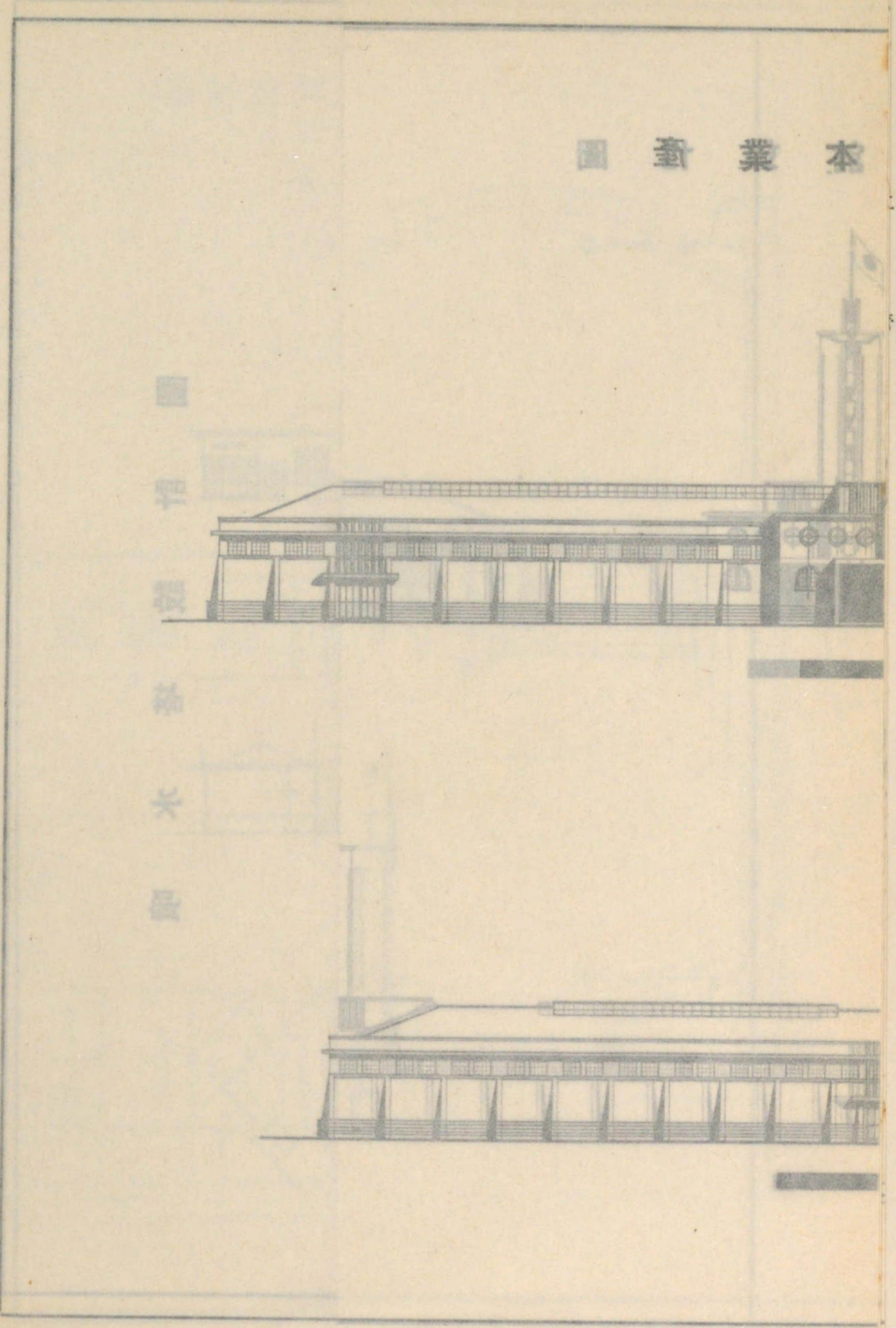


側 面 圖

圖 信 箱 水 池 圖



圖新廠別業工商軍



圖新業本

圖新業本

圖 計 設 館 業 產 土 鄉

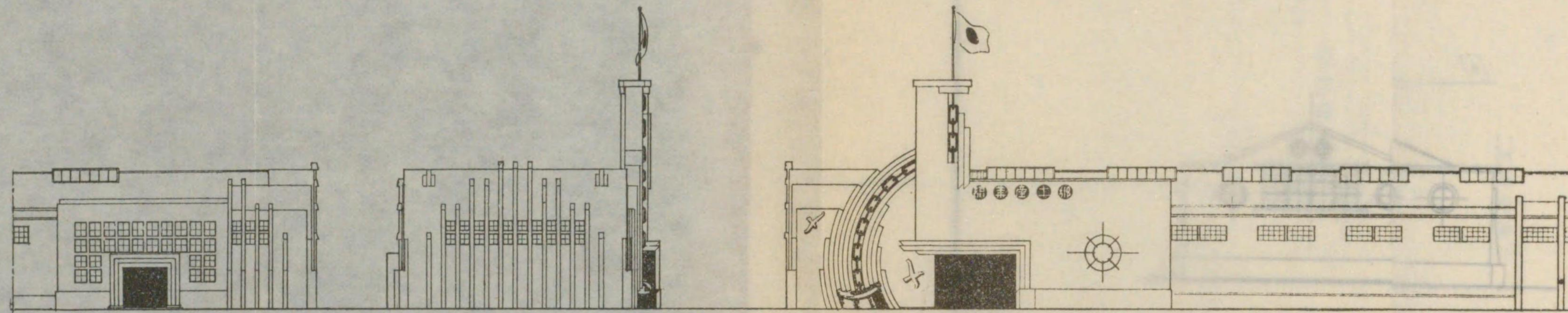


圖 高 側

圖 高 背

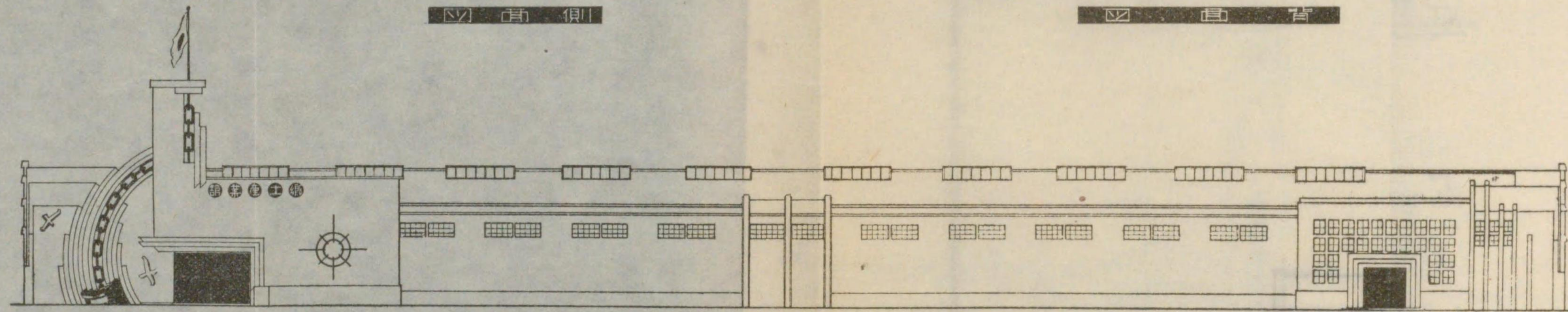


圖 高 正

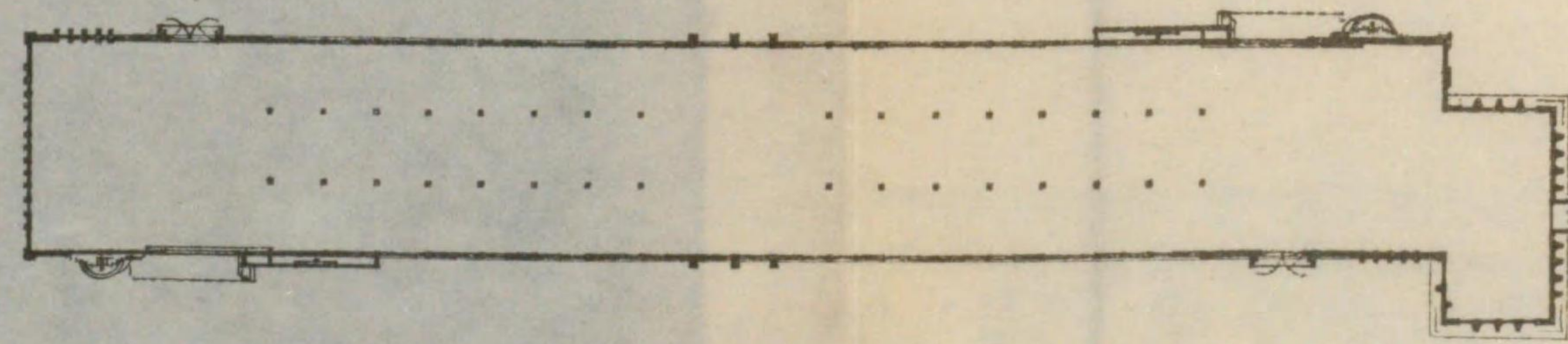
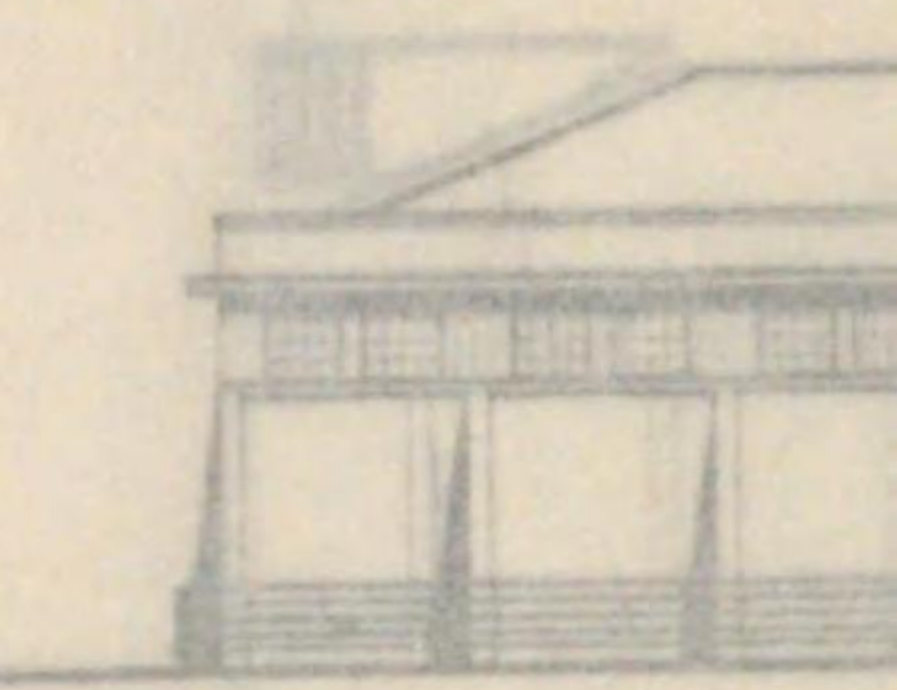
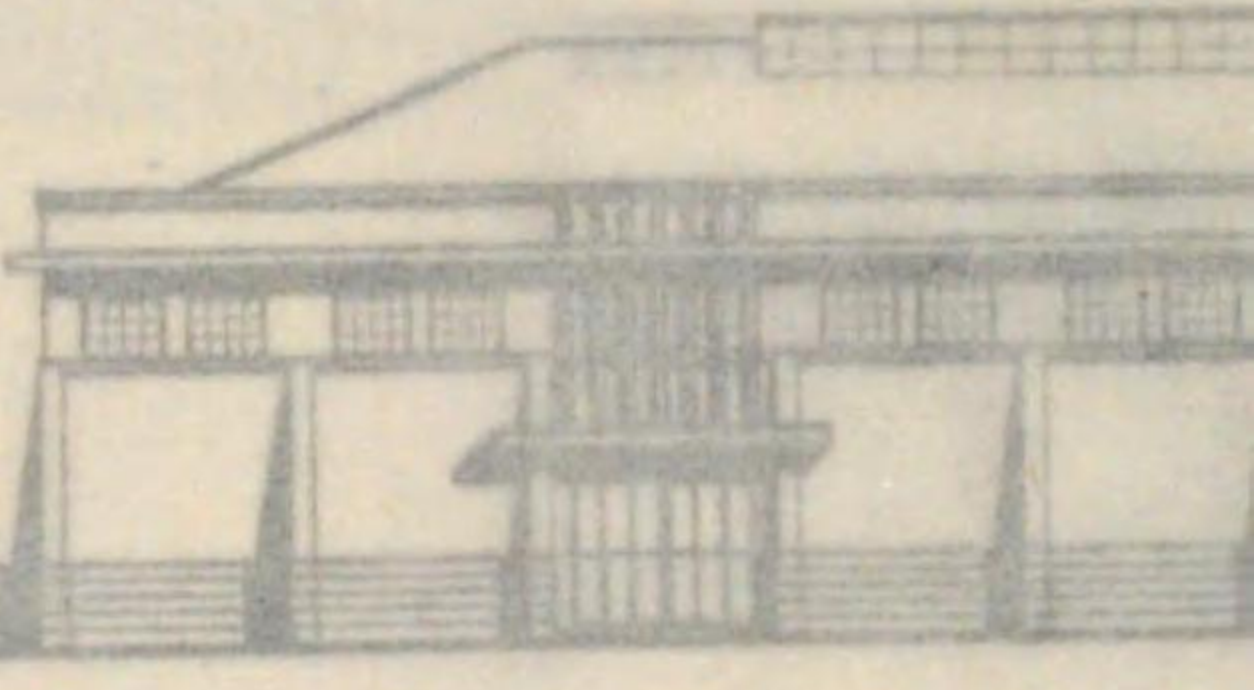
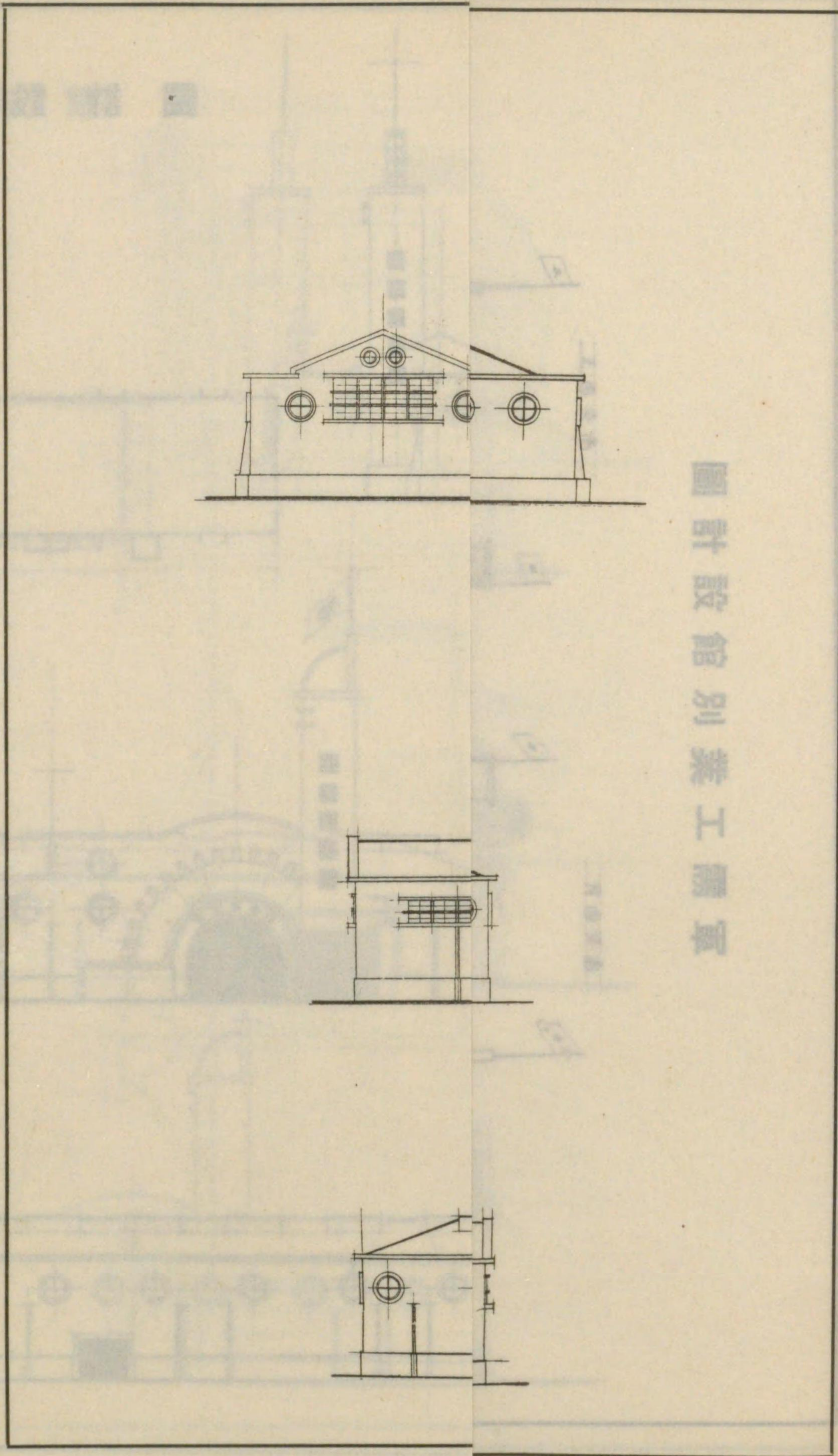


圖 高 平

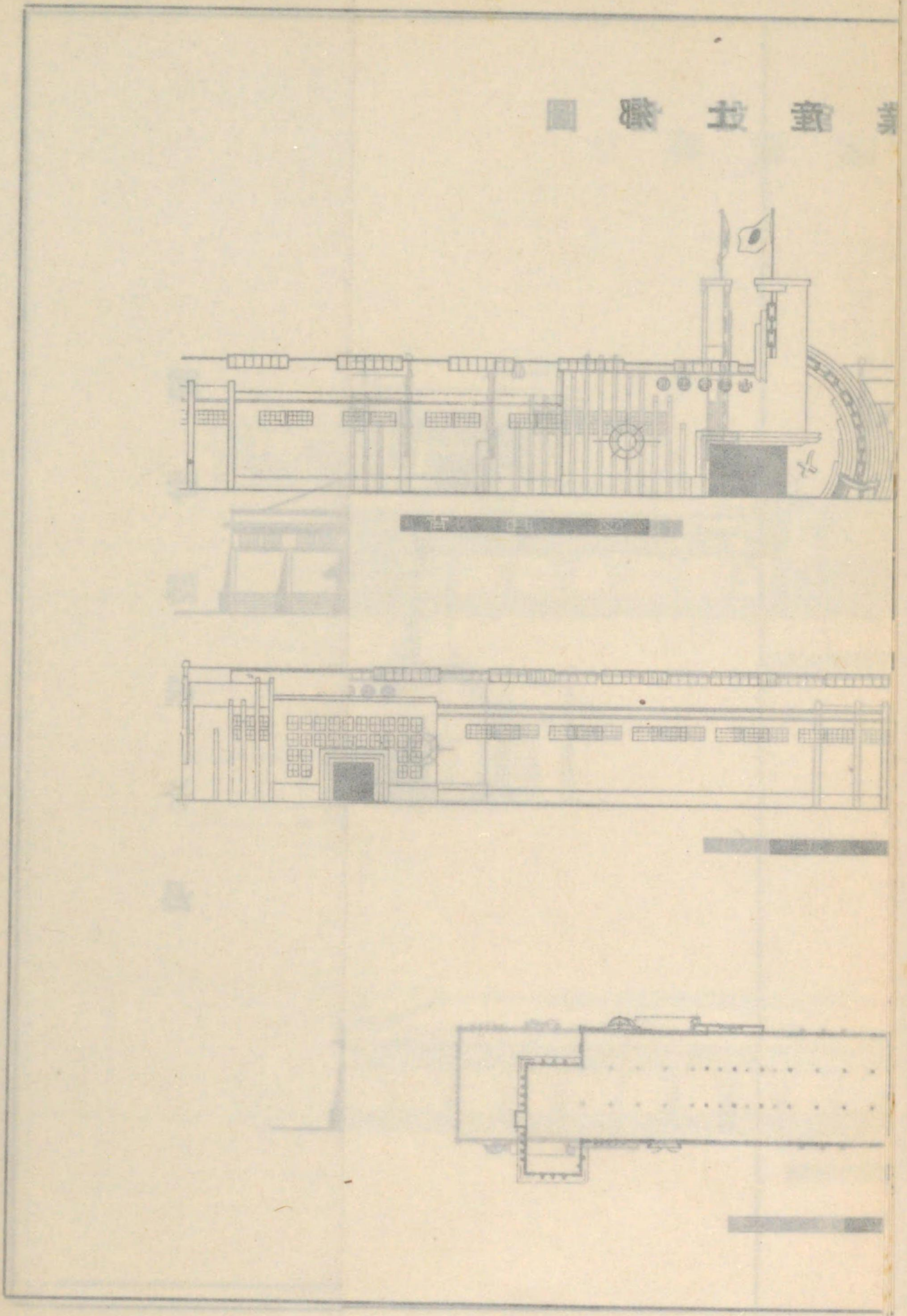
圖 樣 水 泥 工 程 師 考 試 題 庫



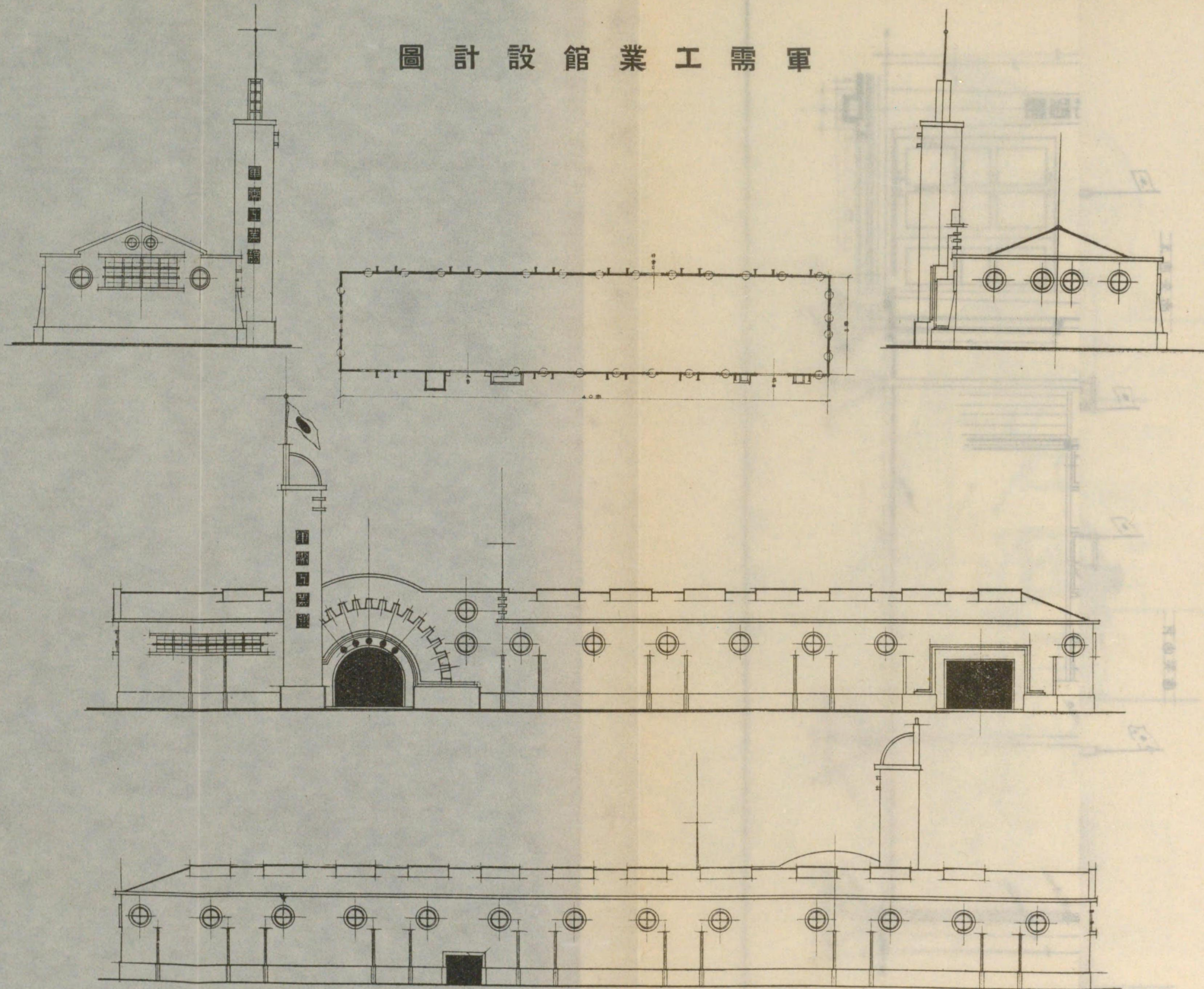


圖計設館別業工備軍

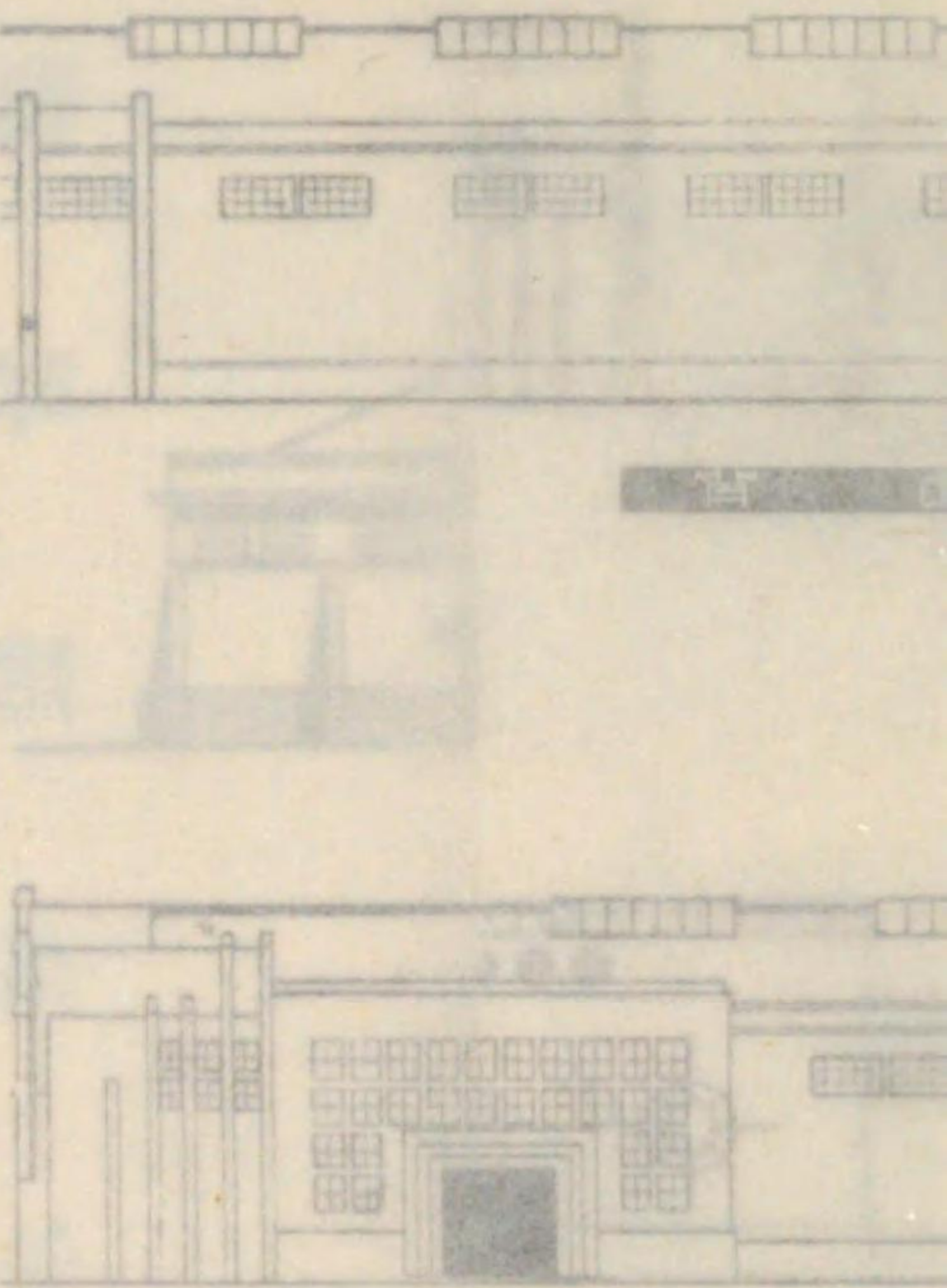
圖 總 士 業 業



圖計設館業工需軍



圖計設館別業工需軍



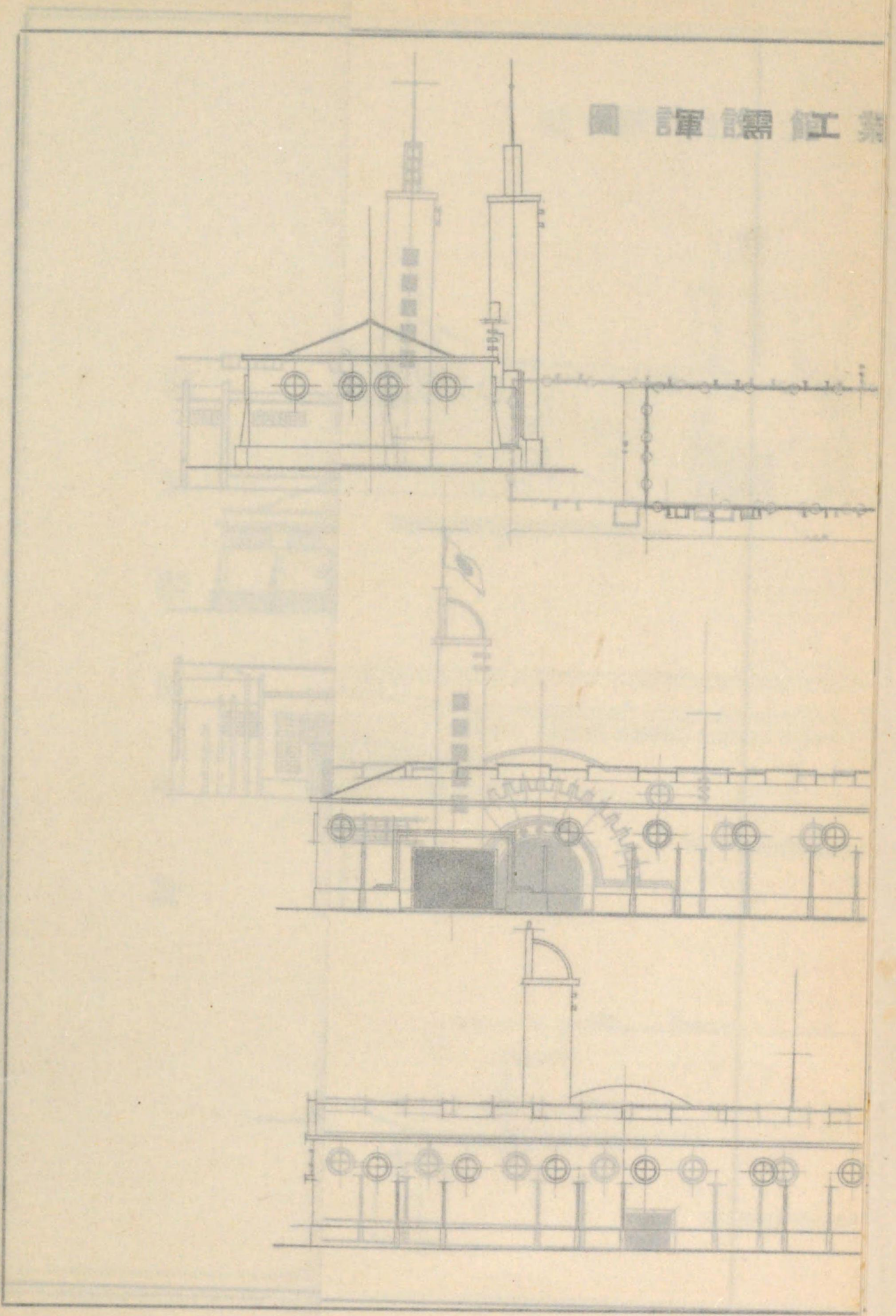
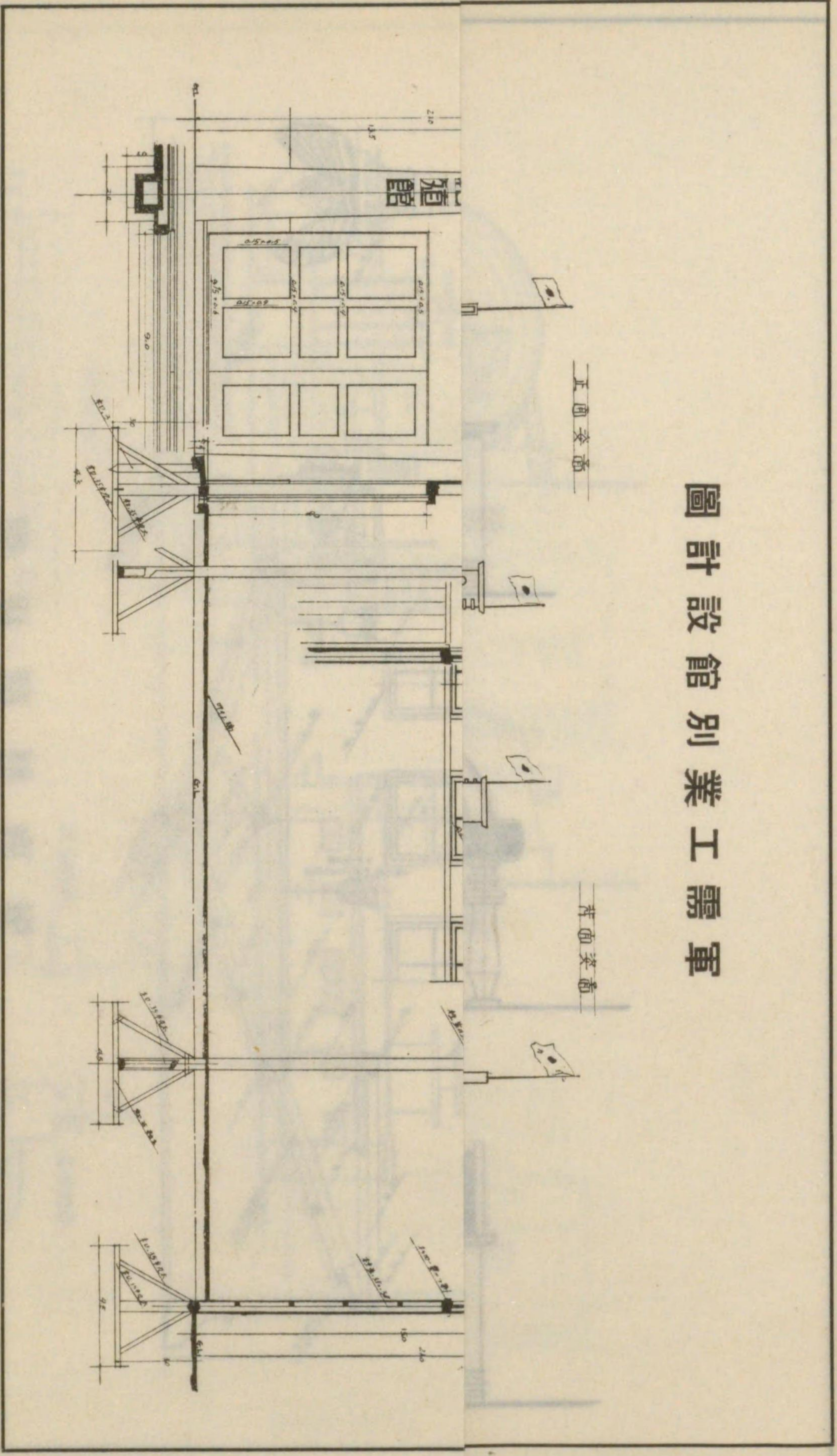
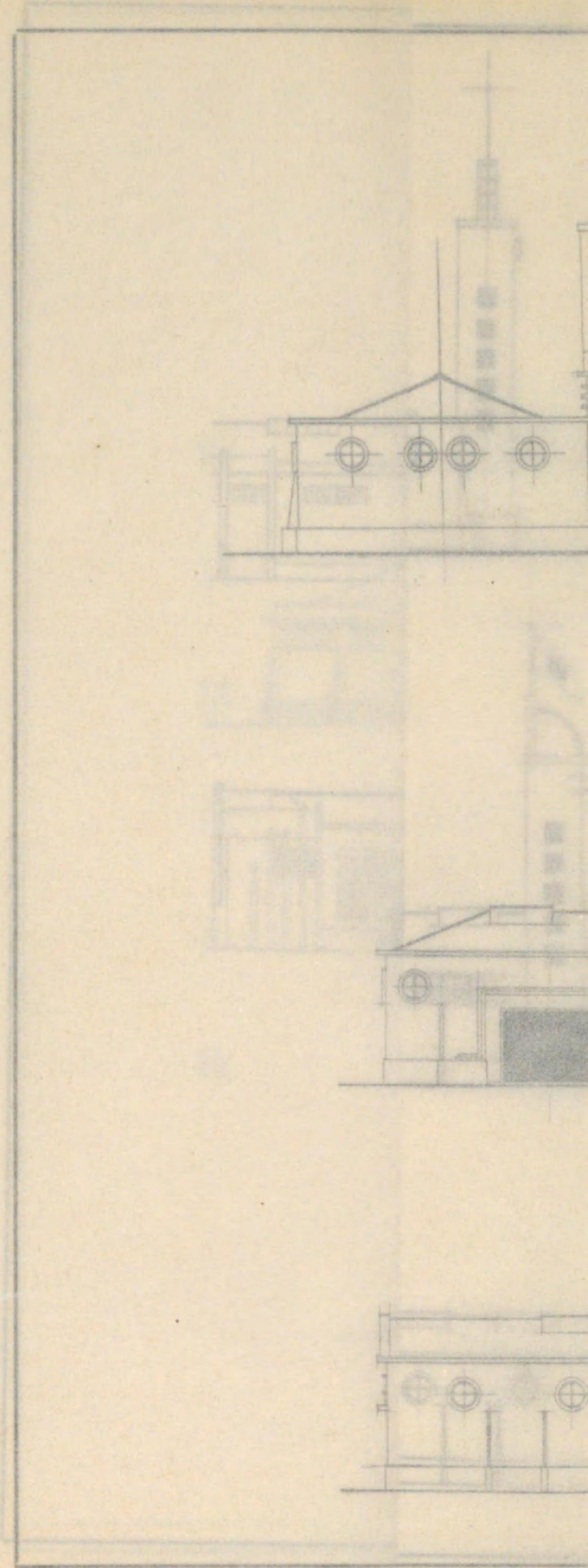
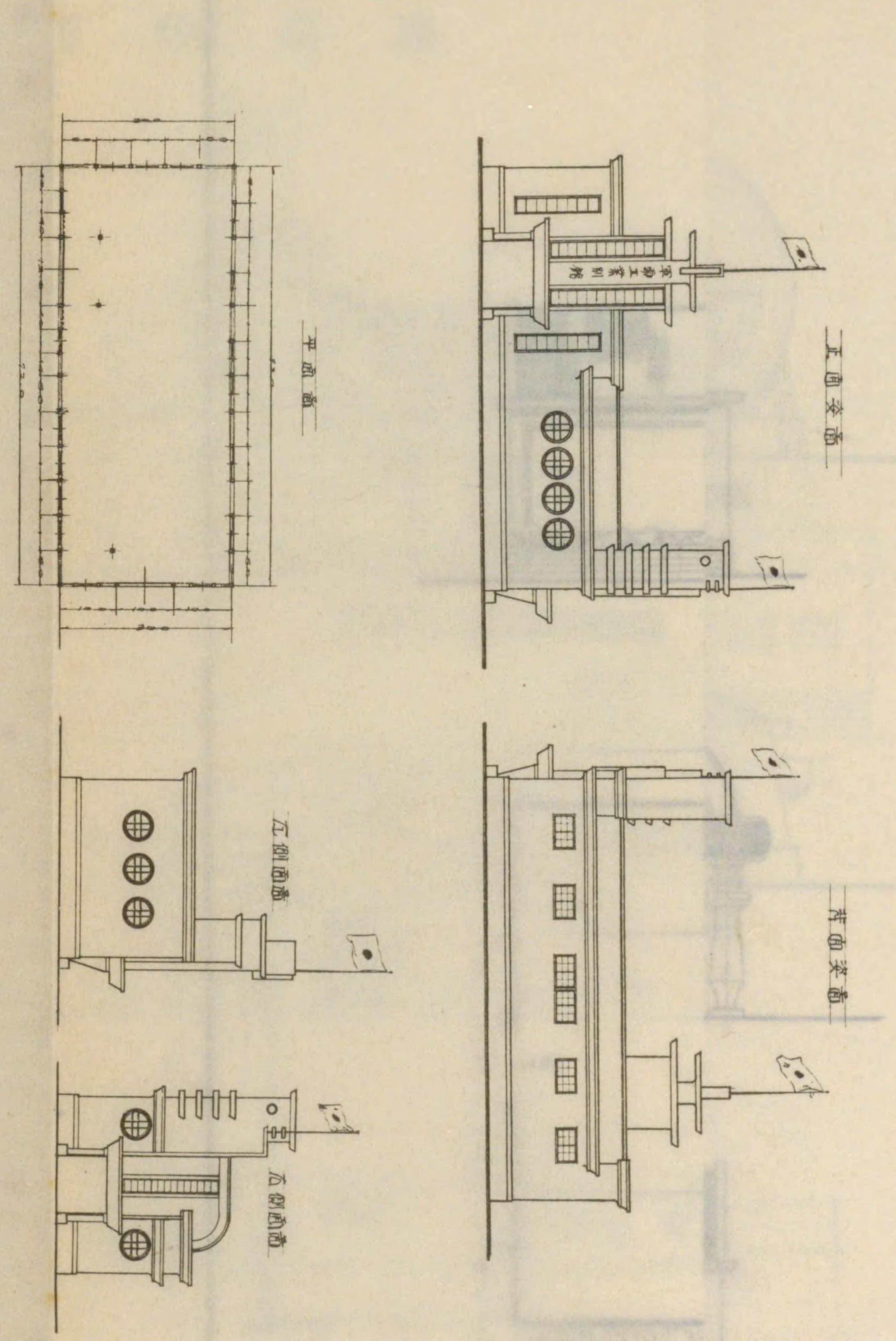


圖 計 設 館 別 業 工 需 軍





軍工業別館設計圖



拓殖館設計圖

